PROCESS GOVERNANCE
モデル作成の規則

バージョン 10.0 - SERVICE RELEASE 12

2020 年 4 月

This document applies to ARIS Version 10.0 and to all subsequent releases.

Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2020 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name Software AG and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners.

Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at http://softwareag.com/licenses.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at http://softwareag.com/licenses and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices, license terms, additional rights or restrictions, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". For certain specific third-party license restrictions, please refer to section E of the Legal Notices available under "License Terms and Conditions for Use of Software AG Products / Copyright and Trademark Notices of Software AG Products". These documents are part of the product documentation, located at http://softwareag.com/licenses and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

目次

1 テキストの表記規則 1

2 プロセスを自動化するためのモデル作成の規則 2
2.1 Process Governance に関連するオブジェクトとシンボル 2
2.1.1 イベント 2
2.1.2 イベント (プロセス インスタンスが開始された) 3
2.1.3 イベント (プロセス インスタンスが終了された) 3
2.1.4 タイマー イベント 3
2.1.5 ファンクション 4
2.1.6 自動タスク 6
2.1.7 手動タスク 6
2.1.8 通知 8
2.1.9 ライブ メッセージ 9
2.1.10 演算子 10
2.1.11 組織要素 11
2.1.12 その他 12
2.2 Process Governance の対象となるモデル 13
2.2.1 付加価値連鎖図 13
2.2.2 EPC - プロセス フロー 13
2.2.3 EPC - サテライト 14
2.2.4 アプリケーション システム タイプ図 16
2.2.5 アクセス図 16
2.2.6 IE データ モデル 17
2.2.7 ランドスケープのトピック 18
2.2.8 組織図 18
2.3 モデル化のエラーの解決方法 19
2.3.1 モデル化のエラー [600.14] の解決方法 19

3 自動化データ フロー 22
3.1 開始コンテキスト 23
3.2 手動タスク 25
3.2.1 一般的なデータ マッピング 25
3.2.2 ユーザーの選択に対するデータ マッピング 29
3.2.3 一覧のデータ マッピング 30
3.3 通知とライブ メッセージ 31
3.4 ARIS ビジネス サービス 33
3.4.1 追加 - モデル/オブジェクト/グループ 33
3.4.2 比較 - モデル バージョン 37
3.4.3 コピー - データベース 41
3.4.4 作成 - 1 ディレクトリ/グループ 42
3.4.5 作成 - 1 モデル 44
3.4.6 作成 - 1 オブジェクト 46
3.4.7 作成 - データベース 49
3.4.8 作成 - ARIS Publisher 動的エクスポート 51
3.4.9 ニュースの作成 55
3.4.10 作成 - レポート 58
3.4.11 作成 - ショートカット 63
3.4.12 作成 - ARIS Publisher 静的エクスポート 65
3.4.13 作成 - バージョン 68

3.4.14 削除 - データベース 70
3.4.15 削除 - ARIS Publisher 動的エクスポート 72
3.4.16 削除 - グループ 73
3.4.17 削除 - モデル 75
3.4.18 削除 - オブジェクト 76
3.4.19 削除 - 一時ファイル 78
3.4.20 ロック - モデル/オブジェクト 79
3.4.21 移動 - モデル/オブジェクト (データベース内) 81
3.4.22 整理 - データベース 83
3.4.23 獲得 - 1 (上位) ディレクトリ属性 85
3.4.24 抽出 - 多要素の 1 属性 87
3.4.25 抽出 - 多要素のローカライズされた 1 属性 89
3.4.26 取得 - ARIS ユーザー グループ属性 91
3.4.27 取得 ー モデルの現在の技術バージョン 93
3.4.28 取得 - 属性に基づく要素 95
3.4.29 取得 - GUID に基づく要素 97
3.4.30 取得 - グループ パス 99
3.4.31 検出 - ロック ステータス (モデル/オブジェクト) 100
3.4.32 取得 - スコープからモデルまたはオブジェクト、またはその両方 103
3.4.33 抽出 - 単一アイテムから複数属性 105
3.4.34 抽出 - 単一アイテムから複数のローカライズされた属性 107
3.4.35 取得 - バージョン管理可能なデータベース 110
3.4.36 ロック解除 - モデル/オブジェクト 112
3.4.37 書込 - 複数要素に 1 属性 114
3.4.38 書込 - 1 要素に複数属性 116
3.5 ARIS Connect Publishing サービス 118
3.5.1 追加 – コラボレーションにコメント 118
3.5.2 作成 - モデル比較ビューにリンク 120
3.5.3 取得 - ARIS Connect のリンク 121
3.6 ARIS 文書格納サービス 123
3.6.1 作成 - 文書 123
3.6.2 作成 - フォルダー 124
3.6.3 文書の削除 125
3.6.4 ダウンロード - 文書 126
3.6.5 ロック - 文書 127
3.6.6 移動 - 文書 128
3.6.7 移動 - フォルダー 129
3.6.8 取得 - ID 別文書 131
3.6.9 取得 - リンク別文書 133
3.6.10 ロック解除 - 文書 134
3.6.11 更新 - 文書 135
3.6.12 更新 - 1 文書のメタデータ 136
3.6.13 更新 - 複数文書のメタデータ 137
3.7 Process Governance サービス 138
3.7.1 取得 - プロセス インスタンス ID 138
3.8 ユーザー管理サービス 139
3.8.1 割り当て - 権限をユーザーへ 139
3.8.2 割り当て - 権限をユーザー グループへ 141
3.8.3 割り当て - 製品ライセンスをユーザーへ 142
3.8.4 割り当て - 製品ライセンスをユーザー グループへ 143
3.8.5 割り当て - ユーザーをグループへ 144

3.8.6 作成 - ユーザー 145
3.8.7 作成 - ユーザー グループ 146
3.8.8 削除 - ユーザー 147
3.8.9 削除 - ユーザー グループ 148
3.8.10 取得 - Architect ユーザー 149
3.8.11 取得 - Connect Designer ユーザー 150
3.8.12 取得 - プロセス ボード ユーザー 151
3.8.13 取得 - ユーザー グループに所属するユーザー 152
3.8.14 取得 - ユーザーのユーザー グループ 153
3.8.15 取得 ー ユーザー情報 154
3.8.16 取得 - ユーザーの選択の有無 156
3.8.17 書込 - ユーザー情報 157
3.9 ローカル サービス 158
3.9.1 比較 - 論理値 158
3.9.2 比較 - 未来のタイムスタンプ 159
3.9.3 比較 - 文字列 160
3.9.4 比較 - 時間属性 161
3.9.5 比較 - 値が空 162
3.9.6 作成 - 変更番号 163
3.9.7 作成 - 手動タスクのログ 164
3.9.8 作成 - 手動タスクのログ (委任と代行を考慮) 165
3.9.9 獲得 - リンク (デザイン) 167
3.9.10 獲得 - 番号 (最大/最小) 168
3.10 データ フロー内の演算子 169
3.10.1 数値演算子 169
3.10.1.1 追加 169
3.10.1.2 減算 169
3.10.1.3 乗算 170
3.10.1.4 除算 170
3.10.2 比較演算子 171
3.10.2.1 等しい 171
3.10.2.2 等しくない 171
3.10.2.3 より大きい 172
3.10.2.4 以上 173
3.10.2.5 より小さい 174
3.10.2.6 以下 175
3.10.3 論理演算子 176
3.10.3.1 AND 演算子 176
3.10.3.2 OR 演算子 176
3.10.3.3 NOT 演算子 177
3.10.4 集合の演算子について 177
3.10.4.1 ID によりアイテムを選択 177
3.10.4.2 位置によるアイテムの選択 178
3.10.4.3 集合の作成 179
3.10.4.4 集合サイズの検出 179
3.10.4.5 集合の交差を作成 180
3.10.4.6 行の書式設定 180
3.10.4.7 集合の妥当性確認 181
3.10.4.8 集合のマージ 181
3.10.5 文書の演算子について 182

3.10.5.1 パスによる文書の取得 182
3.10.5.2 文書メタデータの取得 183
3.10.5.3 文書のフィルター 184
3.10.5.4 文書に HTTP リンクを作成 184
3.10.6 データ要素 185
3.10.6.1 ARIS プロセス ボードへのパス 185
3.10.6.2 タイムスタンプの取得 185
3.10.7 その他の演算子 186
3.10.7.1 ユーザーの存在を確認 186
3.10.7.2 電子メール/ログオン名でユーザーを検出 186
3.10.7.3 コミットされたリソースを取得 187
3.10.7.4 参加者名の取得 187
3.10.7.5 連結 188
3.10.7.6 タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換 188
3.10.7.7 データ XOR 演算子 189
3.10.7.8 時間の計算 190
3.11 定数 191
3.12 変数 192
3.12.1 インスタンス変数 192
3.12.2 プロセス変数 192
3.12.3 システム変数 192
3.12.4 例 193

4 法的情報 196
4.1 ドキュメンテーションのスコープ 196
4.2 データ保護 197
4.3 制限 197

1 テキストの表記規則

メニュー項目やインターフェイス アイテムは次のように表記されます。

- メニューおよびメニュー項目は角括弧（[ ]）で囲んで表記します。キー名は、山型括弧（< >）で囲んで表記します。ファイル名は小文字で表記します。
- ユーザー定義エントリは、テキストを < > で囲んで表記します。
- 例のテキストのように、長いディレクトリ パスなどは 1 行には長すぎるため、行の末尾にある ↵ を使用して次の行に送られます。
- ファイルからの抜粋はこのフォントで表示されます。

  ```
  This paragraph contains a file extract.
  ```
- 警告には背景色が付きます。

  警告

  この段落には、警告が含まれます。

2 プロセスを自動化するためのモデル作成の規則

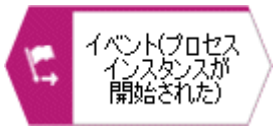
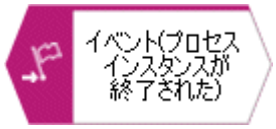
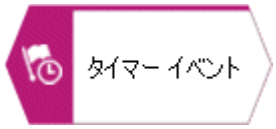
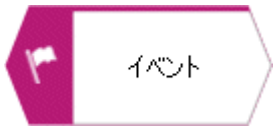
これらのモデル作成の原則は、プロセスの自動化に準拠するモデルの作成に役立ちます。これによって、たとえば、すべての必要なアイテムと情報が利用でき、BPM プロセスから BPMN 図への自動変換が保証されます。

2.1 Process Governance に関連するオブジェクトとシンボル

次の表に、Process Governance によって解釈されるオブジェクト タイプとシンボル タイプを示します。

2.1.1 イベント

オブジェクト タイプに、この一覧以外にもシンボルや属性がある可能性があります。ただし、Process Governance では、この一覧内のものだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	自動化をトリガーし、プロセス インスタンスを生成します。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	プロセス インスタンスを終了します。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	Process Governance の指定時間まで、次のプロセス ステップを遅らせます。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	ステータスを示します。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

2.1.2 イベント (プロセス インスタンスが開始された)

EPC では、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] オブジェクト シンボルが、次のモデル作成の規則に従っている必要があります。

- 上位の付加価値連鎖図内のファンクションに割り当てられている EPC に、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] オブジェクト シンボルが 1 つ必要です。
- [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] オブジェクト シンボルは、Process Governance プロセス内で 1 回だけモデル化できます。

2.1.3 イベント (プロセス インスタンスが終了された)

EPC では、[イベント (プロセス インスタンスが終了された)] オブジェクト シンボルが、次のモデル作成の規則に従っている必要があります。

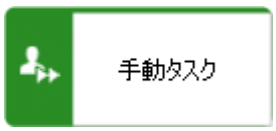
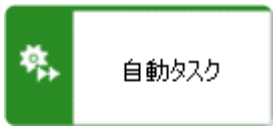
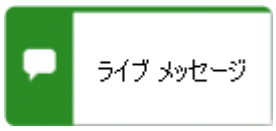
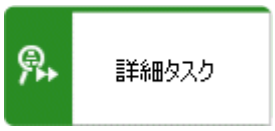
- Process Governance プロセスに [イベント (プロセス インスタンスが終了された)] オブジェクト シンボルが 1 つ以上必要です。
- [イベント (プロセス インスタンスが終了された)] オブジェクト シンボルはプロセス インスタンスを終了するため、Process Governance プロセスの最終オブジェクトになる必要があります。
- たとえば、Process Governance に関係がないステップが続く場合は、[イベント (プロセス インスタンスが終了された)] オブジェクト シンボルの後にプロセスの実行を続行できます。

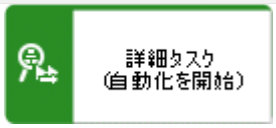
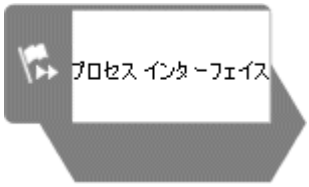
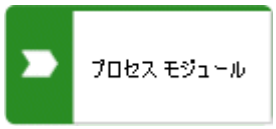
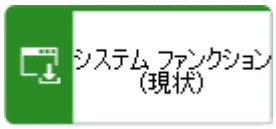
2.1.4 タイマー イベント

イベントは特定の時間に依存することができます。この場合、[タイマー イベント] オブジェクト シンボルを持つ [イベント] タイプのオブジェクトを使用して、[日付] 属性がデータ フロー図でこのイベントに割り当てられている必要があります。

2.1.5 ファンクション

オブジェクト タイプに、この一覧以外にもシンボルや属性がある可能性があります。ただし、Process Governance では、この一覧内のものだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性（プロセスの自動化）
	このファンクションに割り当てられているプロセスが、自動化をトリガーし、プロセス インスタンスを生成します。プロセスを開くシンボルとプロセスを閉じるシンボルがあります。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
	このファンクションに割り当てられているプロセスは、Process Governance でサポートされます。プロセスを開くシンボルとプロセスを閉じるシンボルがあります。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
	タスクを編集する準備が整ったら、担当の実行者の [担当タスク] に表示されます。ユーザーは、ダイアログ ボックスを呼び出してタスクを実行できます。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
	タスクを処理する必要がある場合は、ソフトウェア サービス オペレーション タイプ、たとえば ARIS Web サービスが呼び出されます。ユーザーの操作は必要ありません。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
	要員に通知する必要がある場合は、プロセス モデルで通知の受信者として定義されている要員に、電子メールが自動的に送信されます。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
	プロセス インスタンスをトリガーしたユーザーに通知する必要がある場合は、ARIS に自動的にメッセージが表示されます。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
	Process Governance で、アサインされている EPC の解釈に使用されます。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）

シンボルの形 / シンボル名	説明	属性（プロセスの自動化）
		
	上位の EPC または付加価値連鎖図に関係します。実行可能なガバナンス プロセスに属するプロセスを定義します。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）
  	その他すべてのファンクション シンボルを付加価値連鎖図または EPC で使用できます。EPC でデータ フロー図がアサインされている場合、Process Governance の対象です。	オブジェクト固有の属性なし（プロセスの自動化）

2.1.6 自動タスク

EPC では、[自動タスク] シンボル タイプの各ファンクションが、[サポートする] 接続線で、1 つの [ソフトウェア サービス オペレーション タイプ] に接続されている必要があります。

2.1.7 手動タスク

EPC では、[手動タスク] タイプのファンクションが、次のモデル作成の規則に従っている必要があります。

- 1 つのダイアログ ボックスが割り当てられている。
- [入力を提供する] 接続線を使用して、最大 1 つの [電子メール] シンボル タイプの情報媒体に接続できる。

  電子メールがモデル化されていない場合、電子メールは送信されませんが、実行するタスクが [担当タスク] でタスクとして表示されます。

手動タスクの実行者への割り当てには、複数のオプションがあります。

組織要素と [実行する] 接続線による割り当て

手動タスクは、[実行する] 接続線を使用して、自動化に関連する 1 つの組織要素に接続する必要があります。ここで使用できる組織要素は、要員、ロール、役職、組織ユニットです。

[ロール] または [組織ユニット] タイプの組織要素には、[従業員のコミット『13ページ 』] 属性が設定されているか、事前定義されたユーザーが存在しない限り、プロセスの自動化がアクティブになっているユーザーを少なくとも 1 人割り当てる必要があります。

手動タスクに [要員] タイプの組織要素を割り当てる場合、プロセス自動化用のユーザーをアクティブにする必要があります。

アクティブなユーザーが見つからなかった場合、エスカレーション責任者に電子メールの通知が届きます。エスカレーション責任者が定義されていなかった場合、手動タスクは [失敗] ステータスになります。

[実行する] 接続線では、必要に応じて [実行者の選択] 属性と [従業員のコミット] 属性を指定できます。デフォルト値は、[1 つのみ必要] と [同じ実行者が必要 (従業員のコミット)] です。

データ フローで、上記の組織要素の割り当てを上書きするほかのデータを割り当てることができます。[実行する] 接続線の [実行者の選択] 属性の値が [事前選択項目からすべて] ではない限り、この状況は避けてください。

[従業員のコミット] 属性を使用した割り当て

プロセス インスタンス内で、同じ組織要素 ([ロール] または [組織ユニット]) に割り当てられているすべての手動タスクの属性値は、[従業員のコミット] または [義務の分離] のいずれかで設定する必要があります。インスタンス内の別の属性値と組み合わせて使用できるのは属性値 [方針なし] だけです。

同じ実行者が必要 (従業員のコミット)

値が [同じ実行者が必要 (従業員のコミット)] の [従業員のコミット] 属性は、[実行者の選択] 属性に値 [1 つのみ必要] が選択されている場合にのみ考慮されます。これは、デフォルト設定に対応します。

この方法で、プロセス インスタンスの最初のタスクを編集しているユーザーが、その後のタスクも実行することが確実になります。同じユーザーが実行した場合にのみ、各タスクはステータスが [完了] になります。ただし、これらのタスクは [担当タスク] でほかの実行者に転送できます (委任、代理の指定)。

例

プロセス インスタンスの最初のタスクは [QM] ユーザー グループに割り当てられます。これは、組織図の組織要素に割り当てられたすべての要員が、最初のタスクを編集できることを意味します。たとえば、ユーザー A が最初のタスクを編集すると、そのユーザーはプロセス インスタンスのその他のすべてのタスクに割り当てられます。

他の実行者が必要（義務の分離）

プロセス インスタンスのタスクに義務の分離が指定されている場合は、異なる実行者が各タスクを実行する必要があります。そのためには、プロセス インスタンスですでにタスクを実行した実行者は、プロセス インスタンスの 2 番目の手動タスクの実行から除外されます。ただし、 [担当タスク] のタスクを既にプロセス インスタンスのタスクを実行している実行者に転送（委任）できます。

方針なし

[従業員のコミット] 属性の値が [方針なし] のタスクは、組織要素によって割り当てられているすべての実行者が実行できます。

[従業員のコミット] が指定されている一連のタスクが、[方針なし] 属性値のタスクによって中断された場合は、リソースのコミットがあるその後のタスクが、プロセス インスタンスの最初のタスクであるかのように処理されます。つまり、タスクは、割り当てられているグループの任意のユーザーがもう一度実行でき、その後のタスクについては、リソースのコミットがもう一度指定されます。

例

プロセス インスタンスに 4 つのタスクがあり、そのすべてが、ユーザー A と B が属している [QM] ユーザー グループに割り当てられているとします。最初のタスクは、2 人とも実行できます。ユーザー A が、[従業員のコミット] と [1 つのみ必要] が指定されているタスクを実行します。すると、2 番目のタスクもこのユーザーに割り当てられます。3 番目のタスクには [方針なし] が指定されています。つまり、ふたたび両方のユーザーに実行が割り当てられます。今度は、ユーザー B のほうが実行するのが早かったので、このユーザーに 4 番目のタスクも割り当てられることになります。

[定義済み実行者のログオン] 属性を使用したデータ フローによる割り当て

この属性では、プロセス インスタンス内のタスクの最初の実行者を指定できます。さらに [従業員のコミット] 属性に値 [同じ実行者が必要（従業員のコミット）] が指定されていた場合は、その従業員がインスタンス全体の実行者に指定されます。

この事前定された実行者は、プロセスの自動化に対してアクティブにされており、手動タスクに割り当てられている組織要素（[ロール] または [組織ユニット]）に属している必要があります。[実行者の選択] 属性には、値 [1 つのみ必要] が選択されている必要があります。これらの条件が満たされていると、このプロセス インスタンスでは、この組織要素内のほかの要員に手動タスクは割り当てられません。

2.1.8 通知

EPC では、[ファンクション] オブジェクト タイプの [通知] オブジェクト シンボルが、次のモデル作成の規則に従っている必要があります。

- [入力を提供する] 接続線を使用して、[電子メール] シンボル タイプの情報媒体 1 つに接続されている必要があります。
- [結果を通知される必要がある] 接続線を使用して、1 つ以上の組織ユニットまたはロールに接続されている必要があります。
- 電子メールに関しては、少なくとも [件名] 属性と [テキスト] 属性が設定されている必要があります。

2.1.9 ライブ メッセージ

電子メール システムを使用しないで情報を ARIS 内で送信できます。ガバナンス プロセスを開始したユーザーは、メッセージを表示するために ARIS を終了し、別のアプリケーションに切り替える必要がありません。EPC では、ライブ メッセージについて、次のモデル作成の規則に従っている必要があります。

情報媒体を使用する場合

[ファンクション] オブジェクト タイプの [ライブ メッセージ] オブジェクト シンボルには、以下が適用されます。

- [入力を提供する] 接続線を使用して、最大 1 つの [電子メール] (情報媒体) オブジェクト シンボルに接続されている必要があります。
- 電子メールに関しては、少なくとも [件名] 属性と [テキスト] 属性が設定されている必要があります。

情報媒体を使用しない場合

[ファンクション] オブジェクト タイプの [ライブ メッセージ] オブジェクト シンボルには、以下が適用されます。

情報媒体がモデル化されない場合は、ライブ メッセージの入力データがデータ フローでモデル化される必要があります。たとえば、Web サービスによって送信される情報を生成できます。

組織要素を使用する場合

[ファンクション] オブジェクト タイプの [ライブ メッセージ] オブジェクト シンボルには、以下が適用されます。

- [結果を通知される必要がある] 接続線で、自動化に関連する 1 つ以上の組織要素に接続されている必要があります。自動化関連とは、これらの組織要素が、規則『11ページ 』で許可されていることを意味します。
- [結果を通知される必要がある] 接続線では [関係者のみに通知] 属性と [次の形式で電子メールを送信] 属性を指定します。

  属性が設定されていない場合は、次のデフォルト値が使用されます。

  - [関係者のみに通知] 属性の値は [はい] になります。
  - [次の形式で電子メールを送信] 属性の値は [受信者] になります。

2.1.10 演算子

オブジェクト タイプに、この一覧以外にもシンボルや属性がある可能性があります。ただし、Process Governance では、この一覧内のものだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

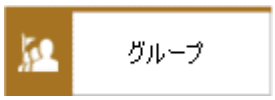
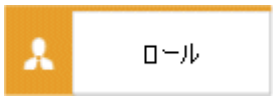
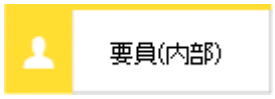
シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	プロセス パスのうち、1 つに従う必要があります。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	すべての出力プロセス パスに従う必要があります。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	プロセス パスのうち、1 つ以上に従う必要があります。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	最初のプロセス インスタンスが、その後の手順を示します。したがって、その後のすべてのインスタンスは削除されます。 **例** 2 人が意思決定者として並行してモデル化されています。1 人が決定を行うと、その後の決定は削除されます。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

2.1.11 組織要素

オブジェクト タイプに、この一覧以外にもシンボルや属性がある可能性があります。ただし、Process Governance では、この一覧内のものだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

ARIS 要素と ARIS 管理要素のマッピング

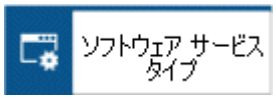
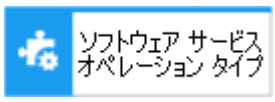
実行可能プロセスを作成する際に、Process Governance プロセスの組織要素が [ARIS 管理] に作成されます ARIS 管理 (マッピング) の組織ユニット、グループ、ロールおよび役職に対してユーザー グループが生成され、要員に対してユーザーが再生されます。組織図からのエスカレーション関係は変更されませんが、[ARIS 管理] では該当するユーザー グループで表されます。

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	人的資源のタスク実行者を結合します。組織ユニットは、業務目標を達成するために実行すべきタスクの担い手です。	外部ユーザー (グループ) ID
	たとえば、特定のタスクを実行するために、(プロジェクト グループとして) 一定の時間、共同で作業する従業員/要員のグループを表します。	外部ユーザー (グループ) ID
	企業における最小の識別可能な組織ユニットです。責任と権限は、関連する職務内容記述で指定します。	外部ユーザー (グループ) ID
	権限や責任など、同一のプロパティを持つ従業員をタイプとしてまとめたものです。	外部ユーザー (グループ) ID
	企業の特定の従業員を表し、通常は社員番号で識別することができます。	▪ 電子メール アドレス ▪ 外部ユーザー (グループ) ID ▪ ログオン ▪ 名 ▪ 姓 ▪ Process Governance 管理者

2.1.12 その他

オブジェクト タイプに、この一覧以外にもシンボルや属性がある可能性があります。ただし、Process Governance では、この一覧内のものだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

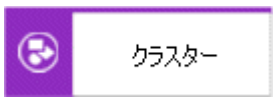
アプリケーション システム タイプ/IT ファンクション タイプ

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	ソフトウェア サービス オペレーション タイプを、IT 処理を実行するソース コードに割り当てます。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	自動タスクを、タスクを実行するソース コードに接続します。	スクリプト ID

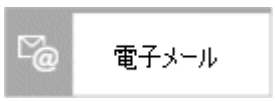
ダイアログ ボックス

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	手動タスクは、ダイアログ ボックス (画面) に接続されている場合にのみ実行できます。	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

クラスター/データ モデル

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	関連するデータ オブジェクトはすべてクラスターで表されます。	▪ タイプ ▪ 変数のコンテキスト (システム、プロセス、プロセス インスタンス)

情報媒体

シンボルの形/ シンボル名	説明	属性 (プロセスの自動化)
	ユーザーにタスクが生成されたとき、タスクがモデル化されている場合は、そのユーザーがその通知を電子メールなどで受け取ります。情報提供の電子メールを送信することもできます。	▪ 件名 ▪ テキスト

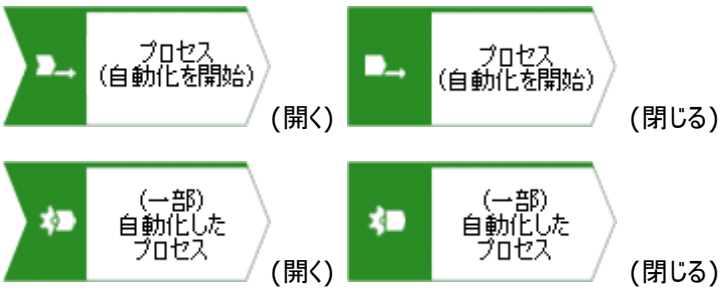
2.2 Process Governance の対象となるモデル

次の表に、Process Governance によって解釈されるモデル タイプを示します。

2.2.1 付加価値連鎖図

モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

付加価値連鎖図の接続線は解釈されません。



2.2.2 EPC - プロセス フロー

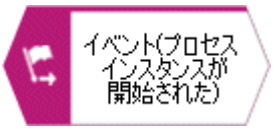
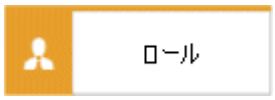
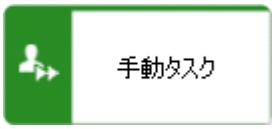
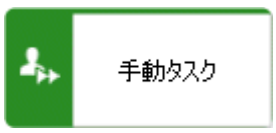
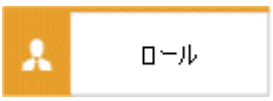
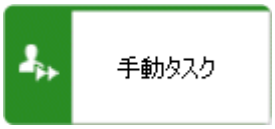
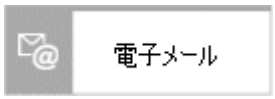
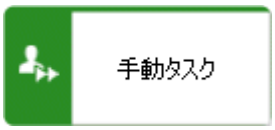
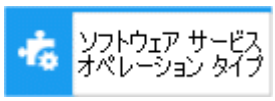
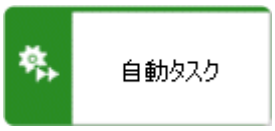
時間的な順序を示すすべての接続線を使用できます。

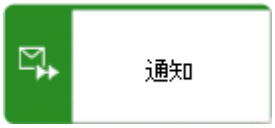
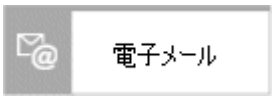
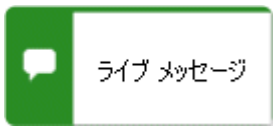
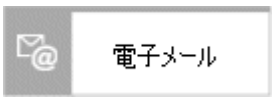
モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

2.2.3 EPC - サテライト

サテライトは、モデルや図に挿入できますが、モデルや図の構造に関連がないオブジェクトです。たとえば、[組織ユニット] タイプのオブジェクトは、イベント駆動プロセス連鎖図 (EPC) ではサテライトです。一方、[組織図] タイプのモデルでは、[組織ユニット] タイプのオブジェクトは構造に関連があるオブジェクトです。

モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

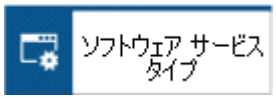
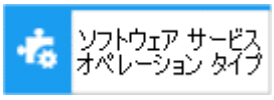
ソース シンボル	接続線	ターゲット シンボル	接続線属性 (プロセスの自動化)
	作成する		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
      	**実行する**		▪ 実行者の選択 ▪ 1 人で可能 ▪ 事前選択項目からすべて ▪ 全員必要 ▪ 投票 ▪ 従業員のコミット
	**エスカレートする**	 	オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	表す		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	**入力を提供する**		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	**サポートする**		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

ソース シンボル	接続線	ターゲット シンボル	接続線属性 (プロセスの自動化)
	結果を通知される必要がある		▪ 関係者のみに通知 ▪ 次の形式で電子メールを送信... ▪ 受信者 ▪ Cc ▪ Bcc
	入力を提供する		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	**入力を提供する**		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

2.2.4 アプリケーション システム タイプ図

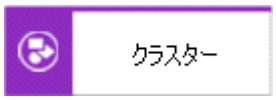
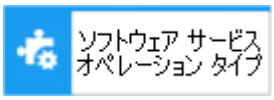
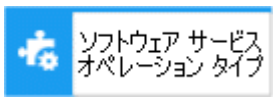
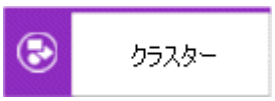
モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

サービス (Web サービスまたはスクリプト サービス) は、アプリケーション システム タイプ図で定義されます。

ソース シンボル	接続線	ターゲット シンボル	接続線属性 (プロセスの自動化)
	**包含する**		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

2.2.5 アクセス図

モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。 サービス (Web サービスまたはスクリプト サービス) は、アクセス図で詳細が記述されます。

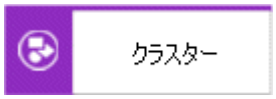
ソース シンボル	接続線	ターゲット シンボル	接続線属性 (プロセスの自動化)
	**入力である**		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)
	**出力として持つ**		オブジェクト固有の属性なし (プロセスの自動化)

2.2.6 IE データ モデル

モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

IE データ モデルでは、[クラスター] シンボルだけが解釈されます。接続線は解釈されません。

IE データ モデルを使用して、変数カタログをモデル化します。 変数は、必要な場合のみ、ガバナンス ワークフローで使用されるべきです。さまざまなアクティビティ間の標準データ フローについては、アクティビティ自体が入力として使用されます。ガバナンス ワークフローのパフォーマンス全体に著しい影響を与える可能性があるため、データを不必要に変数を介在として保存しないでください。

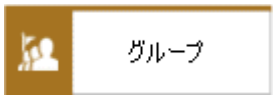
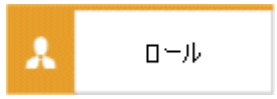
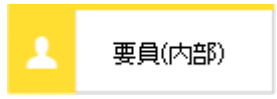
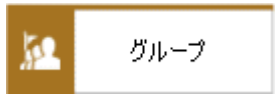
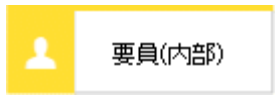


2.2.7 ランドスケープのトピック

公開後にこの見出しと段落を削除してください。

2.2.8 組織図

モデルに、この一覧以外にもシンボルや接続線がある可能性があります。 Process Governance では、次のシンボルだけが解釈されます。 Process Governance の属性は、[プロセスの自動化] 属性タイプ グループに含まれます。

					
	上位にある	**割り当てられている**	**構成される**	**構成される**	---
	---	**上位にある**	**構成される**	**構成される**	---
	組織 **責任者である**	**組織** **責任者である**	---	**占めている**	**占めている**
	組織 **責任者である**	**組織** **責任者である**	---	---	**汎化結果である**
	---	---	---	---	---

2.3 モデル化のエラーの解決方法

非準拠モデルに対して実行可能プロセスを生成すると、[実行可能プロセスに関するメッセージ] バーの一覧にエラー メッセージが表示されます。 この情報を使用して、エラーを修正してからもう一度アクションを実行できます。

ポップアップ メニューを使用して、さらにアクションを実行できます。該当するモデルを開いて表示するには、[オブジェクトに移動] をクリックします。エラーが含まれるアクティビティまたは接続線に警告シンボルが表示されます。また、アクティビティは色付きで強調表示されます。

ポップアップ メニューの [詳細の表示] オプションを使用すると、以下の追加情報が表示されます。

- 該当モデルの ID と名前
- 該当オブジェクトの ID と名前
- 許可されていない、またはエラーが発生した接続線の ID
- エラーの詳細な説明

ポップアップ メニューの [コピー] を選択すると、情報をクリップボードにコピーできます。ポップアップ メニューの [すべて削除] を選択すると、すべてのメッセージが削除されます。

ポップアップメニューの [オブジェクトに移動] と [詳細の表示] のオプションは、メッセージが BPMN 図の自動検証によって生成された場合にのみ使用できます。変換または保管によって生成されたメッセージに対して、これらのオプションを実行することはできません。

2.3.1 モデル化のエラー [600.14] の解決方法

エラー メッセージ [600.14] が表示された場合は、以下の説明に従ってダミー オブジェクトを挿入するとエラーを解決できます。

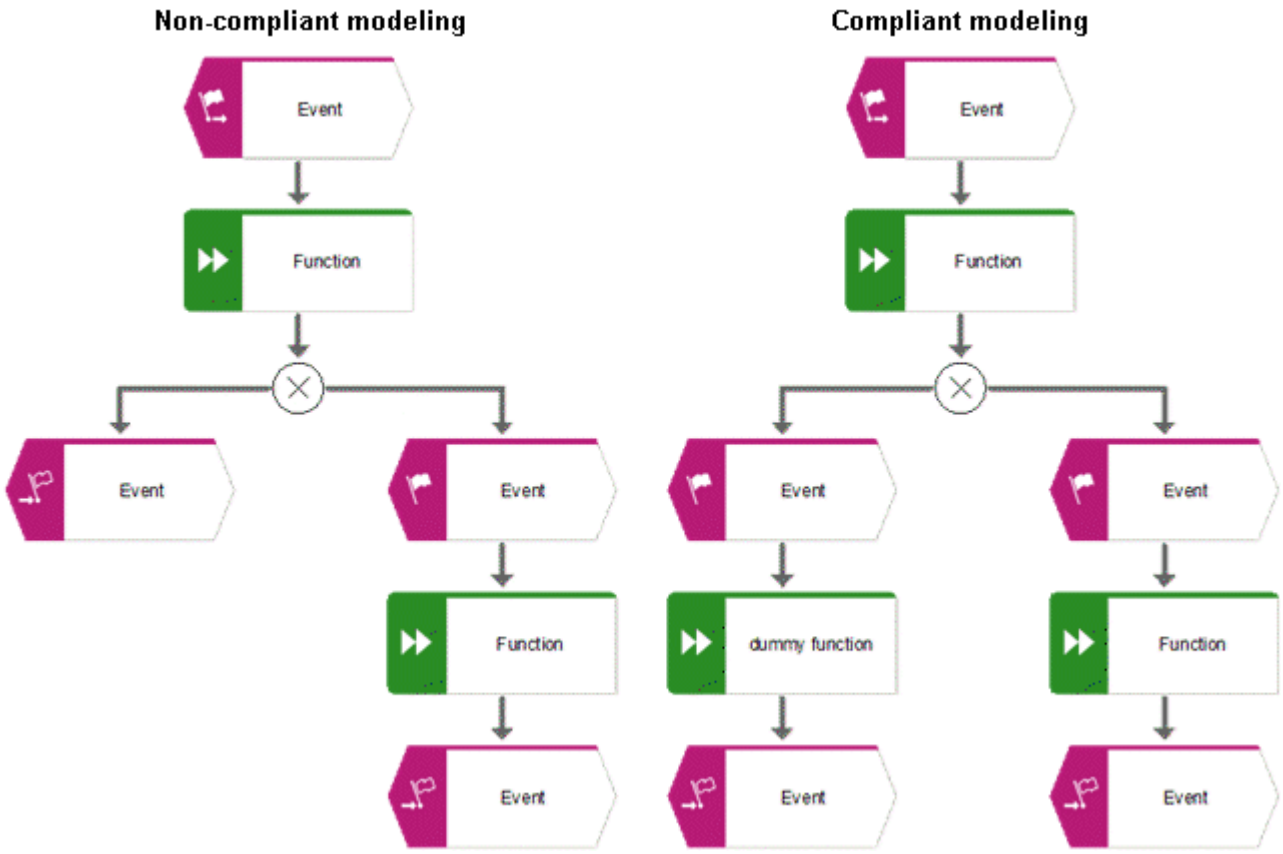
エラー メッセージの全文:

実行可能プロセスの生成に失敗しました。[600.14] タイプが <オブジェクト名> の <オブジェクト タイプ> は、出力接続線を 1 本のみ持つことができます。

モデル化のエラー 1: プロセスの最後が、変数割り当てまたは XOR ルールです。

解決方法: EPC モデルを開き、プロセスの最後に 1 つ以上のダミー オブジェクトを追加します。

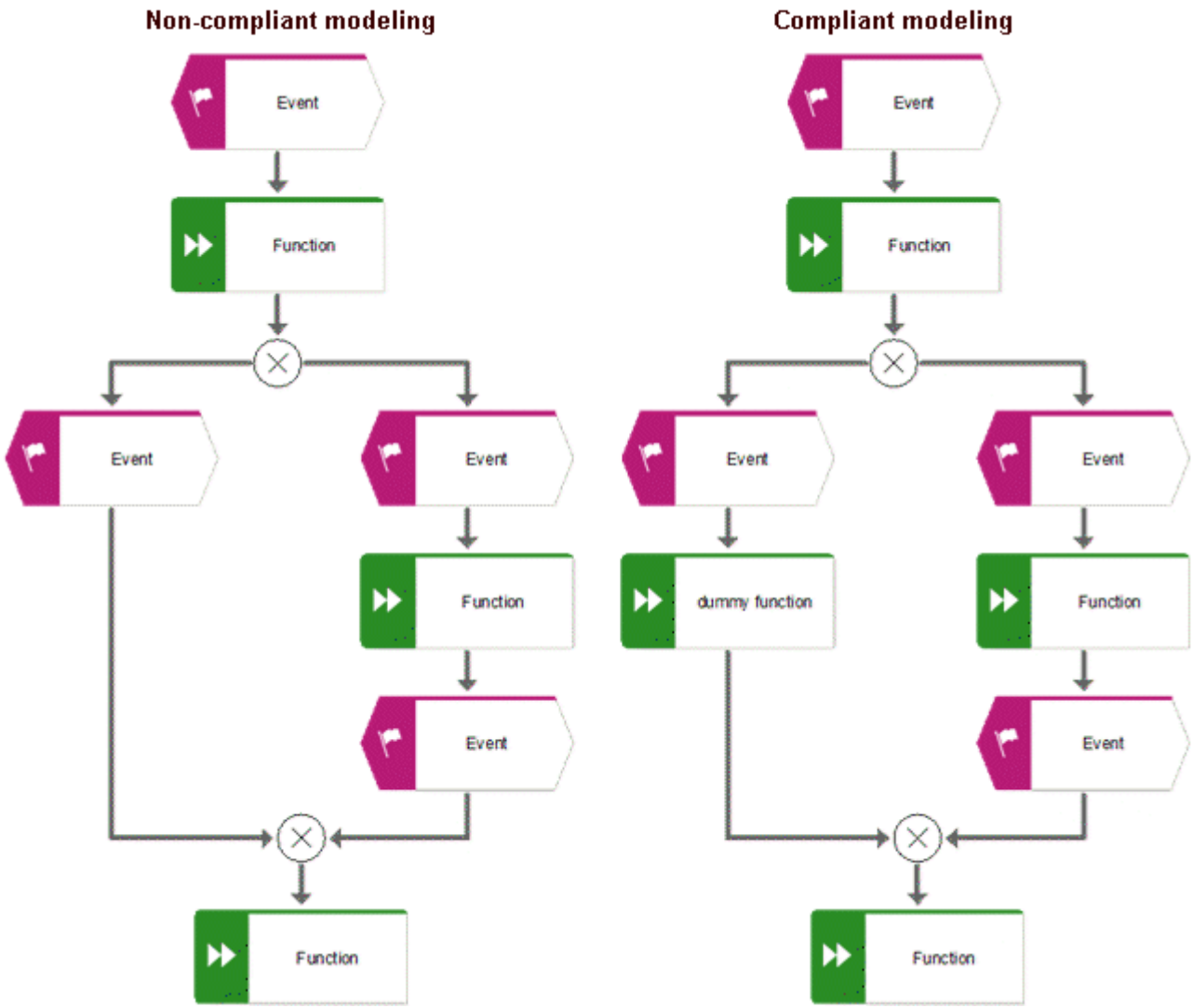
例:


Non-compliant modeling
Event
Function
Event
Event
Function
Event
Compliant modeling
Event
Function
Event
Event
dummy function
Function
Event
Event
Event

モデル化のエラー 2: XOR 分岐のあとにイベントと XOR 結合があります。

解決方法: EPC モデルを開き、イベントと XOR 結合の間にダミー オブジェクトを追加します。

例:



3 自動化データ フロー

Process Governance の実行可能プロセス ステップのデータ フローは、[データ フロー図] を使用して記述されます。データ フロー図には、制御フローの上位オブジェクトが 1 つあります。つまり、ビジネス モデル内にオブジェクトのオカレンスが複数ある場合、オブジェクト オカレンスごとにデータ フロー図があります。

この章では、Process Governance で使用されるサービスの入力パラメーターと出力パラメーター、さまざまなタイプの演算子、定数、変数について説明します。必須フィールドには赤のアスタリスクが付けられています。

システム ユーザーと arisservice ユーザーは、サービスを実行する為に「Process Governance 管理者」利用権限を持つ必要があります。 利用権限はユーザーが実行できるタスクを制御します。 ユーザー「system」は自動的に作成されます。デフォルトでは、システム ユーザーはすべての利用権限を持ちます。 ユーザー「arisservice」は自動的に作成されます。デフォルトでは、このユーザーには、「データベース管理者」および「Process Governance 管理者」利用権限が割り当てられます。

デフォルトでは、ARIS 文書格納にアクセス権は定義されていません。すべてのユーザーは、ルート フォルダーを含むすべてのフォルダーと文書にアクセスできます。ARIS 文書格納の各フォルダーへのアクセスを制限して、すべての ARIS 文書格納ユーザーがすべてのフォルダーとその内容にアクセスすることがないようにできます。 system ユーザーと arisservice ユーザーに「文書管理者」利用権限があり、すべてのフォルダーにアクセスできることを確認してください。

ユーザーが明示的にデータ フロー内にマッピングされている場合は、ユーザーのパスワードもまたマッピングされており、正しいものである必要があります。パスワードまたはユーザー情報が不足している場合は、パスワードが変更されているかどうかに関係なく arisservice ユーザーが使用されます。

Process Governance サービスはユーザー指定データを属性に書き込むことができます。これらの属性値は EU 一般データ保護規則 (GDPR) の要件を満たすためにカスタマイズされたレポートを使用して匿名化できます。 担当の Software AG 営業部『http://www.softwareag.com参照 』までご連絡ください。

3.1 開始コンテキスト

記号 は入ってくるデータ フローを表し、記号 は出ていくデータ フローを表します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	現在のデータベース	プロセスが開始したデータベースの名前。	<テキスト>
	現在のサーバー	プロセスが開始した ARIS Server の名前。	<テキスト>
	現在のテナント	プロセスが開始した ARIS テナントの名前。	<テキスト>
	現在のユーザー	プロセスを開始したユーザーのログオン名。たとえば、このユーザーは、[手動タスク] タイプのオブジェクトに定義済みユーザーとして割り当てることができます。プロセスを起動するユーザーが、モデリング データベースにログオンします。ユーザーが匿名でログオンしたり、ARIS Publisher エクスポートにゲストとしてログオンしたり、イントラネット ページから ARIS 外部でプロセスが開始されたりする場合、ユーザーが不明である状況が発生することがあることに注意してください。開始者が不明にならないようにするには、最初のダイアログ ボックスに、ユーザーの電子メール アドレスを入力できるフィールドを追加してください。このフィールドは、[電子メール/ログオン名でユーザーを検出] 演算子を使って、[手動タスク] タイプまたは [通知] タイプのオブジェクトに (宛先や Cc などに) 割り当てることができます。	<テキスト>
	現在のフィルター	プロセスが開始されるデータベースにログオンするために使用するフィルターの名前。	<テキスト>
	現在の言語	プロセスが開始されるデータベースにログオンするためにユーザーが使用した言語。	<テキスト>
	選択したアイテムの GUID	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名 (たとえば、「組織図」や「ファンクション」など) が出力されます。	
	タイプ	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名 (たとえば、「組織図」や「ファンクション」など) が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	<テキストの集合>
	選択したアイテムの名前	プロセスが開始されたアイテムの名前 (たとえば、「モデル」や「オブジェクト」など) が出力されます。	
	名前	プロセスが開始されたアイテムの名前 (たとえば、「モデル」や「オブジェクト」など) が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブ	<テキストの集合>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	
←	選択したアイテムのタイプ名	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名（たとえば、「組織図」や「ファンクション」など）が出力されます。	
←	タイプ	プロセスが開始されたアイテムのタイプ名（たとえば、「組織図」や「ファンクション」など）が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	<テキストの集合>
←	選択したアイテムの API 名	プロセスが開始されたアイテムの API 名（たとえば、組織図には MT_ORG_CHRT、ファンクションには OT_FUNC）が出力されます。	
←	API 名	プロセスが開始されたアイテムの API 名（たとえば、組織図には MT_ORG_CHRT、ファンクションには OT_FUNC）が出力されます。このフィールドは、[自動タスク] タイプのオブジェクト用または [手動タスク] タイプのオブジェクトの一覧用の入力データを含むことがあります。	<テキストの集合>

図 1: 開始コンテキスト

3.2 手動タスク

3.2.1 一般的なデータ マッピング

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	タスク名	このボックスには [担当タスク] に表示されるタスク名が表示されます。データ フローで明示的な名前がモデリングされていない場合、[手動タスク] タイプの関連付けられているオブジェクトの名前が表示されます。 必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます: たとえば、[要求元] 値を持つ定数を、[集合の作成] タイプの演算子、および現在の日付を表す追加の定数と接続します。[タスク名] ボックスで、[集合の作成] 演算子を [行の書式設定] タイプの演算子と接続します。	<テキスト>
	タスクの説明	このフィールドには [担当タスク] に表示されるタスクの説明が表示されます。データ フローでモデリングされている明示的な説明がない場合は、何も表示されません。	<テキスト>
	実行者グループ (必須入力)	このフィールドには、[手動タスク] タイプのオブジェクトを実行する 1 人あるいは複数の要員が表示されます。自動化に関連する組織要素が [実行する] タイプの接続線によって [手動タスク] タイプのオブジェクトに接続されている場合、定数が自動的に作成されます。(例外: 接続線属性が設定されている場合)。 定数の値には、組織要素の名前だけでなく、複雑な XML 情報も含まれます。 入力データが異なる形で転送された XML 構造の場合、定数は削除されることがあります。たとえば以下のような場合があります。 ▪ [手動タスク] タイプのオブジェクトが実行されている間に要員が選択されると、その要員が入力データとして接続可能になるような場合です。 ▪ 演算子 [電子メール/ログオン名でユーザーを検出] を使用してログオン名を入力データとして接続することができます。 どちらのオプションも複雑な XML データを表します。	<ユーザー>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	定義済み実行者のログオン (オプション)	このフィールドは、実行者グループの要員 1 人のみのログオンに接続される必要があります。(要員が実行者グループでない場合は、その割り当ては無視されます)。 必要とされる簡単なテキスト構造は、次のようにモデリングすることができます: ▪ ログオン情報がマニュアルで入力された [手動タスク] タイプのオブジェクトのテキスト フィールドに接続します。 ▪ 初期ダイアログの現在のユーザーは、入力データとしてモデリングすることができます。 ▪ ARIS 属性からログオン情報を取り出す Web サービスを、入力データとして割り当てることができます。	<テキスト>
	優先度	[手動タスク] タイプのオブジェクトには、それぞれ優先度があります。優先度が指定されていない場合は、優先度「NORMAL」が使用されます。「HIGH」または「LOW」を優先度に設定する場合は、該当する値を持つ定数をこのフィールドに接続します。値は大文字である必要があります (LOW、NORMAL、HIGH など)。	<テキスト>
	スループット時間	このスループット時間は、タスクの実行に許可される時間を表します。(この時間を越えた場合、エスカレーション電子メールが送信されます) このフィールドが空の場合、[手動タスク] タイプのオブジェクトの [最大スループット時間] 属性が使用されます。 このフィールドが期間に接続されている場合、その時間属性は無効です。 期間の定義方法は 2 つあります: ▪ 入力データとして定数を定義し、フィールドに接続するか、またはユーザーが期間を定義した [手動タスク] タイプのオブジェクトに接続します。 ▪ または、[手動タスク] タイプのオブジェクトが持つことができる期間は実行中に動的に定義されます。	<持続時間>
	タスクを指定してのエスカレーション	定義済みの時間内にタスクが実行されない場合は、エスカレーション電子メールが責任者に送信されます。このフィールドが接続されていない場合、電子メールは [手動タスク] タイプの現在のオブジェクトの実行者の組織上の責任者に送信されます。このフィールドが、エスカレーション関連の組織要素に接続されている場合は、電子メールはそのロールに送信されます。例:	<ユーザー>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		役職「品質管理者」が［手動タスク］タイプのオブジェクトを実行しなければならない場合。エスカレーション電子メールは品質管理者ではなく、代わりにプロセス担当者に送信されます。	

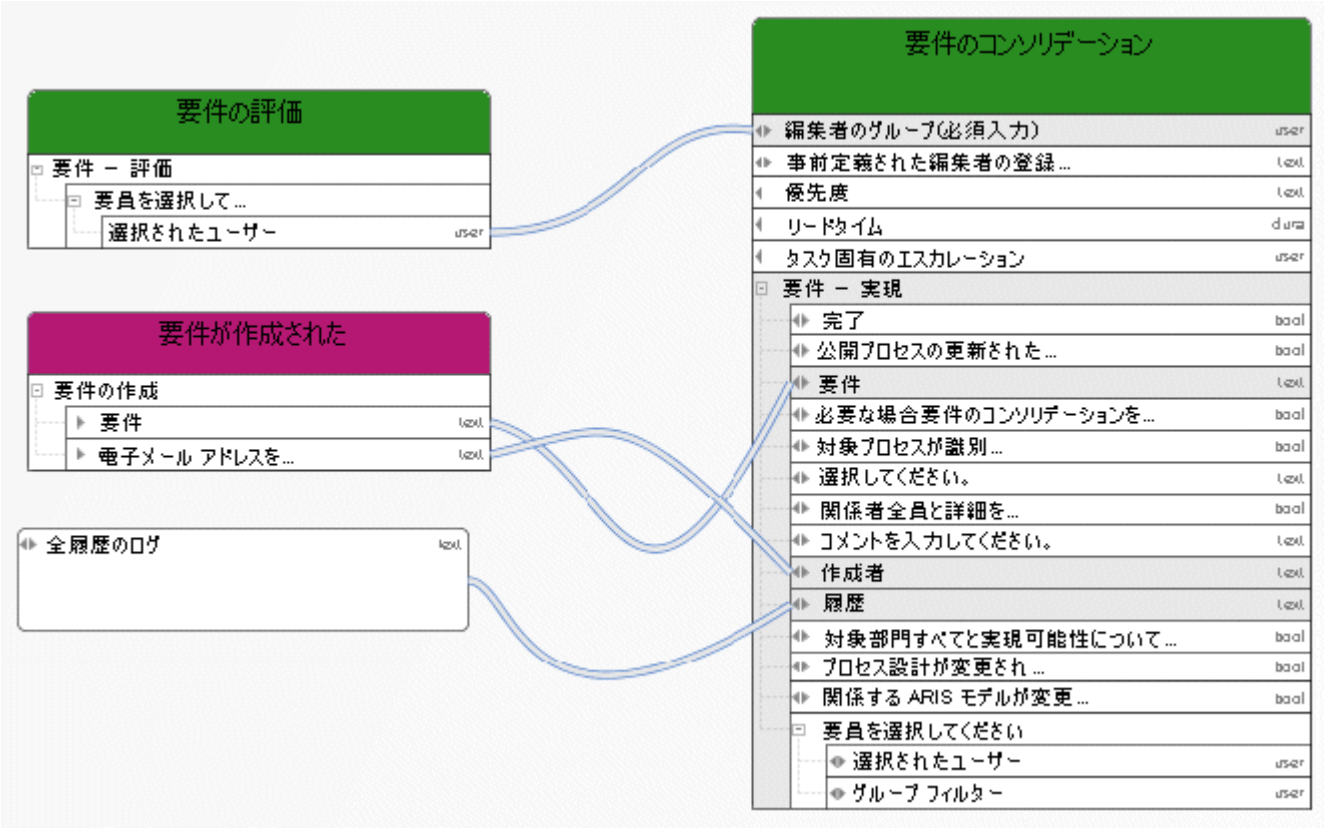


図 2: タスクの説明

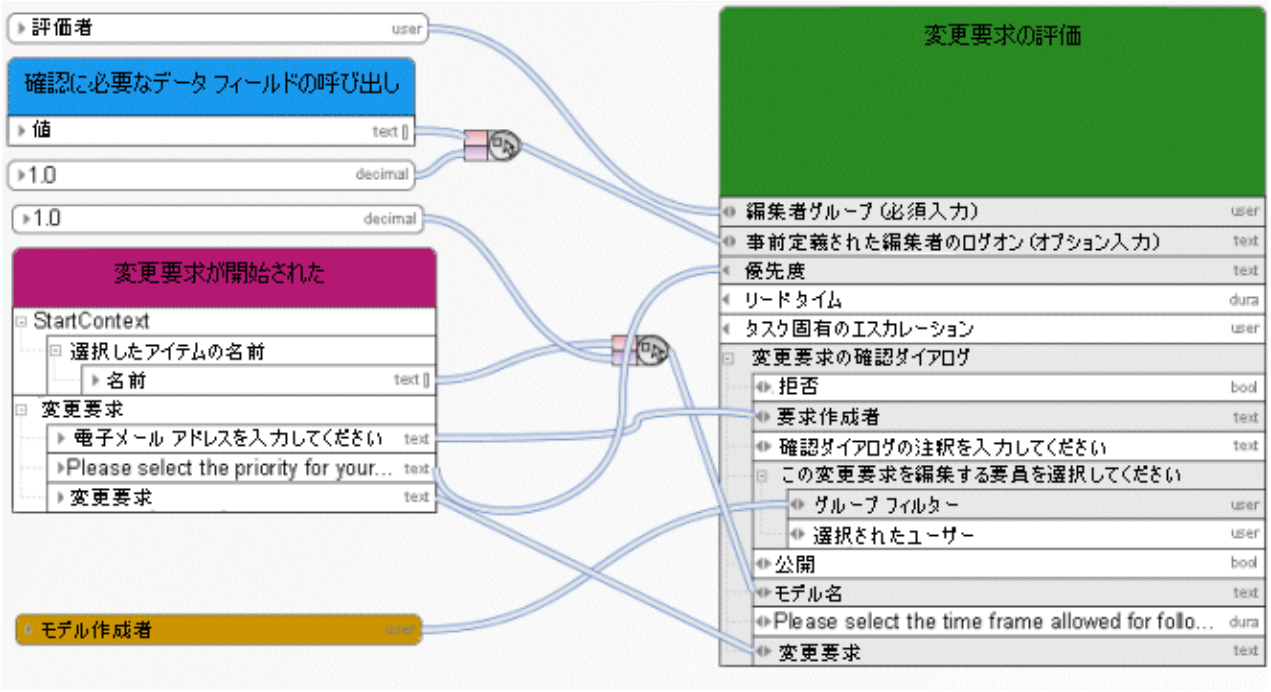


図 3: 例 1 - 一般的なデータ マッピング - ログオン

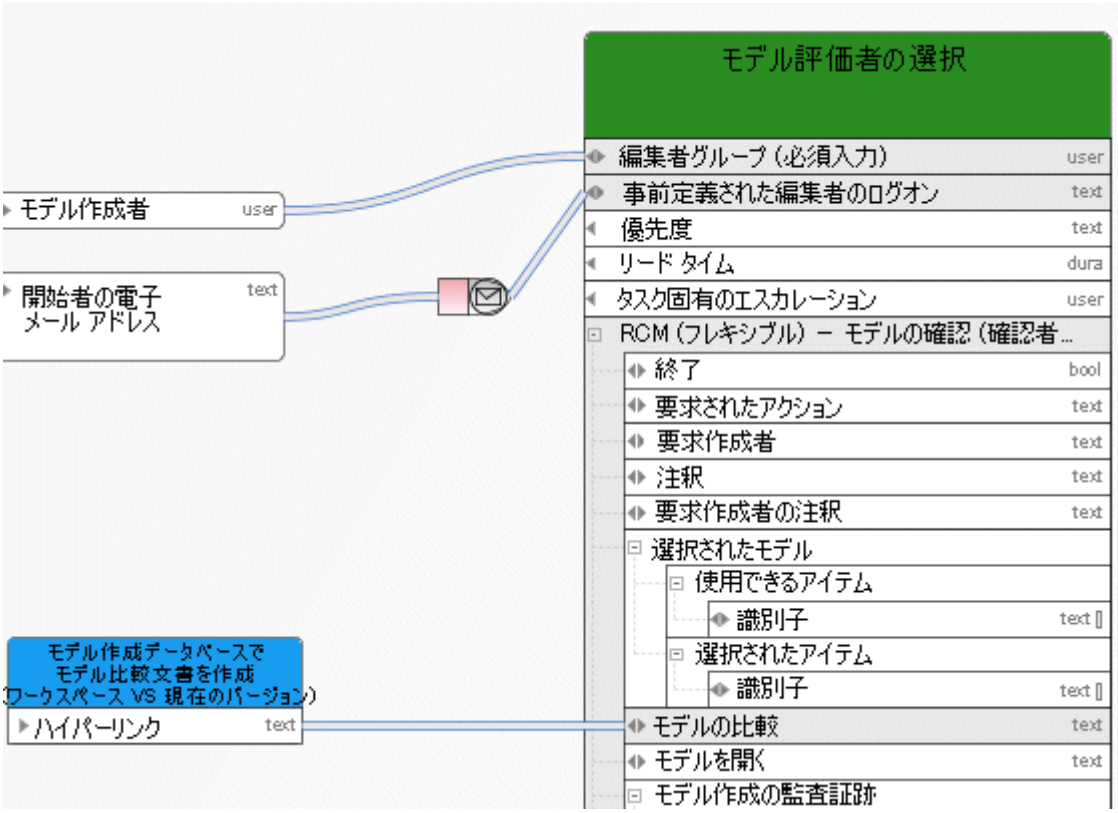


図 4: 例 2 - 一般的なデータ マッピング - ログオン

3.2.2 ユーザーの選択に対するデータ マッピング

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択したユーザー	ダイアログに実行者の選択が提示されている場合は、それらの要員は選択済みです(ユーザーがあらかじめ選択されている［手動タスク］タイプの別のオブジェクトからの入力データによる)。または、要員を選択することができます（[手動タスク］タイプの現在のオブジェクトの出力データ)。入力データがモデリングされていない場合は、ダイアログに事前選択が表示されません。(出力データは［手動タスク］タイプのオブジェクトの［実行者グループ（必須入力)］フィールドに接続することができます)。	<ユーザー>
	グループ フィルター	実行者の選択が使用されている場合、実行者が選択可能な要員リストは、組織要素のモデリングによって定義されます。組織要素がモデリングされていない場合、「ARIS Connect Viewer」、「ARIS Connect Designer」、「ARIS Viewer」のいずれかのライセンスを持つすべてのユーザーが使用できます。	<ユーザー>

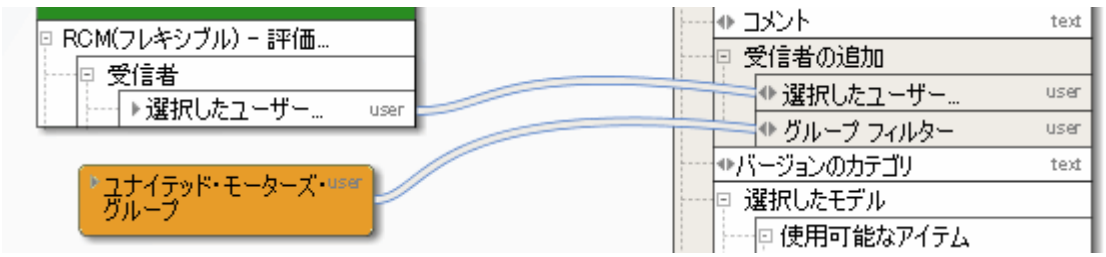


図 5: ユーザーの選択

3.2.3 一覧のデータ マッピング

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	使用可能なアイテム	ダイアログ ボックスで一覧が使用されている場合は、モデルの一覧などのように値を入力できます。	
	識別子	一覧に値を表示するためには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] のいずれかのオブジェクト タイプからモデルまたはオブジェクトに接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	選択したアイテム	編集できる一覧がダイアログ ボックスで使用されている場合は、実行者は一覧からモデルなどのアイテムを選択できます。	
	識別子	実行者は一覧からエントリを選択できます。これらのエントリは、[手動タスク] または [自動タスク] タイプの別のオブジェクト入力データとして使用できます。	<テキストの集合>

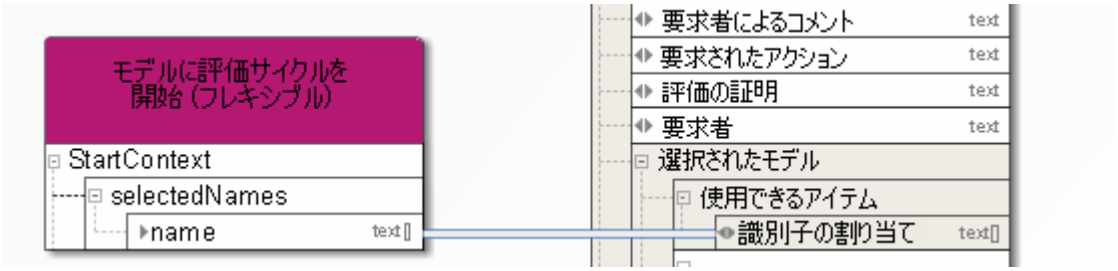


図 6: 一覧

3.3 通知とライブ メッセージ

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	宛先	通知の受信者。通知の場合のみ。	<ユーザー>
	CC	コピー、および通知の受信者。通知の場合のみ。	<ユーザー>
	BCC	ブラインド コピー、および通知の受信者。通知の場合のみ。	<ユーザー>
	件名	内容またはトピックの短い説明。	<テキスト>
	目次	通知またはライブ メッセージの内容。	<テキスト>

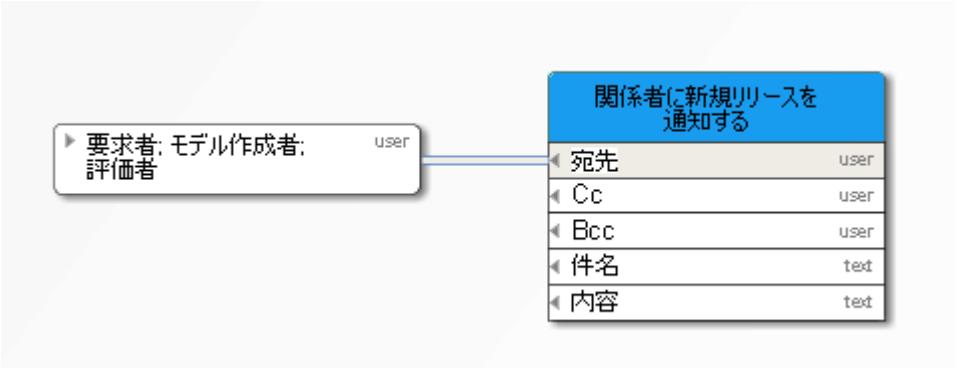


図 7: 例 1 - 通知

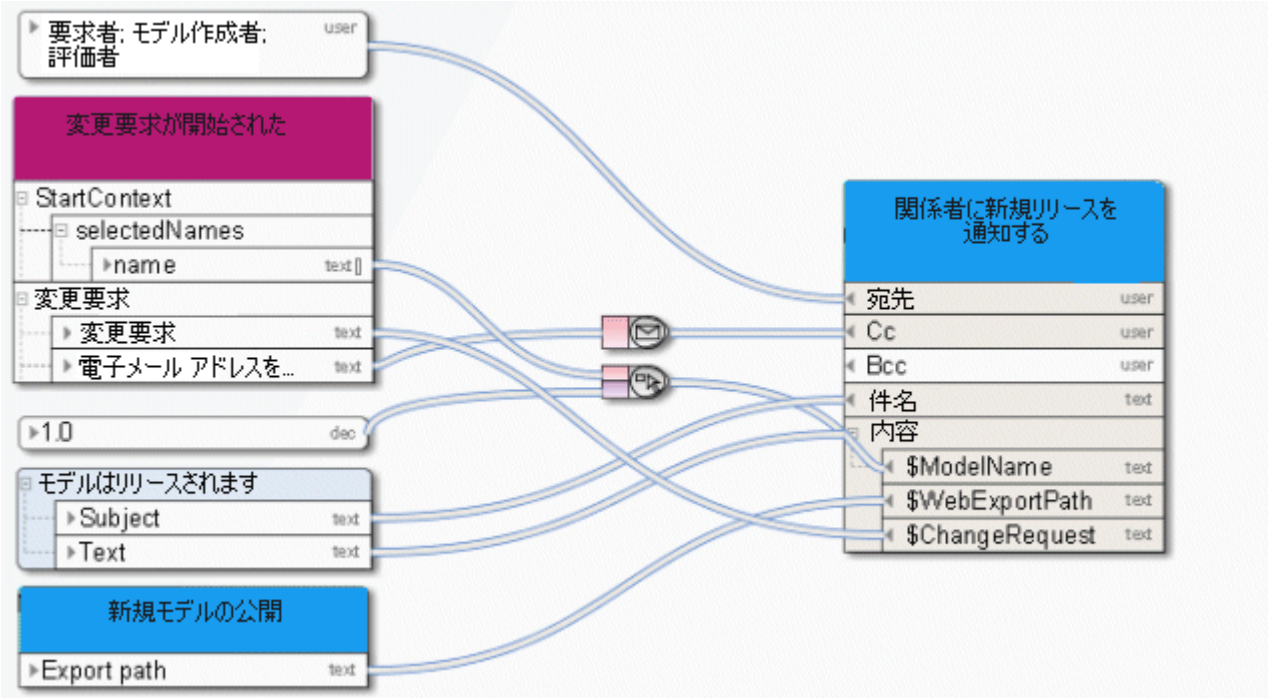


図 8: 例 2 - 通知

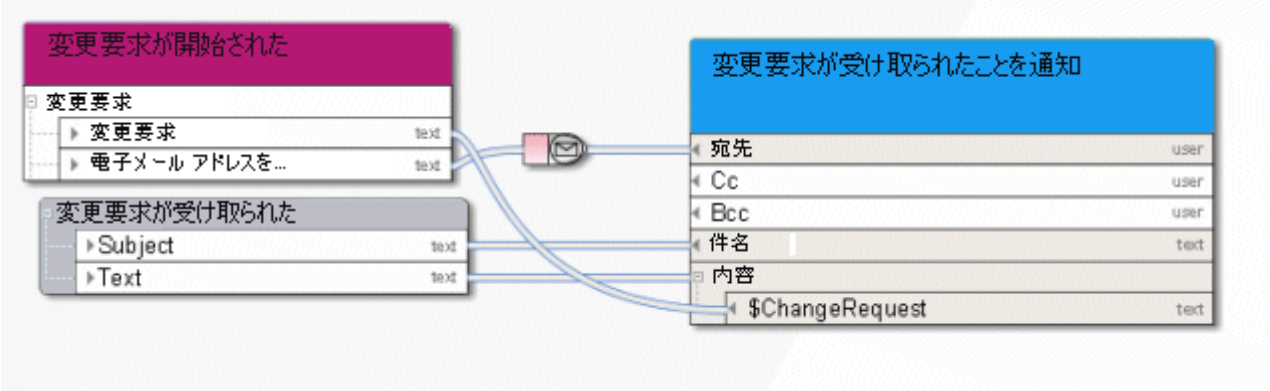


図 9: ライブ メッセージ

3.4 ARIS ビジネス サービス

これらのサービスは、ガバナンス リソースの Governance Automation Models リファレンス データベースにあります。

ARIS ビジネス サービスは、ARIS レポートを内部的に呼び出すサービスです。レポートは、ARIS、[管理]、[評価]、[レポート]、[ガバナンス] の順に選択すると見つかります。これらのレポートは変更できません。

3.4.1 追加 - モデル/オブジェクト/グループ

このサービスは、ソース データベースのモデルまたはオブジェクト、あるいはその両方をターゲット データベースにマージします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ターゲット データベースにマージするモデル、オブジェクトまたはグループを選択してください。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	ターゲット データベース	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからターゲット データベースを接続するか、または定数を使用してターゲット データベースの名前を入力します。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	属性のマージ	ソース属性とターゲット属性をマージする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	アサインメント レベル	マージ処理の対象になるアサインメント レベルを定数で指定してください。	<10 進数>
	選択外のアサインメント	マージ処理に含めるアサインメントを定義してください: 周辺項目を対象にする場合は、論理定数に TRUE を定義します。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	選択外の接続線	マージ処理に含める接続線を定義してください: 周辺項目を対象にする場合は、論理定数に TRUE を定義します。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	モデル: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合に使用される設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	オブジェクト: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合に使用される設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	接続線: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合に使用される設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	フォント: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合に使用される設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	ユーザー: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合に使用される設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテ	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	
	ユーザー グループ: ターゲットを上書きする	競合が発生した場合に使用される設定を定義してください: ソース データベースのアイテムでターゲット データベースのアイテムを上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	ユーザーのマージ	関連付けられているユーザー グループをマージする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	グループ: ソースを対象にする	競合が発生した場合にソースを含むグループを選択するには、論理定数に TRUE を定義してください。そうでない場合は FALSE です。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	アサインメントの同期	アサインメントを同期するには、論理定数に TRUE を定義してください。モデルに対する関係がソース データベース内に存在し、マージ処理中にこのモデルが (以前のマージによるものなど) ターゲット データベースに見つかった場合、これらの関係が再作成されます。	<論理値>
	パス	ログ ファイルが保存されるパス。	<テキスト>
	内容ルート	内容ルートへのパスの一部を指定してください。例: http://system123.me.corp.example.com:0909	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	ハイパーリンク	生成されたログ ファイルへのハイパーリンクが出力されます。	<テキスト>

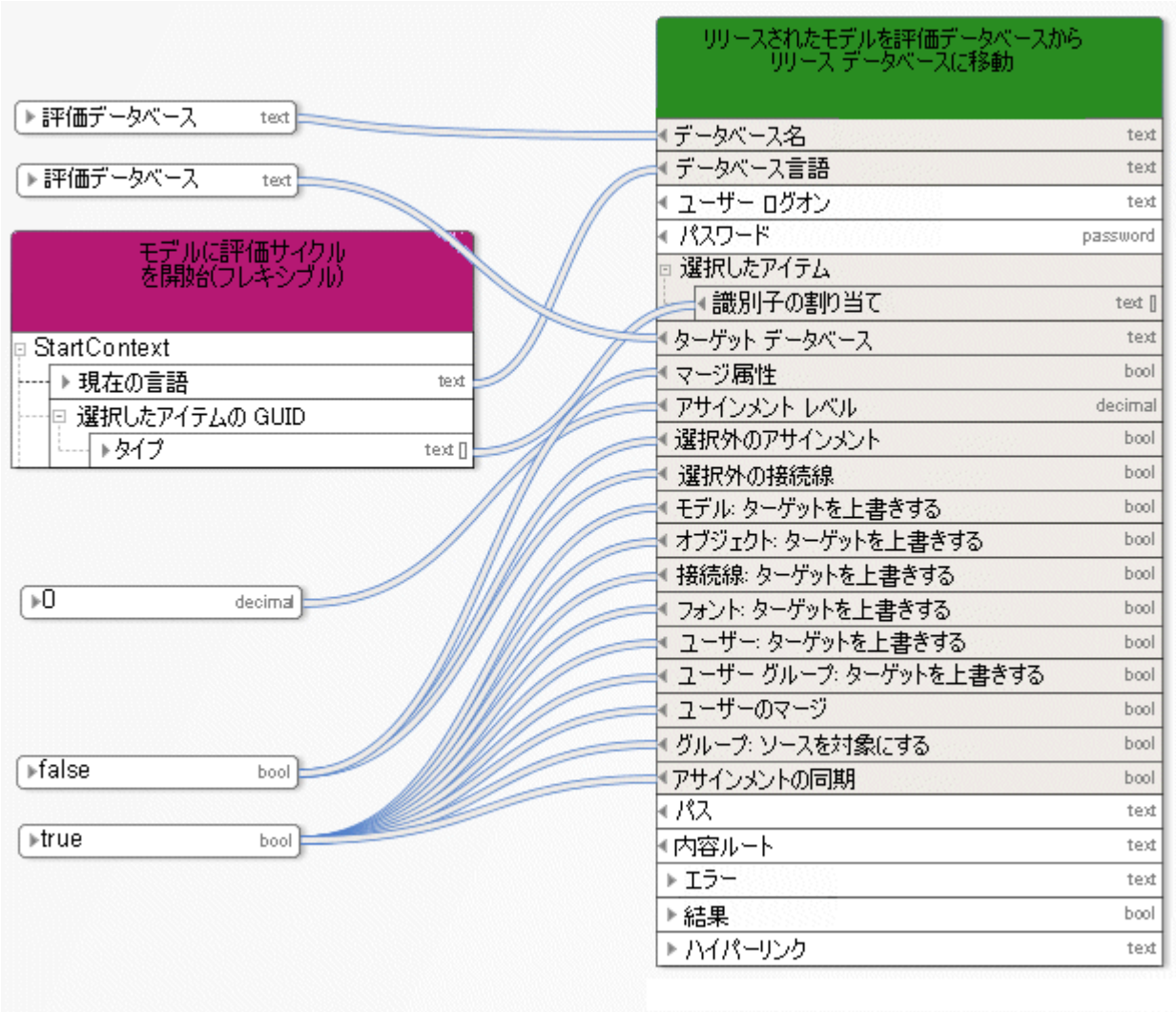


図 10: モデル/オブジェクト/グループのマージ

3.4.2 比較 - モデル バージョン

このサービスは、単一モデルの 2 つのバージョンを比較します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したモデル	バージョンを比較するモデルを指定します。	
	モデル GUID	バージョンを比較するモデルの GUID です。	<テキスト>
	変更リスト	最新バージョンのモデルの変更リスト番号です。	<10 進数>
	モデル プロパティの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのモデル プロパティが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	ソース モデルのみに存在するアイテムの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、ソース モデルにのみ存在するアイテムが比較するバージョンで異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	ターゲット モデルのみに存在するアイテムの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、ターゲット モデルにのみ存在するアイテムが比較するバージョンで異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	両方のモデルのアイテムを比較	入力が TRUE である場合、サービスは、ソース モデルとターゲット モデルに存在するアイテムが比較するバージョンで異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	オブジェクト定義の比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト定義が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	オブジェクト オカレンスの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	オブジェクト オカレンスの比較: 表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスの表示設定が異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	オブジェクト オカレンスの比較: 位置/サイズ	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスの位置またはサイズ、あるいはその両方が異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	オブジェクト オカレンスの比較: 属性表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのオブジェクト オカレンスの属性表示設定が異なるかどうかを比較します。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線定義の比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線定義が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線のオカレンスの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線オカレンスが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	接続線の表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線の表示設定が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	変曲点	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの変曲点が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	接続線の属性表示設定	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの接続線の属性表示設定が異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	グラフィック オブジェクトの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのグラフィック オブジェクトが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	OLE オブジェクトの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの OLE オブジェクトが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	フリー テキストの比較	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのフリー テキストが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	パス	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンのパスが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	内容ルート	入力が TRUE である場合、サービスは、比較するバージョンの内容ルートが異なるかどうかを比べます。入力が FALSE の場合、これは比較されません。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	ハイパーリンク	モデル バージョン比較の結果へのハイパーリンクです。	<テキスト>

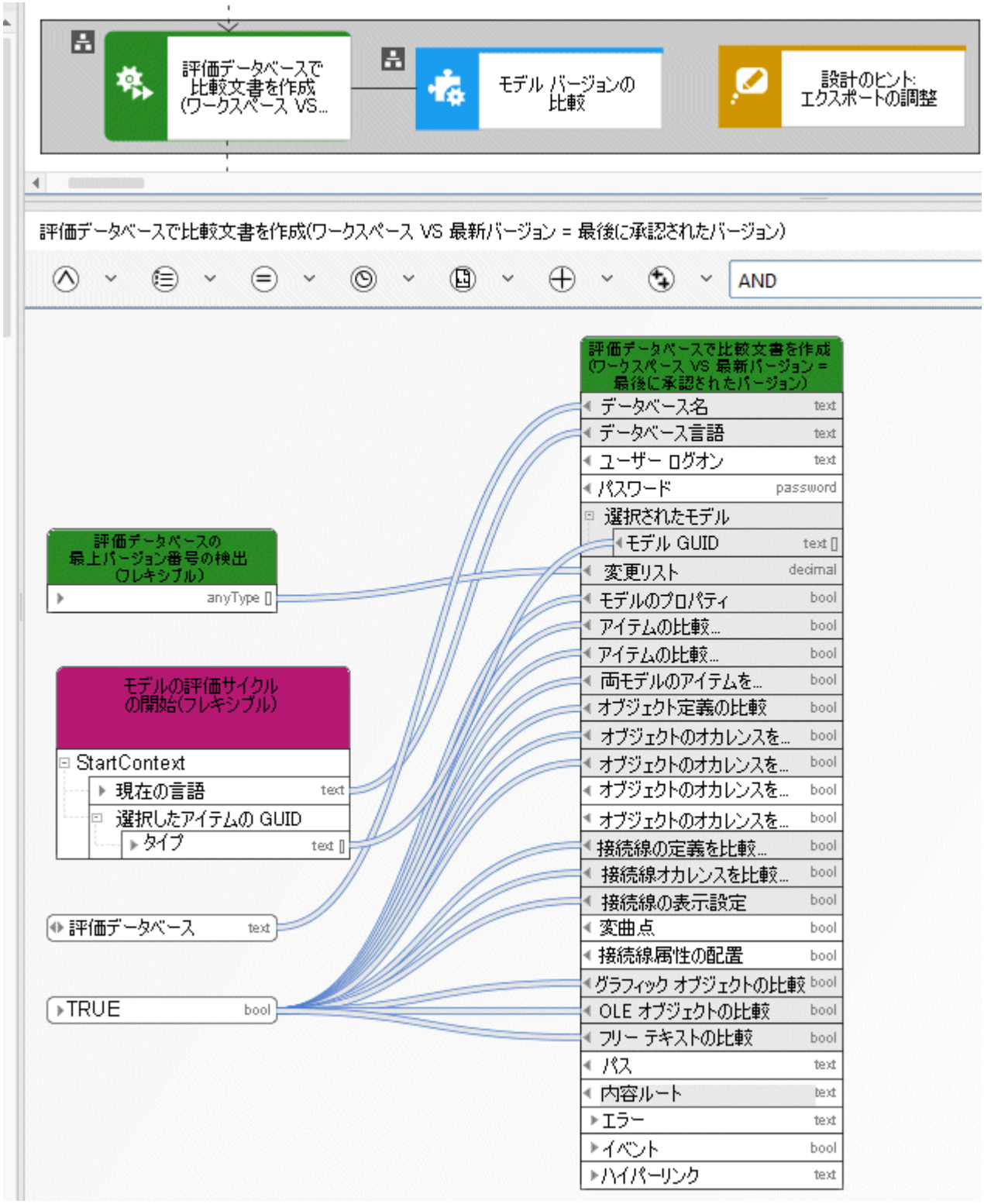


図 11: 比較 - モデル バージョン

3.4.3 コピー - データベース

このサービスは、既存のデータベースをコピーし、必要に応じて新規データベースの名前を変更します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	新規データベースの名前	新規データベースがこの名前で作成されます。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>

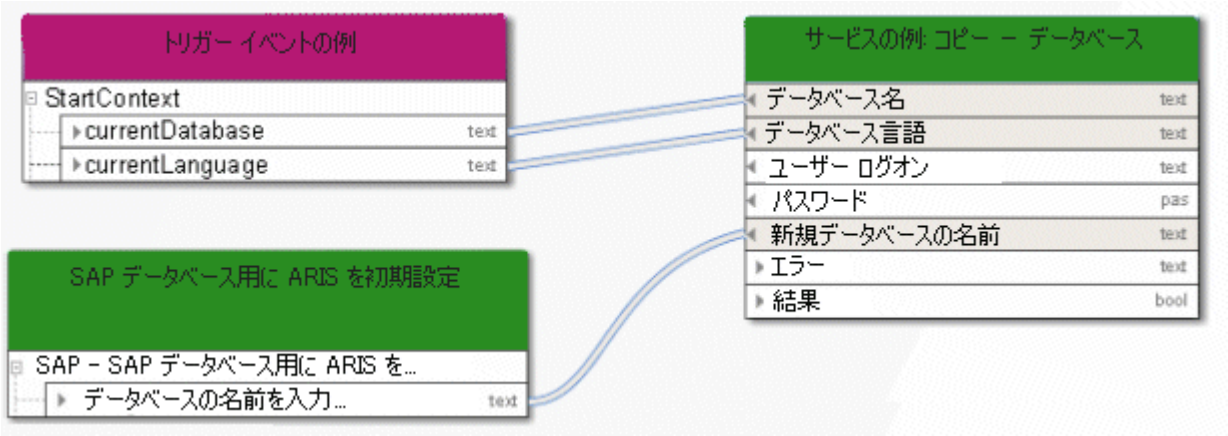


図 12: データベースのコピー

3.4.4 作成 - 1 ディレクトリ/グループ

このサービスはグループを 1 つのみ作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます)。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規グループを保存するパスを入力してください（例: メイングループ\プロセス\販売プロセス)。	<テキスト>
	グループ名	新規グループに「プロセス」などの名前を入力してください。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	作成されたパス	作成されたグループへのパス。	<テキスト>
	グループ GUID	作成されたグループの GUID。	<テキスト>

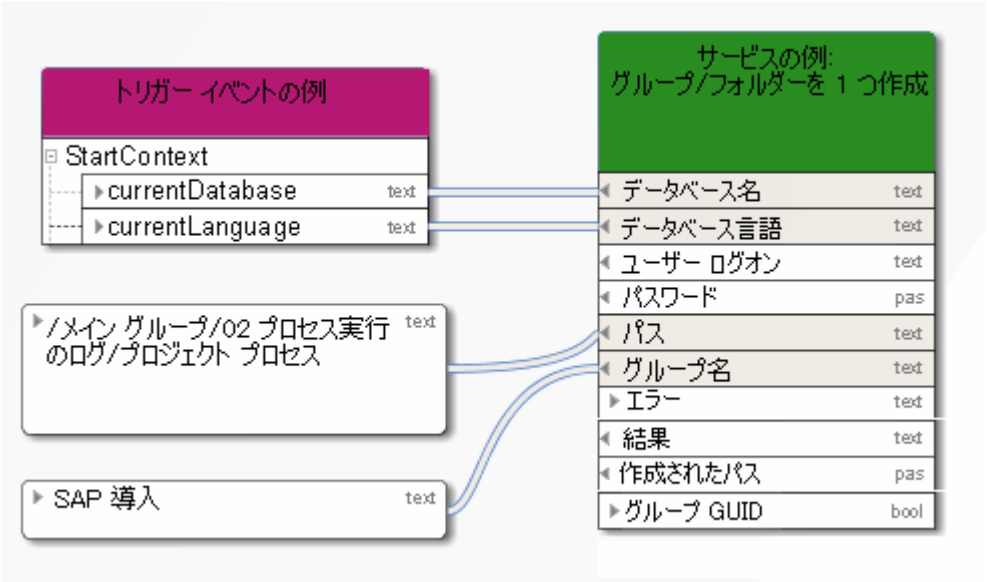


図 13: グループ/フォルダーを 1 つのみ作成

3.4.5 作成 - 1 モデル

このサービスは必要なタイプのモデルを 1 つのみ作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	モデル名	新規モデルの名前を入力します。	<テキスト>
	モデル タイプ	API 名 (例: EPC の場合、MT_EPC) を使用してモデル タイプを定義します。	<テキスト>
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規モデルを保存するパスを入力してください (例: メイン グループ\プロセス\販売プロセス)。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	モデル GUID	新しく作成されたモデルの GUID を返します。	<テキスト>

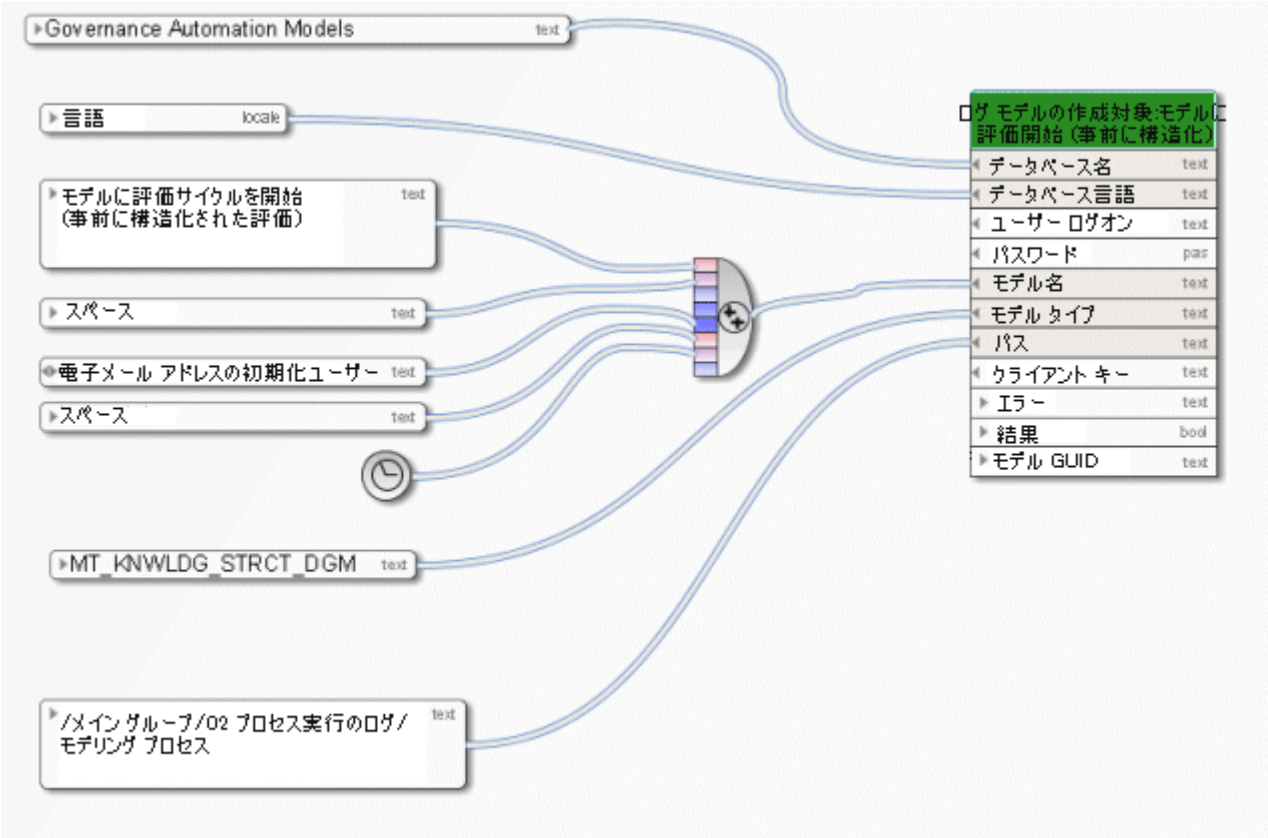


図 14: モデルを 1 つのみ作成

3.4.6 作成 - 1 オブジェクト

このサービスは必要なタイプのオブジェクトを 1 つのみ作成します。既存オブジェクトに接続線を作成して、既存モデルにアサインすることもできます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	オブジェクト名	新規オブジェクトの名前を入力します。	<テキスト>
	オブジェクト タイプ	オブジェクト タイプを、API 名 (例: ファンクションの場合、OT_FUNC) を使用して定義します。	<テキスト>
	モデルのオカレンス	新規オブジェクトがオカレンスを持つモデルを指定します。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	オカレンス シンボル	新規オブジェクトの表示に使用されるシンボルを指定します。このためには API 名を使用します。例: [プロセス インターフェイス] の場合 ST_PRCS_IF。シンボルが定義されていない場合、またはそのシンボルがモデル タイプで許可されていない場合は、デフォルト シンボルが使用されます。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	モデルのアサインメント	既存モデルをオブジェクトにアサインできます。	
	識別子	アサインされるモデルを指定します。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	ソース オブジェクト	既存ソース オブジェクトへの接続線を定義できます。	
	識別子	作成される接続線のソース オブジェクトを定義します。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	入力接続線の接続線タイプ	既存オブジェクトからこの新規オブジェクトまで引くために作成する接続線のタイプを定義します。	
	タイプ	演算子 [集合の作成] および API 名 (例: [入力である] の場合、CT_IS_INP_FOR) を使用して接続線タイプを定義します。演算子 [集合の作成] を使用して複数のソース オブジェクトを定義した場合は、複数の接続線タイプを指定することができます。この場合、順序はどのオブジェクトに対してどの接続線が作成されるかで決定されます (最初のソース オブジェクトが最初の接続線タイプに割り当てられるなど)。	<テキストの集合>
	ターゲット オブジェクト	既存オブジェクトの接続線を定義します。	
	識別子	作成される接続線のターゲット オブジェクトを定義します。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	出力接続線の接続線タイプ	新規オブジェクトから既存オブジェクトまで引くために作成する接続線のタイプを定義します。	
	タイプ	演算子 [集合の作成] および API 名 (例: [出力として持つ] の場合、CT_HAS_OUT) を使用して接続線タイプを定義します。演算子 [集合の作成] を使用して複数のターゲット オブジェクトを定義した場合は、複数の接続線タイプを指定することができます。この場合、順序はどのオブジェクトに対してどの接続線が作成されるかで決定されます (最初のターゲット	<テキストの集合>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		オブジェクトが最初の接続線タイプに割り当てられるなど)。	
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規グループを保存するパスを入力してください (例: メイングループ\プロセス\販売プロセス)。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	オブジェクト GUID	新しく作成されたオブジェクトの GUID を返します。	<テキスト>

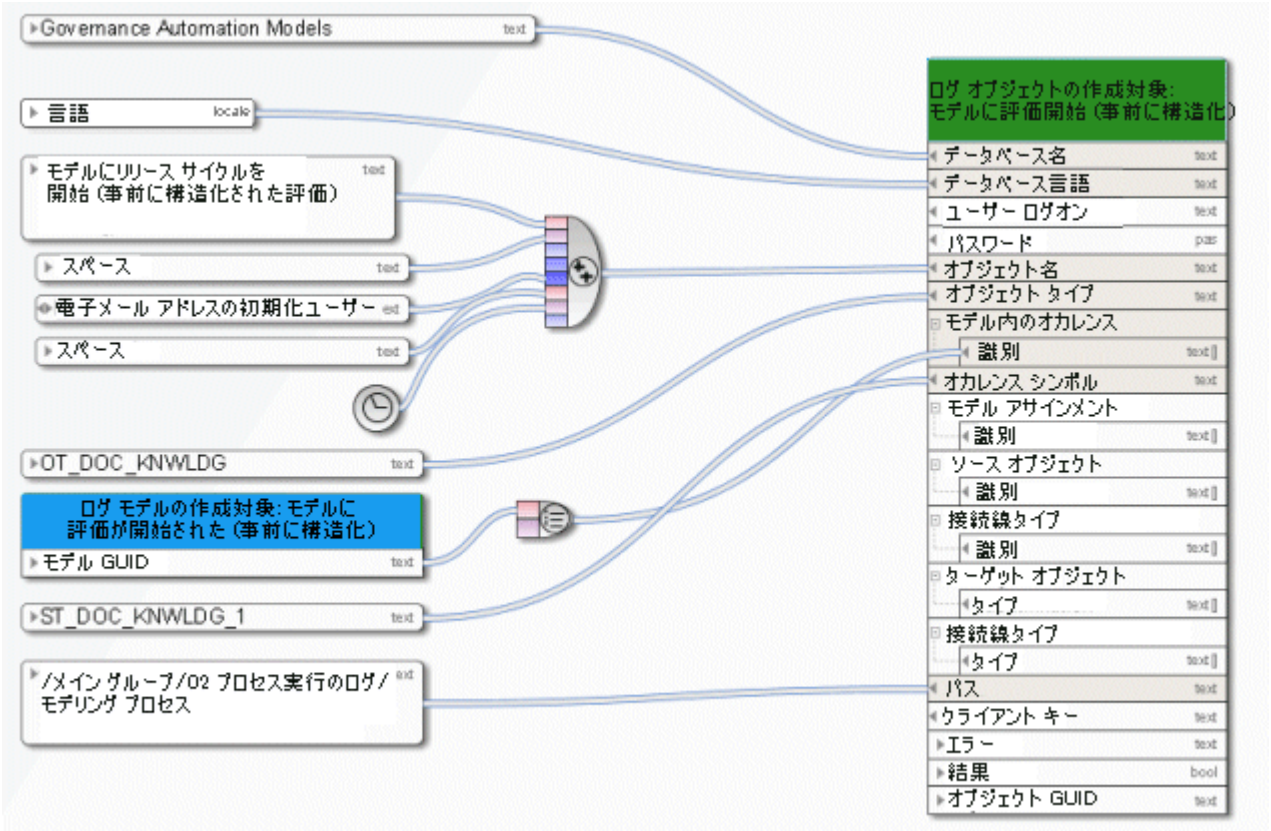


図 15: オブジェクトを 1 つのみ作成

3.4.7 作成 - データベース

このサービスは、データベースを作成します。この際、データベースの名前は入力の日付になります。同じ名前のデータベースが既に存在する場合、新しいデータベースの名前の後ろに番号が付けられます（例：<名前>(1)）。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例：日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	既に存在する場合は無視する	これが true として定義されていると、サーバー上にこの名前のデータベースがまだない場合のみデータベースが作成されます。	<論理値>
	データベース名	新規データベースがこの名前で作成されます。特殊文字は使用できません。名前に特殊文字が含まれる場合、エラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	バージョン管理可能	入力が TRUE である場合、新しいデータベースがバージョン管理可能なデータベースとして作成されます。FALSE の場合、データベースはバージョン管理可能できません。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>

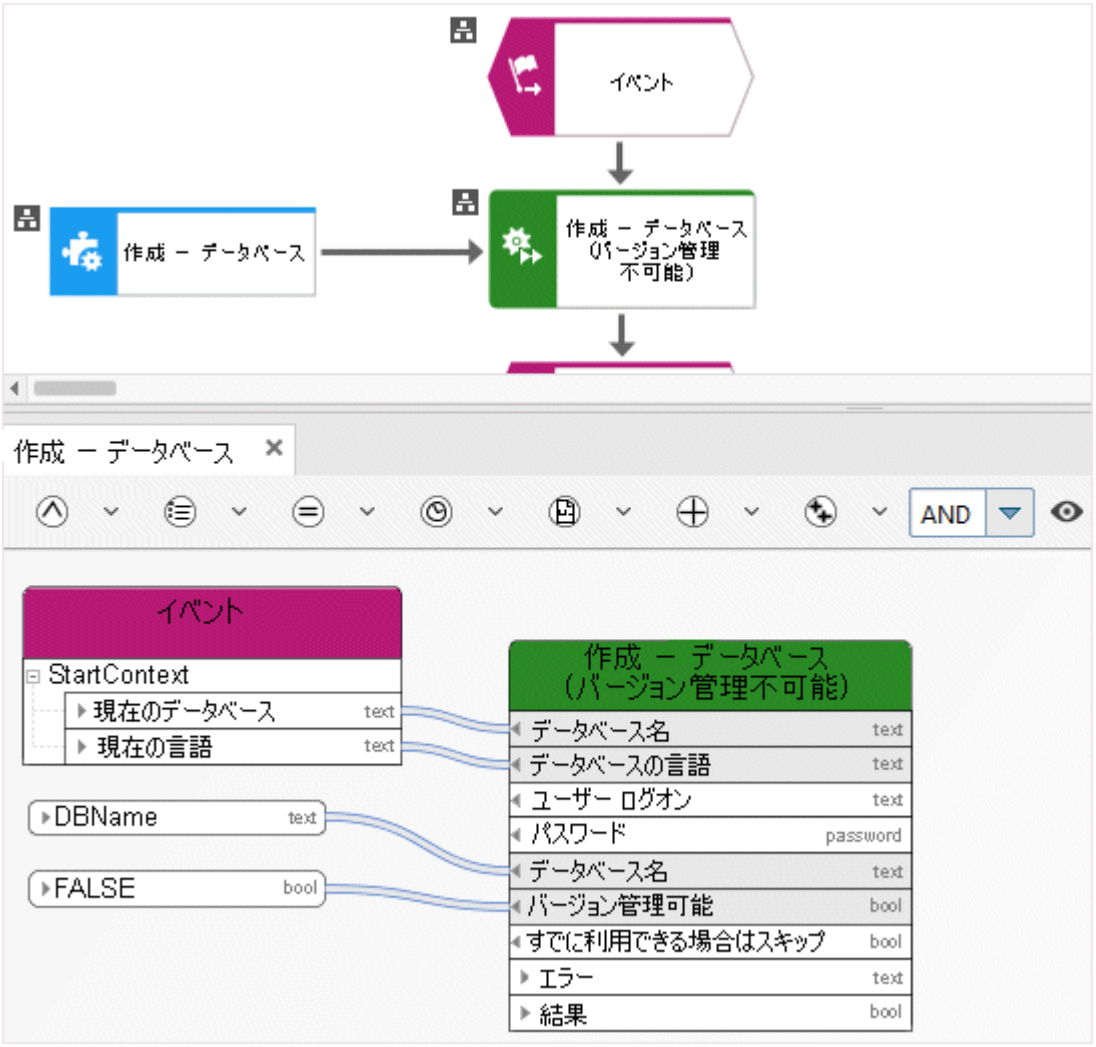


図 16: データベースの作成

3.4.8 作成 - ARIS Publisher 動的エクスポート

このサービスは、特定のモデルを読込専用で公開するための Web エクスポートを作成します。エクスポートは動的であるため、ビューの生成なども含めてアクセス権が反映されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	ARIS Publisher Server	データベースが存在する ARIS Publisher Server の名前。	<テキスト>
	ARIS Publisher Server ポート	データベースが保存される ARIS Publisher Server で使用されるポート。	<10 進数>
	エクスポート名	エクスポートを開くとリストに表示される名前です。	<テキスト>
	エクスポートの説明	エクスポートを開くとリストに表示される説明です。	<テキスト>
	変更リスト	バージョン管理された内容をエクスポートする変更リスト番号を定義します。(たとえば、バージョンを生成し、変更リスト番号を出力する) [自動タスク]、[手動タスク] または (変更リスト番号が入力された) [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトを接続してください。または、変更リスト番号のある定数を接続してください。	<10 進数>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	参照エクスポート	あるエクスポートからほかのエクスポートに（たとえば、現在のエクスポートから古いバージョンのエクスポートに）移動するために、現在のエクスポートが参照するエクスポートの名前を指定します。	<テキスト>
	テンプレート	エクスポートの実行時に適用するテンプレートの GUID（プロパティ参照）を入力してください。	<テキスト>
	エクスポート言語	複数言語でデータベースをエクスポートします。	
	言語	次のとおり言語コードを設定してください: **en_US, en_US, en_US; de_DE, de_DE, de_DE**.(ISO 639 言語コードが使用されます)単一言語の場合は、[言語『191ページ 』] タイプの定数を使用できます。	<テキストの集合>
	デフォルト言語 ID	内容が選択した言語で設定されていない場合は、使用する言語の ID を入力します（日本語の場合は、1041)。	<テキスト>
	プロファイル名	エクスポートの実行時に使用するプロファイルの名前を入力してください。	<テキスト>
	プロファイルの説明	エクスポートの実行時に使用するプロファイルの説明を入力してください。	<テキスト>
	一時ファイル名	リンクされているファイルに対して一時ファイル名を生成するかどうかを指定します。 このプロパティに TRUE が設定されていると、リンクされているファイル（文書）には一時ファイル名が付き、ファイルは上書きされません。 このプロパティに FALSE が設定されていると、リンクされているファイル（文書）の名前は元のままです。同じ名前のファイルが存在すると、ARIS Publisher に転送される際に上書きされます。	<論理値>
	印刷倍率の使用	指定したサイズでモデルを印刷する場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	元のサイズ	元のサイズを定義してください。例:「100」。	<10 進数>
	倍率	モデルの倍率を定義してください。例: 75、100、125、150。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	白黒	モデルを白黒表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	透明	モデルを透過表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	文書リンクのリスト	コピーする文書を含むリンク属性を指定してください。	
	属性タイプ	API 名 (例: [リンク 1] の場合、AT_EXT_1) を使用してリンク属性タイプを定義するか、GUID を入力して [集合の作成] 演算子を使用します。	<テキストの集合>
	レイアウト	ARIS Publisher の出力のレイアウトを選択します (例: 「defaultLayout」)。	
	ユーザー名	ダイアログ ボックスのハイパーリンクをクリックすると生成されたエクスポートが自動的に開くようにするには、デフォルト ログオン名を入力してください。ここでログオン名を入力しない場合、ハイパーリンク経由でエクスポートを開く際に、ユーザーがログオン名を入力する必要があります。	<テキスト>
	パスワード	ダイアログ ボックスのハイパーリンクをクリックすると生成されたエクスポートが自動的に開くようにするには、ログオン名のパスワードを入力してください。ここでパスワードを入力しない場合、ハイパーリンク経由でエクスポートを開く際に、ユーザーがパスワードを入力する必要があります。	<テキスト>
	匿名	誰もがエクスポートにアクセスできるようにする場合はこの論理定数を TRUE、そうでない場合は FALSE と定義します。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	エクスポート パス	エクスポート結果が格納されるパスです。これはハイパーリンクとして使用することができます。	<テキスト>

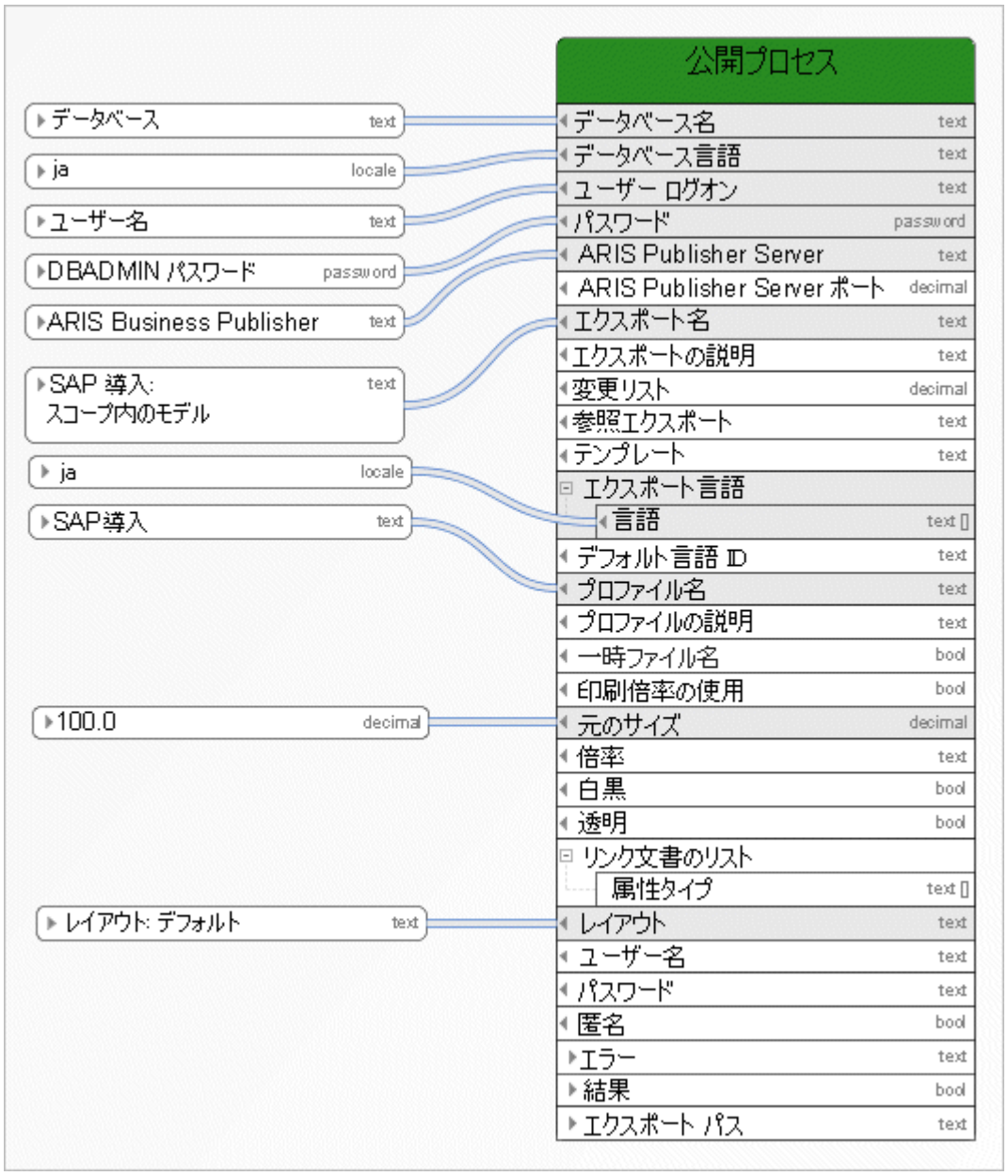


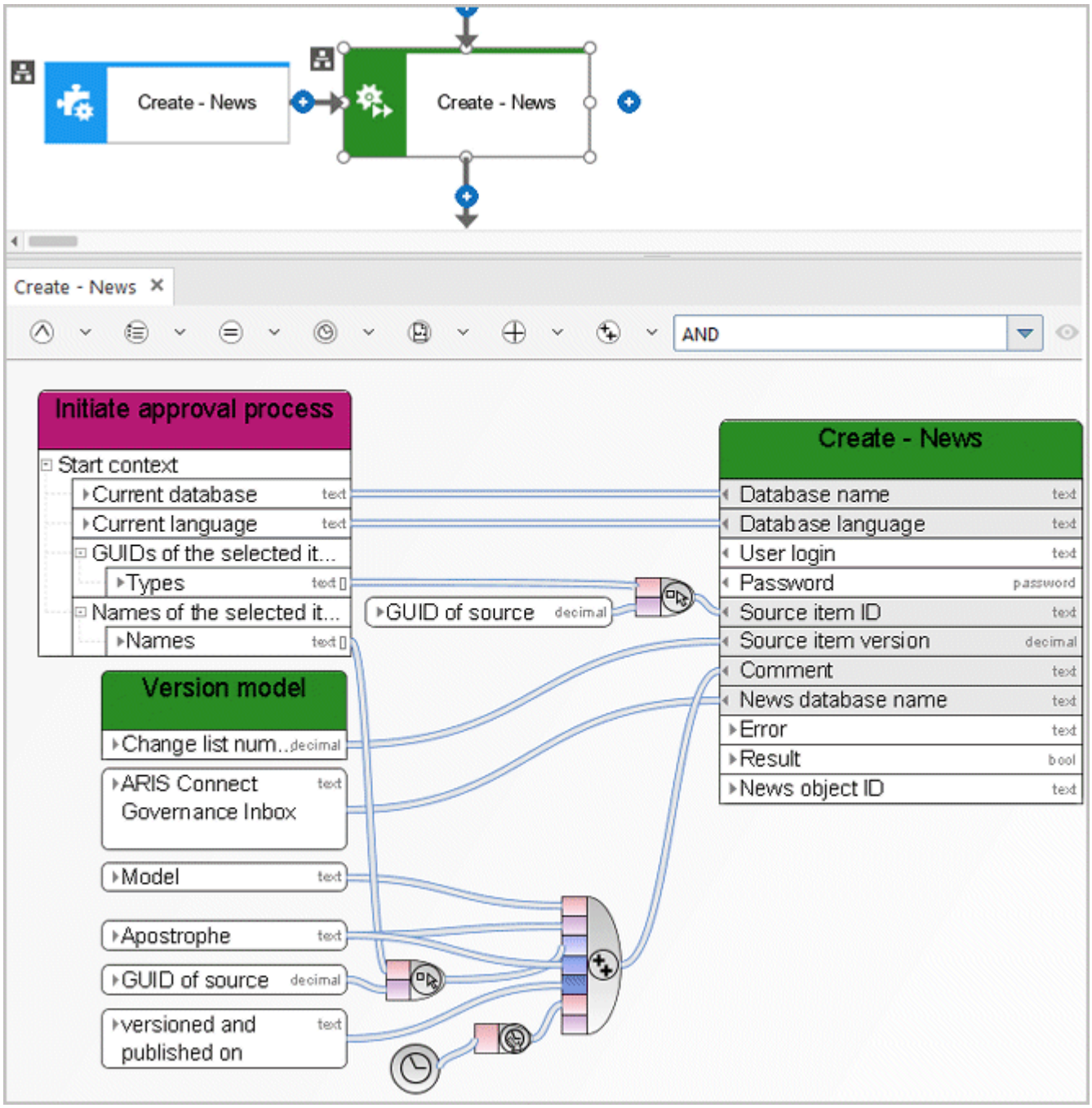
図 17: ARIS Publisher 動的エクスポートの作成

3.4.9 ニュースの作成

このサービスは、ニュースを保存するデータベースを作成しますこの際、データベースの名前は入力の日付になります。同じ名前のデータベースが既に存在する場合、新しいデータベースの名前の後ろに番号が付けられます（例：＜名前＞(1)）。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	＜テキスト＞
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例：日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	＜テキスト＞ または ＜言語＞
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	＜テキスト＞
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	＜パスワード＞
	ソース アイテム ID	プロセスが開始したモデルの GUID。	＜10 進数＞
	ソース アイテム バージョン	プロセスが開始したモデルのバージョン。	＜10 進数＞
	コメント	[ニュース] アイテムに表示されるテキスト。	＜テキスト＞
	ニュース データベース名	ニュースが保存されているデータベースの名前。このデータベースが存在しない場合は、作成されます。[メイン グループ] に、名前が [ニュース受信トレイ] のグループが作成されます。[ニュース受信トレイ] グループには、プロセスが開始したデータベースの名前を持つサブグループがあります。このサブグループに [情報媒体図] が作成され、[情報媒体] オブジェクトが格納されます。これが [ニュース] アイテムです。	＜テキスト＞

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	ニュースのオブジェクト ID	[ニュース] データベースで作成された [情報媒体] オブジェクトの GUID。	<10 進数>


Create - News
Create - News
Create - News
AND
Initiate approval process
Start context
Current database text
Current language text
GUIDs of the selected it...
Types text
Names of the selected it...
Names text
GUID of source decimal
Version model
Change list num.. decimal
ARIS Connect Governance Inbox text
Model text
Apostrophe text
GUID of source decimal
versioned and published on text
Create - News
Database name text
Database language text
User login text
Password password
Source item ID text
Source item version decimal
Comment text
News database name text
Error text
Result bool
News object ID text

3.4.10 作成 - レポート

このサービスはレポートを開始します。ユーザーがユーザー定義の設定を必要とする場合は、設定してください。データ フローで設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。レポートの結果は ARIS 文書格納に保存されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	スクリプト ID	実行するスクリプトの ID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>
	選択したアイテム	データベース、モデル、オブジェクト、またはグループなどさまざまな内容にスクリプトを開始してください。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用しますデータベースは、常に上のフィールドで定義したもの (データベース名) です)。	<テキストの集合>
	メソッド フィルターの GUID	スクリプトの実行時に使用するメソッド フィルターの GUID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>
	評価フィルターの GUID	スクリプトの実行時に使用する評価フィルターの GUID (プロパティ参照) を入力してください。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	スクリプト言語	目次などの定義済みテキストを出力するには、スクリプトを使用します。テキスト出力に使用する言語を指定してください。(ISO 639 言語コードを使用します。日本語の場合「ja」)言語を指定しない場合、あるいは、指定した言語が使用できない場合は、最初に検出された言語が使用されます。	<テキスト>
	出力ファイル形式	作成する出力形式 (doc、xls、pdf など) を入力します。(RTF = 0、テキスト = 2、HTML = 3、MS WORD = 4、MS EXCEL = 5、そのほか = 7、XML = 8、PDF = 9、DOCX = 11、ODT = 13、XLSX = 14、出力無し = -1、scriptrunner.outputformat=-1)	<10 進数>
	内容ルート	内容ルートへのパスを指定してください。例: http://system123.me.corp.example.com:0909	<テキスト>
	ユーザー プロパティ名	レポートを実行するには、入力パラメーターの入力が必要です。注意: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	
	ユーザー入力値	レポートを実行するには、入力パラメーターの入力が必要です。注意: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	
	タイプ	レポートのソース コードで定義されている該当値を入力してください。注意: 設定を定義するには、レポート スクリプトの自動開始を許可する必要があります。これにはレポート スクリプトの変更が必要になることがあります。	<テキストの集合>
	復元可能	失敗した場合にレポートが復元可能かどうかを指定します。デフォルト値は false です。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	出力パス	たとえば、ARIS 文書格納 に作成された文書へのリンクなどの文書へのパスが作成されます。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	出力データ	レポート スクリプトのプログラミングによっては、データで渡すことが必要になります。ここでデータを定義した場合、その出力データを［手動タスク］または［自動タスク］タイプのオブジェクト用、あるいは［通知］タイプのオブジェクト用の入力データとして使用することができます。	
	データの組み合わせ	データは、データ キーとデータ値から構成されます。最初のデータ キーに最初のデータ値などが含まれます。	
	キー	レポートのソース コードで定数として定義されている有効なデータ キーを入力してください。このためには、演算子［集合の作成］を使用します。	<テキスト>
	値	すべての有効なデータ キーに、出力として使用するデータ値を入力します。このためには、演算子［集合の作成］を使用します。キーと値は一致する必要があります。最初のデータ キーに最初のデータ値が含まれ、その他についても同様です。	<テキスト>

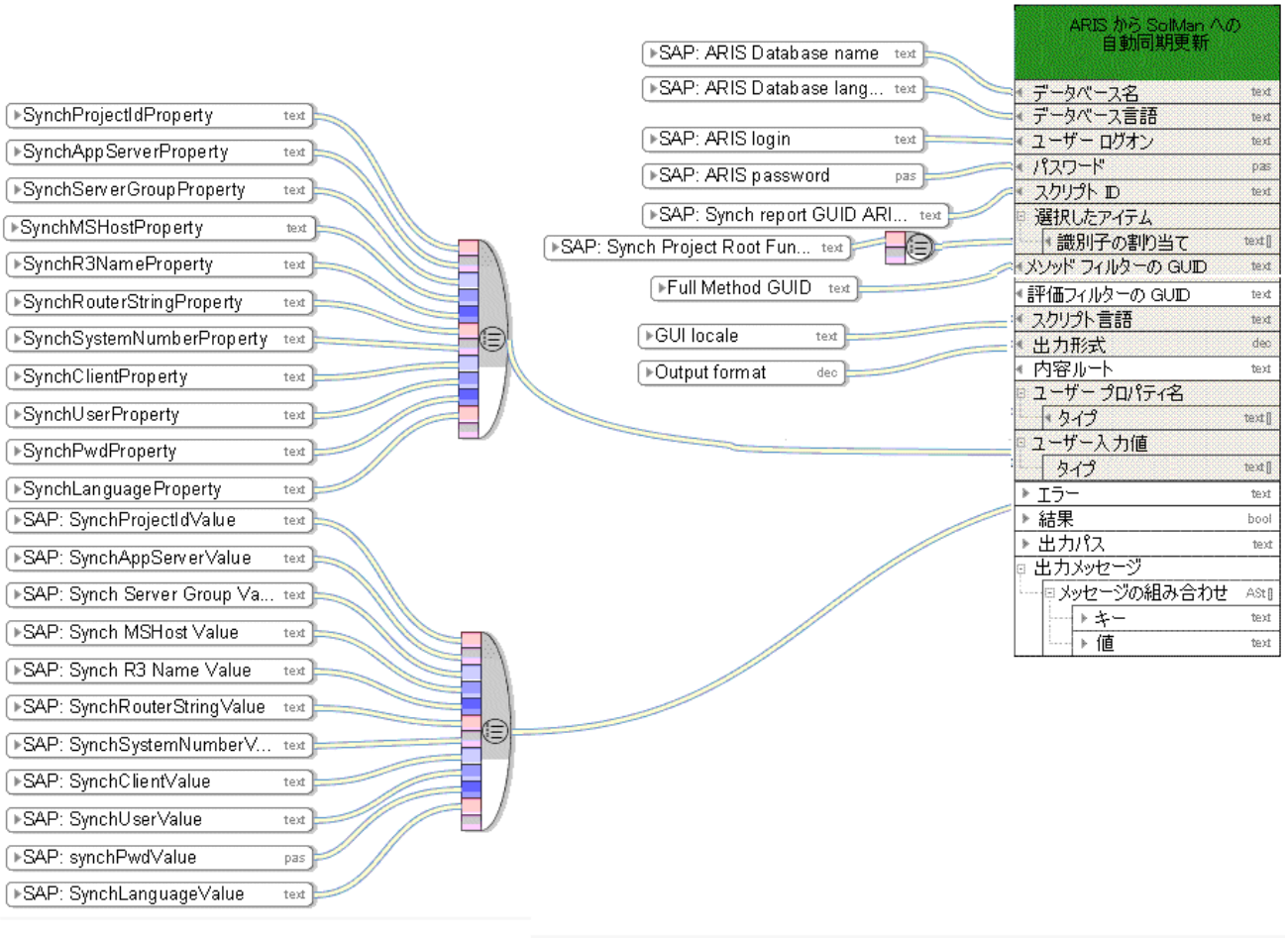


図 18: SAP ソリューション マネージャと同期

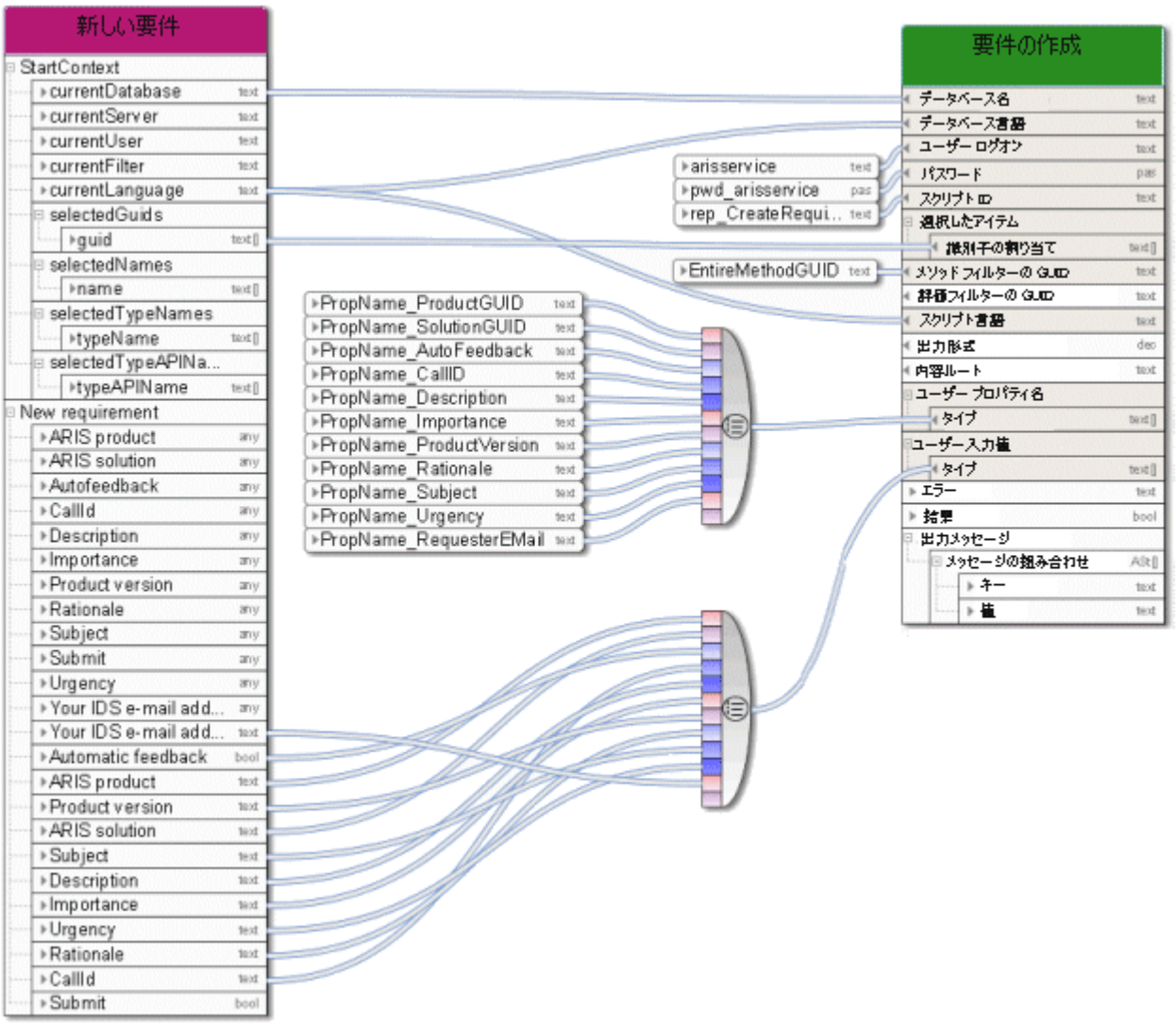


図 19: 個々のレポートの例

3.4.11 作成 - ショートカット

このサービスは、既存のモデルまたはオブジェクトへのショートカットを作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ショートカットを作成するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	パス	正しいデータベース言語を使用して、関連するデータベースに新規グループを保存するパスを入力してください (例: メイングループ\プロセス\販売プロセス)。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

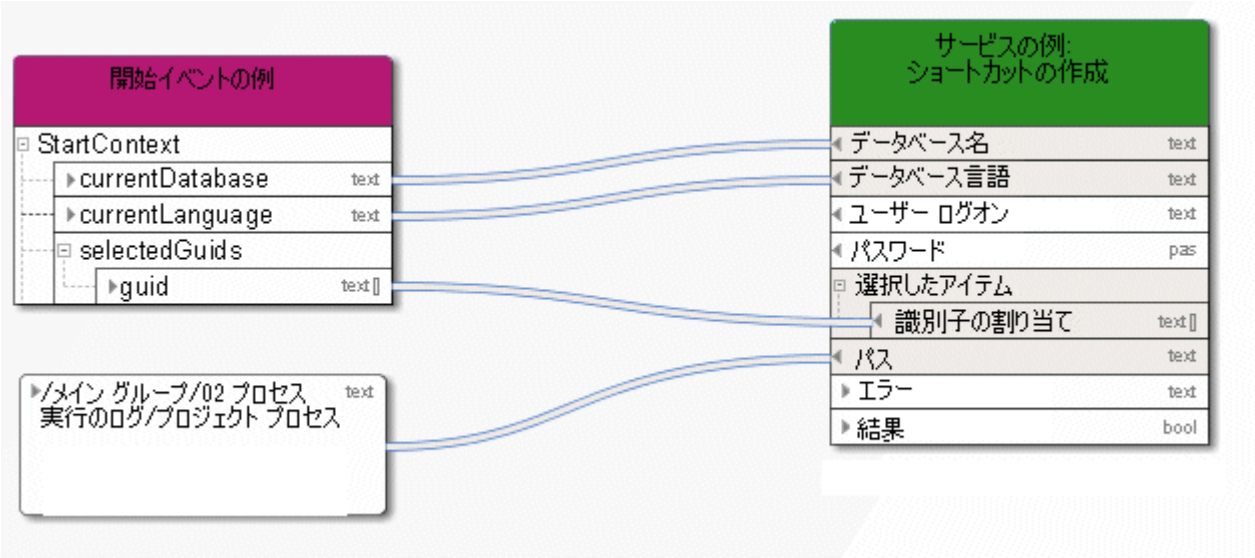


図 20: ショートカットの作成

3.4.12 作成 - ARIS Publisher 静的エクスポート

このサービスは、特定のモデルを読込専用で公開するための Web エクスポートを作成します。このエクスポートは静的です。分配システムが使用される場合は、エクスポートは ZIP ファイルとして ARIS 文書格納 に保存され、リンクが生成されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ARIS Publisher 静的エクスポートを作成するモデルまたはオブジェクトを選選択します。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	パス	エクスポートを保存する場所へのパスです。	<テキスト>
	内容ルート	エクスポートの開始点を表すオブジェクト/モデルまたはグループです。	<テキスト>
	オブジェクト ページを生成する	各オブジェクトに関する HTML ページが作成されます。	
	オブジェクト タイプ	ページを作成するオブジェクトの API 名を定義します。たとえば、ファンクションの場合は OT_Func を指定します。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	アサインメント レベル	アサインされているオブジェクトおよびモデルがエクスポートされるアサインメント レベルです。	<10 進数>
	印刷倍率の使用	指定したサイズでモデルを印刷する場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	元のサイズ	元のサイズを定義してください。例:「100」。	<10 進数>
	倍率	モデルの倍率を定義してください。例: 75、100、125、150。	<テキスト>
	白黒	モデルを白黒表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	透明	モデルを透過表示にする場合は論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義してください。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	文書リンクのリスト	コピーする文書を含むリンク属性を指定してください。	
	属性タイプ	API 名 (例: [リンク 1] の場合、AT_EXT_1) を使用してリンク属性タイプを定義するか、GUID を入力して [集合の作成] 演算子を使用します。	<テキストの集合>
	レイアウト	ARIS Publisher の出力のレイアウトを選択します (例:「defaultLayout」)。	<テキスト>
	ナビゲーション ツリー	Publisher エクスポートのナビゲーション ツリー構造を定義します。モデルのグループ構造または階層を表示できます。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	エクスポート パス	エクスポート結果が格納されるパスです。これはハイパーリンクとして使用することができます。	<テキスト>

図 21: ARIS Publisher 静的エクスポートの作成

3.4.13 作成 - バージョン

このサービスは、選択されたモデルの新しいバージョンを作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したモデル	バージョンを作成するモデルを選択してください。	<テキスト>
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルに接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	説明 - 必須入力	バージョンが作成されたすべてのモデルに適用するバージョンの説明を入力します (必須入力)。	<テキスト>
	アサインメント: 周辺項目を含める	アサインメントに周辺項目を含めるか (論理定数 = TRUE) または、選択したアイテムのみを含めるか (論理定数 = FALSE) を指定します。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	接続線: 周辺項目を含める	アサインメントに周辺項目を含めるか (論理定数 = TRUE) または、選択したアイテムのみを含めるか (論理定数 = FALSE) を指定します。(指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます)。	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	アサインメント レベル	あるバージョンに含まれるアサイン モデルのアサインメント レベルを定義してください。例:「1」。	<10 進数>
	並行バージョンがある場合、実行を継続する	サーバー上でほかのバージョン管理プロセスがすでに実行中の場合に継続する デフォルト値は FALSE です。つまり、サーバー上でほかのバージョン管理プロセスがすでに実行中の場合に、サービスが FALSE を返し、エラーになります。TRUE に設定されている場合、サービスはバージョン管理を実行できるまで待機し、エラーになりません。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	変更リスト番号	作成された変更リスト番号が出力されます。	<10 進数>
	並行バージョンが検出されました	同時にほかのバージョン管理サービスが実行中の場合は TRUE を返し、そうでない場合は FALSE を返します。	<論理値>

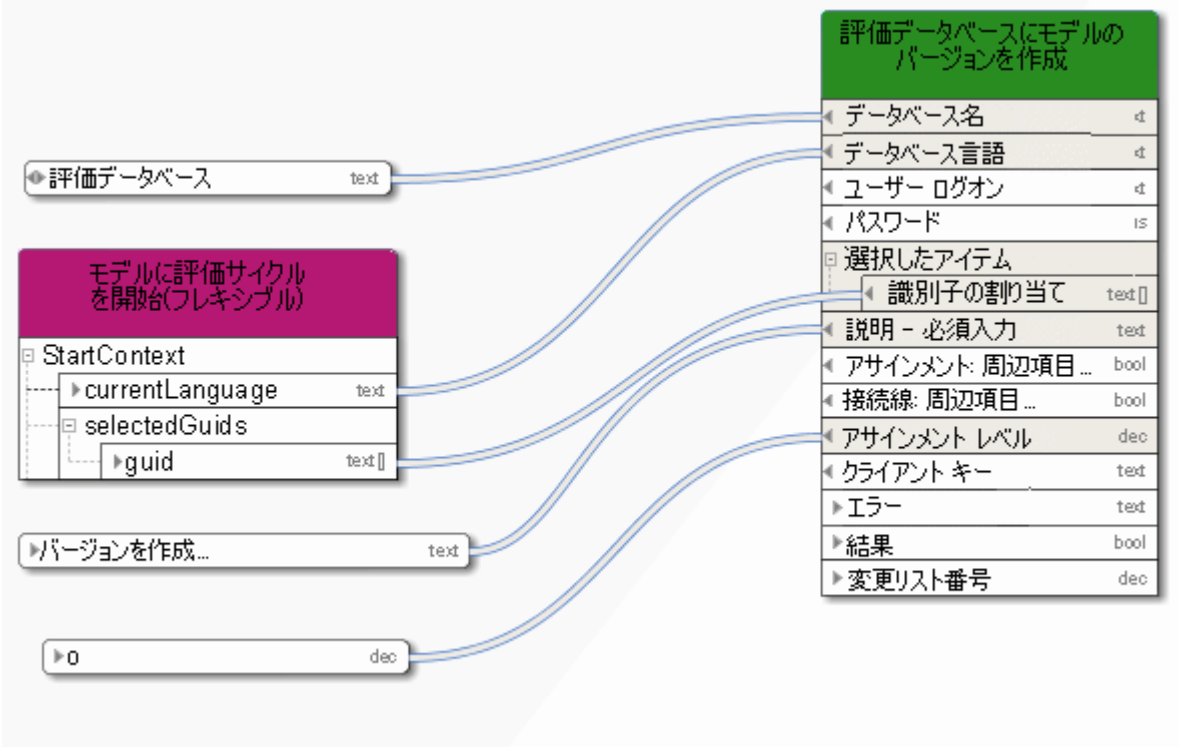


図 22: バージョンの作成

3.4.14 削除 - データベース

このサービスは、データベースを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	データベース名	[データベースの削除] サービスによって削除されるデータベースの名前。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>

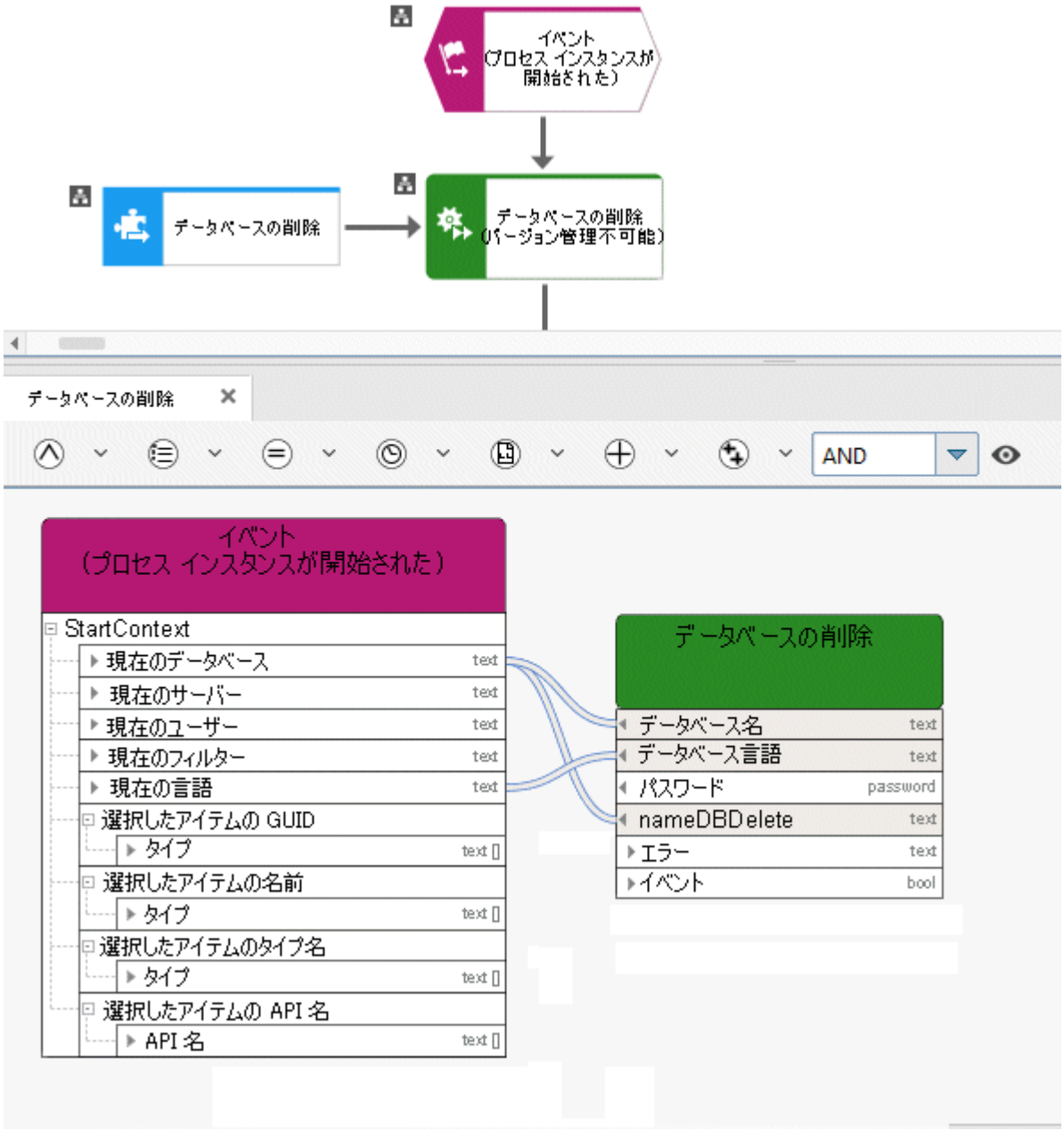


図 23: データベースの削除

3.4.15 削除 - ARIS Publisher 動的エクスポート

このサービスは、ARIS Publisher 動的エクスポートを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	ARIS Publisher Server	データベースが存在する ARIS Publisher Server の名前。	<テキスト>
	エクスポート名	エクスポートを開くとリストに表示される名前です。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

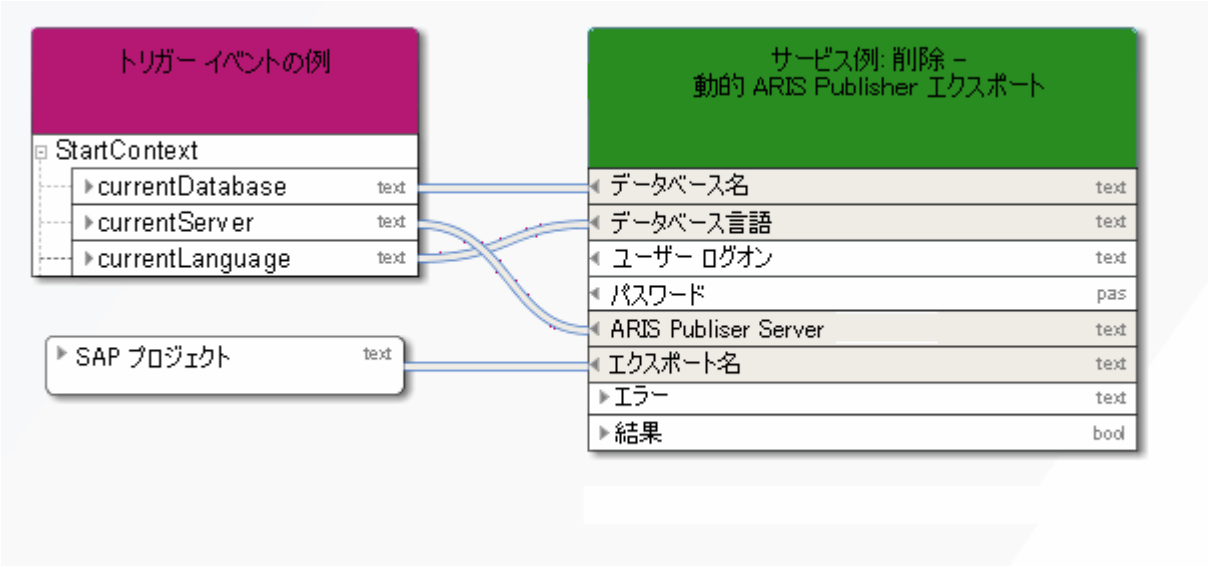


図 24: ARIS Publisher 動的エクスポートの削除

3.4.16 削除 - グループ

このサービスは、1 つまたは複数のグループを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
→	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	削除するグループ。入力はグループ ID の集合 - 選択したアイテムとしてのグループである必要があります。	

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	削除するグループ - グループ ID で指定されます	削除するグループのグループ ID。入力はグループ ID の集合 - グループ ID としてのグループである必要があります。	<テキストの集合>
	削除するグループ - グループ パスで指定されます	削除するグループのグループ パス。入力はグループ パスの集合 - グループ パスとしてのグループである必要があります。	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

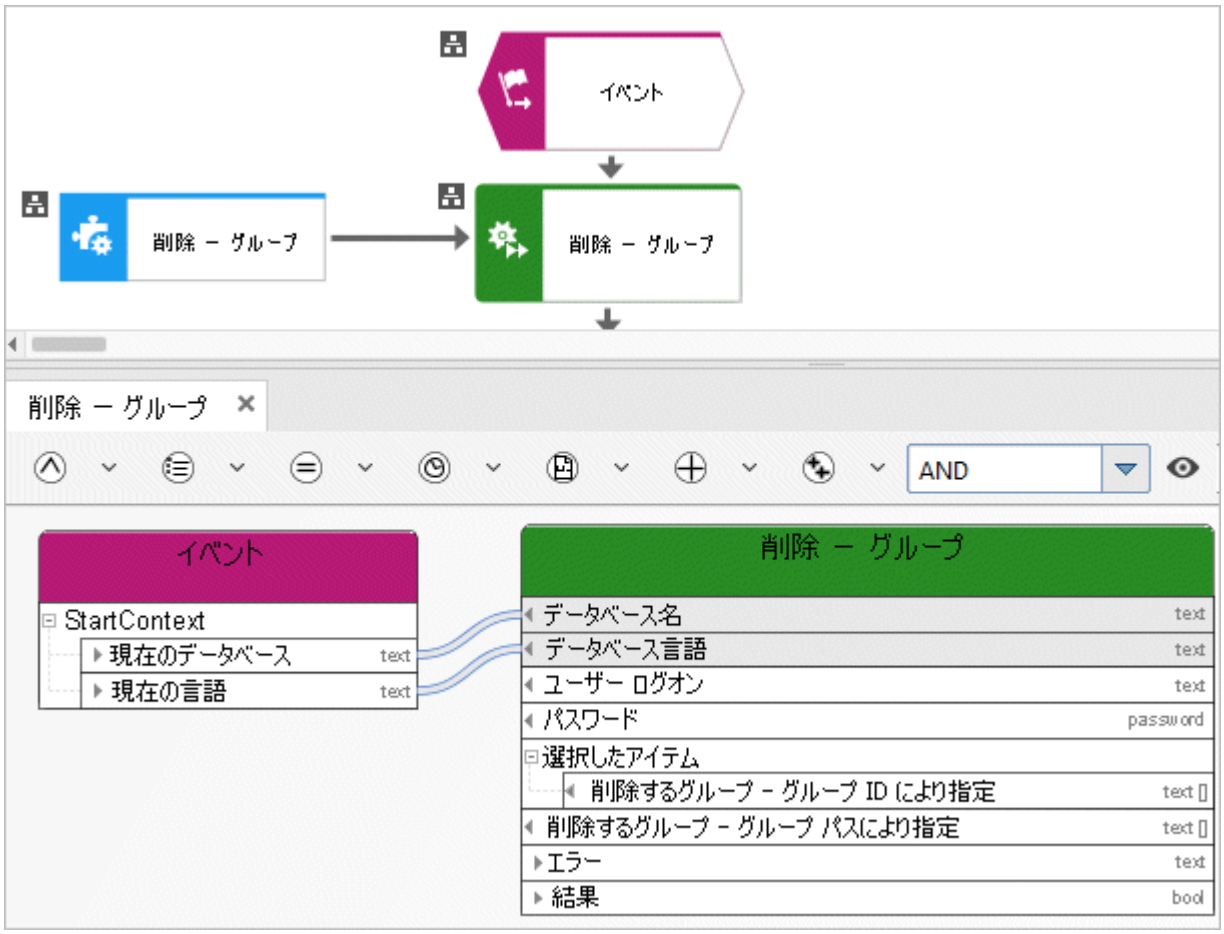


図 25: グループの削除

3.4.17 削除 - モデル

このサービスは、既存モデルをそのオブジェクトとともに削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したモデル	削除するモデルを選択してください。	
	識別子	[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] オブジェクト タイプの別のオブジェクトを接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

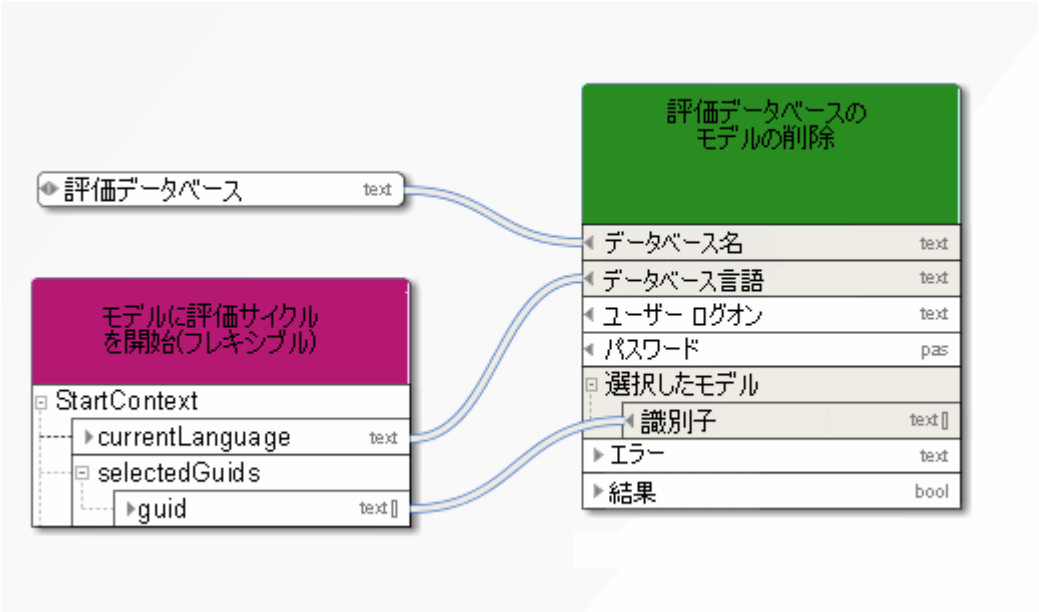


図 26: モデルの削除

3.4.18 削除 - オブジェクト

このサービスは既存オブジェクトを削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
→	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択したオブジェクト	削除するオブジェクトを選択してください。	
	識別子	[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] オブジェクト タイプの別のオブジェクトを接続するか、または GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

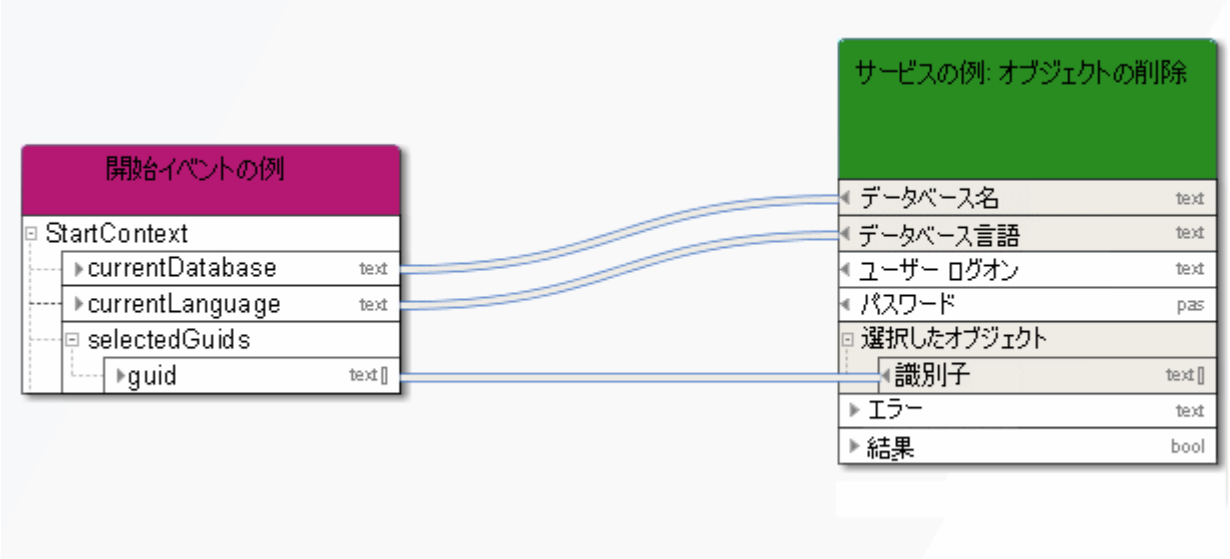


図 27: オブジェクトの削除

3.4.19 削除 - 一時ファイル

[一時ファイルの削除] サービスは、Process Governance を使用する際に累積される一時ファイルを削除します。 このサービスの使用方法は、[ARIS 管理] で設定されます。 ARIS Publisher の静的エクスポートに定義されたディレクトリからファイルが削除されます。これは、すべてがシングル サーバーにインストールされている、非分散シナリオにおいてのみ機能します。これらのパスがデフォルト パスと異なる場合は、[ARIS 管理] で設定できます (プロパティ **com.idsscheer.age.serviceenabling.staticExport.exportDir**)。分散システムでは、サービスによって aris-serviceenabling ディレクトリと同ディレクトリに含まれるすべての文書とサブディレクトリが削除されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	エラー	すべての一時ファイルを削除できなかった場合、対応するエラーメッセージが表示されます。	<テキスト>

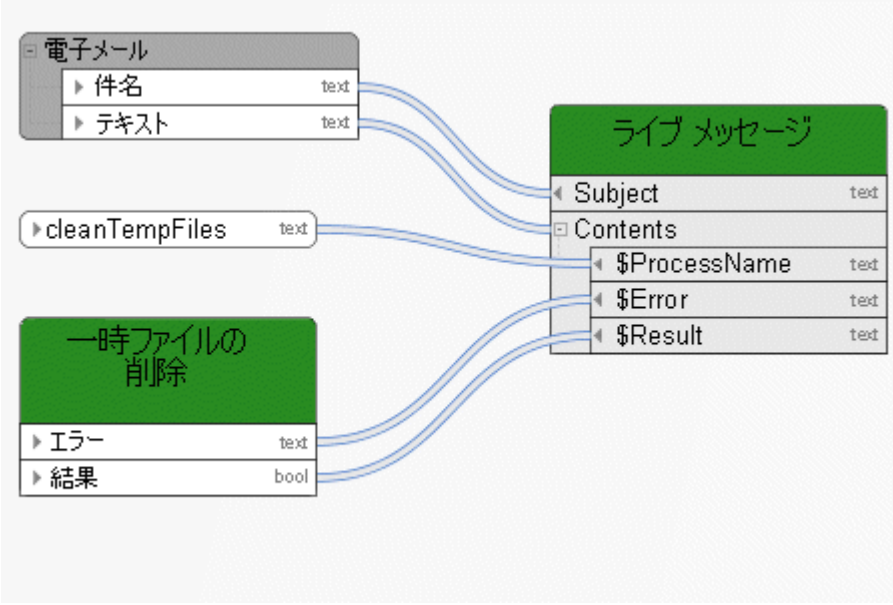


図 28: 一時ファイルの削除

3.4.20 ロック - モデル/オブジェクト

このサービスは、モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方をロックします。ロックするモデルまたはオブジェクトを選択することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	選択した、ロックするモデルまたはオブジェクト。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルまたはオブジェクトを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	オブジェクトを含める	モデルのロック時に関連オブジェクトを対象にします。これを実行するには、論理定数として TRUE を、そうでない場合は FALSE を定義します指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	現在のユーザーをロックに使用	現在のユーザーを、接続線を使ってデータ フローの該当フィールドに割り当てると、現在のユーザーが手動で行ったかのようにモデルやオブジェクトのロックが実行されます。これは、実際にサービスを実行するユーザー arisservice の権限ではなく現在のユーザーの個人的な権限が反映されることを意味します。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

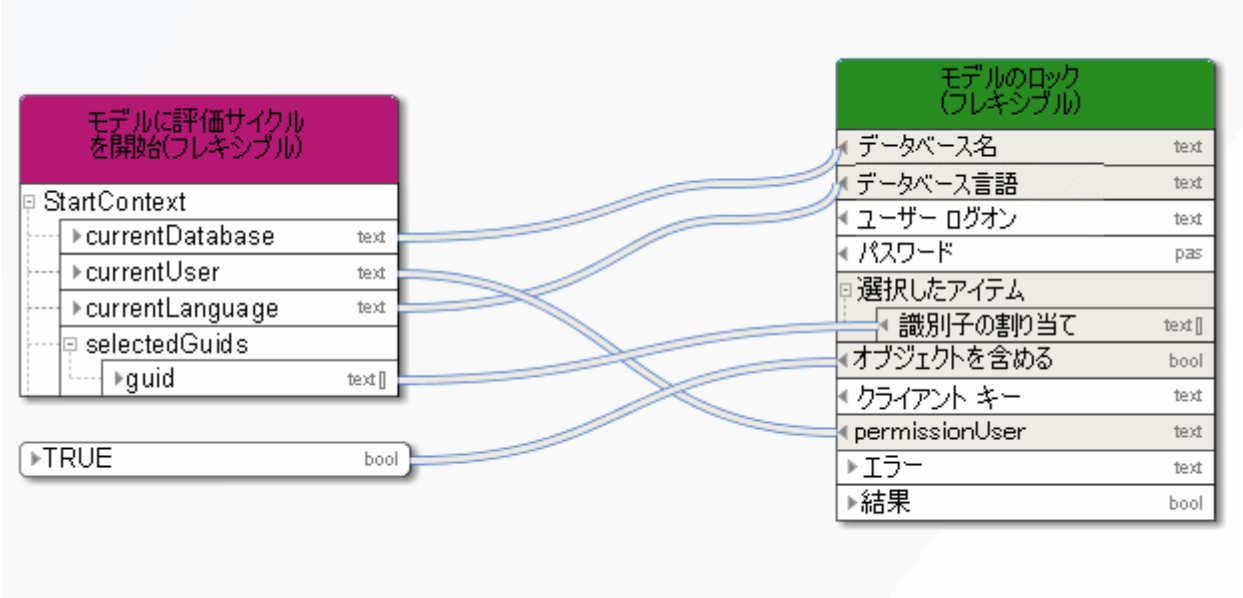


図 29: モデルとオブジェクトのロック

3.4.21 移動 - モデル/オブジェクト (データベース内)

このサービスは、データベース内のモデルまたはオブジェクトを移動します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
→	ユーザー ログオン	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	移動するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
→	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルまたはオブジェクトを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
→	ターゲット パス	正しいデータベース言語を使用して、モデルまたはオブジェクトを移動するパスを入力してください (例: メイン グループ\プロセス\販売プロセス)。	<テキスト>
→	関連オブジェクトの移動	モデルの移動時にそのオブジェクトも移動する場合は、論理定数に TRUE を定義します。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
←	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
←	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

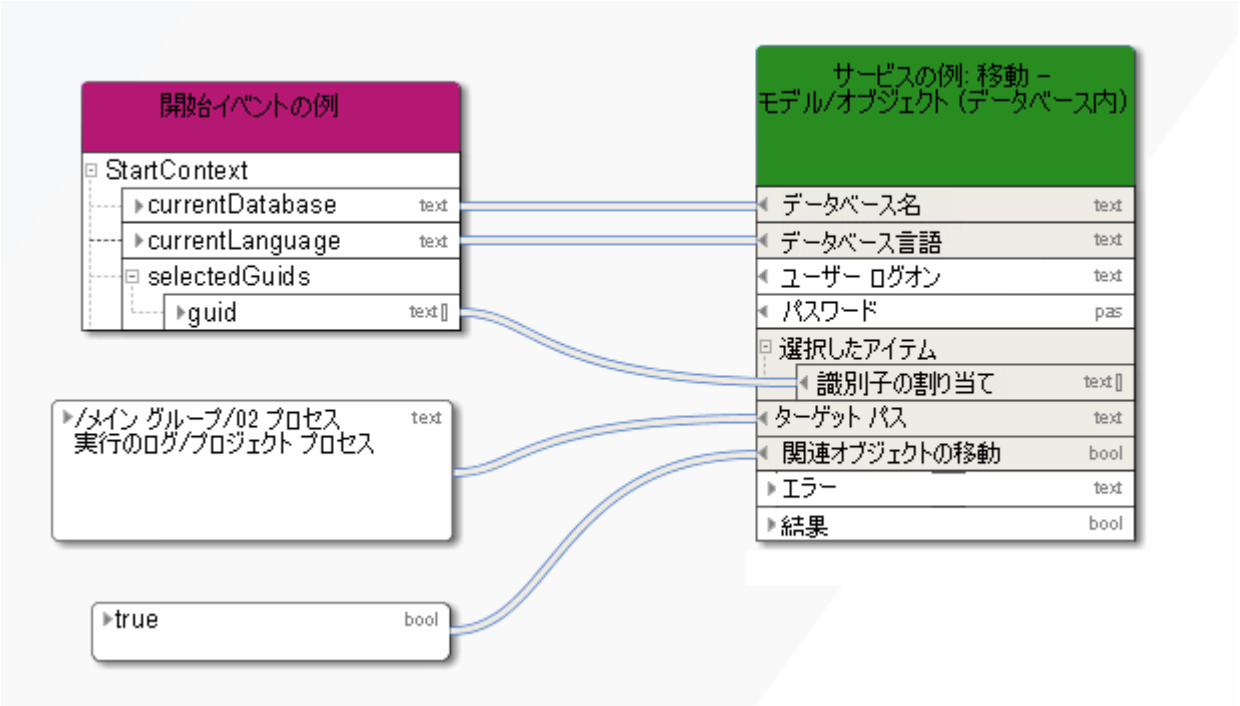


図 30: データベース内のモデル/オブジェクトの移動

3.4.22 整理 - データベース

このサービスは、モデルまたはデータフローにオカレンスがないすべてのオブジェクトと接続線を削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	結果	整理プロセスが正常に実行できた場合の結果は TRUE です。その他の場合は、「FALSE」が返されます。	<論理値>
	削除されたオブジェクト	削除するすべてのオブジェクトと接続線を含む一覧です。	<テキスト>

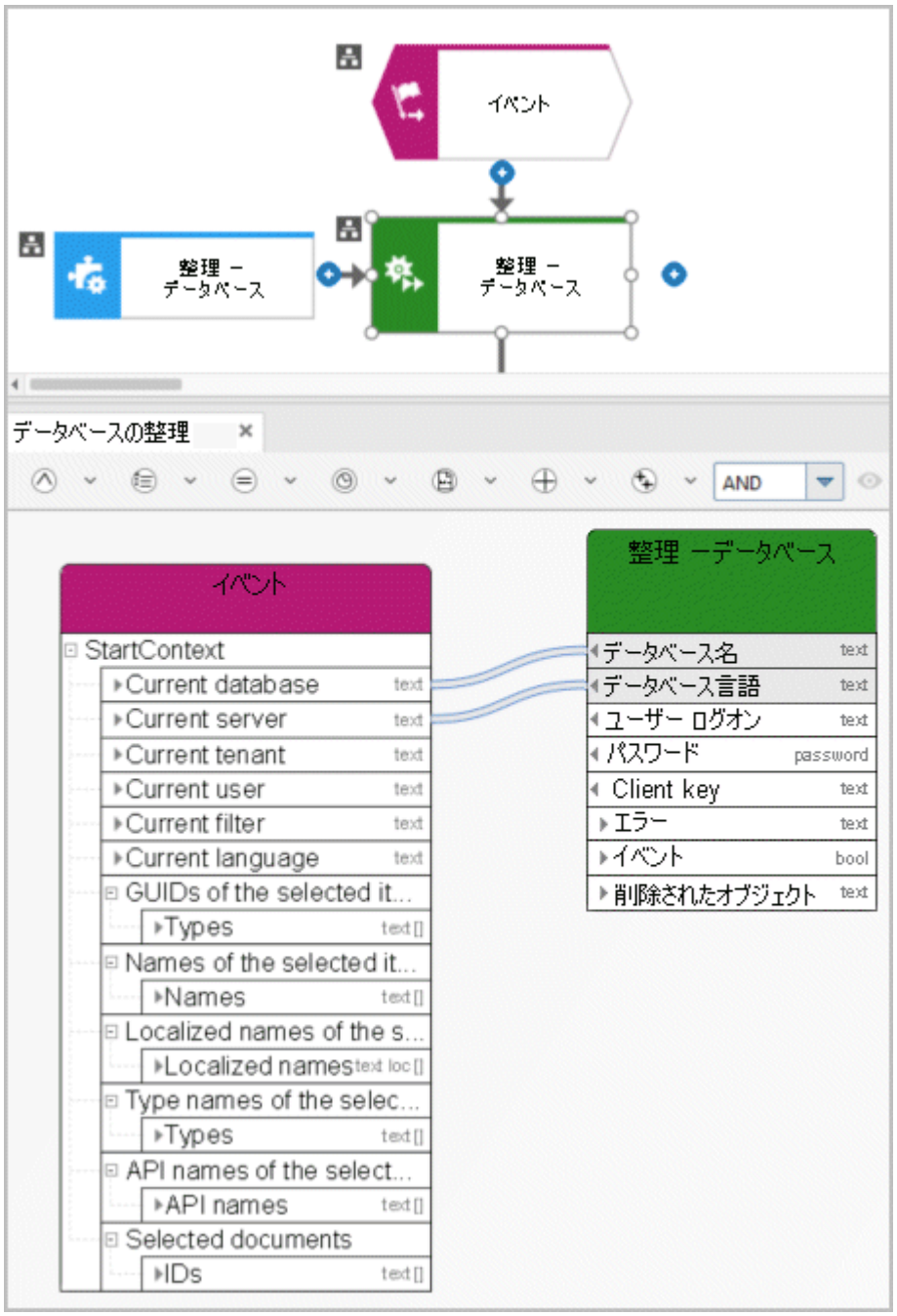


図 31: データベースの整理

3.4.23 獲得 - 1 (上位) ディレクトリ属性

このサービスは、グループから属性を 1 つのみ (例: [説明]) 抽出します。指定した属性が未設定の場合は、属性に設定値が見つかるか、またはメイン グループに達するまで、このサービスは上位グループの該当属性からの抽出を続けます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のグループから、属性を 1 つのみ取り出します (例: [説明/定義] 属性)。複数のモデルまたはオブジェクトを選択して、グループを認識することもできます。この場合、それらのモデルまたはオブジェクトを含むグループが選択されます。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します選択したアイテムを含むグループが認識されます。	<テキストの集合>
	(上位) グループ属性の抽出	選択した 1 つの属性が取り出されます (複数グループから 1 つのグループ属性のみ)。グループ属性が空の場合は、属性に指定値が見つかるか、またはメイン グループに達するまで上位のグループ属性から抽出が行われます。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからグループ属性タイプを接続するか、API 名または GUID を入力します。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	デフォルト言語の使用	これに TRUE が定義されていると、言語が存在しない場合にデータベースの代替言語が使用されます。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	値	必要な属性値をリストにして返します。	<テキストの集合>

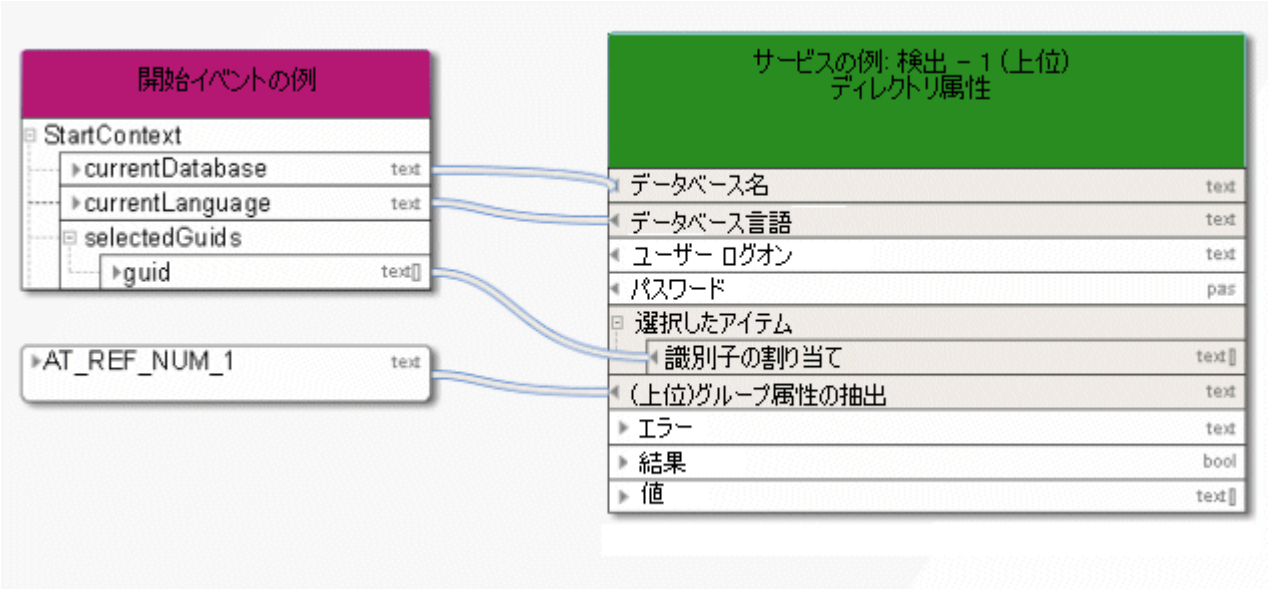


図 32: 単一 (上位) グループ属性の抽出

3.4.24 抽出 - 多要素の 1 属性

このサービスは、モデル、オブジェクト、またはグループから属性を 1 つのみ（例: [説明]）返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のモデル、オブジェクトまたはグループから、属性を 1 つのみ取り出します（例: [説明/定義] 属性)。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	単一属性の抽出	選択した 1 つの属性が取り出されます（モデルなどの複数のアイテムから 1 つの属性のみ)。	<テキスト>
	デフォルト言語の使用	データベースにデフォルト言語を使用するか (TRUE) または使用しないか (FALSE) を指定します。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	値	必要な属性値をリストにして返します。	<テキストの集合>

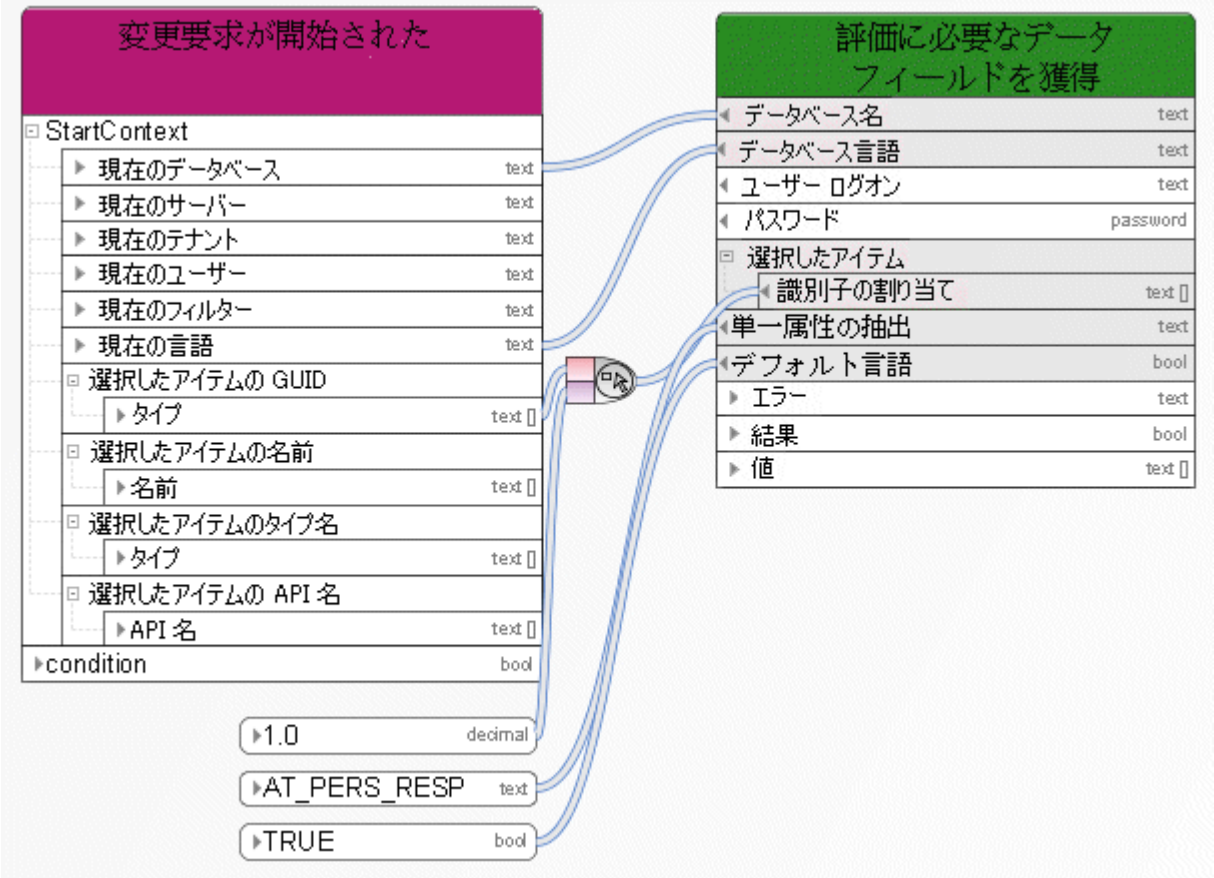


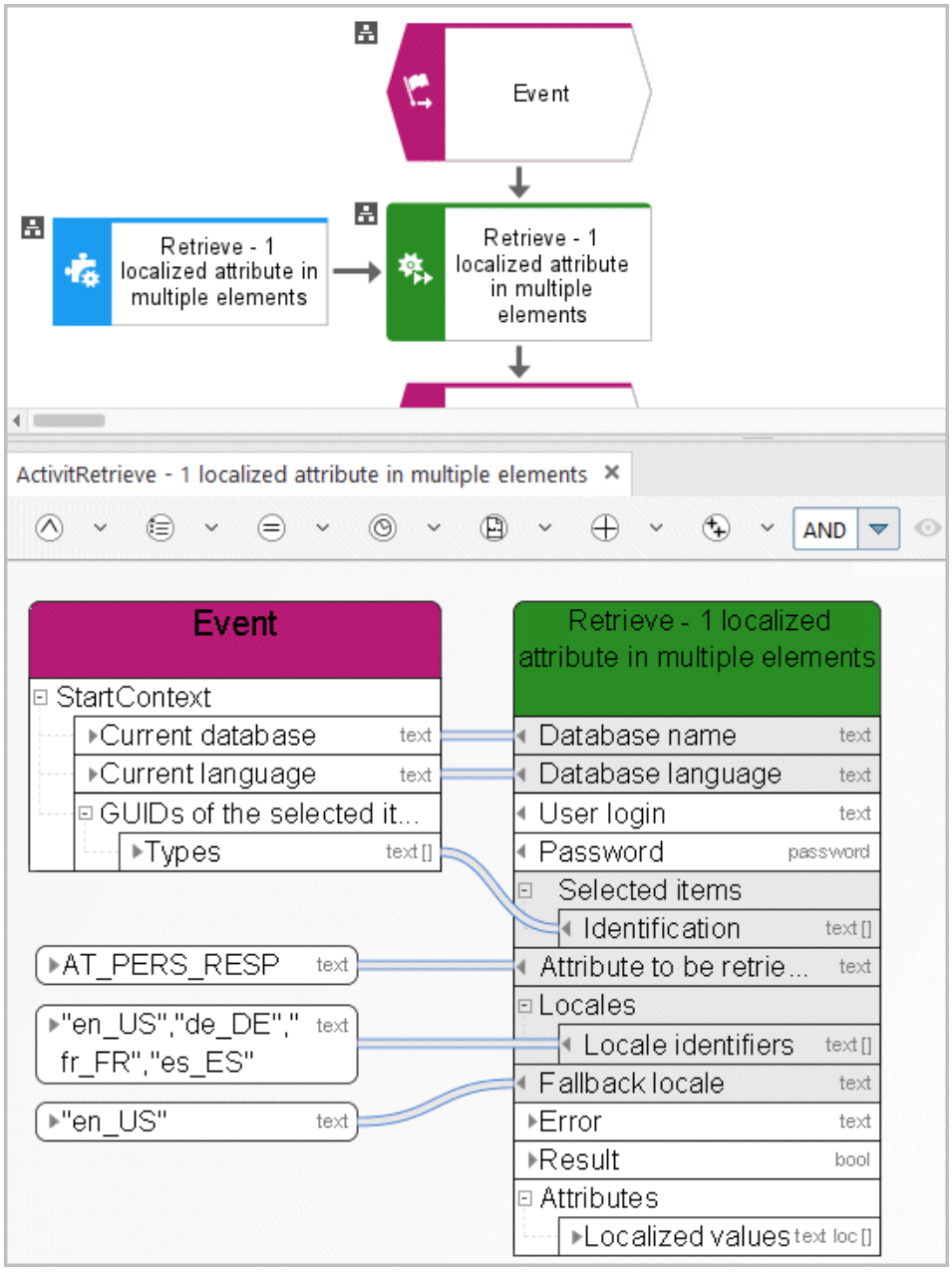
図 33: 複数アイテムから単一属性を抽出

3.4.25 抽出 - 多要素のローカライズされた 1 属性

このサービスは、モデル、オブジェクト、またはグループからローカライズされた属性を 1 つのみ（例: [説明]）返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のモデル、オブジェクトまたはグループから、属性を 1 つのみ取り出します（例: [説明/定義] 属性)。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	単一属性の抽出	選択した 1 つの属性が取り出されます（モデルなどの複数のアイテムから 1 つの属性のみ)。	<テキスト>
	ロケール	抽出された属性の言語を指定します。	
	ロケール識別子	「en_US」、「de_DE」などの形式で、言語の識別子を入力します。	
	フォールバックロケール	[ロケール識別子] フィールドに言語がない場合、どの言語を使用するか指定します。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示され	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ます。	
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	属性	ローカライズされた属性を返します。	
	ローカライズされた値	必要なローカライズされた属性値をリストにして返します。返される属性値はすべての言語で使用できます。言語を使用できない場合、フォールバック言語が使用されます。	<ローカライズされた文字列>



3.4.26 取得 - ARIS ユーザー グループ属性

このサービスは、ARIS ユーザー グループを選択してユーザー グループ属性を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	ユーザー グループの名前	属性を取り出す ARIS データベースのユーザー グループ名を入力してください。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	値	ARIS データベースのユーザー グループの属性値リストが出力されます。	<テキストの集合>

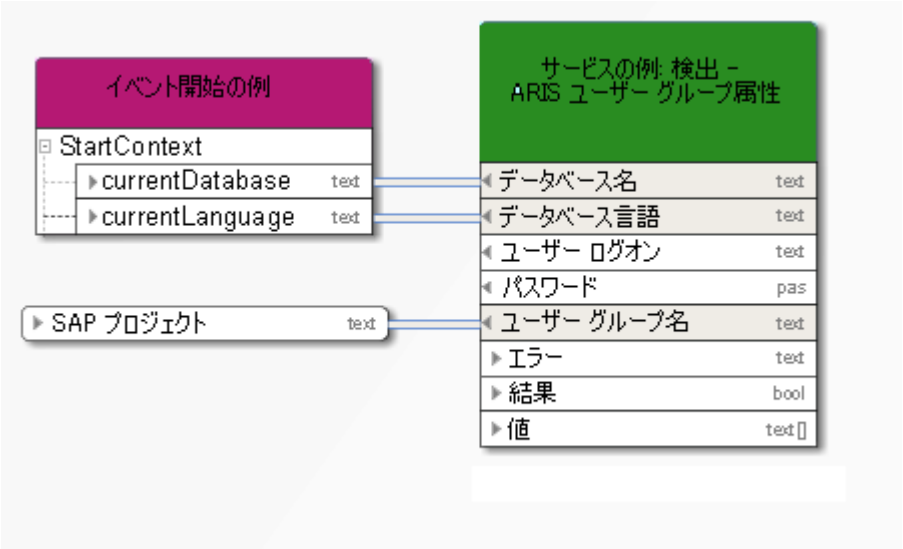


図 34: ARIS ユーザー グループからの属性の検出

3.4.27 取得 ー モデルの現在の技術バージョン

このサービスは、使用可能なバージョンのリストから必要モデルに最新の変更リスト（現在のモデル）を選択します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	変更リスト	各モデルに、[現在のバージョン] の変更リスト番号が返されます。	<10 進数の集合>

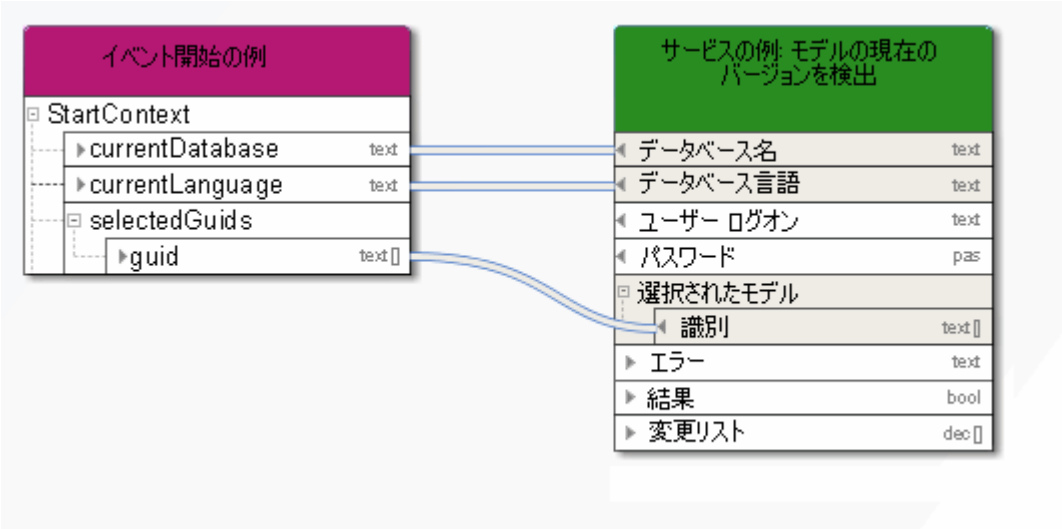


図 35: 現在のモデル バージョンの選択

3.4.28 取得 - 属性に基づく要素

このサービスは、所定の属性値にしたがってモデルなどのアイテムを検索します。これらのアイテムは、その後の処理に使用することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	値の検索	アイテムの検索に使用される属性値の一覧を表示します。属性値は正確に入力されている必要があります。アスタリスク (*) や疑問符 (?) などのワイルド カードは許可されません。	<テキストの集合>
	属性タイプ	対応する検索値で参照される属性タイプを指定します。	
	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	アイテム タイプ	検索するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用でき	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		ません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	
	結果	モデルなど、検索で見つかったすべてのアイテムのリストが出力されます。	<テキストの集合>
	モデル ID	見つかったモデルの GUID 一覧が出力されます。	<テキストの集合>
	オブジェクト ID	見つかったオブジェクトの GUID 一覧が出力されます。	<テキストの集合>

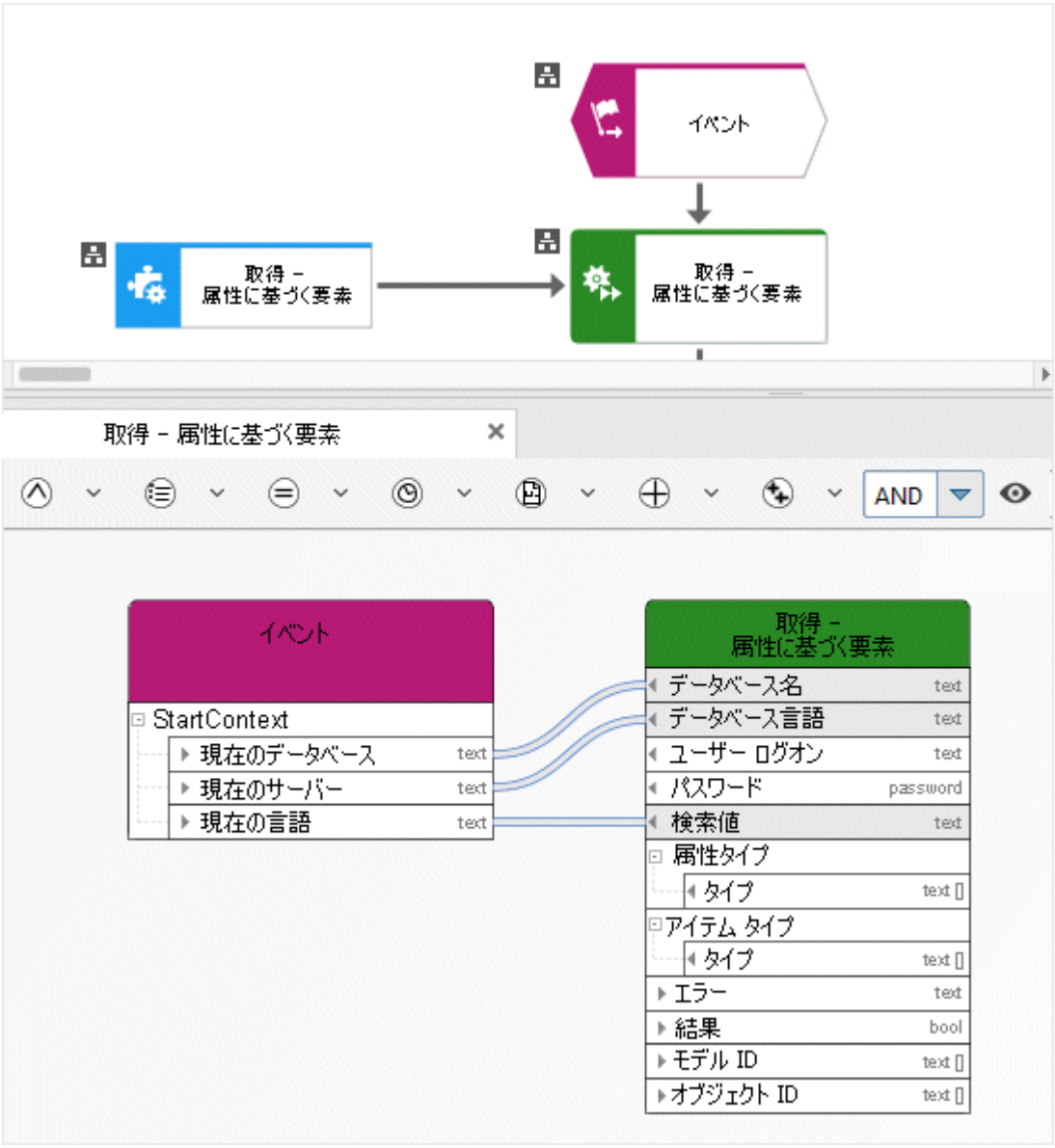


図 36: 取得 - 属性に基づく要素

3.4.29 取得 - GUID に基づく要素

このサービスは、所定の GUID リストにしたがってモデルなどのアイテムを検索します。これらのアイテムは、その後の処理に使用することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	検索するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	検索されたアイテム	モデルなど、検索で見つかったすべてのアイテムのリストが出力されます。	
	GUID	検索で見つかったアイテムに出力された GUID の一覧です。	<テキストの集合>
	検索されなかったアイテム	見つからなかったアイテムの一覧を返します (モデルなど)。	

イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	GUID	検索で見つからなかったアイテムに出力された GUID の一覧です。	<テキストの集合>

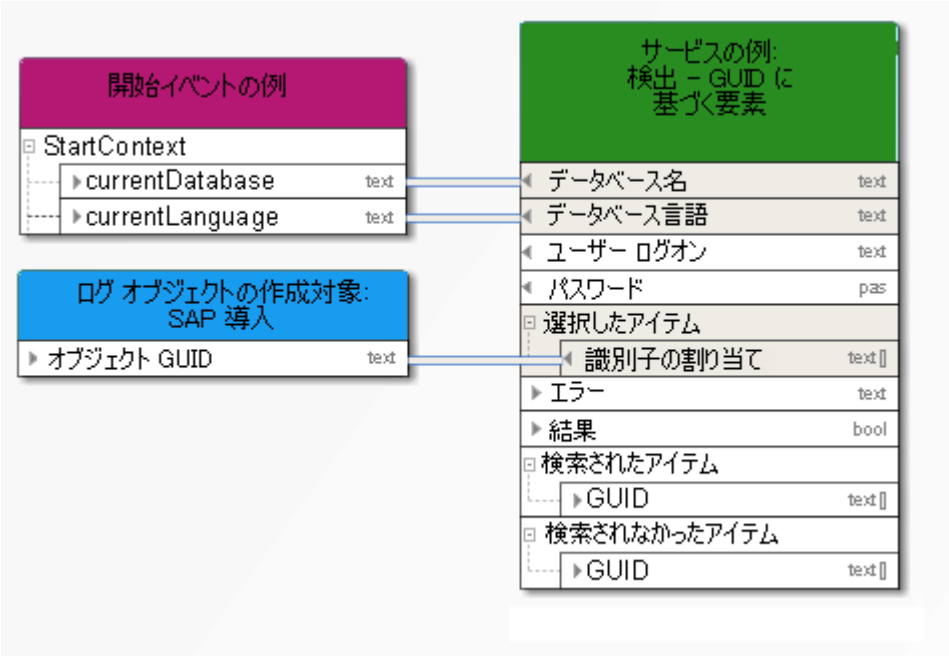


図 37: GUID によるアイテムの検索

3.4.30 取得 - グループ パス

このサービスは、モデルおよびオブジェクトのグループ パスを検出します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
→	GUID	モデルおよびオブジェクトの GUID の一覧です。	<テキストの集合>
←	結果	それぞれのモデルまたはオブジェクトのパスです。	<テキストの集合>

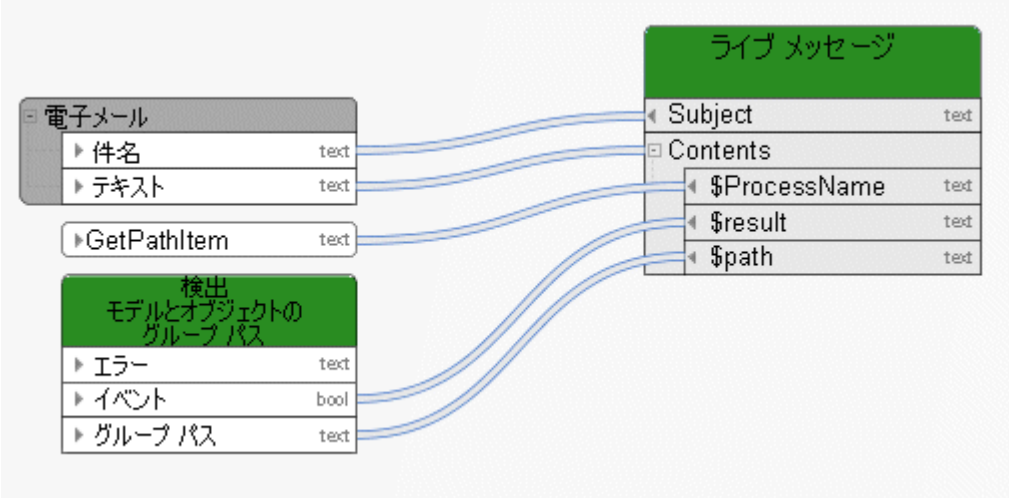


図 38: 検出 - モデルとオブジェクトのグループ パス

3.4.31 検出 - ロック ステータス (モデル/オブジェクト)

このサービスは、モデルおよびオブジェクトのロック ステータスを検出します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	確認するモデルまたはオブジェクトを選択してください。モデル チェックはモデルのステータスを返しますが、モデルにオカレンスを持つオブジェクトのステータスは返しません。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	アイテムがロックされていない	ロックされているアイテムがない場合は、TRUE (論理値) を返します。少なくとも 1 つのアイテムがロックされている場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
	少なくとも 1 つのアイテム	少なくとも 1 つのアイテムがロックされていない場合は、TRUE	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	がロックされていない	(論理値) を返します。すべてのアイテムがロックされている場合は、FALSE (論理値) を返します。	
	すべてのアイテムがロックされている	すべてのアイテムがロックされている場合は、TRUE (論理値) を返します。少なくとも 1 つのアイテムがロックされていない場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
	開いているアイテムはありません	開いているアイテムがない場合は、TRUE (論理値) を返します。少なくとも 1 つのアイテムがロックされている場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
	少なくとも 1 つのアイテムが開いています	少なくとも 1 つのアイテムが開いている場合は、TRUE (論理値) を返します。ロックされているアイテムがない場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
	すべてのアイテムが開いています	すべてのアイテムが開いている場合は、TRUE (論理値) を返します。少なくとも 1 つのアイテムが開いていない場合は、FALSE (論理値) を返します。	<論理値>
	ロックされているアイテムの名前	ロックされているアイテムの名前の一覧を返します。	<テキストの集合>
	ロックされているアイテムの GUID	ロックされているアイテムの GUID の一覧を返します。	<テキストの集合>
	アイテム所有者	アイテムをロックした所有者の一覧が出力されます。	<テキストの集合>
	開いているアイテムの名前	開いているアイテムの名前の一覧を返します。	<テキストの集合>
	開いているアイテムの GUID	開いているアイテムの GUID の一覧を返します。	<テキストの集合>
	開いているアイテムのアイテム所有者	アイテムを開いた所有者の一覧を返します。	<テキストの集合>
	ロックされていないアイテムの名前	ロックされていないアイテムの名前の一覧を返します。	<テキストの集合>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	ロックされていないアイテムの GUID	ロックされていないアイテムの GUID の一覧を返します。	<テキストの集合>

図 39: モデルまたはオブジェクトのロック確認

3.4.32 取得 - スコープからモデルまたはオブジェクト、またはその両方

このサービスは、モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方から構成される入力を並べ替え、GUID に従って並べ替えられた一覧を 2 つ (モデルに 1 つ、オブジェクトに 1 つ) 出力します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます (英語として「en」と指定することも、英語 (アメリカ合衆国) として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語 (アメリカ合衆国) ではなく、英語 (オーストラリア) が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	スコープ内のモデルまたはオブジェクト。	
	識別子	モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方から構成される並べ替えられていない入力です。	<複合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	ModelsGUIDs	入力データの中から見つかった、GUID に従って並べ替えられたモデルの一覧です。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ObjectsGUIDs	入力データの中から見つかった、GUID に従って並べ替えられたオブジェクトの一覧です。	<テキスト>

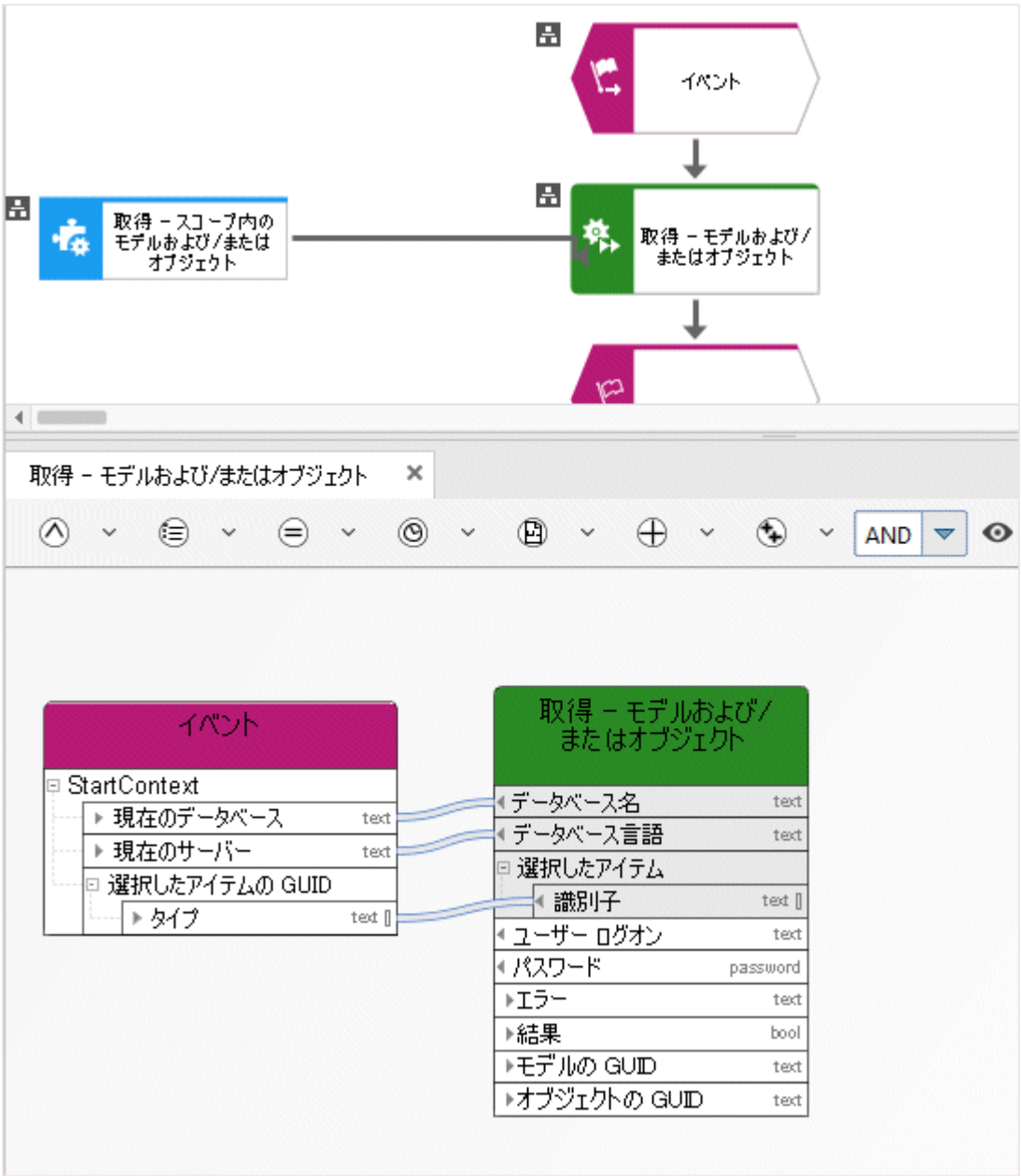


図 40: 検出 - モデルおよび/またはオブジェクト

3.4.33 抽出 - 単一アイテムから複数属性

このサービスは、1 つのアイテム（モデル、オブジェクト、またはグループ）だけから、複数の属性（[モデル ステータス]、[バージョン番号]、および [リリース] など）を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	このサービスは、1 つのモデル、オブジェクト、またはグループから複数の属性（[説明] および [作成者] など）を取得します。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクトまたはグループを接続するか、または GUID を入力します。	<テキスト>
	複数属性の抽出	選択した複数の属性を取り出します（1 つのアイテムから複数の属性。例: 1 つのモデルから [モデル ステータス]、[バージョン番号] および [リリース] 属性を取り出す)。	
	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから複数の属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	デフォルト言語の使用	データベースにデフォルト言語を使用するか（TRUE）または使用しないか（FALSE）を指定します。	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
←	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
←	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	属性	属性を該当値とともにリストにして返します。	
	属性と値	関連属性とその該当値が返されたリスト。	
←	属性タイプ	必要な属性タイプのリストが返されます。	<テキスト>
←	属性値	必要な属性タイプに属性値のリストが返されます。	<テキスト>

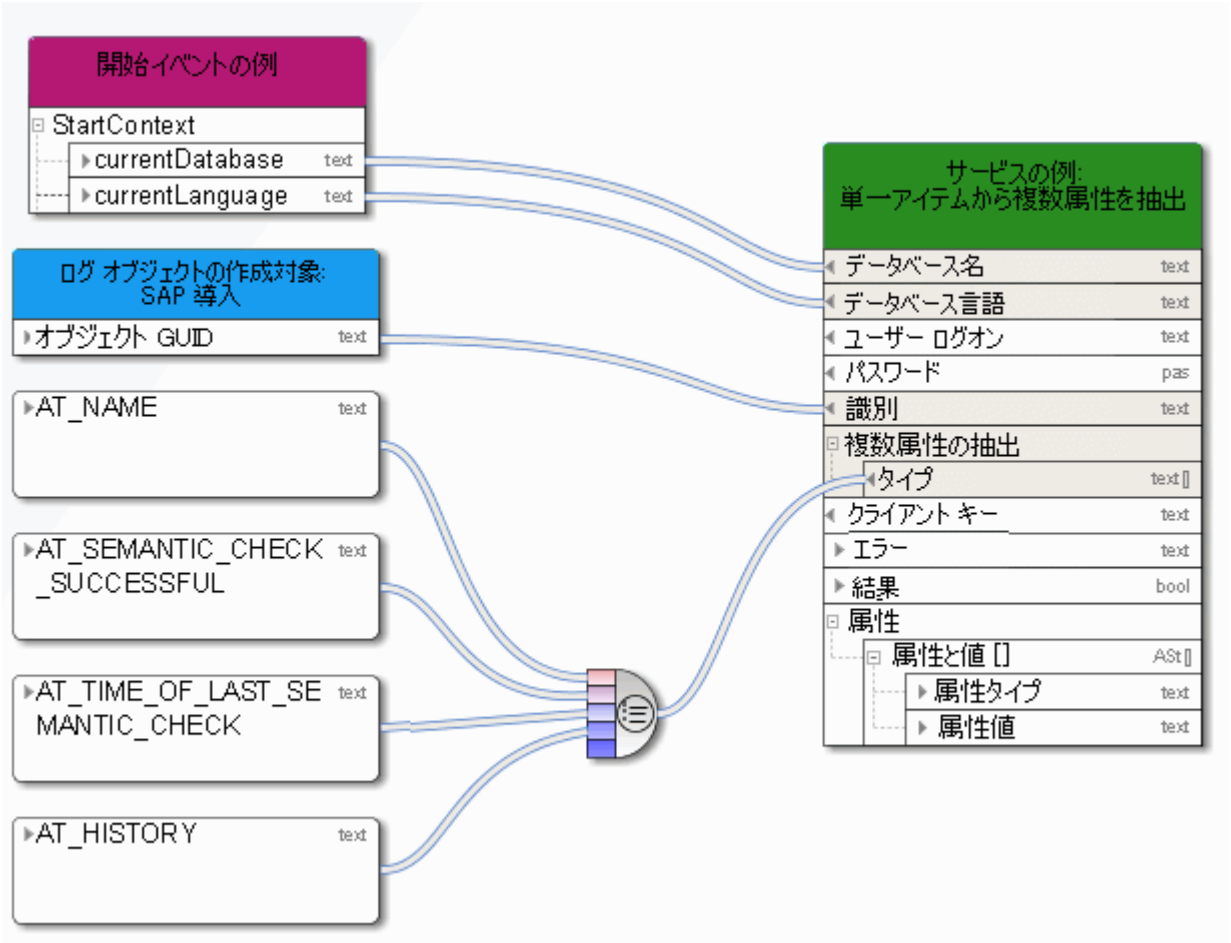


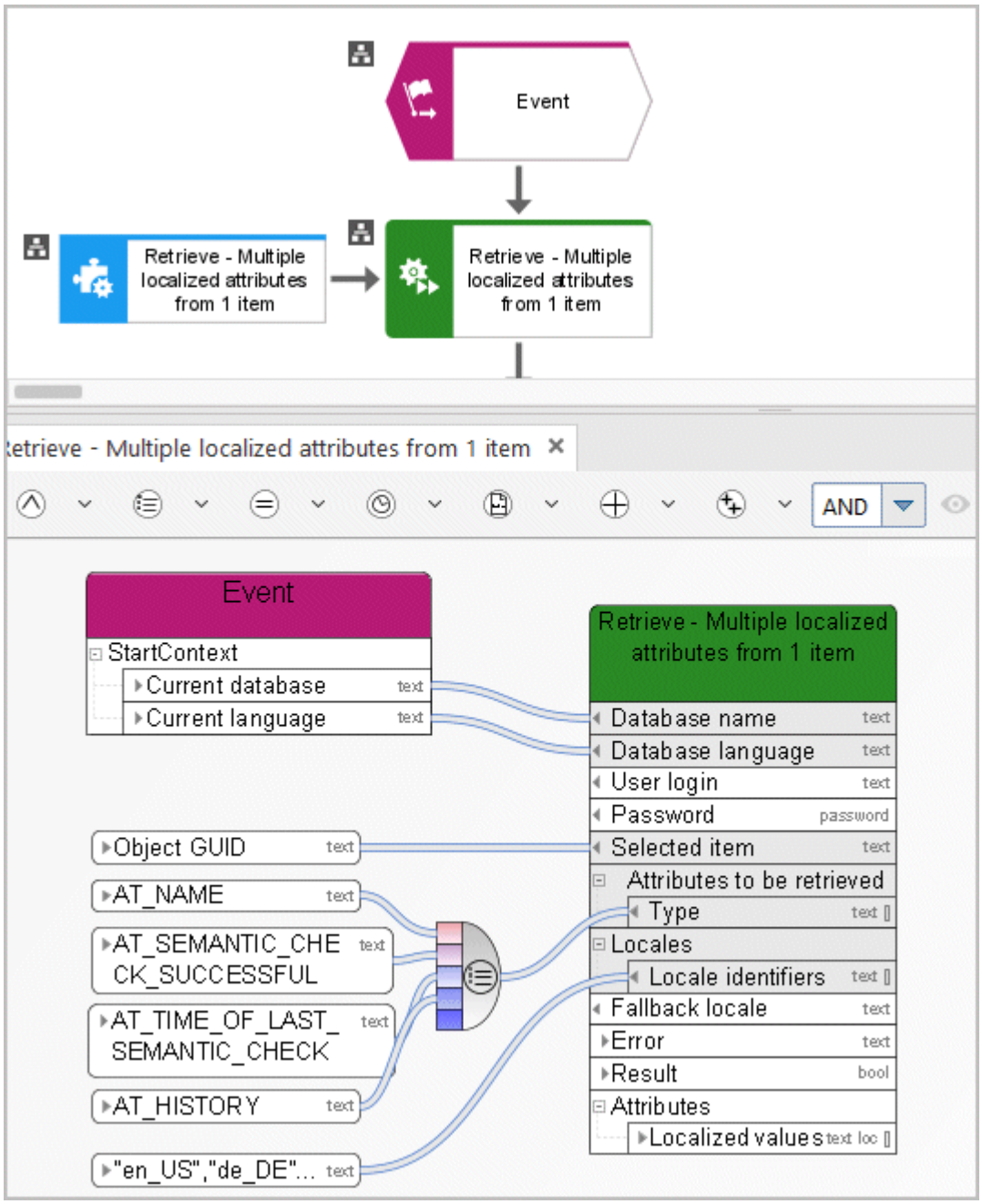
図 41: 単一アイテムから複数属性を検出

3.4.34 抽出 - 単一アイテムから複数のローカライズされた属性

このサービスは、1 つのアイテム（モデル、オブジェクト、またはグループ）だけから、複数のローカライズされた属性（[モデル ステータス]、[バージョン番号]、および [リリース] など）を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	このサービスは、1 つのモデル、オブジェクト、またはグループから複数のローカライズされた属性（[説明] や [作成者] など）を取得します。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクトまたはグループを接続するか、または GUID を入力します。	<テキスト>
	複数属性の抽出	選択したローカライズされた属性を取り出します（1 つのアイテムから複数の属性。例: 1 つのモデルから [モデル ステータス]、[バージョン番号] および [リリース] 属性を取り出す)。	
	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから複数のローカライズされた属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	ロケール	抽出された属性の言語を指定します。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ロケール識別子	「en_US」、「de_DE」などの形式で、言語の識別子を入力します。	<テキスト>
	フォールバックロケール	[ロケール識別子] フィールドに言語がない場合、どの言語を使用するか指定します。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>
	属性	ローカライズされた属性を返します。	
	ローカライズされた値	必要なローカライズされた属性値をリストにして返します。返される属性値はすべての言語で使用できます。言語を使用できない場合、フォールバック言語が使用されます。	<ローカライズされた文字列>


Event
Retrieve - Multiple localized attributes from 1 item
Retrieve - Multiple localized attributes from 1 item
etrieve - Multiple localized attributes from 1 item
AND
Event
StartContext
Current database text
Current language text
Retrieve - Multiple localized attributes from 1 item
Database name text
Database language text
User login text
Password password
Selected item text
Attributes to be retrieved
Type text []
Locales
Locale identifiers text []
Fallback locale text
Error text
Result bool
Attributes
Localized values text loc []
Object GUID text
AT_NAME text
AT_SEMANTIC_CHECK_SUCCESSFUL text
AT_TIME_OF_LAST_SEMANTIC_CHECK text
AT_HISTORY text
"en_US","de_DE"... text

3.4.35 取得 - バージョン管理可能なデータベース

このサービスは、データベースのバージョン管理が可能かどうかを確認します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます)。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
選択したアイテム		バージョン管理が可能かどうかの情報を取得する ARIS データベース。	
	識別子	バージョン管理が可能かどうかの情報を取得するデータベースの GUID。	<テキストの集合>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	IsVersionable	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		または FALSE (論理値) のいずれかになります。	

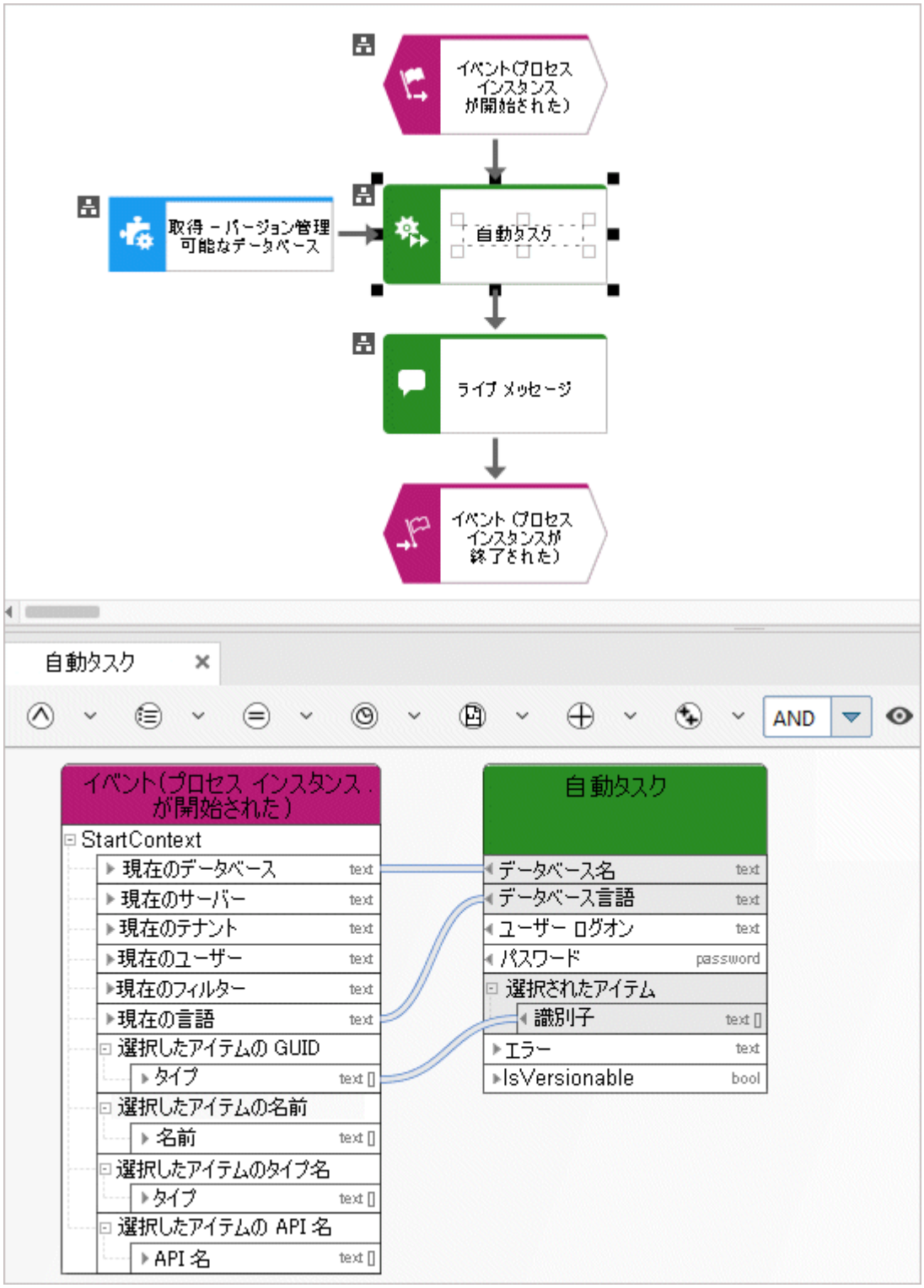


図 42: 取得 - バージョン管理可能なデータベース

3.4.36 ロック解除 - モデル/オブジェクト

このサービスは、モデルまたはオブジェクト、あるいはその両方のロックを解除します。ロックを解除するモデルまたはオブジェクトを選択することができます。ロックの解除を強制することもできます（管理者：ロックの解除）。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例：日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語(オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	ロックを解除するモデルまたはオブジェクトを選択してください。	
	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデルまたはオブジェクトを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	管理者：ロックの解除	ロックの解除を強制するには、論理定数に TRUE を定義してください。論理定数が定義されていない場合は、FALSE が使用されます。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	現在のユーザーをロックに使用	現在のユーザーを、接続線を使ってデータ フローの該当フィールドに割り当てると、現在のユーザーが手動で行ったかのようにモデルやオブジェクトのロックが実行されます。これは、実際にサービスを実行するユーザー arisservice の権限ではなく現在のユーザーの個人的な権限が反映されることを意味します。	<テキスト>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

図 43: モデル/オブジェクトのロック解除

3.4.37 書込 - 複数要素に 1 属性

このサービスは、モデル、オブジェクト、またはグループに属性を 1 つのみ（例: [説明]）指定します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
→	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	複数のモデル、オブジェクト、またはグループに属性を 1 つのみ (例: [説明] 属性) 設定します。	
→	識別子	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
→	単一属性の設定	API 名 (例: [名前] の場合、AT_NAME) を使用して設定する属性を定義するか、API 名が存在しない場合は識別子を使用します。	<テキスト>
	属性値	属性に指定する値を入力してください。空の文字列が入力値として送られた場合は、その属性はクリアされます。	
→	値	定数を定義済みの値として入力するか、[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからデータを入力データとして使用します。	<テキストの集合>
→	値の上書き	既存の属性内容を削除して新しい内容で上書きする場合は	<論理値>

イン/アウト	名前	詳細	データ型
		、論理定数に TRUE を定義してください。新しい内容を追加するけれども既存内容を保持する場合（例: モデル属性 [変更履歴]）は、論理定数に FALSE を定義してください)。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	
	値の先頭に追加する	論理定数に TRUE を定義して、既存の属性内容の前に新しい値を書き込みます。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

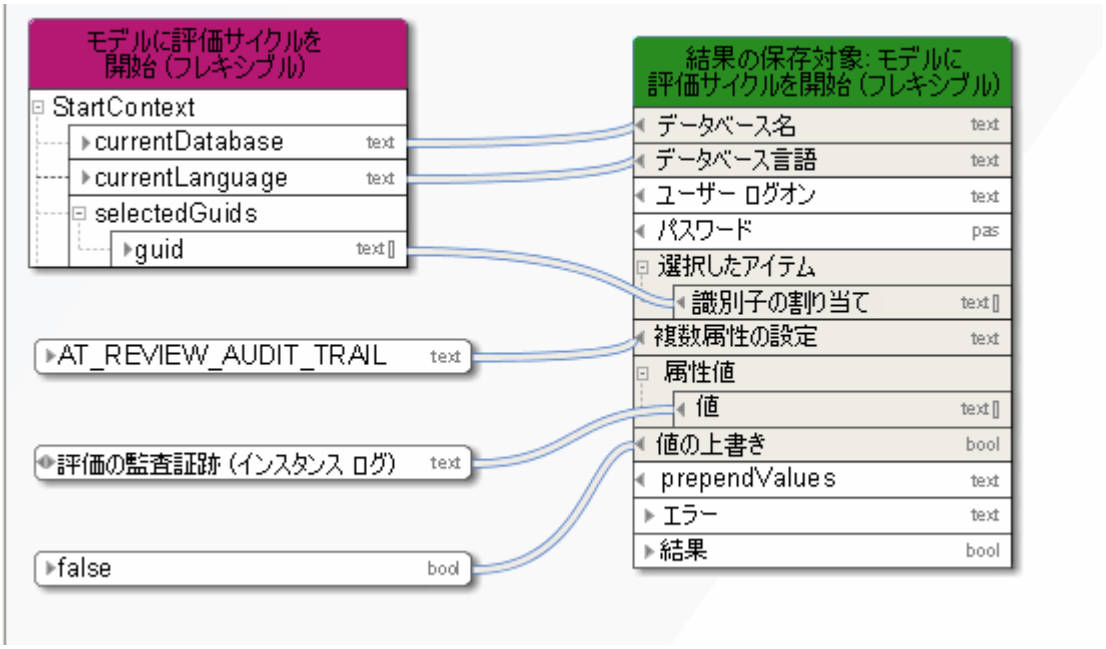


図 44: 複数アイテムに単一属性を設定

3.4.38 書込 - 1 要素に複数属性

このサービスは、1 つのアイテム（モデル、オブジェクト、またはグループ）に複数の属性（[モデル ステータス]、[バージョン番号]、および [リリース] など）を指定します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
	データベース言語	サービスがデータベースへのログオンに使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。 これは、より詳しく指定できます（英語として「en」と指定することも、英語（アメリカ合衆国）として「en_US」と指定することもできます）。 たとえば、これは、データベースでデフォルトの英語（アメリカ合衆国）ではなく、英語（オーストラリア）が設定されている場合に便利です。 国を追加する場合は、言語定数を作成し、データ フローで言語としてモデリングする必要があります。	<テキスト> または <言語>
	ユーザー ログオン	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのログオン名。ユーザーが定義されていない場合は、arisservice が使用されます。	<テキスト>
	パスワード	[自動タスク] ファンクションの実行に使用されるユーザーのパスワード。	<パスワード>
	選択したアイテム	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します	<テキストの集合>
	複数属性の設定	選択した複数の属性を指定するために使用されます（1 つのアイテムに対して複数の属性。例: 1 つのモデルに対して [モデル ステータス]、[バージョン番号] および [リリース] 属性を設定）。	
	タイプ	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント（プロセス インスタンスが開始された）] タイプの別のオブジェクトから複数の属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<テキストの集合>
	属性値	属性に指定する値を定義してください。例: 先行する自動タスクで自動定義された、1 つのモデルの [モデル ステータス] 属性と [バージョン番号] 属性。	

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	値	あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから複数の属性タイプを接続するか、または API 名あるいは GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。空の文字列が入力地として送られた場合は、それらの属性はクリアされます。	<テキストの集合>
	値の上書き	既存の属性内容を削除して新しい内容で上書きする場合は、論理定数に TRUE を定義してください。新しい内容を追加するけれども既存内容を保持する場合 (例: モデル属性 [変更履歴]) は、論理定数に FALSE を定義してください)。指定がなければデフォルト値に FALSE が使用されます。	<論理値>
	エラー	自動化エラーが発生した場合、「ARIS Server は利用できません」のようなコンテキスト固有のエラー メッセージが表示されます。	<テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

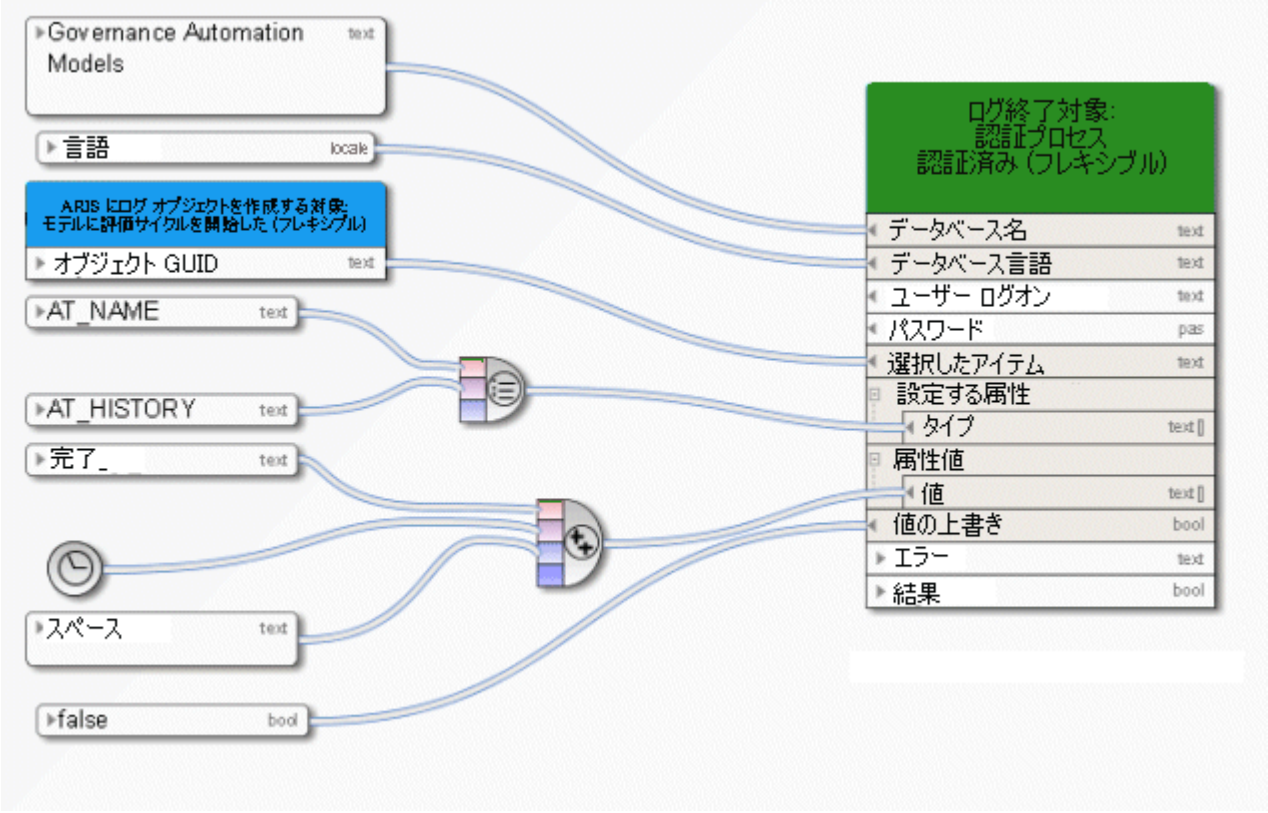


図 45: 単一アイテムに複数属性を設定

3.5 ARIS Connect Publishing サービス

これらのサービスは、ガバナンス リソースの Governance Automation Models リファレンス データベースにあります。

これらのサービスは ARIS Connect ポータルと直接通信します。

3.5.1 追加 – コラボレーションにコメント

このサービスは、ARIS Connect のモデルなどにコメントを追加します。コラボレーションが ARIS 管理設定でアクティブになっている必要があります。このサービスは、常に system ユーザーによって実行されます。system ユーザーは、ARIS Connect Viewer のライセンス権を持っている必要があります。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	webIdentifier	ARIS Connect 識別子、つまり ARIS Connect においてコメントが属するアイテムの c.dbname.guid 形式の GUID 。必須フィールドです。	<テキスト>
	タグ	コメントのタグの一覧です。	<テキスト>
	オプション	コメントの投稿が任意であるかどうかを指定します。コメントが投稿できない、あるいはコラボレーションが利用できない場合は、サービスはエラーになるため、プロセス インスタンスもエラーになります。	<論理値>
	コメント	投稿するコメント。投稿は system ユーザーによって実行されます。必須フィールドです。	<テキスト>
	戻り値	コラボレーションでコメントが投稿されています。投稿は system ユーザーによって実行されます。モデルまたはオブジェクトが表示されると、画面のコラボレーション部分にコメントが表示されます。	<論理値>

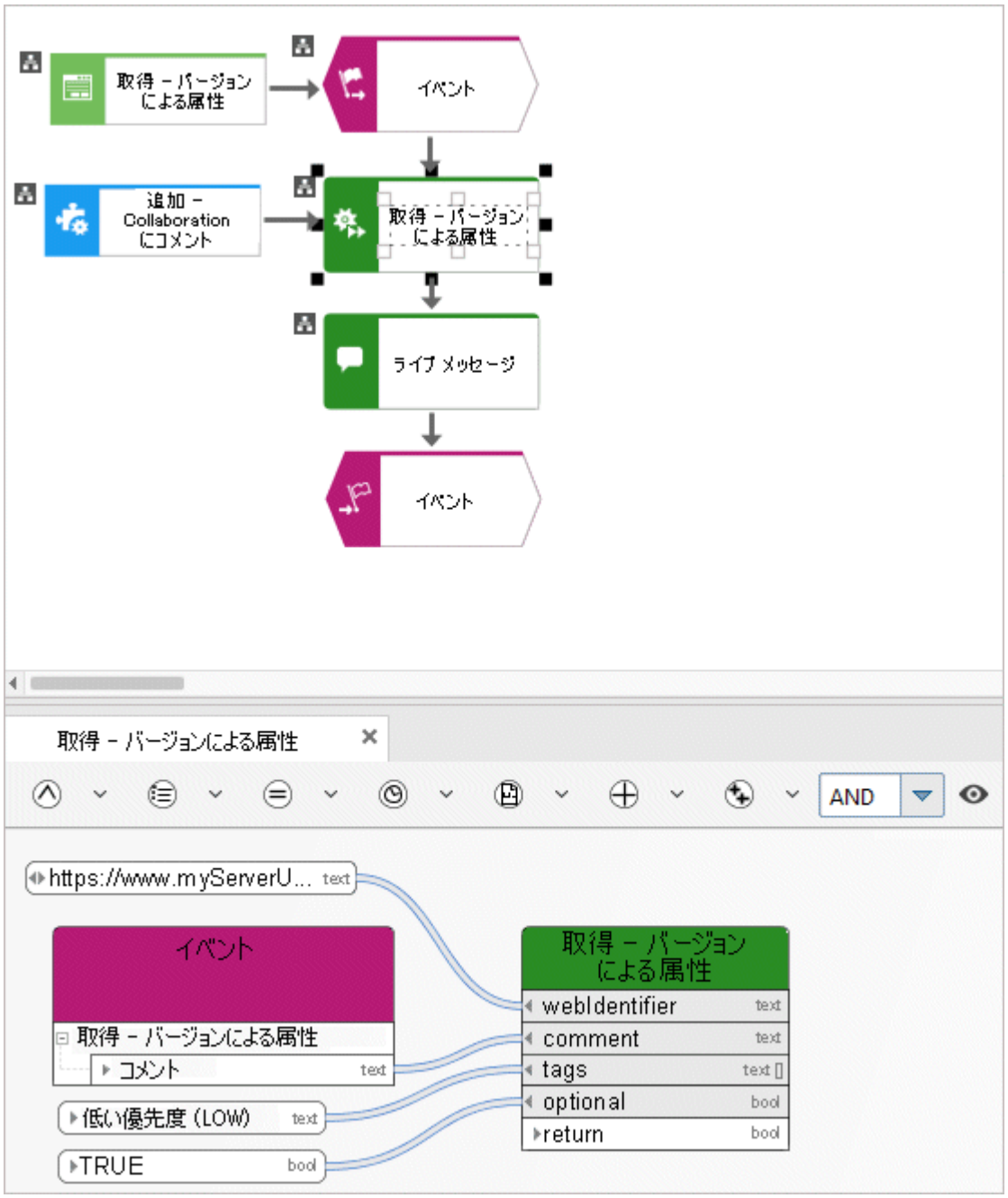
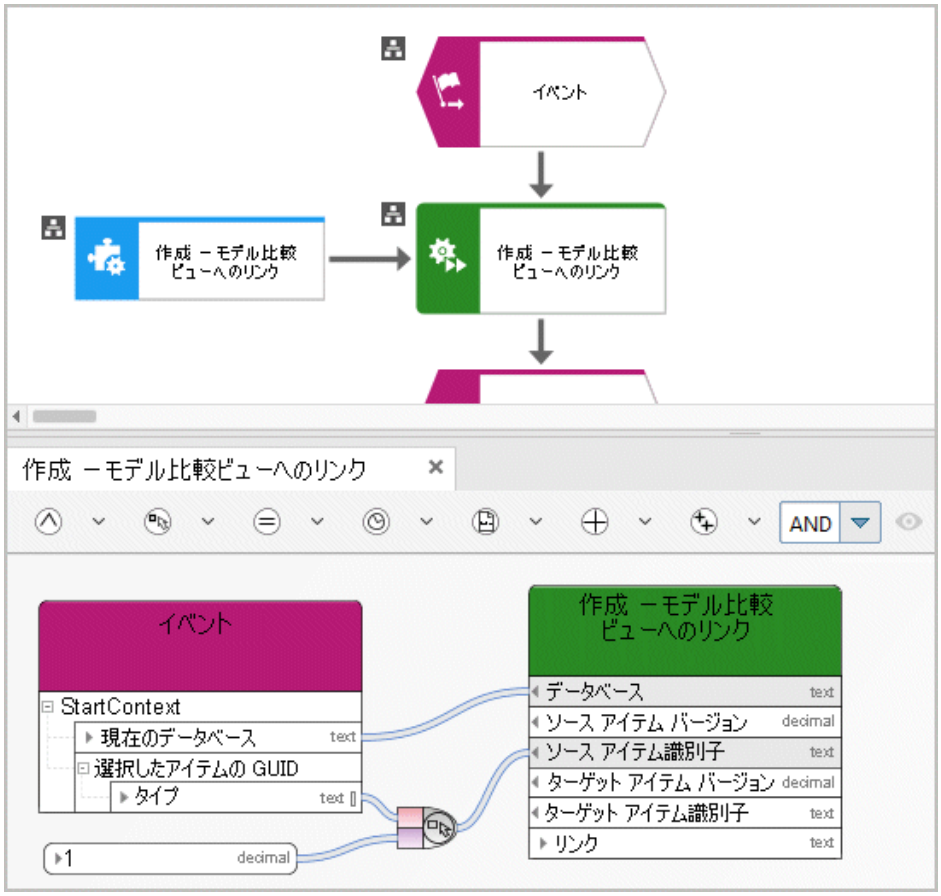


図 46: 追加 – コラボレーションにコメント

3.5.2 作成 - モデル比較ビューにリンク

このサービスは、モデル比較ビューへのリンクを作成します。データベース内のモデルのバージョンを比較できます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	[自動タスク] タイプのファンクションが実行されるデータベースの名前。	<テキスト>
→	ソース アイテム バージョン	比較する最初のモデルのバージョン。	<10 進数>
→	ソース アイテム ID	比較する最初のモデルの GUID。	<テキスト>
→	ターゲット アイテム バージョン	比較する 2 番目のモデルのバージョン	<10 進数>
→	ターゲット アイテム ID	比較する 2 番目のモデルの GUID。	<テキスト>
←	リンク	2 つのモデルのモデル比較ビューへのリンク	<テキスト>



3.5.3 取得 - ARIS Connect のリンク

このサービスでは、たとえば ARIS Architect で作業を行わないユーザーが利用できるように、モデルへのリンク一覧を ARIS Connect に提供されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	データベース名	現在のデータベースの名前	<テキスト>
	データベースのバージョン	たとえば [作成 – バージョン『68ページ 』] サービスによって返されるデータベースのバージョン。	<少数>
選択したアイテム		ARIS Connect でリンクを作成するモデルを選択します。	
	識別子	ARIS Connect で取得されるリンクのモデルの GUID です。	<テキスト>
	itemTypes	選択したアイテムのアイテム タイプ。	<テキスト>
	return	すべての関連モデルにリンク リストが用意されます。ダイアログの 1 つのリンク フィールドに許可されるリンク数は 1 つのみです。このサービスは、モデルにアクセスするためのリンク設定が複数ある場合に、リンクのリストを提供します。ダイアログのデータフローで、選択を決定する演算子を使用してすべてのリンクを個別にモデリングしてください。	<テキストの集合>

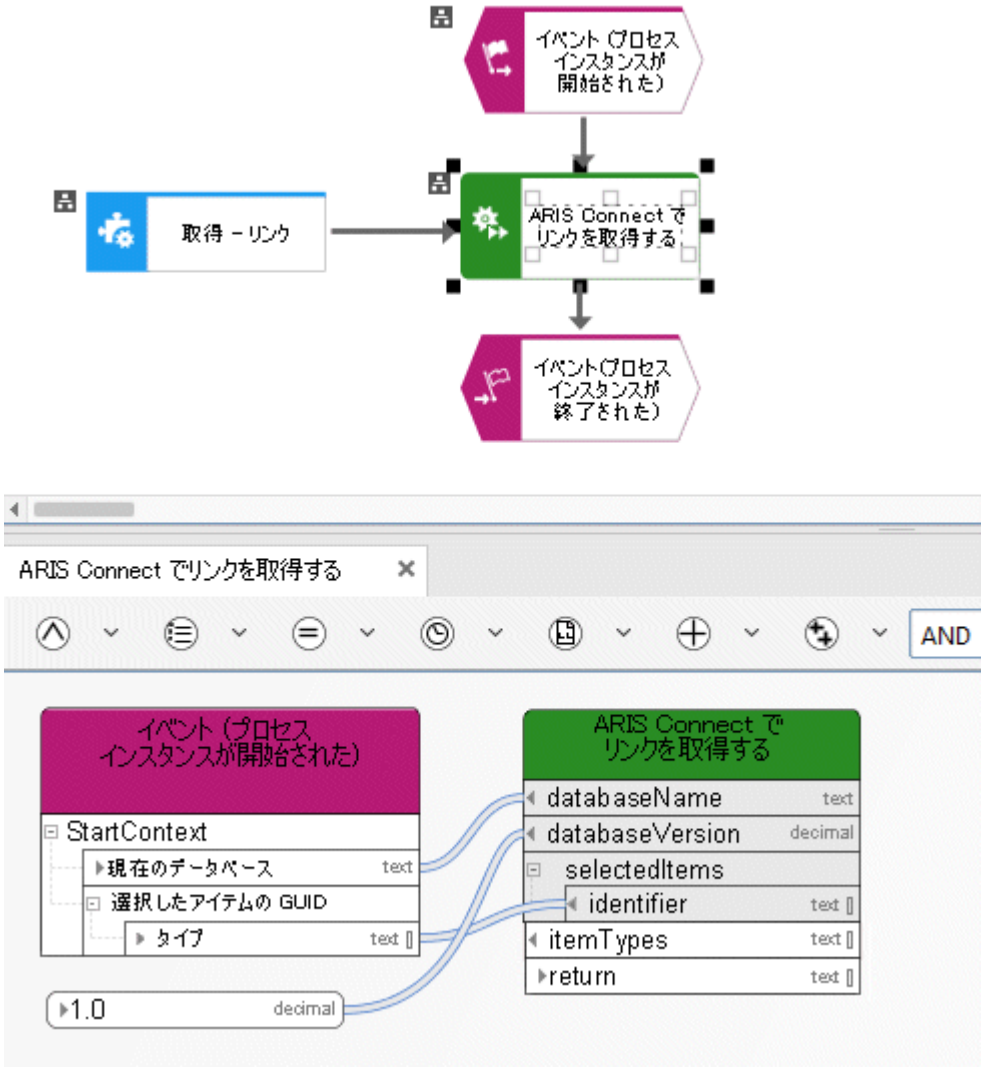

イベント (プロセス インスタンスが 開始された)
取得 - リンク
ARIS Connect で リンクを取得する
イベント(プロセス インスタンスが 終了された)
ARIS Connect でリンクを取得する
AND
イベント (プロセス インスタンスが開始された)
StartContext
現在のデータベース
text
選択したアイテムの GUID
タイプ
text []
1.0
decimal
ARIS Connect で リンクを取得する
databaseName
text
databaseVersion
decimal
selectedItems
identifier
text []
itemTypes
text []
return
text []

図 47: 検出 - リンク

3.6 ARIS 文書格納サービス

文書に関係するサービスは、ARIS 文書格納 に保管されている文書に対してのみテストされ、リリースされています。Microsoft® SharePoint のような外部文書管理システムに対しては対応していません。

これらのサービスは、ガバナンス リソースの Governance Automation Models リファレンス データベースにあります。

これらのサービスは ARIS 文書格納と直接通信します。

3.6.1 作成 - 文書

このサービスは、新規文書を ARIS 文書格納に作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
	ターゲット フォルダー	文書のアップロード先となる ARIS 文書格納内の保存場所のフォルダー (必須フィールド)。 例: PERMANENT_PORTAL_default/root/My documents/	<フォルダー>
	タイトル	文書タイトル。	<テキスト>
	説明	文書の説明。	<テキスト>
	ステータス	文書のステータス。大文字で表示される以下の値があります。 ▪ APPROVED (承認済み) ▪ IN_PROGRESS (処理中) ▪ ON_APPROVAL (承認待機中) ▪ REJECTED (拒否済み)	<テキスト>
	バージョン	文書のバージョン。	<テキスト>
	タグ	文書を識別するタグ。	<テキストの集合>
	ファイル URL	ARIS Server 上のファイルの物理的な場所の URL (必須フィールド)。 例: D:\temp\document.doc	<テキスト>
	文書	作成された文書 (<文書> タイプ)	<文書の集合>

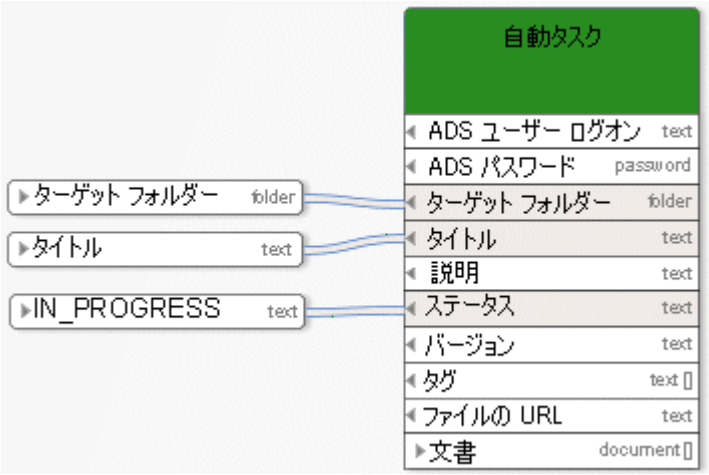


図 48: 文書の作成

3.6.2 作成 - フォルダー

このサービスは、指定した名前のフォルダーを ARIS 文書格納に新規作成します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ADS ユーザー ログオン	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザー パスワードが使用されます。	<パスワード>
→	フォルダー名とパス	必須入力です。作成するフォルダーの名前（例: PERMANENT_PORTAL_default /root/My documents/）。	<フォルダー>
←	フォルダー	新しく作成されたモデルを返します。	<フォルダー>

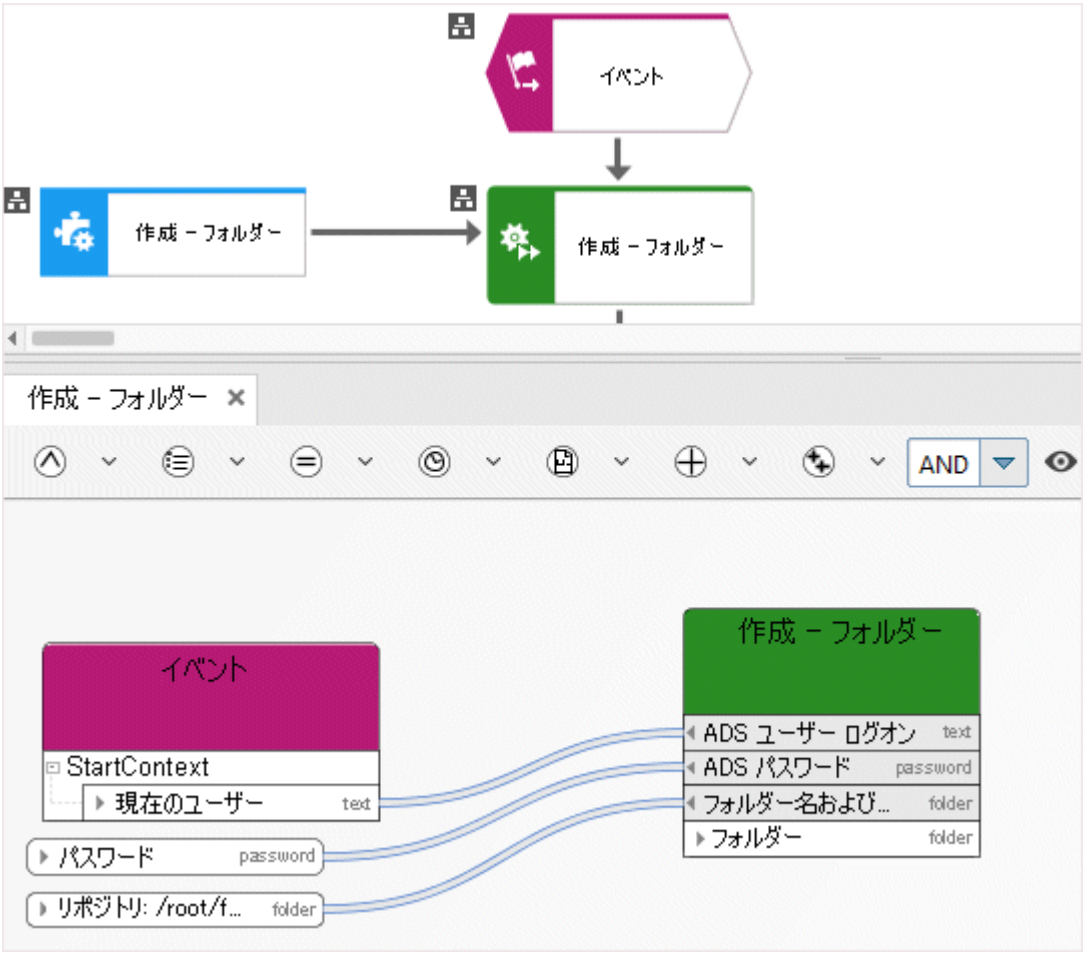


図 49: フォルダーの作成

3.6.3 文書の削除

このサービスは、文書を ARIS 文書格納から削除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
	文書	削除する文書の一覧 (必須フィールド)。	<文書の集合>

図 50: 文書の削除

3.6.4 ダウンロード - 文書

このサービスは、ARIS 文書格納から文書をダウンロードします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
→	DocumentID	ダウンロードする文書 (必須フィールド)。	<文書>
→	targetPath	ARIS Server 上のファイルの物理的な場所の URL (必須フィールド)。 例: D:\temp\document.doc	<テキスト>
→	OverwriteExisting	値 TRUE (上書き) または FALSE (上書きしない) を取ることができます	<論理値>
←	documentContent	文書の内容	<テキスト>

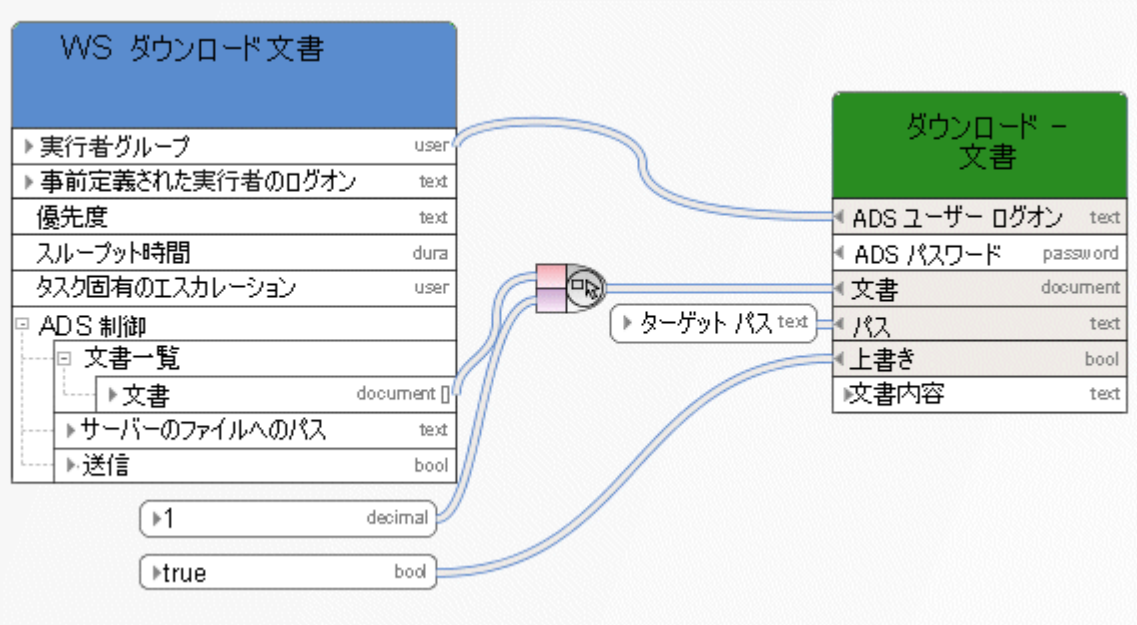


図 51: 文書のダウンロード

3.6.5 ロック - 文書

このサービスは、ほかのユーザーが編集できないよう ARIS 文書格納内の文書をロックします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザー パスワードが使用されます。	<パスワード>
	文書	ロックする文書の一覧 (必須フィールド)。	<文書の集合>
	成功	すべての文書がロックされたかどうかについての情報を返します。	<論理値>

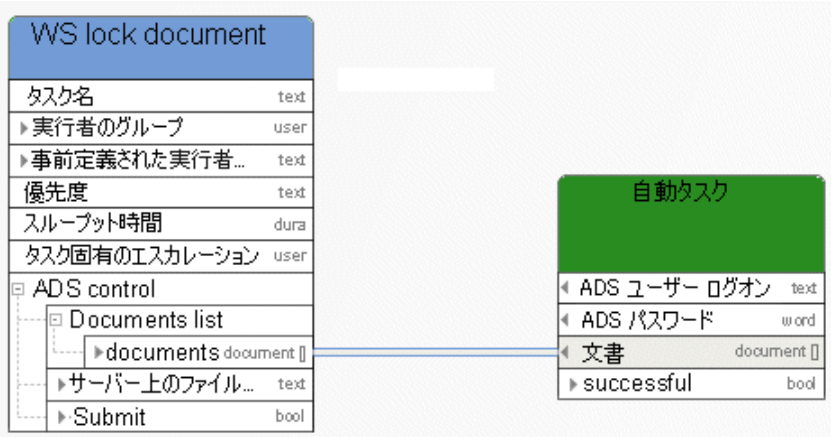


図 52: 文書のロック

3.6.6 移動 - 文書

このサービスを使用して、一時文書を ARIS 文書格納に転送するか、永久的に保存された文書を ARIS 文書格納内の別のフォルダーに移動できます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
→	文書	移動する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>
→	ターゲット フォルダー	文書の移動先にするターゲット フォルダー（必須フィールド）。	<テキスト> または <フォルダー>
←	移動した文書	文書の一覧（文書データ タイプ）	<文書の集合>

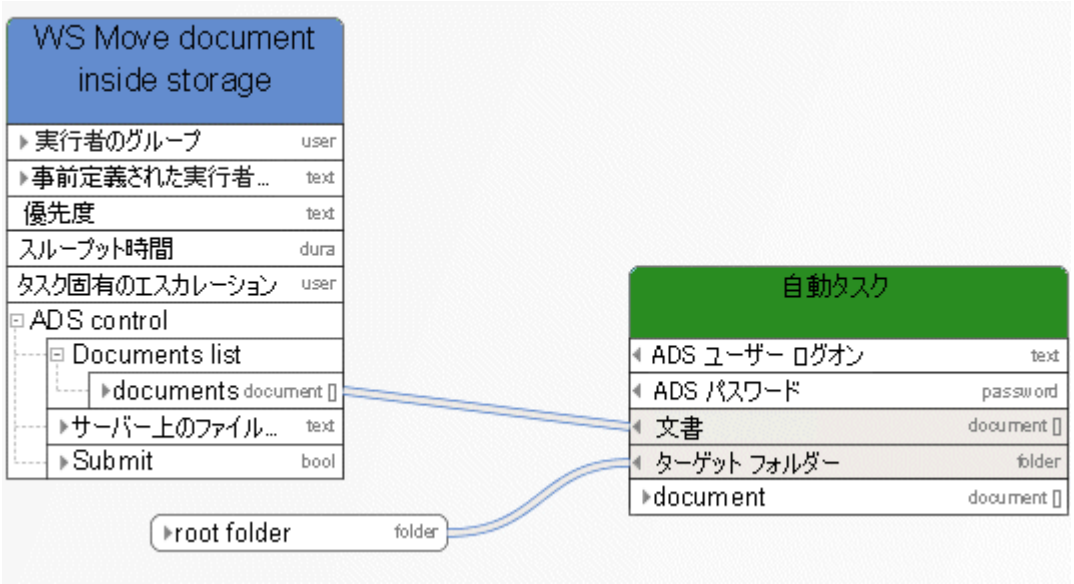


図 53: 文書の移動

3.6.7 移動 - フォルダー

このサービスを使用して、ARIS 文書格納でフォルダーを移動できます。 サブフォルダーの内容もターゲット フォルダーに移動されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザー パスワードが使用されます。	<パスワード>
	フォルダー	移動するフォルダー (必須フィールド)。フォルダー タイプの定数を入力データとして使用します。 定数は、値が固定されたデータ ソースです。値は、プロセスの実行中に計算されるのではなく、ユーザーがデータ フローを作成するときに定義します。	<テキストの集合>
	ターゲット フォルダー	文書の移動先にするターゲット フォルダー (必須フィールド)。	<テキスト>
	移動したフォルダー	移動したフォルダーの一覧。	<テキストの集合>

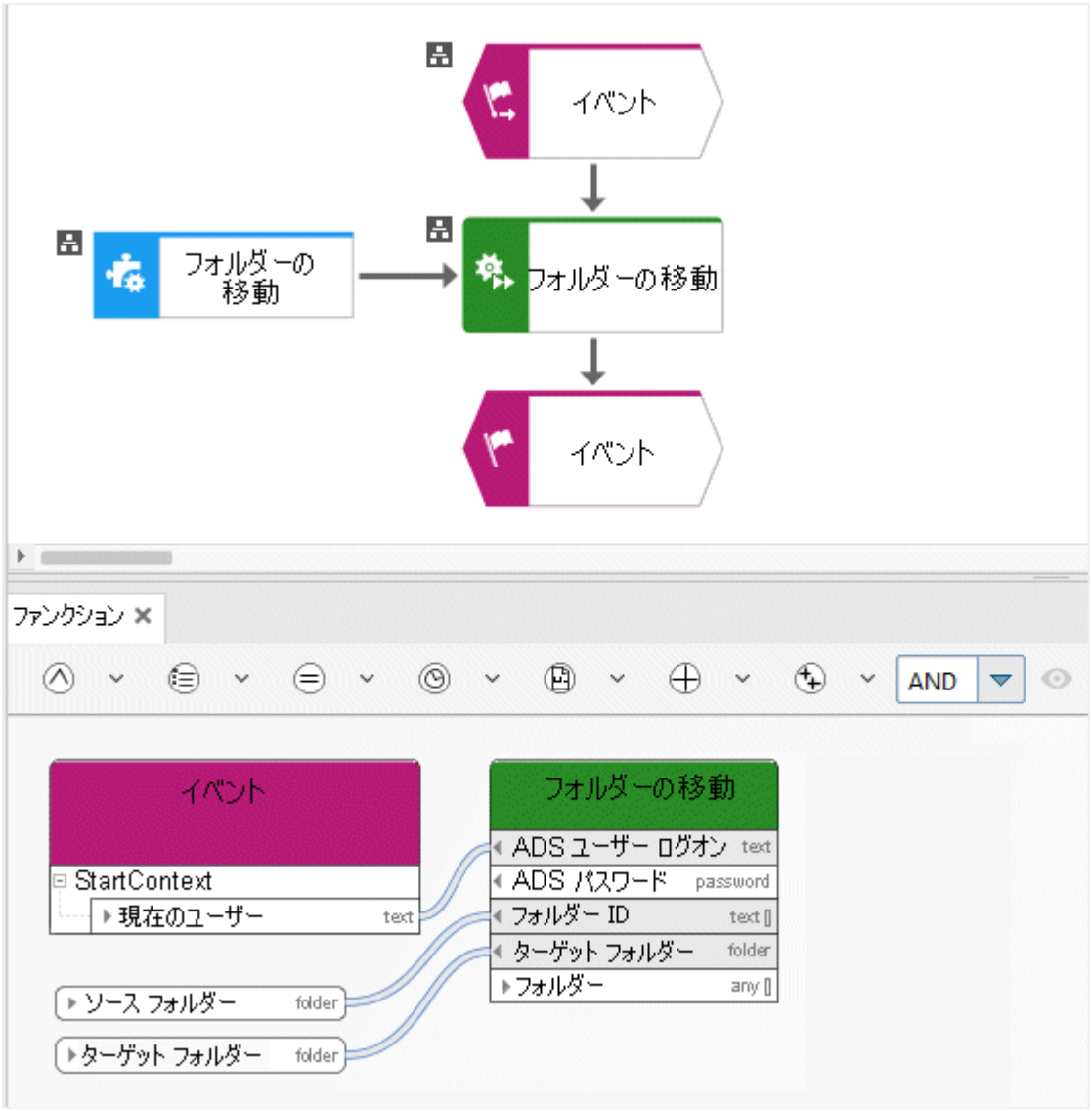


図 54: フォルダーの移動

3.6.8 取得 - ID 別文書

このサービスは、ID によって ARIS 文書格納内の文書を取得します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ARIS 文書格納ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
	ARIS 文書格納パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
	文書	目的の文書を選択します。	
	値	ARIS 文書格納の文書の ID。	<テキストの集合>
	文書	作成された文書 (<文書> タイプ)	<文書の集合>

イベント
取得 - ID による文書
取得 - ID による文書
ライブ メッセージ
取得 – ID による文書
AND
イベント
StartContext
現在のデータベース text
現在のサーバー text
現在のテナント text
現在のユーザー text
現在のフィルター text
現在の言語 text
選択したアイテムの GUID
タイプ text[]
選択したアイテムの名前
名前 text[]
選択したアイテムのローカライズ..
ローカライズした名前
選択したアイテムのタイプ名
タイプ text[]
選択したアイテムの API 名
API 名 text[]
選択した文書
ID text[]
取得 – ID による文書
ADS ユーザー ログオン text
ADS パスワード password
文書
value text[]
documents document[]

図 55: 取得 - ID 別文書

3.6.9 取得 - リンク別文書

このサービスは HTTP リンクから取得された文書を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ARIS 文書格納ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ARIS 文書格納パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
→	documentLink	HTTP リンク は ARIS 文書格納の文書の保管場所です。必須フィールドであり、データ フローでモデル化されます 。	<テキストの集合>
←	文書	作成された文書 (<文書> タイプ)	<文書の集合>

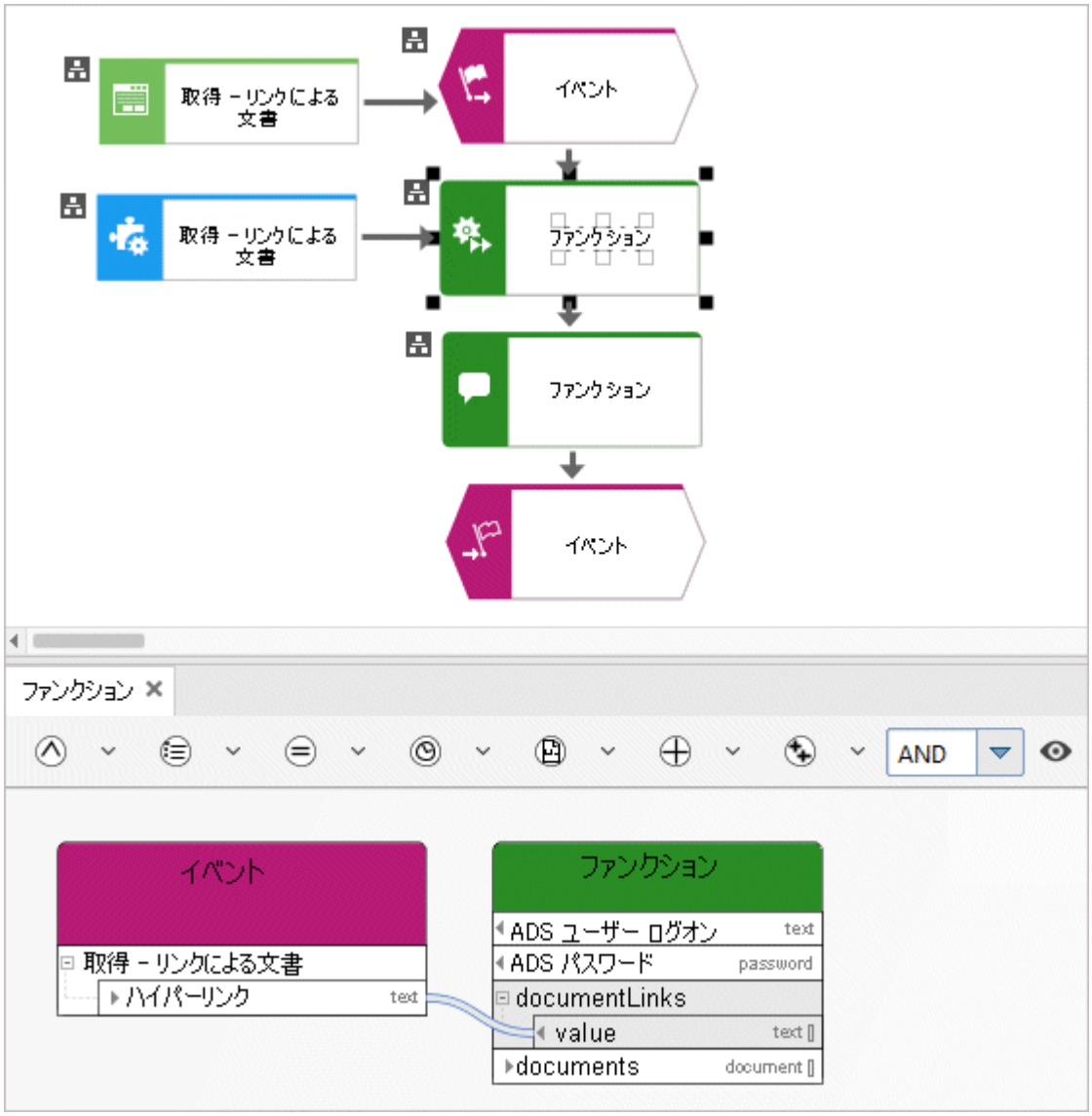


図 56: 取得 - リンク別文書

3.6.10 ロック解除 - 文書

このサービスは、ARIS 文書格納内の文書のロックを解除します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
	文書	ロックを解除する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>
	成功	すべての文書のロックが解除されたかどうかについての情報を返します。	<論理値>

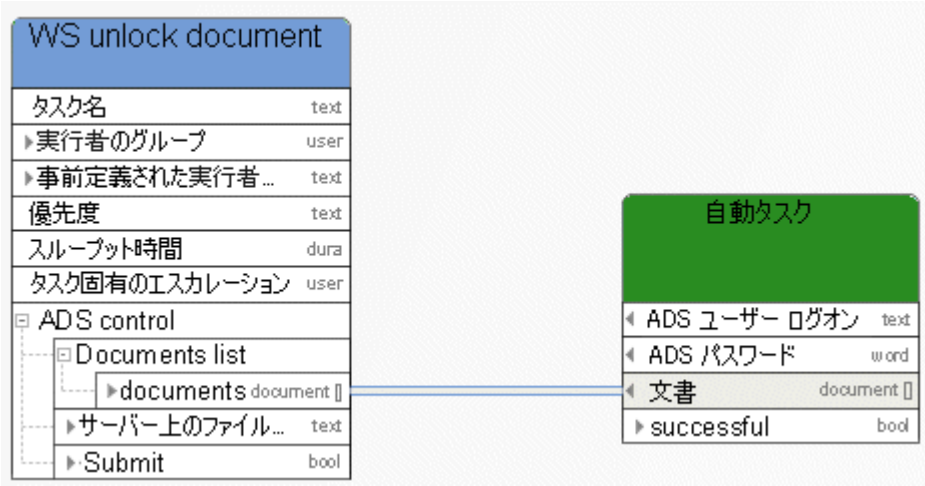


図 57: 文書のロックの解除

3.6.11 更新 - 文書

このサービスは、サーバー側で実行されます。ARIS 文書格納内の文書を更新する新しい内容を含む文書が、ARIS Server 上に存在する必要があります。一般に、レポート結果やログ ファイルがこれに該当します。通常、このサービスは、[自動タスク] タイプのオブジェクトによって呼び出されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ARIS 文書格納ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ARIS 文書格納パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザー パスワードが使用されます。	<パスワード>
→	文書	ARIS 文書格納内に保存され、内容を更新する文書の一覧 (必須フィールド)。	<文書の集合>
→	ファイルの URL	ARIS Server 上のファイルの物理的な場所の URL (必須フィールド)。例: D:\temp\document.doc	<テキストの集合>
←	更新済み文書	更新済み文書のリスト	<文書の集合>

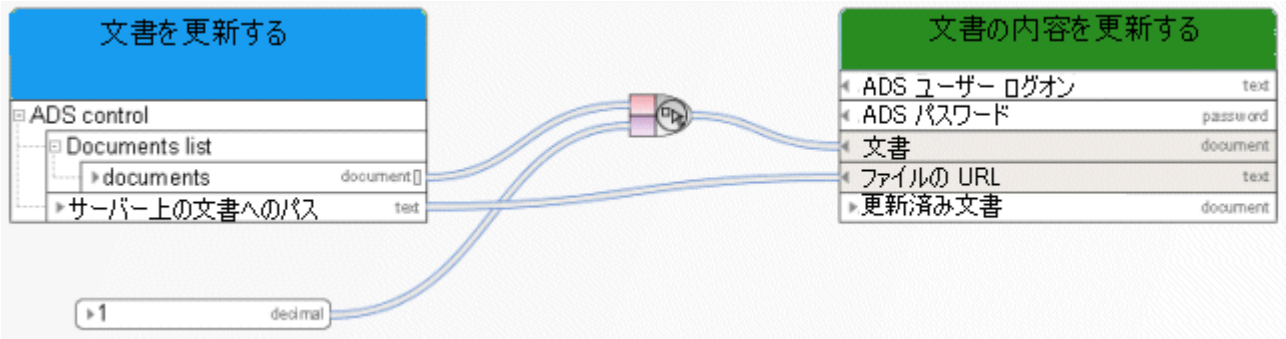


図 58: 文書の更新

3.6.12 更新 - 1 文書のメタデータ

このサービスは、文書のメタデータを更新します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
→	文書	メタデータを更新する文書（必須フィールド）。	<文書>
→	キー	更新するメタデータ キーの一覧（必須フィールド）。	<テキストの集合>
→	値	更新するメタデータ値の一覧（必須フィールド）。	<テキストの集合>
←	更新済み文書	メタデータが更新された文書。更新中に文書名が変更された場合、更新前の文書名が返されます。	<文書>

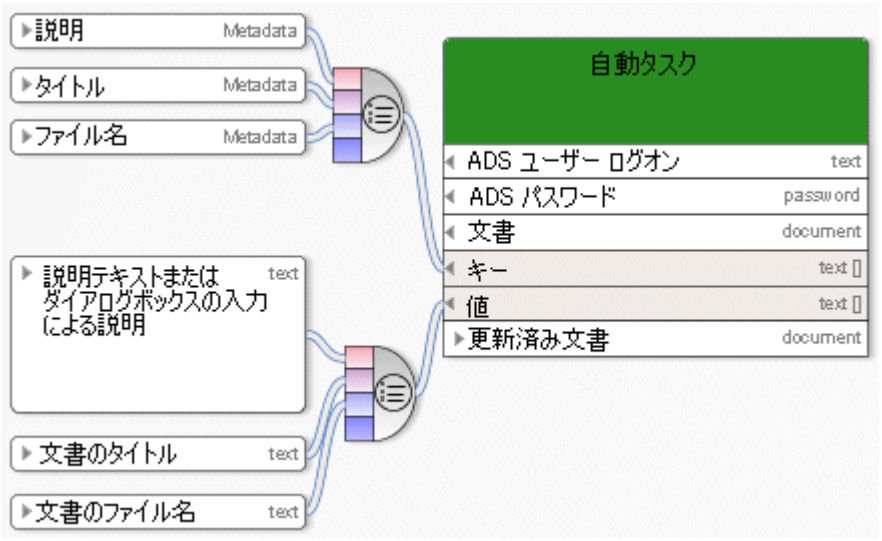


図 59: 文書のメタデータの更新

3.6.13 更新 - 複数文書のメタデータ

このサービスは、複数文書に対してメタデータ キー/値ペアを更新します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ADS ユーザー	省略可能。指定されていない場合は、推奨ユーザーである arisservice が使用されます。	<テキスト>
→	ADS パスワード	省略可能。指定されていない場合は、arisservice ユーザーパスワードが使用されます。	<パスワード>
→	文書	メタデータを更新する文書の一覧（必須フィールド）。	<文書の集合>
→	キー	文書一覧のすべての文書に対して更新するメタデータ キー（必須フィールド）。	<テキスト>
→	値	文書一覧のすべての文書に対して更新するメタデータ値（必須フィールド）。	<テキスト>
←	更新済み文書	メタデータ キー/値の組が更新された文書の一覧。更新中に文書名が変更された場合、更新前の文書名が返されます。	<文書の集合>

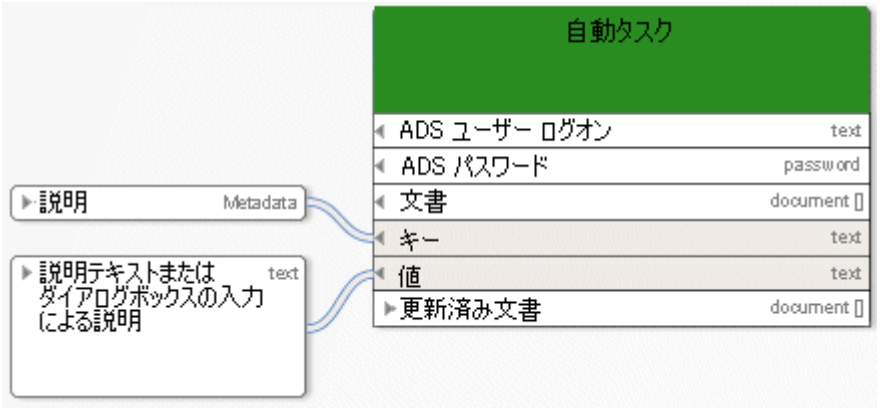


図 60: 複数文書のメタデータの更新

3.7 Process Governance サービス

このサービスは、ガバナンス リソースの Governance Automation Models リファレンス データベースにあります。

このサービスは、JavaScript で書かれたスクリプト サービスです。このサービスは編集しないことを強く推奨します。

3.7.1 取得 - プロセス インスタンス ID

このサービスは、実行中のプロセスのプロセス インスタンスの ID を取得します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	インスタンス ID	実行中のプロセスのプロセス インスタンス ID。	<テキスト>

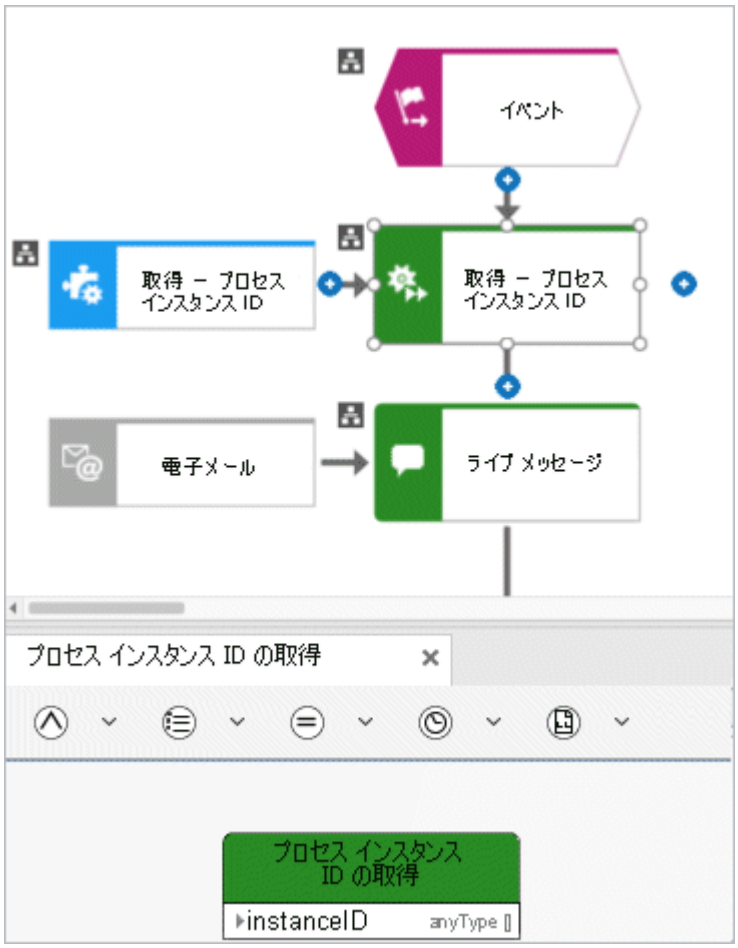


図 61: Process Governance - 検出 - プロセス インスタンス ID

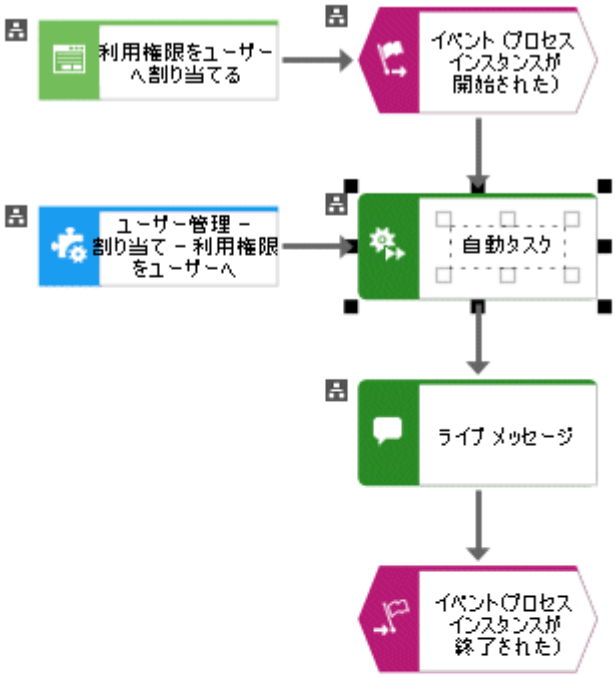
3.8 ユーザー管理サービス

これらのサービスは、ガバナンス リソースの Governance Automation Models リファレンス データベースにあります。 これらのサービスは ARIS 管理と直接通信します。 これらのサービスは、JavaScript で書かれたスクリプト サービスです。これらのサービスは編集しないことを強く推奨します。

3.8.1 割り当て - 権限をユーザーへ

このサービスを使用すると、ユーザーに利用権限が割り当てられます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	権限	ユーザーに割り当てる利用権限 (たとえば、Process Governance 管理者など)。	<テキスト>
	ユーザー	利用権限を割り当てるユーザー。	<ユーザー>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>



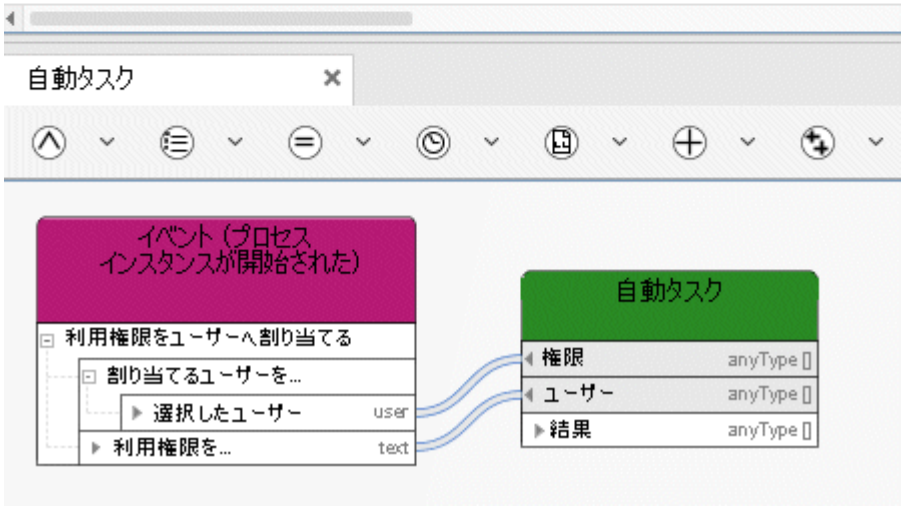


図 62: ユーザー管理 – 割り当て- 利用権限をユーザーへ

3.8.2 割り当て - 権限をユーザー グループへ

このサービスを使用すると、ユーザー グループに利用権限が割り当てられます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	権限	ユーザーに割り当てる利用権限 (たとえば、Process Governance 管理者など)。	<テキスト>
→	ユーザー グループ	利用権限を割り当てるユーザー グループ。	<ユーザーの集合>
←	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

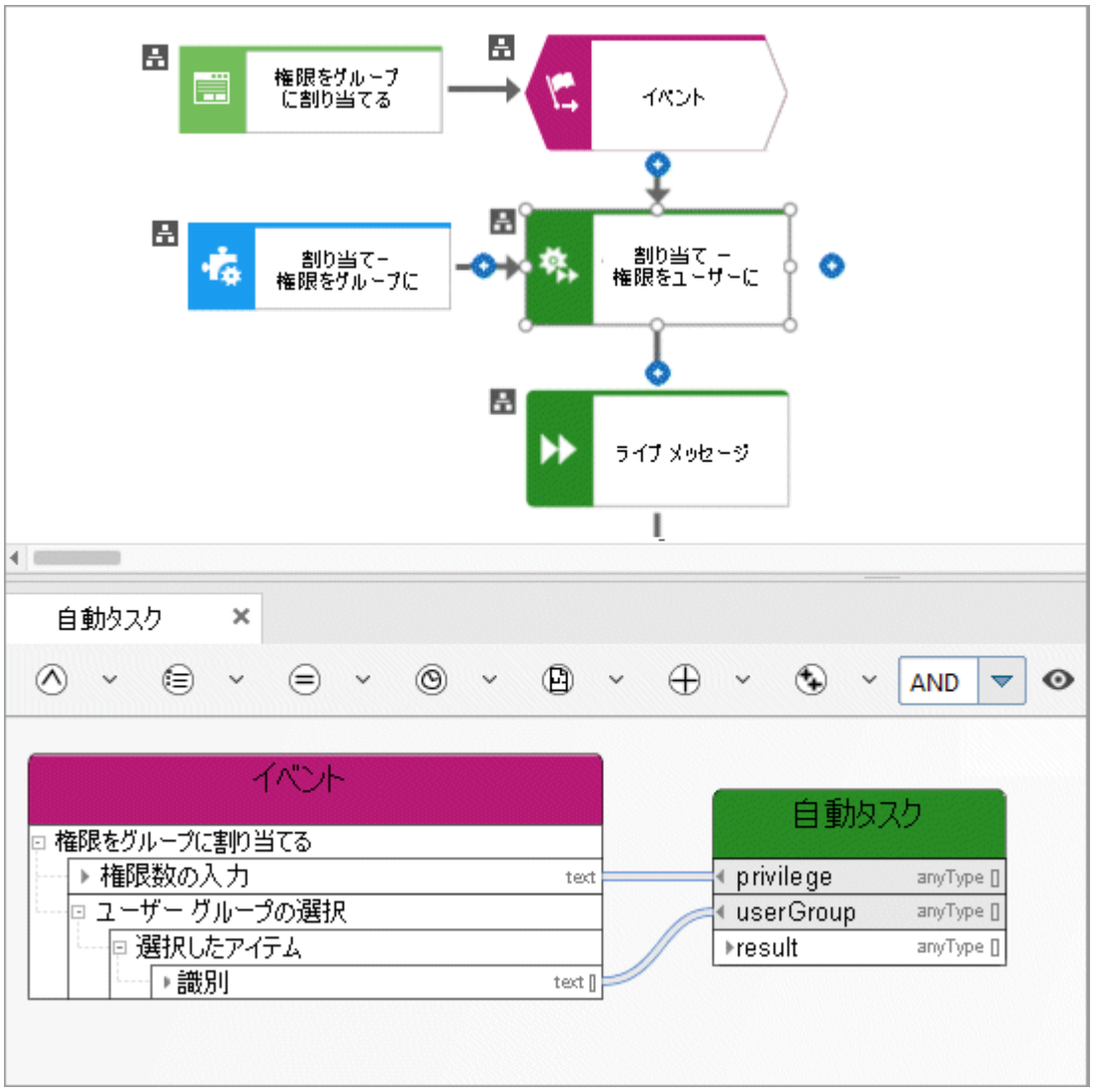
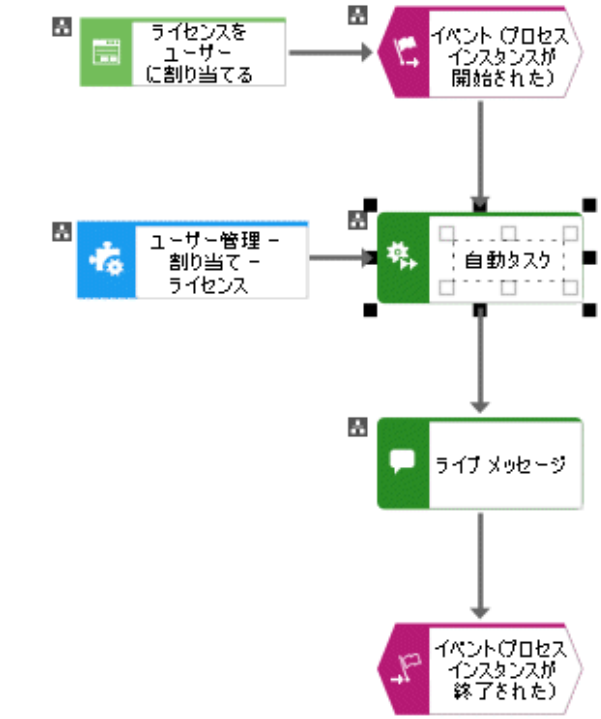


図 63: 割り当て - 権限をユーザー グループへ

3.8.3 割り当て - 製品ライセンスをユーザーへ

このサービスを使用すると、ライセンスがユーザーに割り当てられます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	製品コード	ユーザーに割り当てる特定の製品ライセンス (ARIS Publisher の YBU など)。	<テキスト>
→	ユーザー	特定のライセンスを割り当てるユーザー。	<ユーザー>
→	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>



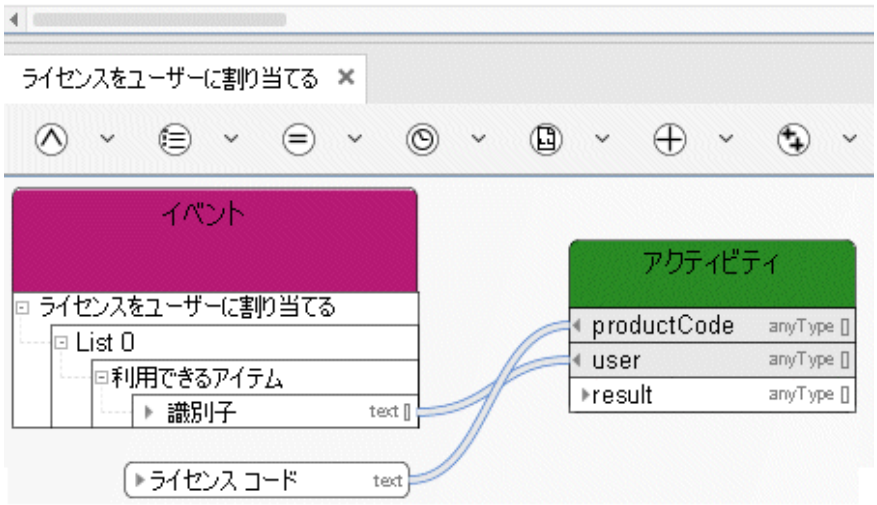


図 64: ユーザー管理 – 割り当て – ライセンス

3.8.4 割り当て - 製品ライセンスをユーザー グループへ

このサービスを使用すると、ライセンスがユーザー グループに割り当てられます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	製品コード	ユーザー グループに割り当てる特定の製品ライセンス (ARIS Publisher の YBU など)。	<テキスト>
	グループ	特定のライセンスを割り当てるユーザー グループ。	<ユーザー グループ>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

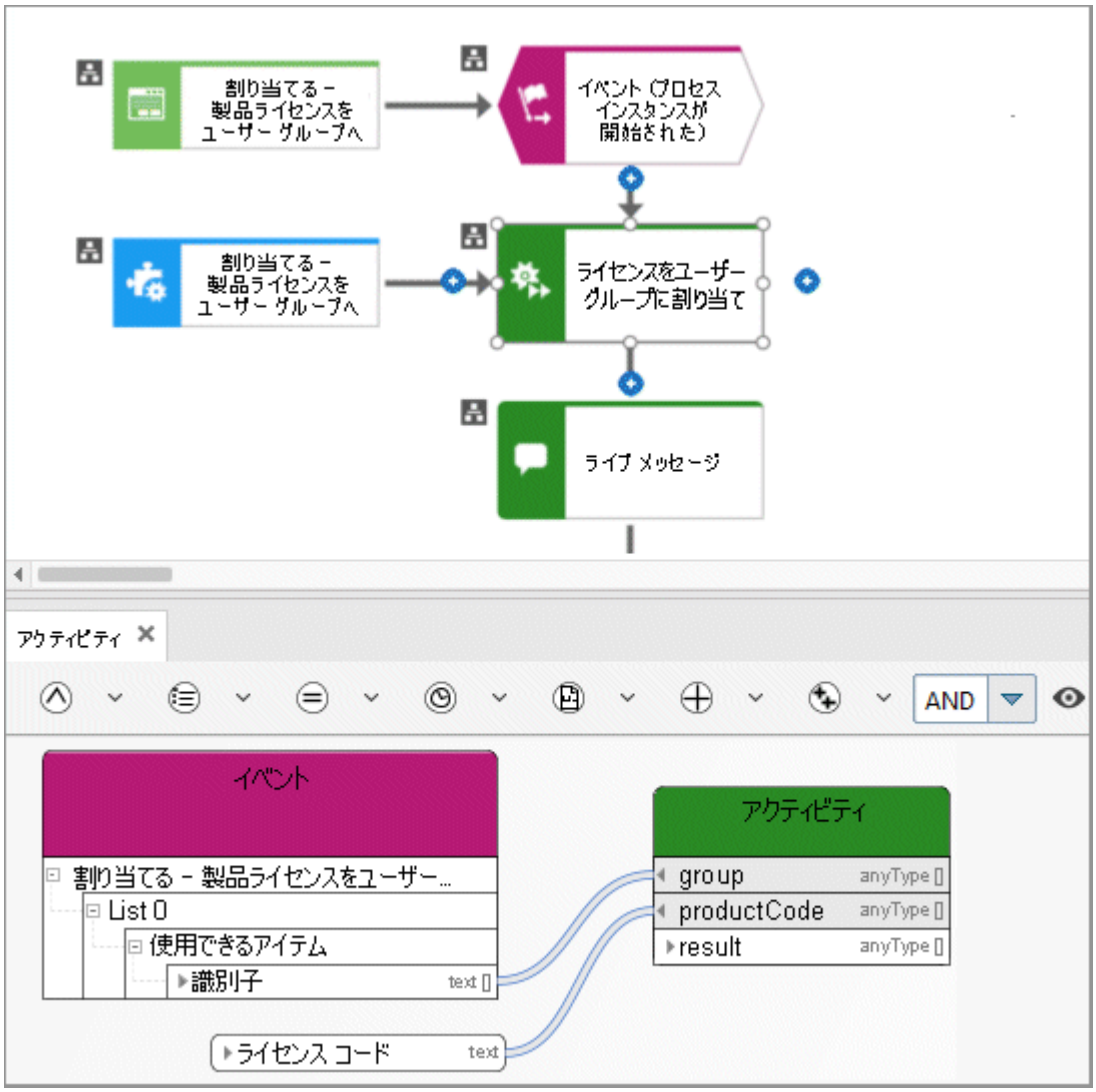


図 65: 割り当て - 製品ライセンスをユーザー グループへ

3.8.5 割り当て - ユーザーをグループへ

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理でユーザーを特定のユーザー グループに関連付けます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	グループ	ユーザーが関連付けられるユーザー グループ。	<ユーザー> または <テキスト>
	ユーザー	特定のユーザー グループと関連付けられるユーザー。	<ユーザー> または <テキスト>
	結果	結果はサービスが正常に実行されたかどうかによって TRUE または FALSE (論理値) のいずれかになります。	<論理値>

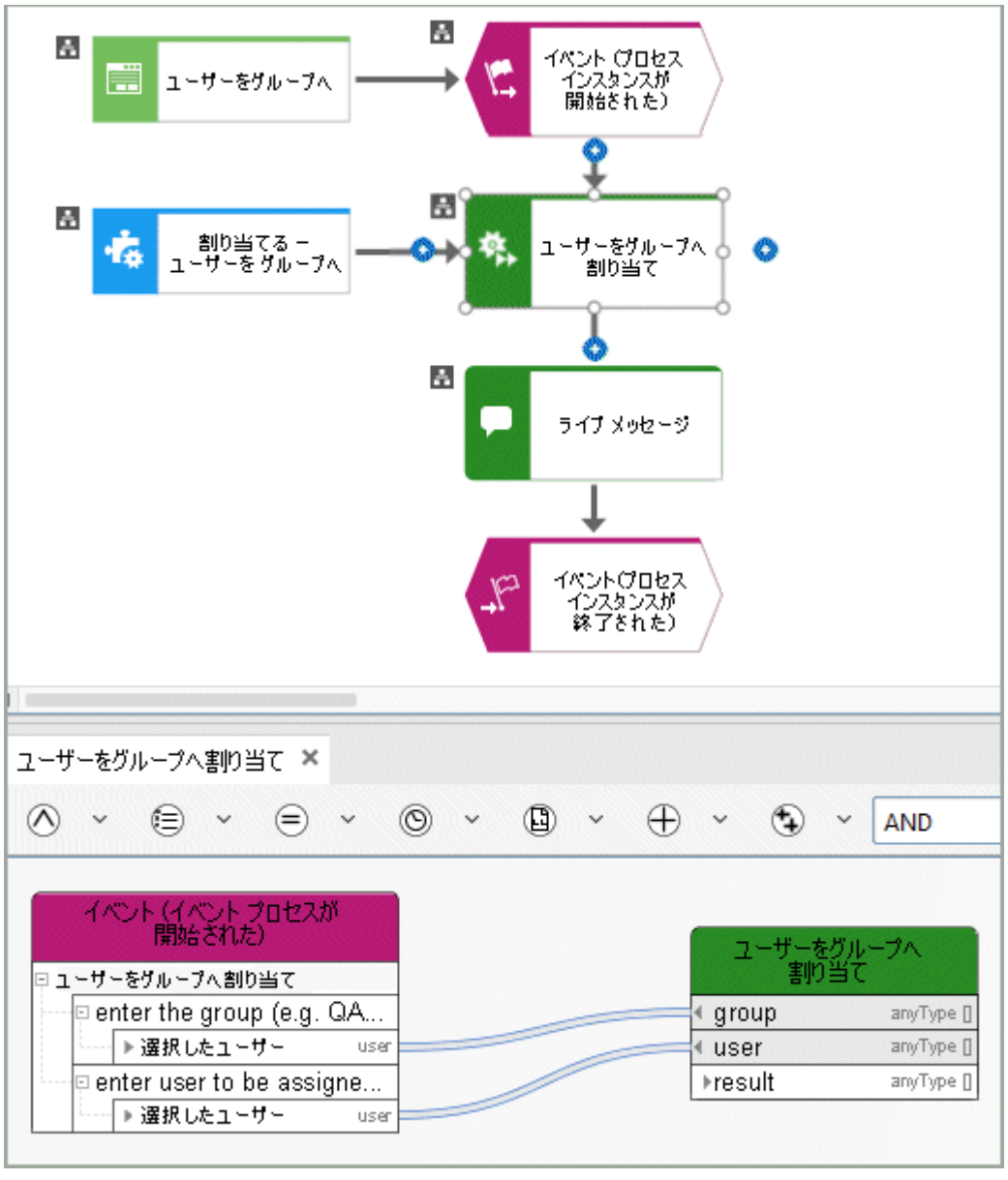


図 66: ユーザー管理 – 関連 – ユーザー グループ

3.8.6 作成 - ユーザー

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理でユーザーが新規に生成されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	姓	生成するユーザーの姓。	<テキスト>
	ログオン名	ユーザーがログオンするために使用する名前。	<テキスト>
	名	生成するユーザーの名前。	<テキスト>
	電話番号	生成するユーザーの電話番号。	<テキスト>
	ユーザー名	生成されたユーザーのユーザー名。	<テキスト>

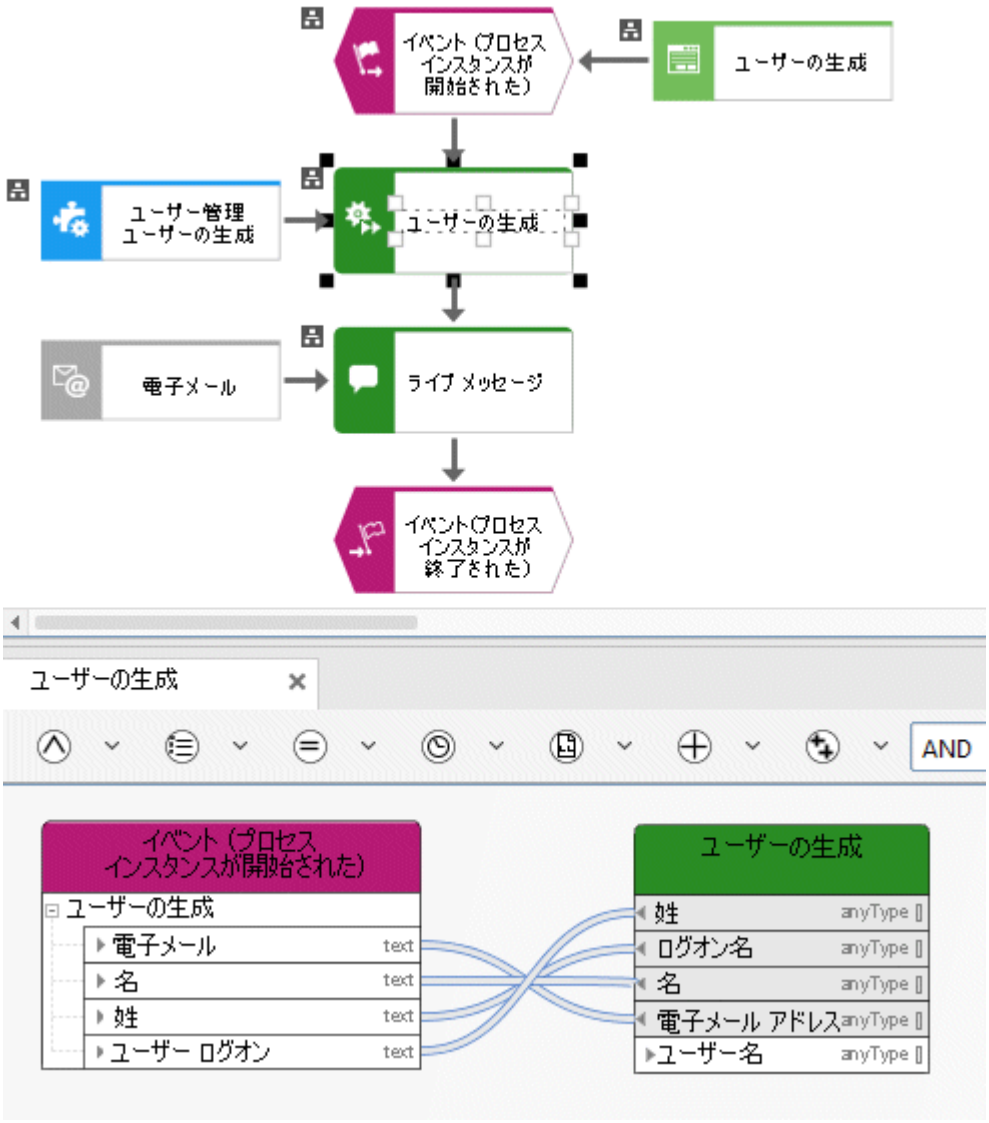


図 67: ユーザー管理 – 生成- ユーザー

3.8.7 作成 - ユーザー グループ

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理でユーザー グループが生成されます。 ユーザー グループの名前は入力データです。 同じ名前のユーザー グループが既にある場合は、出力データとして返されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ユーザー グループ名	データベースと管理のユーザー管理で生成するユーザー グループの名前。	<テキスト>
←	ユーザー グループ名	生成されたユーザー グループの名前。	<テキスト>

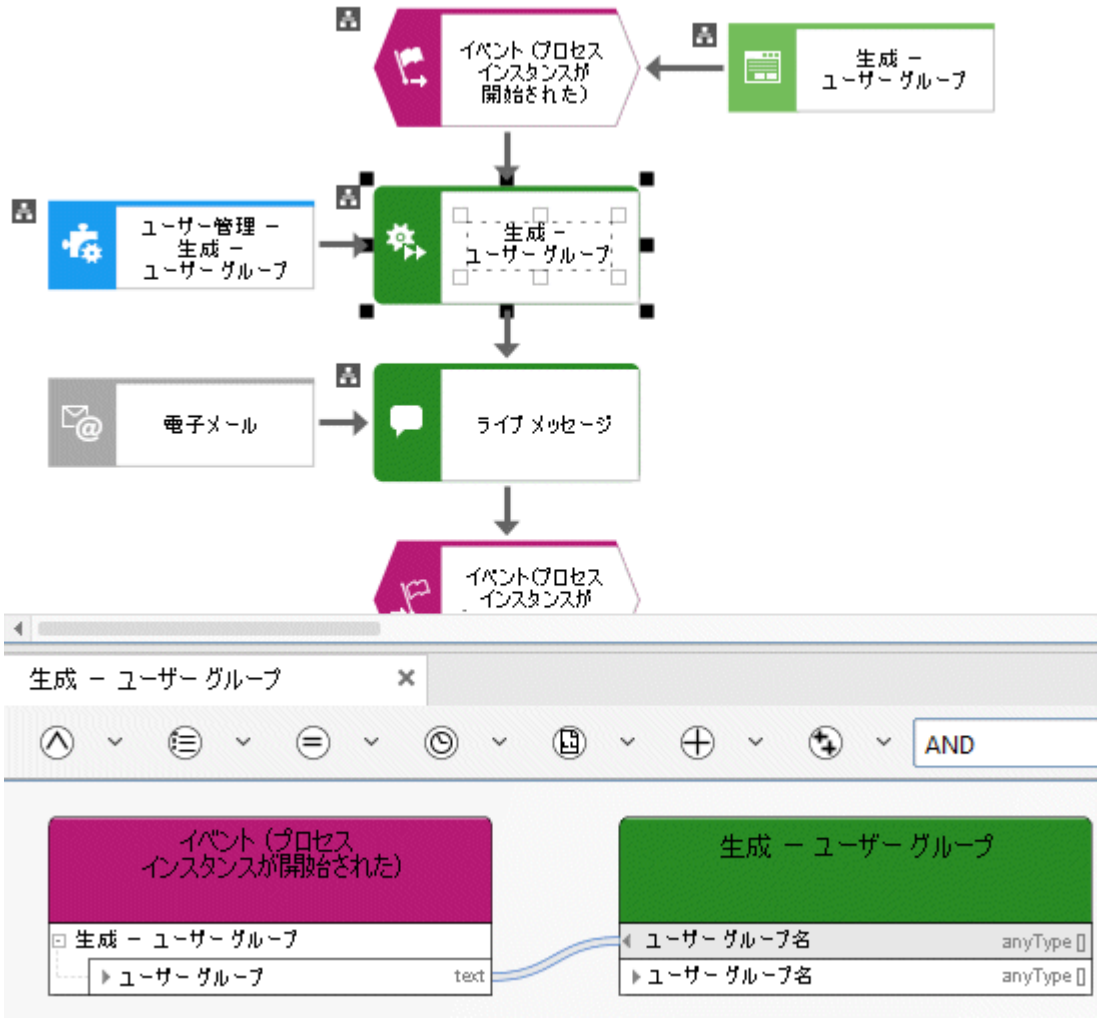


図 68: ユーザー管理 – 生成- ユーザー グループ

3.8.8 削除 - ユーザー

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザーが削除されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➔	ユーザー	削除されるユーザー。	<ユーザー>

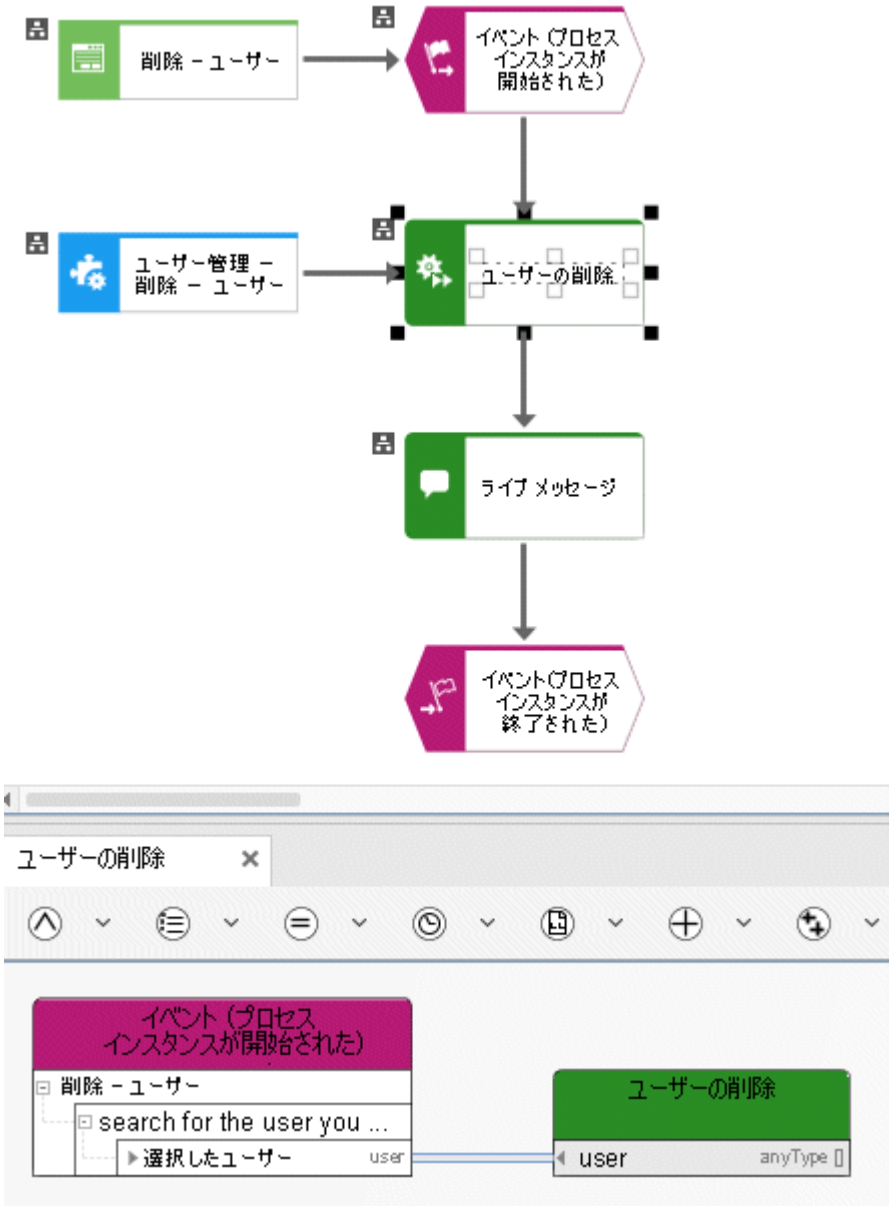


図 69: ユーザー管理 – 削除- ユーザー

3.8.9 削除 - ユーザー グループ

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザー グループが削除されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
➔	ユーザー グループ	削除するユーザー グループ。	<ユーザー> または <テキスト>

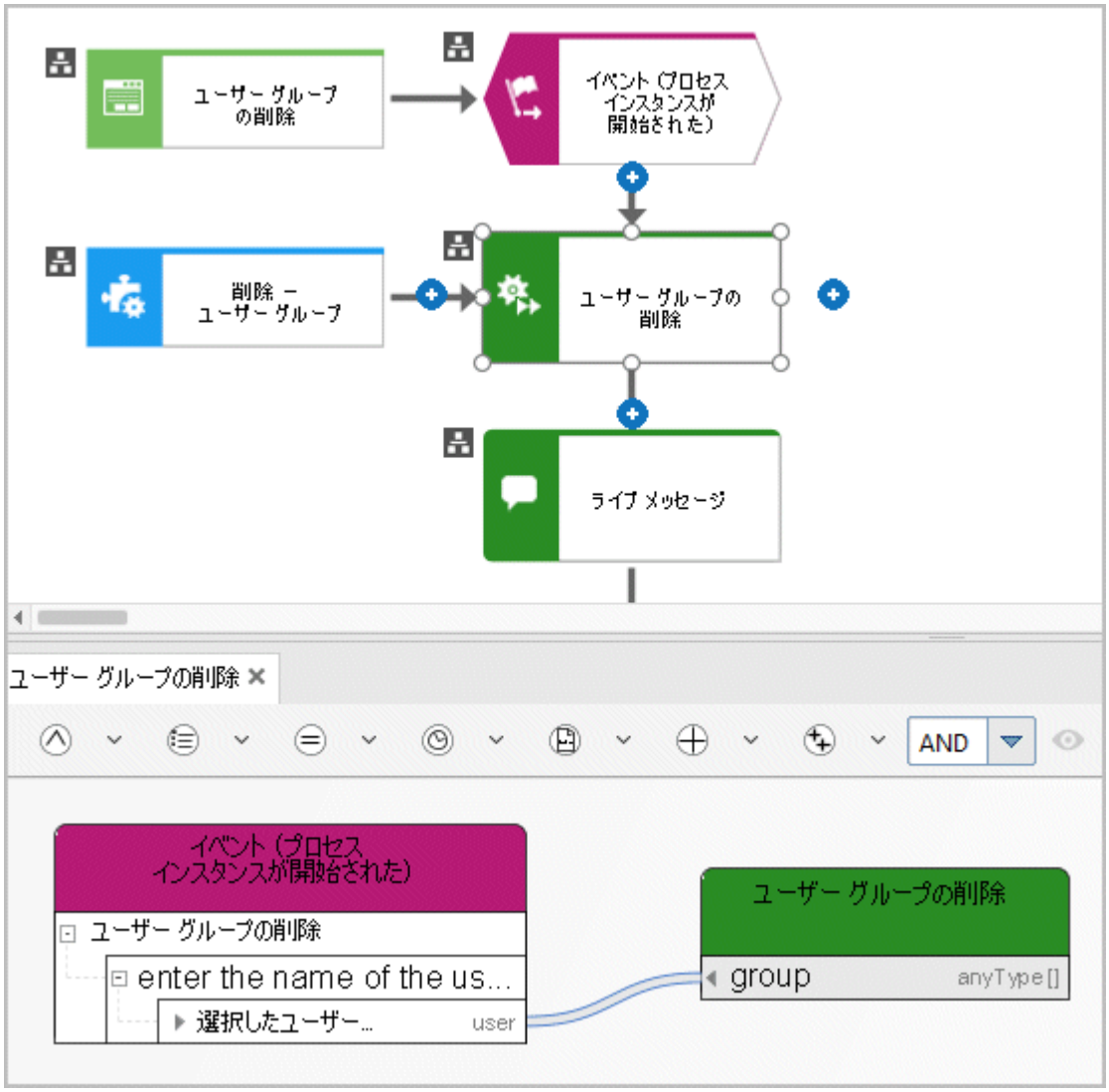


図 70: ユーザー管理 – 削除– ユーザー グループ

3.8.10 取得 - Architect ユーザー

このサービスでは、ユーザーが ARIS Architect ライセンスを持つかどうかが確認されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を提供するユーザー。	<ユーザー>
	結果	ユーザーが ARIS Architect ライセンスを持つ場合は TRUE、持たない場合は FALSE になります。	<論理値>

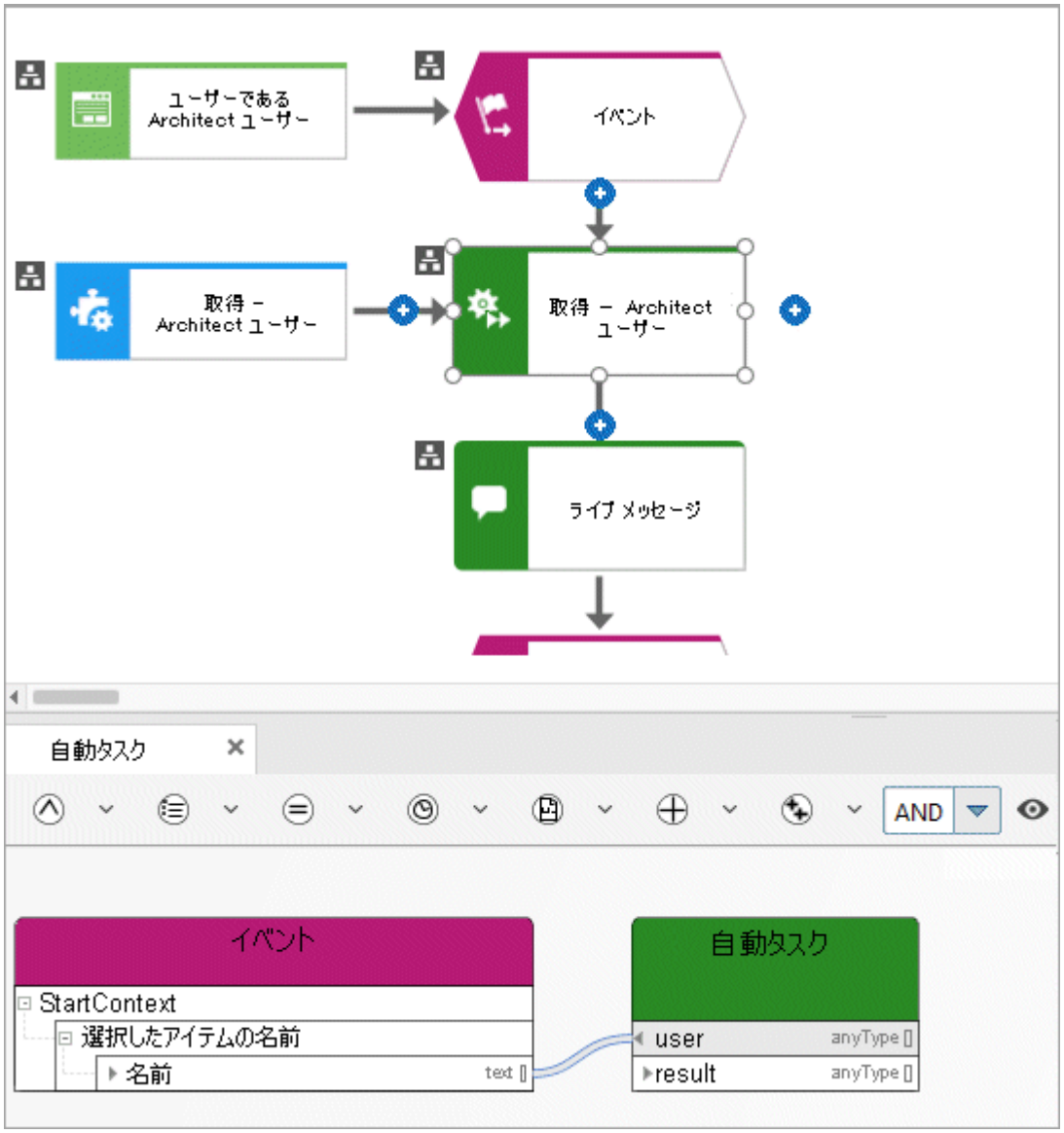


図 71: 取得 - Architect ユーザー

3.8.11 取得 - Connect Designer ユーザー

このサービスでは、ユーザーが ARIS Connect Designer ライセンスを持つかどうかが確認されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を提供するユーザー。	<ユーザー>
	結果	ユーザーが ARIS Connect ARIS Connect Designer ライセンスを持つ場合は TRUE、持たない場合は FALSE になります。	<論理値>

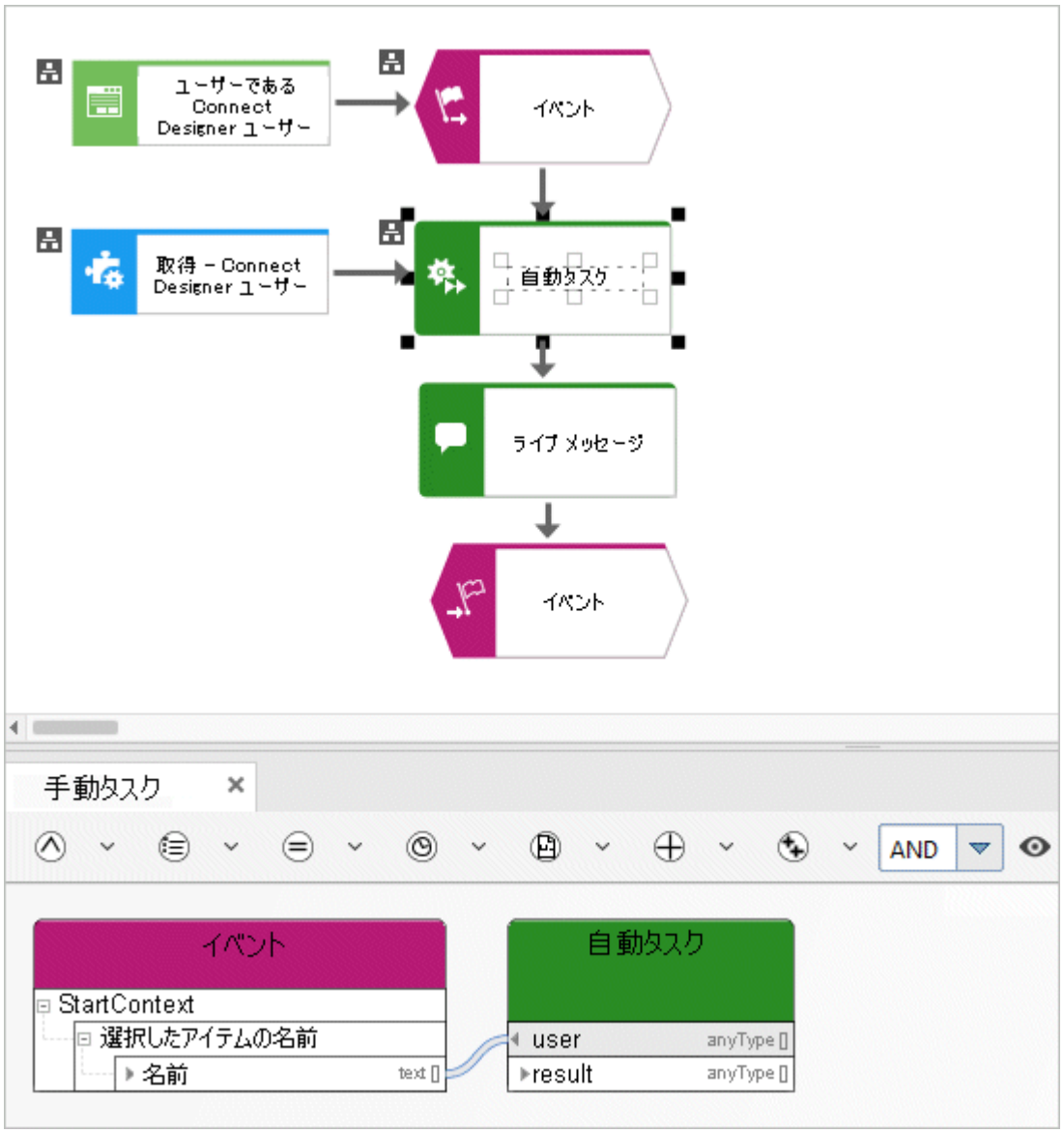


図 72: 取得 - Connect Designer ユーザー

3.8.12 取得 - プロセス ボード ユーザー

このサービスでは、ユーザーが ARIS Connect Viewer、ARIS Connect Designer または ARIS Viewer ライセンスを持つかどうかが確認されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を提供するユーザー。	<ユーザー>
	結果	ユーザーが ARIS プロセス ボード ライセンスをもつ場合は TRUE、もたない場合は FALSE になります。	<論理値>

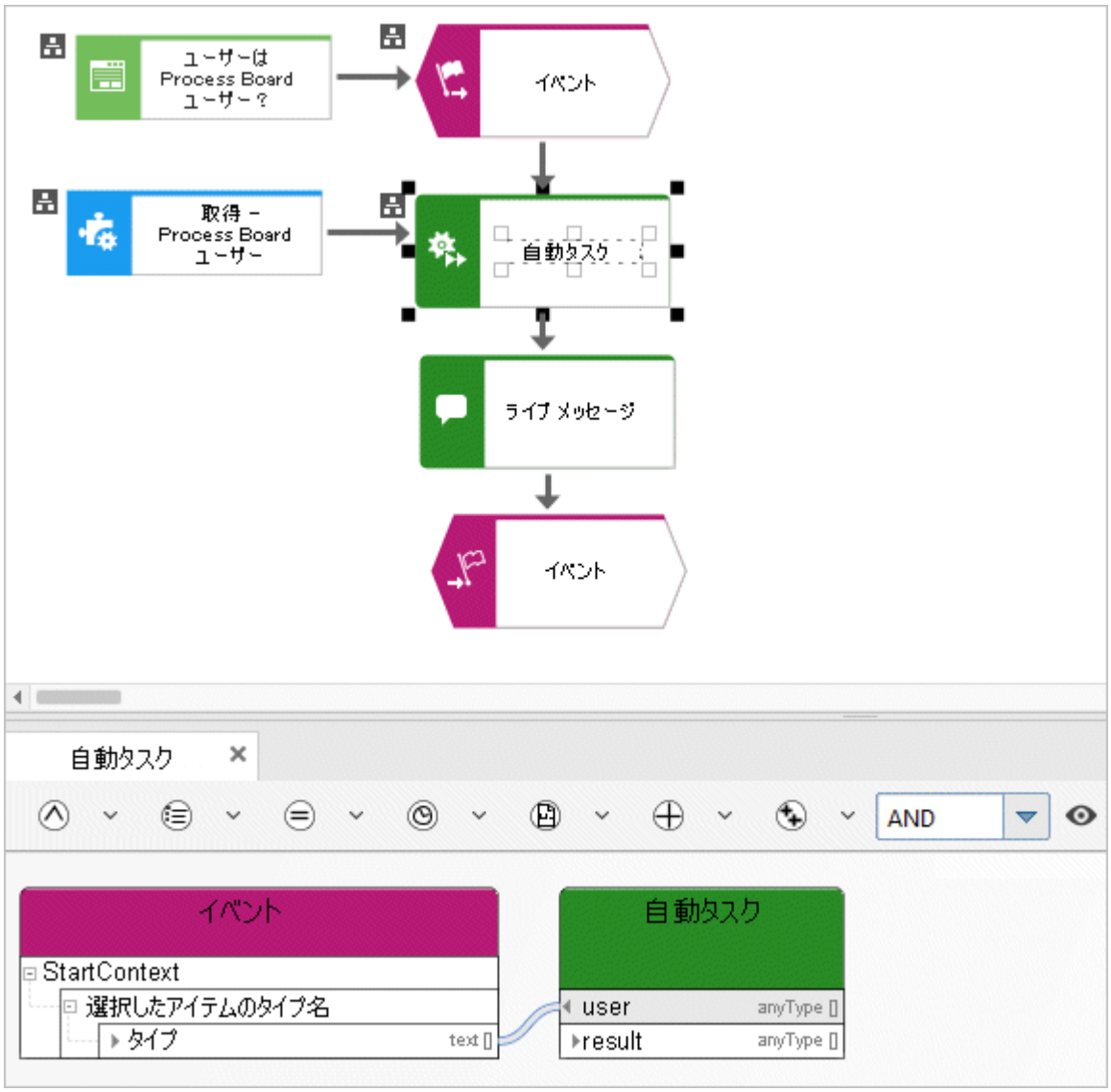


図 73: 取得 - プロセス ボード ユーザー

3.8.13 取得 - ユーザー グループに所属するユーザー

このサービスを使用すると、ユーザーが特定のユーザー グループと関連付けられているかがユーザー管理で確認されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー グループ	ユーザーの関連を確認するユーザー グループ。	<ユーザー> または <テキスト>
	ユーザー	ユーザー グループの関連を確認するユーザー。	<ユーザー> または <テキスト>
	結果	ユーザーがユーザー グループに属している場合は TRUE、それ以外の場合は FALSE です。	<論理値>

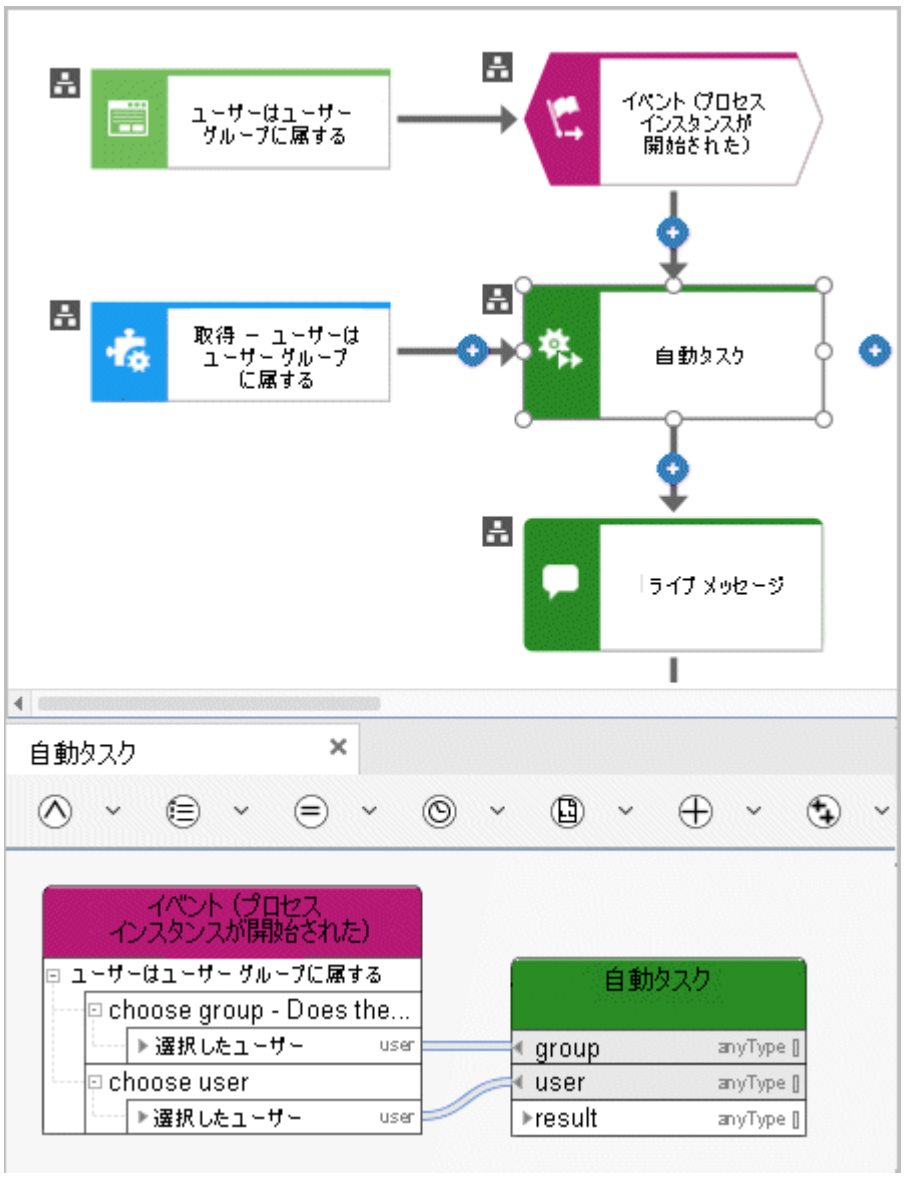


図 74: ユーザー管理 - 識別 - ユーザーのユーザー グループ

3.8.14 取得 - ユーザーのユーザー グループ

このサービスでは、ユーザーに関連付けられたすべてのユーザー グループがユーザー管理で検索されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	ユーザー グループの関連を確認するユーザー。	<ユーザー> または <テキスト>
	Usergroups	結果は、選択されたユーザーが所属するユーザー グループの一覧です。	<テキストの集合>

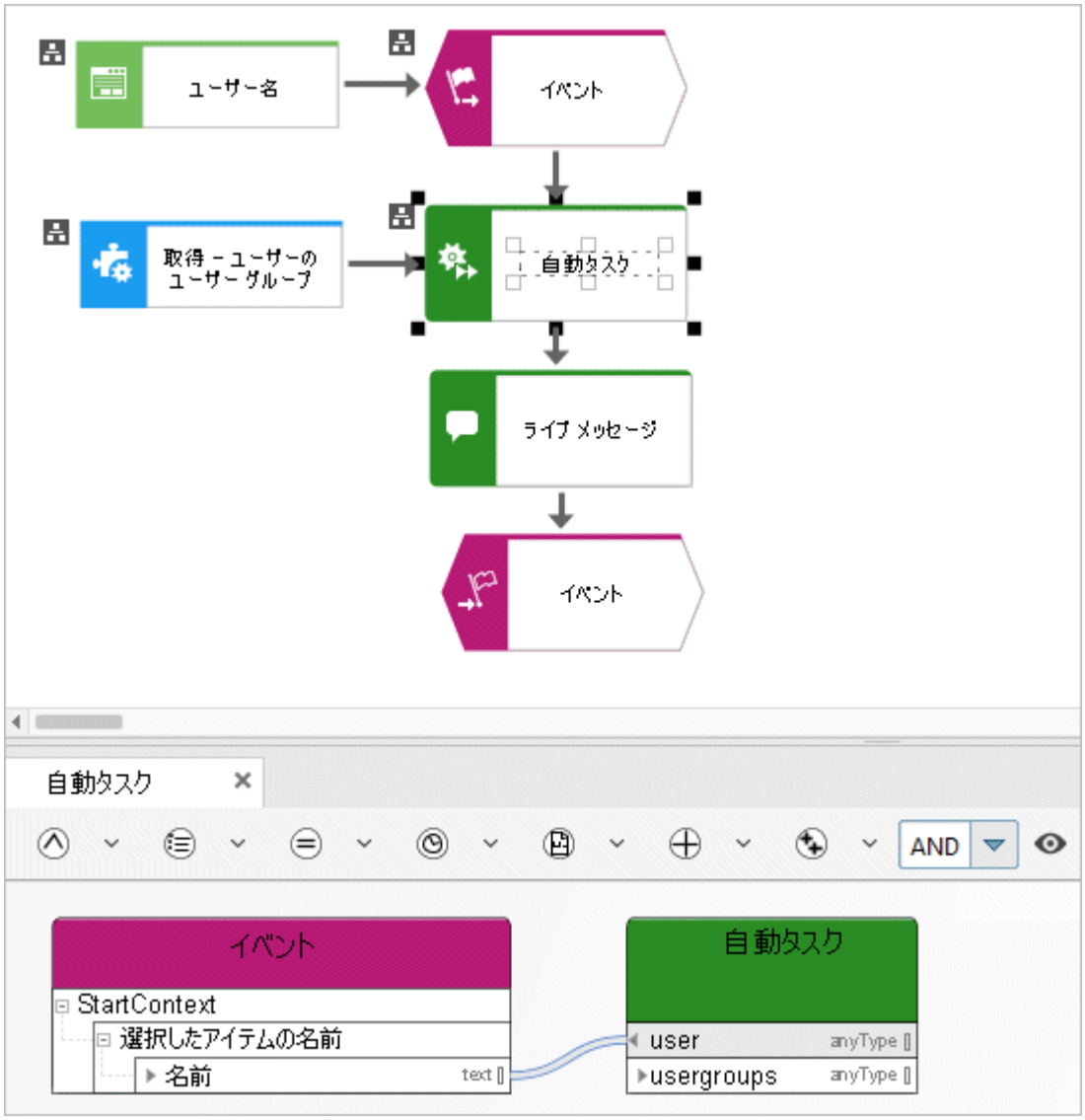


図 75: 取得 - ユーザーのユーザー グループ

3.8.15 取得 ー ユーザー情報

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザーに関する情報が取得されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	ユーザー	情報を提供するユーザー。	<ユーザー>
	電子メール アドレス	ユーザーの電子メール アドレス。	<テキスト>
	ユーザーの電話番号	ユーザーの電話番号です。	<テキスト>
	UUID	ユーザーの一意の識別子。	<テキスト>
	ログオン名	ログオンする際にユーザーが入力する名前。	<テキスト>
	姓	ユーザーの姓。	<テキスト>
	表示名	ユーザーの表示名。	<テキスト>
	名	ユーザーの名前。	<テキスト>

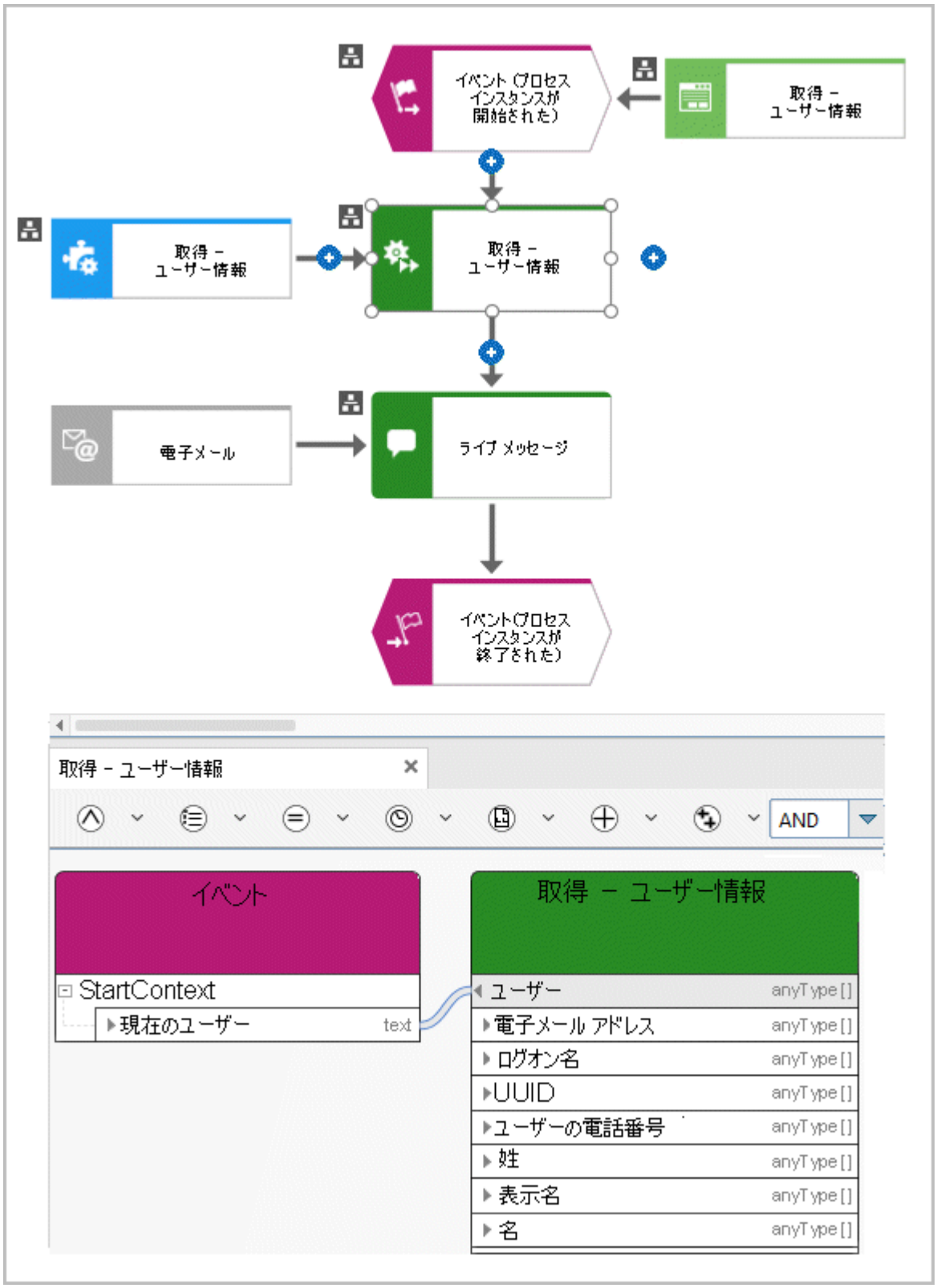


図 76: ユーザー管理 - 検出 - ユーザー情報

3.8.16 取得 - ユーザーの選択の有無

このサービスを使用すると、タスクの実行中に表示されるダイアログ ボックスのユーザー選択でユーザーが選択されているかどうかに関する情報が取得されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ユーザー	情報を取得するための、ダイアログ ボックス内の [選択したユーザー] ボックス。	<ユーザー>
←	結果	ダイアログ ボックスで少なくとも 1 人のユーザーが選択されている場合は FALSE、選択されていない場合は TRUE です。	<論理値>

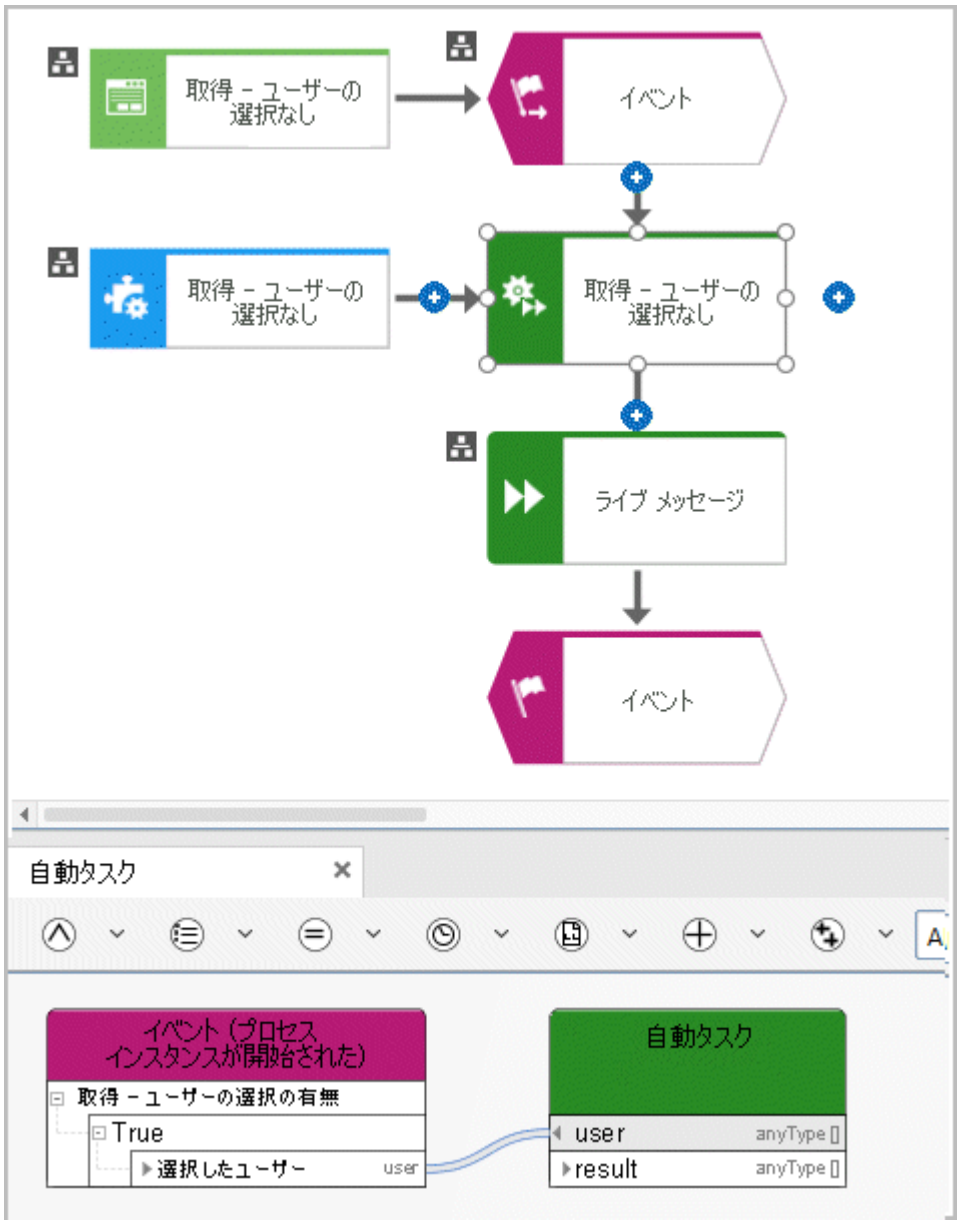


図 77: ユーザー管理 - 検出 - ユーザー選択が空

3.8.17 書込 - ユーザー情報

このサービスを使用すると、管理のユーザー管理からユーザーに関する情報が更新されます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	名	ユーザーの名前。	<テキスト>
	電子メール	ユーザーの新しい電子メール アドレス。	<テキスト>
	姓	ユーザーの新しい姓。	<テキスト>
	ユーザー	情報を更新するユーザー。	<ユーザー>
	ユーザー	更新されたユーザーのログオン名。	<テキスト>

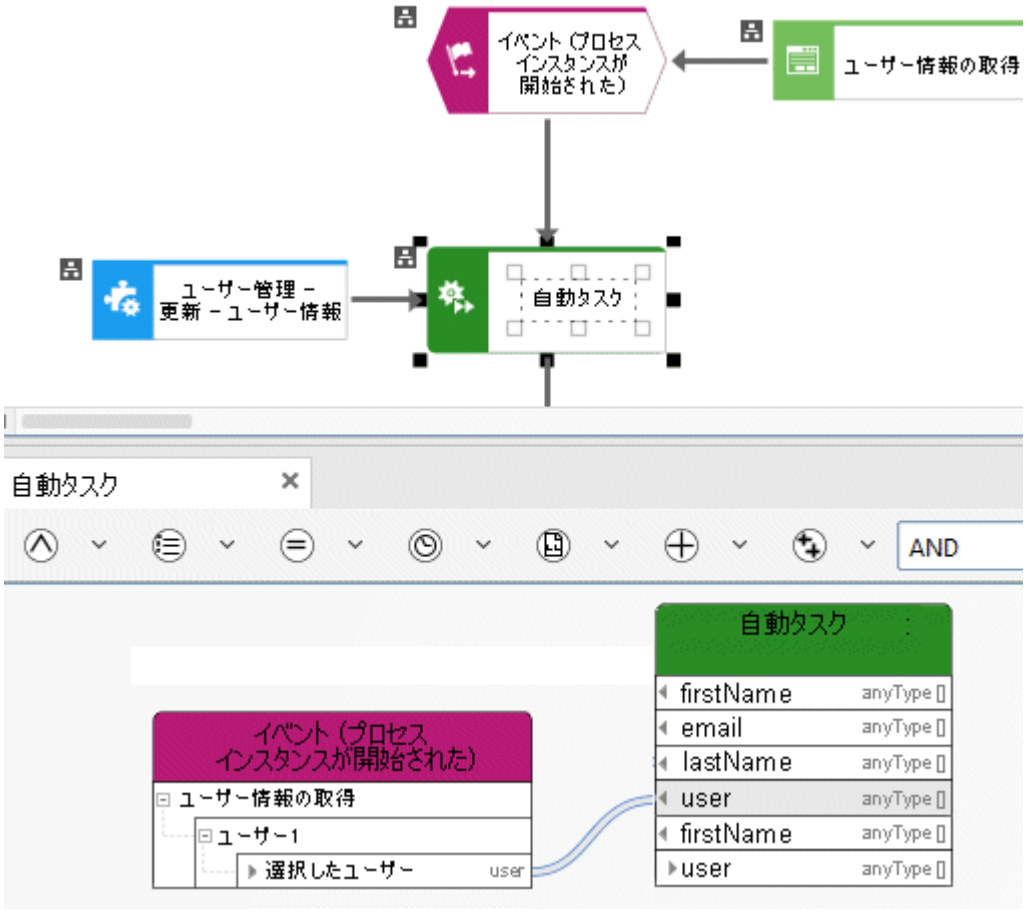


図 78: ユーザー管理 – 更新 – ユーザー情報

3.9 ローカル サービス

これらのサービスは、ガバナンス リソースの Governance Automation Models リファレンス データベースにあります。

これらのサービスは、JavaScript で書かれたスクリプト サービスです。これらのサービスは編集しないことを強く推奨します。

3.9.1 比較 - 論理値

論理値属性の比較。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	属性タイプ	値に TRUE または FALSE が指定されているか、あるいは値が未指定 (EMPTY) なのかを確認する論理値属性を定義してください。このためには、論理値属性を取り出すサービスの結果を、このサービスの入力データとして接続します。同じ属性について、複数アイテムを解釈できます (複数の EPC において、モデル属性 [意味論分析が正常に実行済み] など)。	<任意>
	結果	このサービスは、すべてのアイテムの論理値属性に TRUE が設定されている場合は TRUE を返します。このサービスは、論理値属性が設定されていないアイテムが少なくとも 1 つある場合は、EMPTY を返します。このサービスは、すべてのアイテムの属性が指定されていて、かつ FALSE が設定されているアイテムが少なくとも 1 つある場合は、FALSE を返します。このサービスは、2 つ未満のアイテムが比較される場合も FALSE を返します。	<任意>

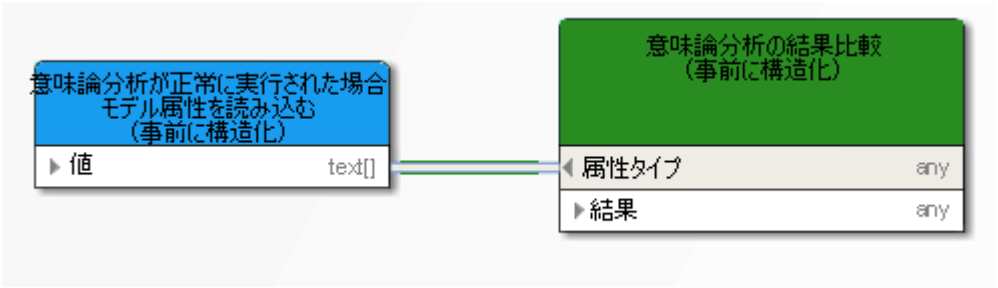


図 79: 論理値の比較

3.9.2 比較 - 未来のタイムスタンプ

このサービスは、現在のタイムスタンプと指定されたタイムスタンプを比較します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	比較するタイムスタンプ	[手動タスク] または [自動タスク] タイプの別のオブジェクトのタイムスタンプを接続してください。 このタイムスタンプは、現在のタイムスタンプと比較されます。	<任意>
	結果	このサービスは、確認したタイムスタンプが未来である場合に、TRUE を返します。 そうでなければ、FALSE を返します。	<任意>

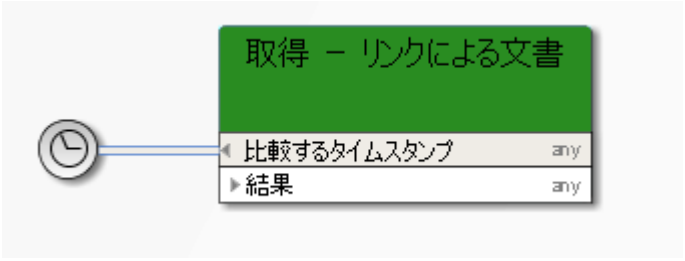


図 80: 未来日付の確認

3.9.3 比較 - 文字列

このサービスは、複数のアイテムのテキスト属性に同じ値が設定されているかどうかを確認します。たとえば、複数のモデルの [ステータス] 属性の設定値を確認するなど。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	属性タイプ	複数アイテムで同時に値を確認するテキスト属性を指定してください。このためには、テキスト属性を取り出すサービスの結果を、このサービスの入力データとして接続します。複数アイテムが解釈されます。たとえば、EPC タイプの複数モデルのテキスト属性など。	<任意>
	結果	このサービスは、すべてのアイテムのテキスト属性に同じ値が設定されている場合、TRUE を返します。たとえば、すべての [モデル ステータス] 属性に [リリース済] が設定されている場合などです。このサービスは、異なる値が少なくとも 1 つのアイテムで見つかった場合、FALSE を返します。たとえば、モデル 1 の [モデル ステータス] 属性に [リリース済] が設定されているが、モデル 2 には [拒否] が設定されている場合などです。	<任意>

図 81: テキスト属性 (文字列) の比較

3.9.4 比較 - 時間属性

このサービスは、モデルまたはオブジェクトの 2 つの時間属性を比較し、いずれかのタイムスタンプがもう片方よりも最近かどうかを確認します。さらに、より新しい時間属性を持つモデルまたはオブジェクトをリストにします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	時間属性（旧）	より以前となる属性値を定義してください。これを実行するには、必要な時間属性を取得した [自動タスク] オブジェクトの出力データを接続します。例: 定義済みモデルの [更新日時] 属性。	<任意>
	時間属性（新）	より最近となる属性値を定義してください。これを実行するには、必要な時間属性を取得した [自動タスク] オブジェクトの出力データを接続します。例: 定義済みモデルで意味論分析が実行された時間。	<任意>
	選択したアイテム	検索するモデルまたはオブジェクトを選択してください。これを実行するには、あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク]、または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトからモデル、オブジェクト、またはグループを接続するか、GUID を入力して演算子 [集合の作成] を使用します。	<任意>
	結果	このサービスは、[時間属性(新)] が [時間属性(旧)] よりも最近であるモデルまたはオブジェクトが、比較対象で少なくとも 1 つある場合は、TRUE (論理値) を返します。このサービスは、[時間属性 (新)] が指定されていないモデルまたはオブジェクトが、比較対象で少なくとも 1 つある場合は、EMPTY を返します。そうでない場合、サービスは FALSE (論理値) を返します。	<任意>
	TRUE と EMPTY のアイテム リスト	このサービスは、次の確認基準のいずれかに合致するすべてのモデルまたはオブジェクトをリストにします: [時間属性 (新)] が [時間属性 (旧)] よりも最近の場合、あるいは [時間属性 (新)] が設定されていない場合。	<任意>

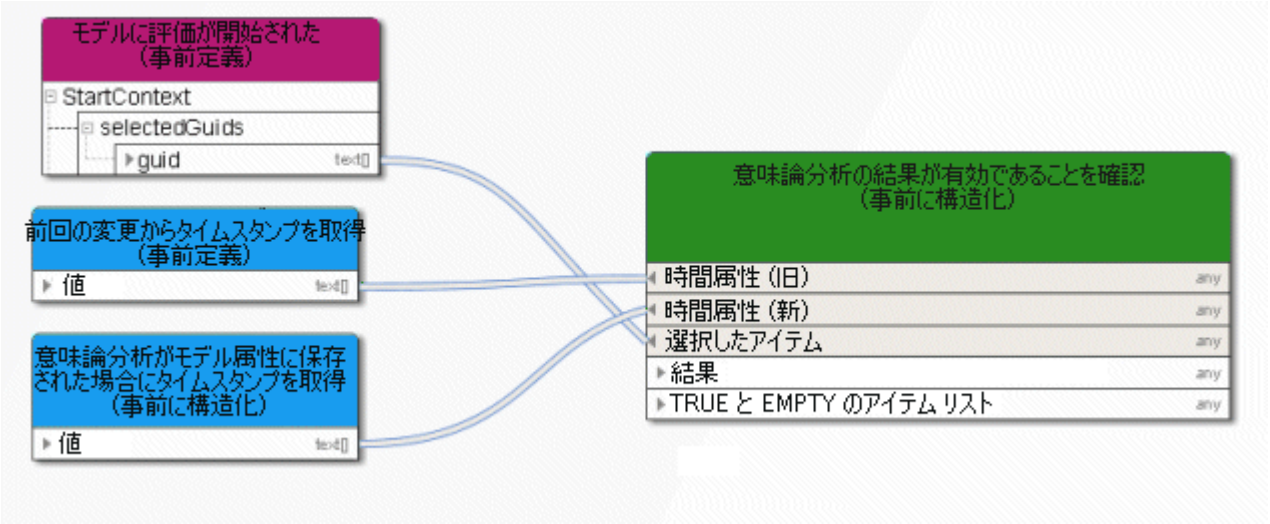


図 82: 時間属性の比較

3.9.5 比較 - 値が空

このサービスは、事前に定義された値 (属性など) が設定されているかどうかを確認します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	確認対象値	確認する値を入力します。 このためには、たとえば、複数のモデルから 1 つの属性を抽出するサービスの接続などをしてください。	<任意>
	少なくとも 1 つの値が未設定	このサービスはリストで少なくとも 1 つの値が設定されていない場合、TRUE (論理値) を返します。 そうでない場合、サービスは FALSE (論理値) を返します。	<任意>
	複数値が未設定	このサービスはリストに値が設定されていない場合、TRUE (論理値) を返します。 そうでない場合、サービスは FALSE (論理値) を返します。	<任意>

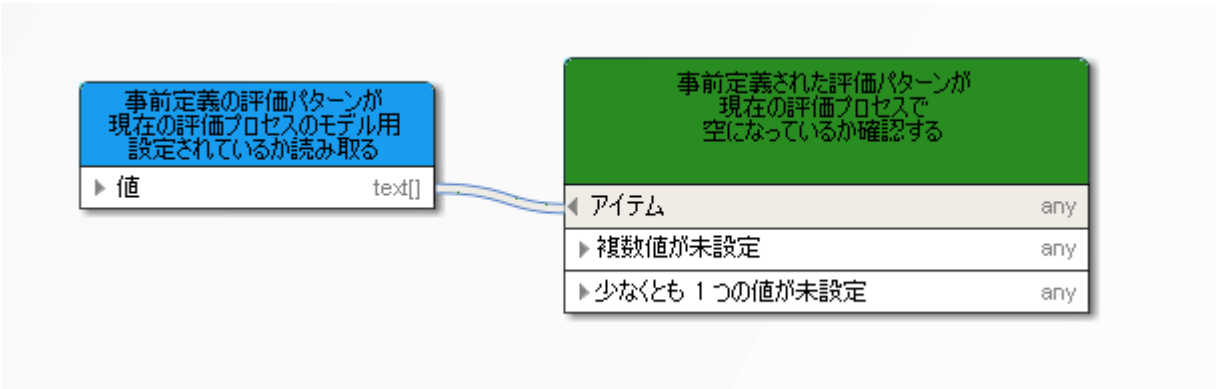


図 83: 値が設定されているかを比較

3.9.6 作成 - 変更番号

サービスは、定義済みの値ごとにバージョン番号を増やします。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	選択した値	確認する番号リストを入力することができます（例：すべてのモデルの［バージョン番号］属性のリスト）。これを実行するには、［手動タスク］、［自動タスク］または［イベント（プロセス インスタンスが開始された）］タイプの別のオブジェクトから番号に接続するか、定数を定義してください。それから演算子［集合の作成］を使用します。	<任意>
	増分数	増加させる定義済みの値ごとに番号を入力します。これを実行するには、［手動タスク］、［自動タスク］または［イベント（プロセス インスタンスが開始された）］タイプの別のオブジェクトの番号に接続するか、［10 進数］タイプの定数を定義してください。	<任意>
	選択した値	このサービスは、変更された値のリストを返します。	<任意>

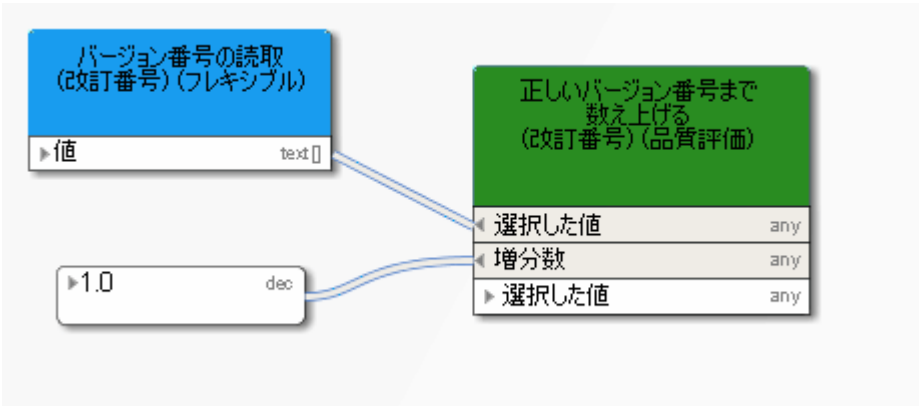


図 84: 番号の作成または変更

3.9.7 作成 - 手動タスクのログ

このサービスは、[手動タスク] タイプのファンクションを実行する際、要員がダイアログで行う入力を返します。 サービスによる結果は、たとえばモデルまたはオブジェクトの [変更リスト] 属性に入力されて、詳細なドキュメンテーションを正確なものにすることができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	ダイアログ要素	[手動タスク] タイプのファンクションを繰り返しタスクとしてコピーし、コメントなどのダイアログ要素で繰り返しタスクに接続してください。 複数のダイアログ要素のログには、[連結] 演算子を使用します。 ダイアログ要素自身を接続する前に、たとえばダイアログ名のあるモデル定数など、接続されているダイアログ要素の入力を構成する定数を使用してください。 定数には、スペースやセミコロンを区切り文字として使用することもできます。	<任意>
→	実行者 ID	繰り返しタスクとしてログを取りたい [手動タスク] タイプのファンクションをコピーして、実行者の ID を含むフィールドに接続してください。 ログは、各実行者ごとに出力されます。	<任意>
←	結果	実行者とエントリごとに選択されたダイアログ要素に、繰り返しタスクとしてコピーされた [手動タスク] ファンクションに接続された実行者によってなされたエントリのログが出力されました。 サービスによる結果は、たとえばモデルまたはオブジェクトの [変更リスト] 属性に入力されて、[手動タスク] ファンクション タイプのダイアログに指定された入力実行者の詳細なドキュメンテーションを正確なものにすることができます。	<任意>

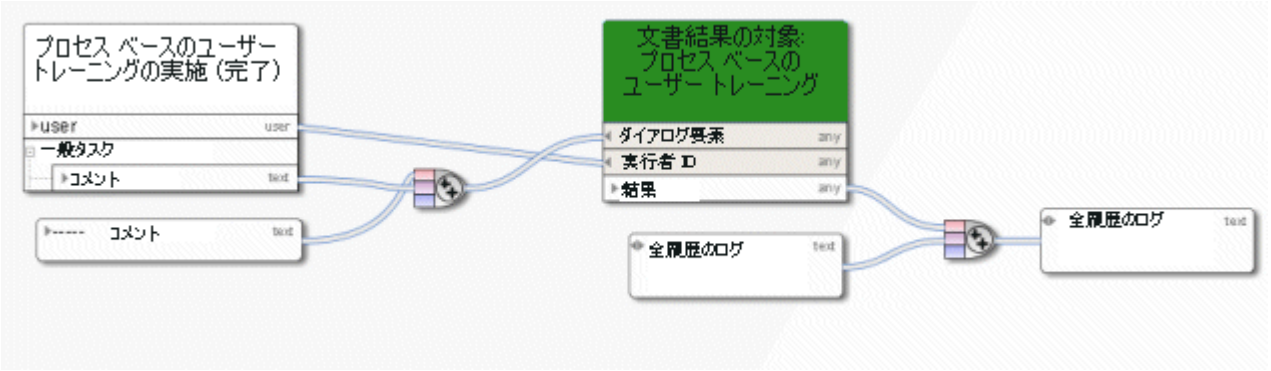


図 85: ユーザー入力のログ

3.9.8 作成 - 手動タスクのログ (委任と代行を考慮)

手動タスクは、元の受託者または委任/代行のいずれかによって完了できます。このユーザーは元の受託者の代行として、あるいはタスクを委任されたユーザーとして機能します。

サービスは、委任/代行が元の受託者の代わりとして完了したという情報を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	元の受託者	繰り返しタスクとしてログを記録する [手動タスク] ファンクションをデータ フローにコピーします。 タスクの元の実行者を [元の実行者] フィールドに接続します。各実行者 (元の受託者または委任/代行) のログが記録されます。	<ユーザー>
	コメント	手動タスクのダイアログ ボックスにコメントが含まれる場合は、手動タスクのフィールドを自動タスクの [コメント] フィールドに接続します。	<任意>
	完了日	手動タスクの日付フィールドを、自動タスクの [completedDate] フィールドに接続します。これは、手動タスクの完了日です。	<任意>
	実行者 ID	委任または代行が発生した場合は、タスクを実行した委任または代行を接続します。[手動タスク] ファンクションまたは繰り返しタスクがソースになります。委任または代行なしに元の受託者がタスクを実行した場合は、元の受託者が含まれます。	<ユーザー>
	結果	実行者 (元の実行者と委任または代行) とエントリごとに選択されたダイアログ要素に、繰り返しタスクとしてコピーされた [手動タスク] ファンクションに接続された実行者によってなされたエントリのログが出力されました。 サービスによる結果は、たとえばモデルまたはオブジェクトの [変更リスト] 属性に入力されて、[手動タスク] ファンクション タイプのダイアログに指定された入力実行者の詳細なドキュメンテーションを正確なものにすることができます。	<任意>

イベント
承認
手動タスク
組織ユニット
作成 – 手動タスクのログ（委任と代理を含める）
自動タスク
自動タスク
AND
手動タスク（完了）
user user
participantsNumber decimal
completedNumber decimal
completedDate time
originalAssignee user
承認
許可されている委任
groupFilter user
selectedUsers user
コメント text
期日 time
実行者
groupFilter user
selectedUsers user
送信 bool
監査ログ text
自動タスク
元の受託者 anyType []
実行者 ID anyType []
ダイアログ要素 anyType []
完了日 anyType []
結果 anyType []
監査ログ text

3.9.9 獲得 - リンク (デザイン)

このサービスは、モデル リンクのリストを提供します。これらのリンクは、ARIS モデリング データベースにユーザーがアクセスするダイアログの入力データとして使用することができます。リンクされたモデルは、開いて編集することができます。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
→	データベース名	モデルが保存されているデータベースに接続してください。これを実行するには、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)]、[手動タスク] または [自動タスク] のいずれかのタイプのオブジェクトに接続します。	<任意>
→	言語	データベースのログオンに [自動タスク] タイプのオブジェクトが使用する言語です。例: 日本語の場合「ja」。	<任意>
→	サーバー	データベースが格納されているサーバーに接続してください。これを実行するには、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプのオブジェクトを使用します。	<任意>
→	選択したモデル	検索するモデルを選択します。あらかじめ選択した [手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから接続してください。	<任意>
←	リンク リスト	すべての関連モデルにリンク リストが用意されます。これらのリンクは、ARIS モデリング データベースにユーザーがアクセスするダイアログの入力データとして使用することができます。注意: ダイアログの 1 つのリンク フィールドに許可されるリンク数は 1 つのみです。このサービスは、モデルにアクセスするためのリンク設定が複数ある場合に、リンクのリストを提供します。ダイアログのデータ フローで、選択を決定する演算子を使用してすべてのリンクを個別にモデリングしてください。	<任意>

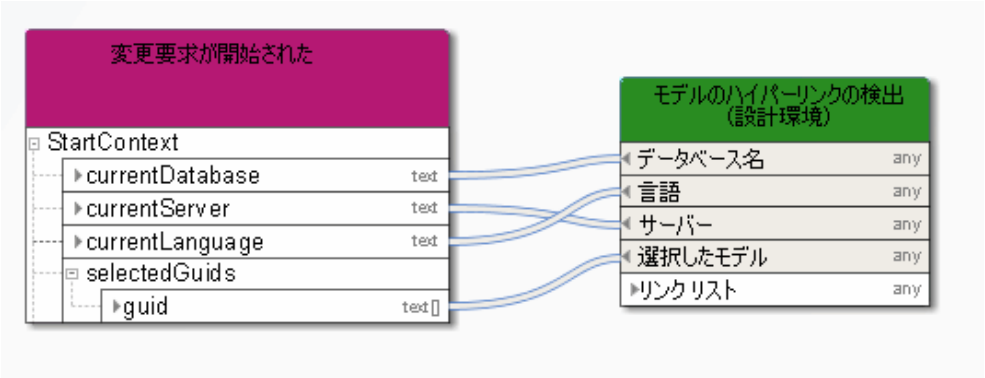


図 86: モデル リンクの出力 (デザイン)

3.9.10 獲得 - 番号 (最大/最小)

サービスは、所定の番号を比較し、最大または最小番号を返します。

イン/アウト	名前	詳細	データ型
	番号リスト	このサービスは、番号リストを比較します。[手動タスク]、[自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] タイプの別のオブジェクトから番号に接続するか、定数を定義してください。演算子 [集合の作成] を常に使用します。	<任意>
	必要な選択	このサービスは、所定のリストから最大番号または最小番号を出力します。サービスが所定のリストから最大番号を返す場合は、TRUE (論理値)を入力してください。サービスが所定のリストから最小番号を返す場合は、FALSE (論理値)を入力してください。値が指定されていない場合は、FALSE (論理値)がデフォルト値として使用されます。	<任意>
	結果	結果は、番号リストの最大または最小番号です。	<任意>

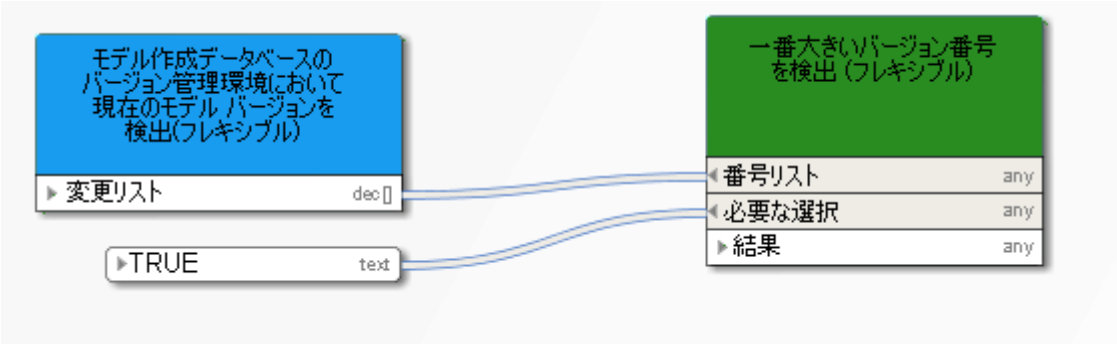


図 87: 最大/最小番号の選択

3.10 データ フロー内の演算子

3.10.1 数値演算子

3.10.1.1 追加

数またはタイム スパンを持つ日付の加算です (例: 5 月 11 日に 10 日を加算すると、5 月 21 日になります)。

次の組み合わせが可能です。

最初のスロット	2 番目のスロット	結果
日付	期間	日付
日付と時刻	期間	日付と時刻

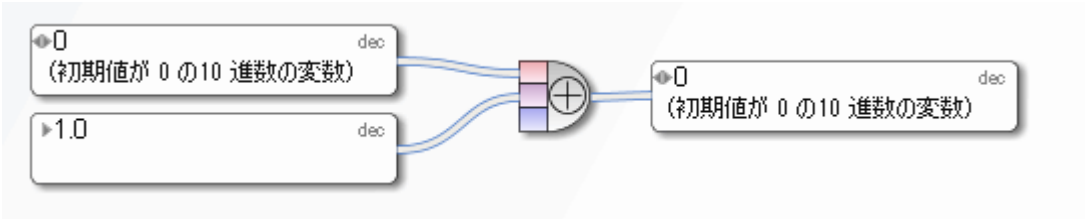


図 88: 追加

3.10.1.2 減算

期間から数または日付を減算します。2 番目のエントリが、1 番目のエントリから差し引かれます。 例: 5 月 11 日から 10 日を減算すると、5 月 1 日になります。

次の組み合わせが可能です。

最初のスロット	2 番目のスロット	結果
日付	日付	期間
日付	期間	日付
日付と時刻	期間	日付と時刻
日付と時刻	日付と時刻	期間

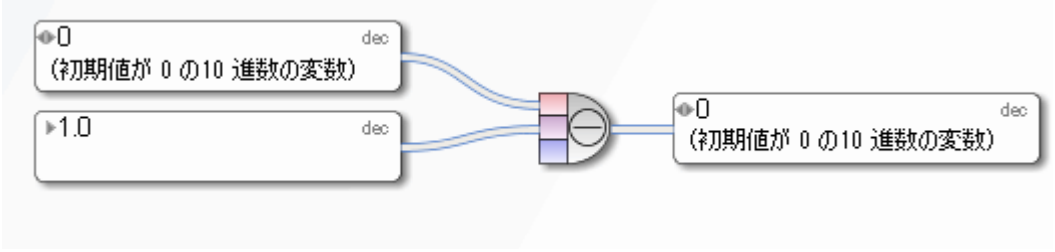


図 89: 減算

3.10.1.3 乗算

数の乗算

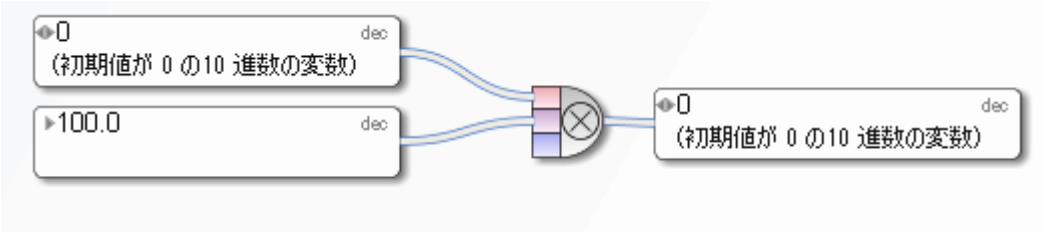


図 90: 乗算

3.10.1.4 除算

数の除算

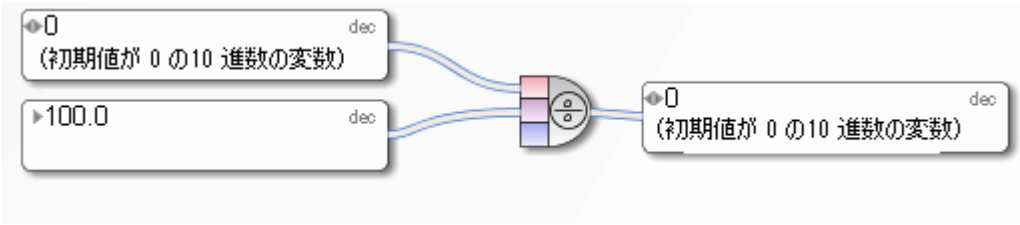


図 91: 除算

3.10.2 比較演算子

3.10.2.1 等しい

両方の入力オブジェクトが等しい場合、数値演算子 [等しい] は TRUE を返します。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

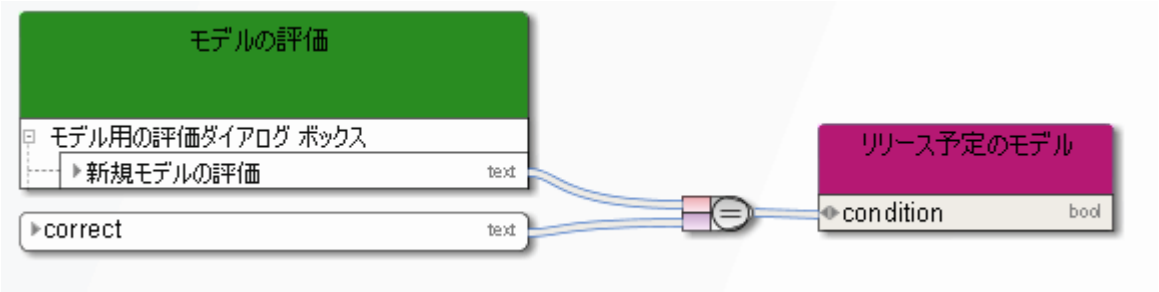


図 92: 等しい

[等しい] 演算子を使用したユーザー オブジェクトの比較は、両方のユーザー オブジェクトが、たとえば [取得 - ユーザー グループに所属するユーザー] サービスなどを使用して同じ方法で検出された場合にのみ機能します。これ以外の場合は、独自のローカル サービスを作成してユーザーを比較してください。

3.10.2.2 等しくない

両方の入力オブジェクトが等しくない場合、数値演算子 [等しくない] は TRUE を返します。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

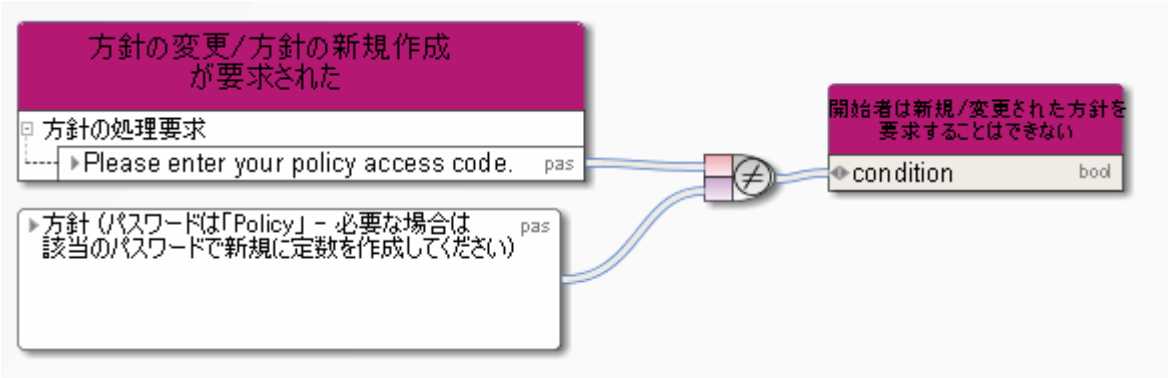


図 93: 等しくない

3.10.2.3 より大きい

数値演算子 [より大きい]。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。[ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

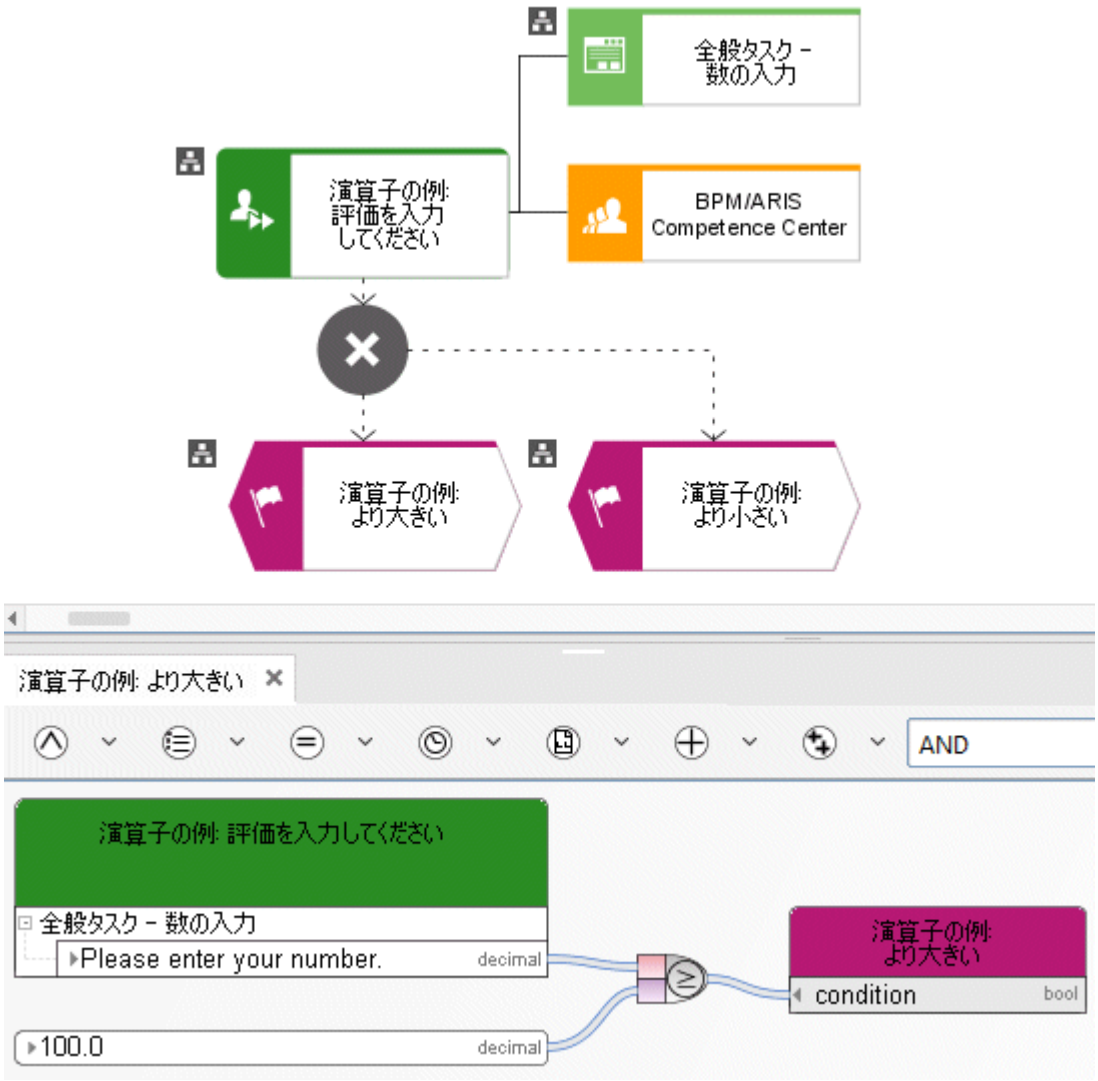


図 94: より大きい

3.10.2.4 以上

	数値演算子［以上］。この演算子は、[ローカライズされた文字列］タイプの定数とともには使用できません。［ローカライズされた文字列］タイプの定数は、複数言語で設定できます。

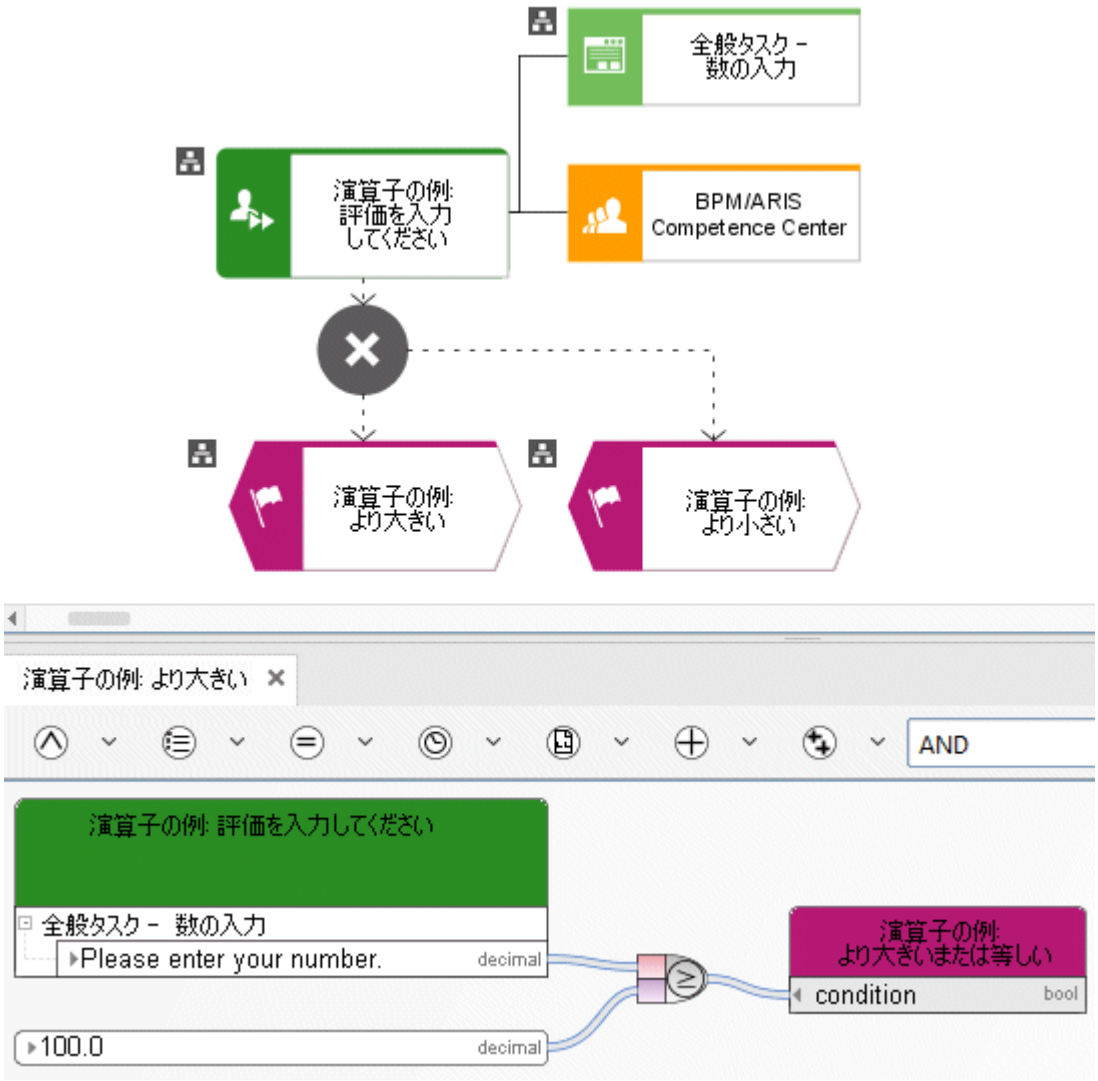


図 95: 以上

3.10.2.5 より小さい

数値演算子 [より小さい]。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。[ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

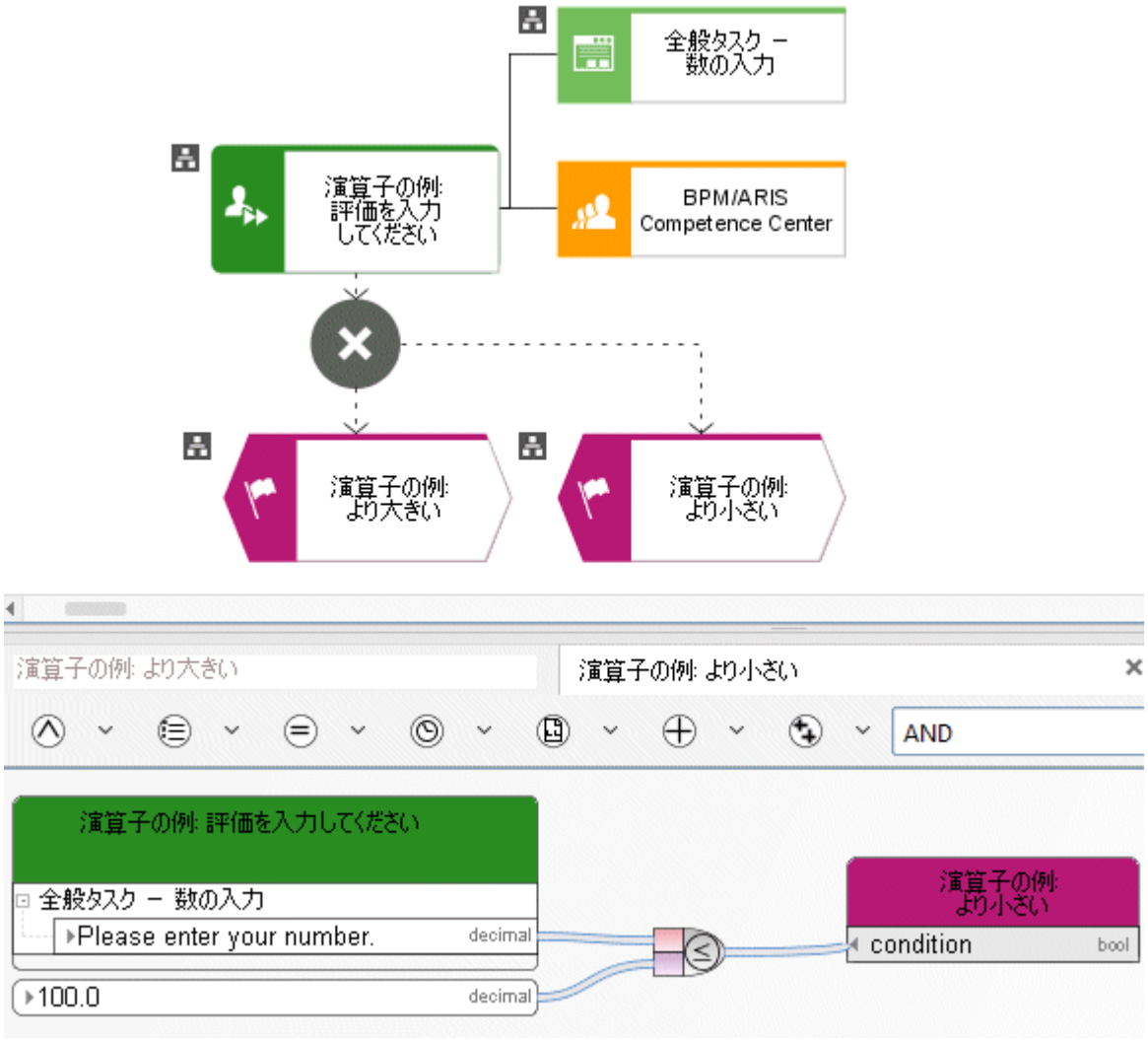


図 96: より小さい

3.10.2.6 以下

	数値演算子 [以下]。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。[ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

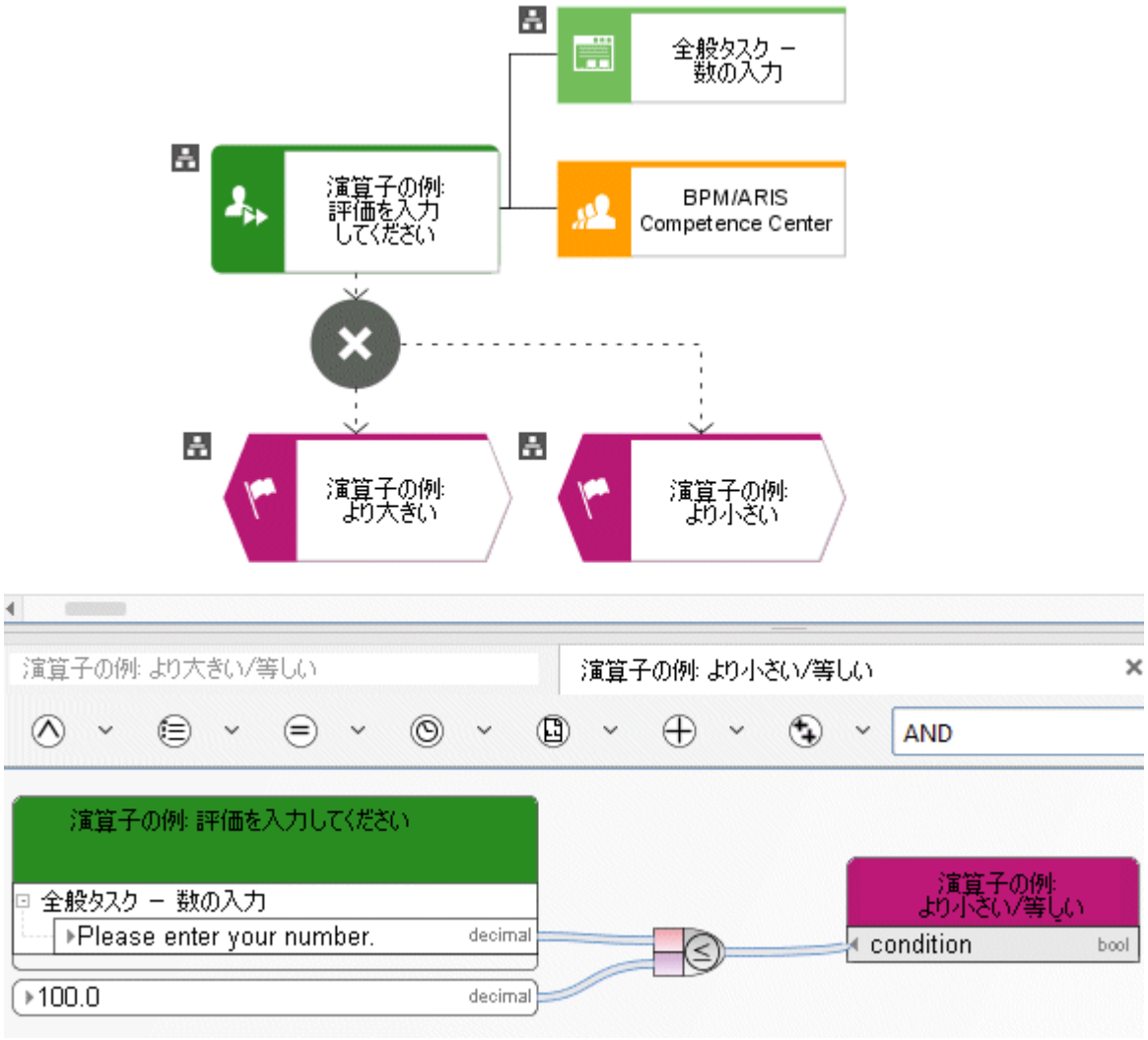


図 97: 以下

3.10.3 論理演算子

3.10.3.1 AND 演算子

[AND] 演算子は論理演算子であり、プロセス インスタンスにすべての入力オブジェクトが存在するという条件を表します。

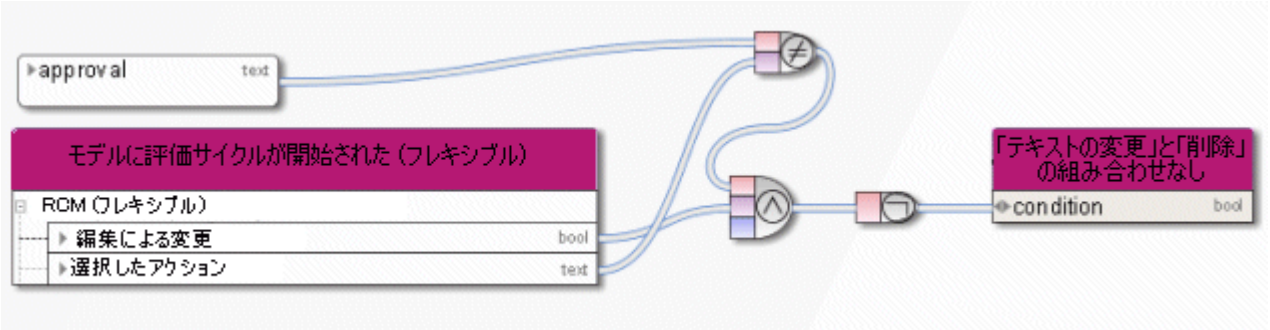


図 98: AND

3.10.3.2 OR 演算子

OR 演算子は、論理演算子です。これは、プロセス インスタンスに少なくとも 1 つの入力オブジェクトが存在しなければならないという条件を表します。

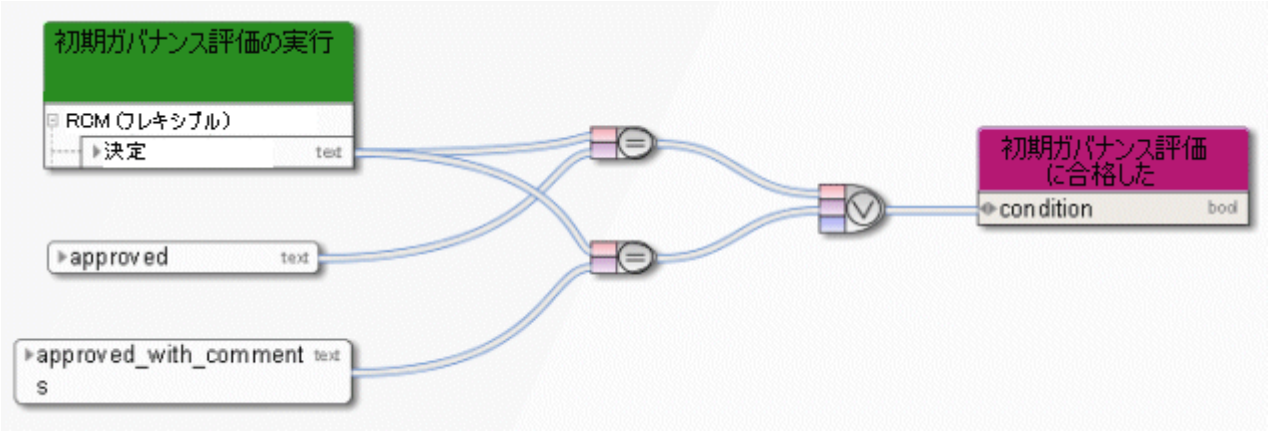


図 99: OR

3.10.3.3 NOT 演算子

[NOT] 演算子は、論理演算子です。この演算子は、論理変数の値を反転します。グラフィックでは、入力オブジェクトは変数 [一時ファイル作成] になります。したがって、この演算子は、一時ファイルが削除されないという条件を満たしているかどうかを指定します。

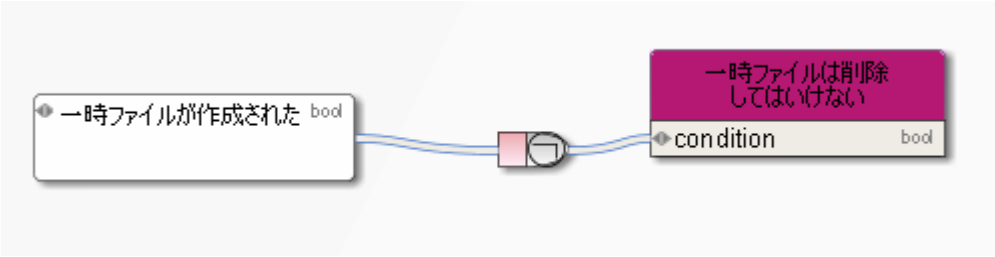


図 100: NOT

3.10.4 集合の演算子について

3.10.4.1 ID によりアイテムを選択

特定の ID を持つ一覧アイテムを返します。この演算子に必要な最初のパラメーターは、アイテムを選択するための一覧です。演算子の 2 番目のパラメーターは、必要なアイテムの ID (キー) です。

対応する属性は、API 名を使用して一覧から選択されます。

この演算子を使用して、[ローカライズされた文字列] タイプの定数を文字列に変換できます。 自動プロセスの実行時間中には、定数に含まれるテキストはユーザーの選択した言語で表示されます。 そのために、最初の演算子スロットの入力に [ローカライズされた文字列] タイプの定数と、ロケールを含む [文字列] タイプの定数を使用します。

[文字列] タイプの定数値は、以下の形式である必要があります。<言語_地域[バリアント]> (例: en_US)。[ローカライズされた文字列] タイプの定数に接続されるロケールの値が含まれない場合は、結果は空の文字列になります。

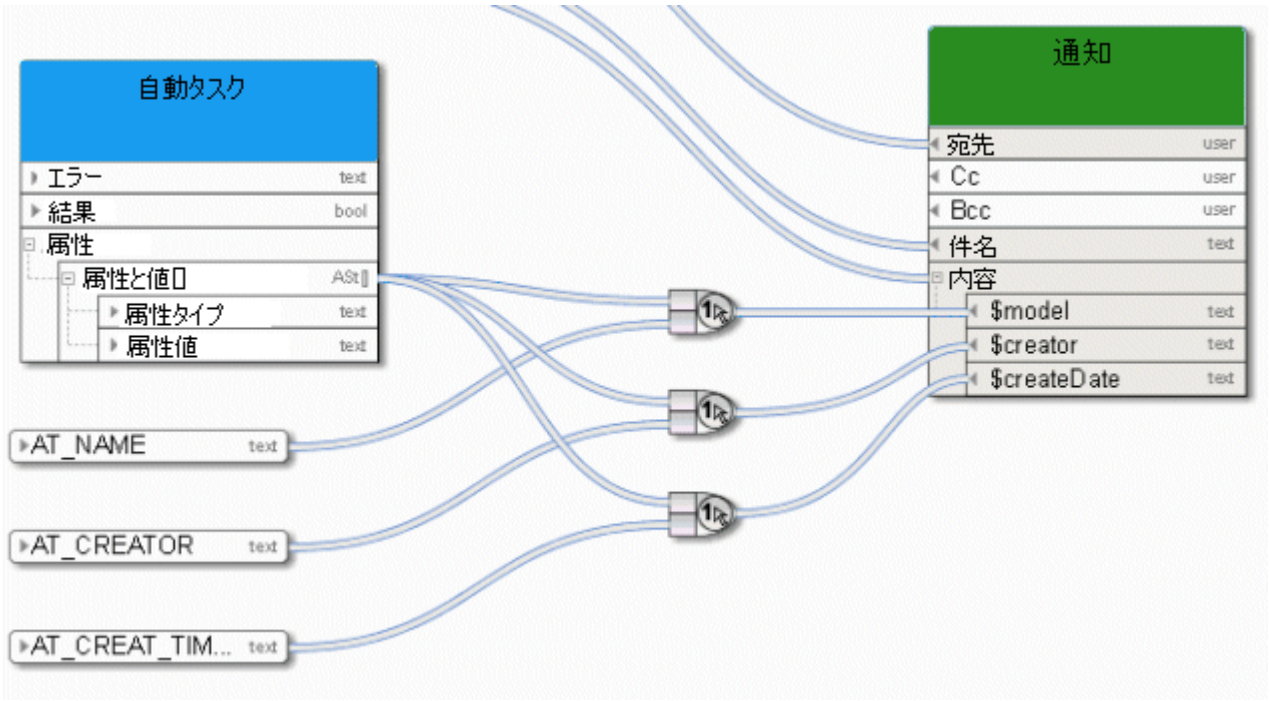


図 101: ID によりアイテムを選択

3.10.4.2 位置によるアイテムの選択

転送された整数インデックス値にしたがって、インデックス付きの一覧（集合）からアイテムを返します。 1 番目のパラメーターは集合で、2 番目のパラメーターはインデックスです。

ここで、このサービスは、その後の処理のために 1 番目のアイテムが選択されたリンクの一覧を提供します。

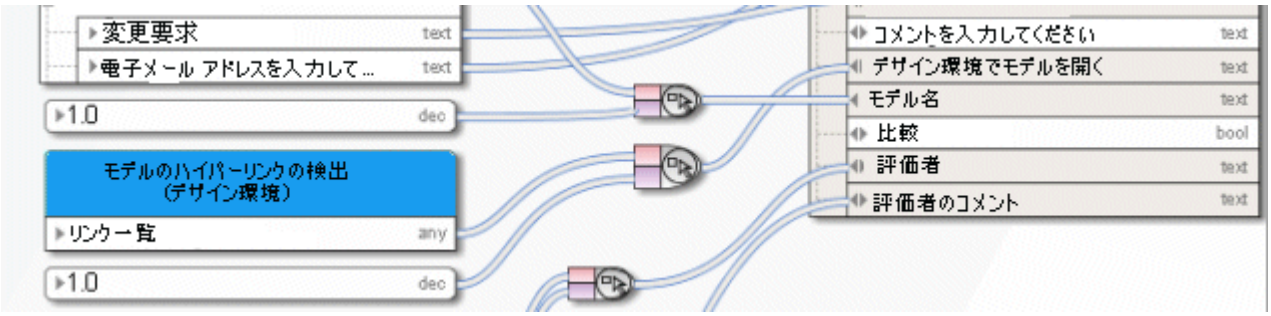


図 102: 位置によるアイテムの選択

3.10.4.3 集合の作成

同じタイプのオブジェクトで構成される集合（一覧、データ系列）を作成します。この演算子は、ここで、サービスによってさらに処理される属性タイプの一覧を定義するために使用します。

この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

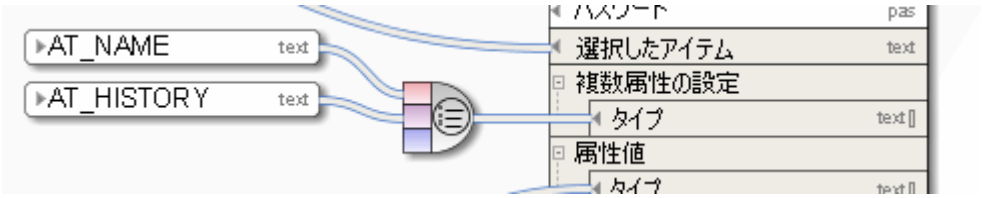


図 103: 集合の作成

3.10.4.4 集合サイズの検出

同じタイプのオブジェクト集合（一覧、一連のデータ）のアイテム数を取得して、整数として出力します。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

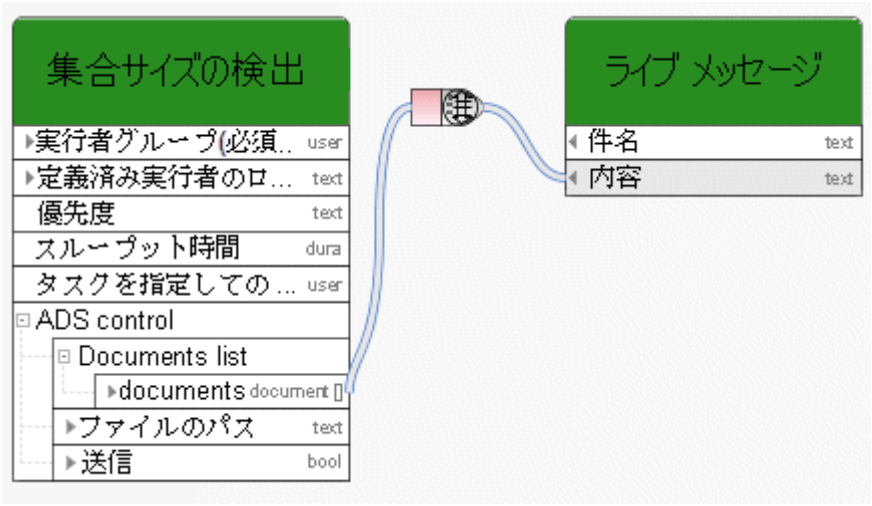


図 104: 集合サイズの検出

3.10.4.5 集合の交差を作成

2 つの一覧の交差部分を検出します。たとえば、一方の一覧に数値 10、113、127 が含まれ、もう一方の一覧に数値 1 と 127 が含まれる場合、この演算子は数値 127 を返します。この演算子は、すべてのデータ型の一覧に使用できます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

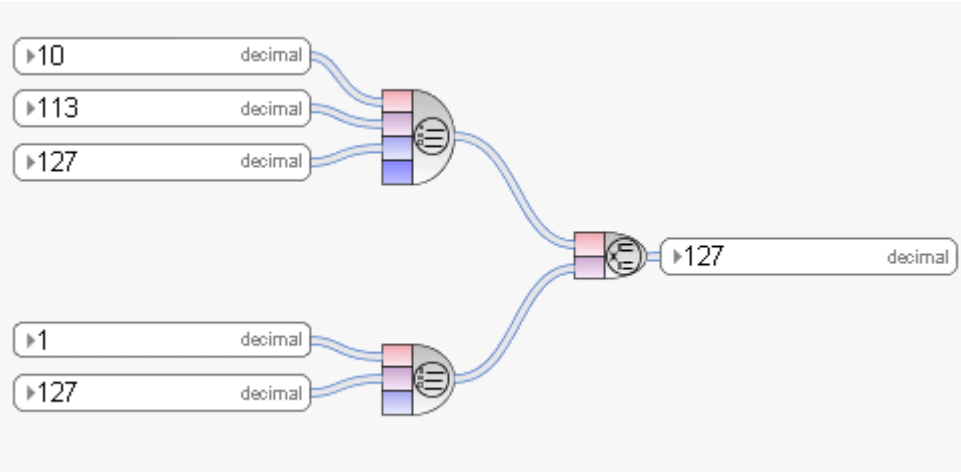


図 105: 集合の交差を作成

3.10.4.6 行の書式設定

新しい文字列を集合から作成します。文字列には、元の順序を保ち、改行で区切られた状態で集合のすべてのオブジェクトが含まれます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

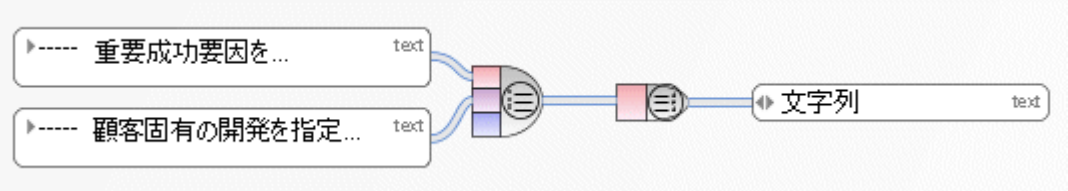


図 106: 集合を文字列に変換

3.10.4.7 集合の妥当性確認

この演算子は、集合の妥当性を確認します。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

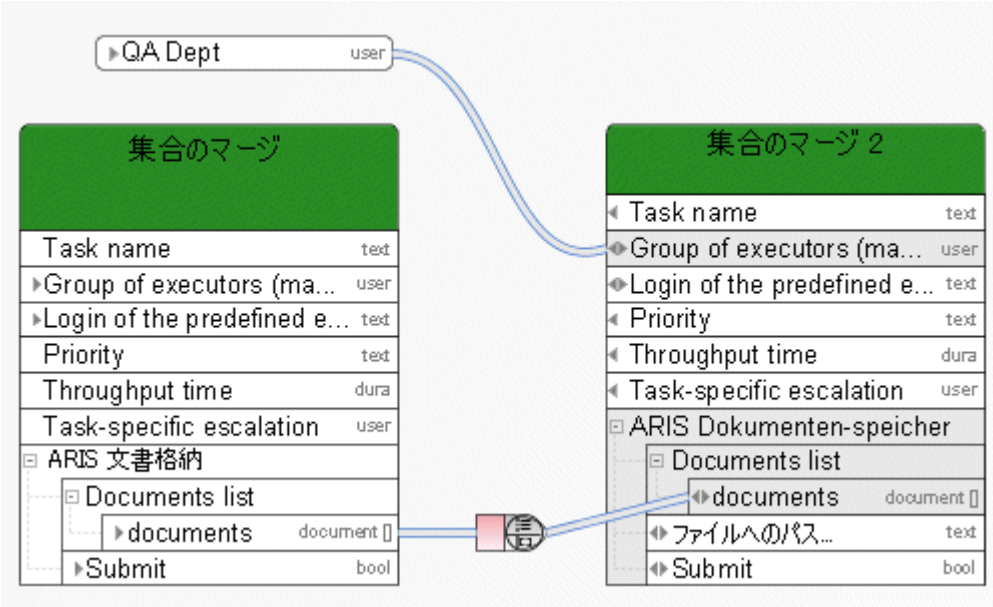


図 107: 集合の妥当性確認

3.10.4.8 集合のマージ

同じタイプのオブジェクトの 2 つの個別の集合から、同じタイプのオブジェクトの新しい集合 (一覧、一連のデータ) を作成します。 新しい集合には、元の順序を保った状態で、すべてのオブジェクトが含まれます。 最初の集合のオブジェクトが先に来ます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

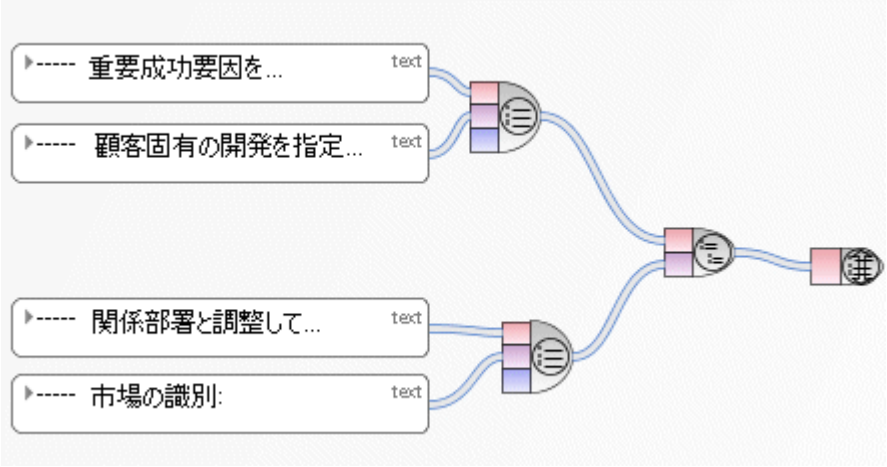


図 108: 集合のマージ

3.10.5 文書の演算子について

Process Governance データ フローにある文書関連演算子は、ARIS 文書格納に保存された文書のみに対してテストおよびリリースされ、Microsoft® SharePoint などの外部文書管理システムは対象外です。

3.10.5.1 パスによる文書の取得

この演算子を使用すると、物理的なパス名によって、ARIS 文書格納にある文書にアクセスすることができます。これを実行するには、必要な権限を持つユーザーが [ARIS 管理] で作成されている必要があります。入力データは、ARIS 文書格納にある文書の格納場所を含む [文字列の集合] タイプの定数です。出力タイプは、[文書の集合] タイプです。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

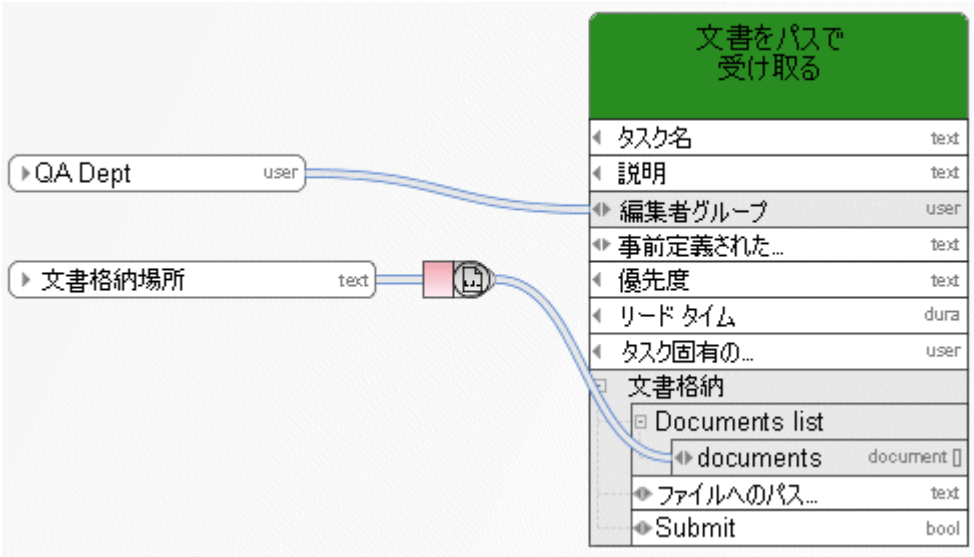


図 109: パスによる文書の取得

3.10.5.2 文書メタデータの取得

ファイル名、タイトル、バージョン番号などの［文書メタデータ］タイプの定数が配置できるすべてのメタデータが検出されます。

文書を指定するには、演算子の最初のスロットに接続線を引きます。そして、別の接続線を 2 番目のスロットに引いて、文書メタデータの対応するフィールドを指定します。

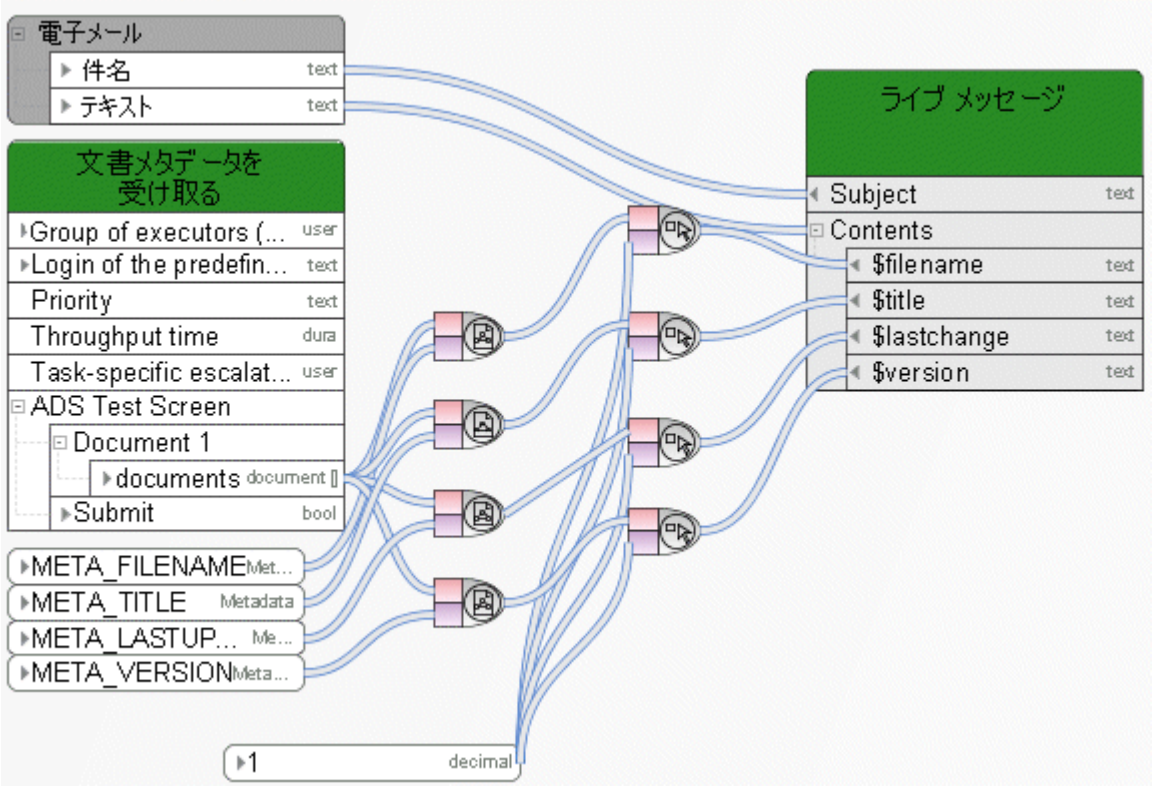


図 110: 文書メタデータの取得

3.10.5.3 文書のフィルター

ARIS 文書格納では文書にタグを付けることができます。 この演算子を使用すると、文書の一覧を名前、バージョン、タグでフィルターできます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

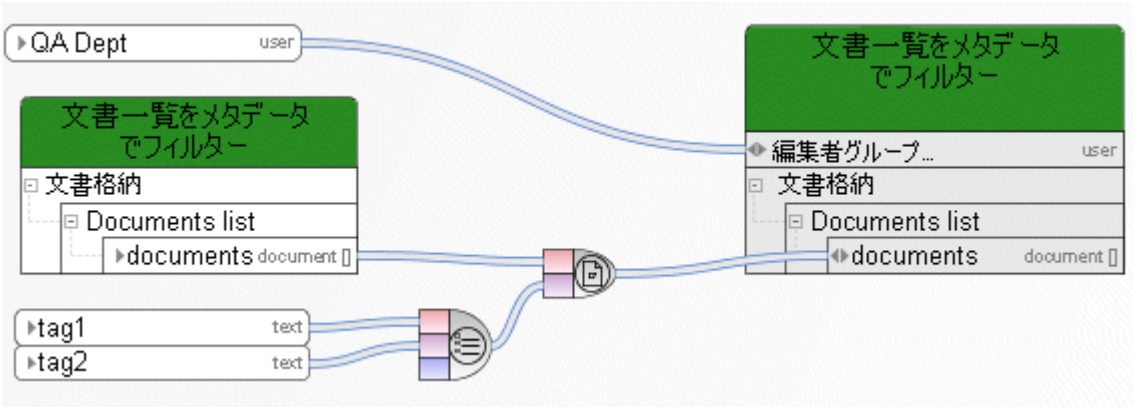


図 111: 文書のフィルター

3.10.5.4 文書に HTTP リンクを作成

ARIS 文書格納に格納された文書や文書の一覧に HTTP リンクを作成します。入力データは文書の一覧で、出力データはハイパーリンクの一覧です。

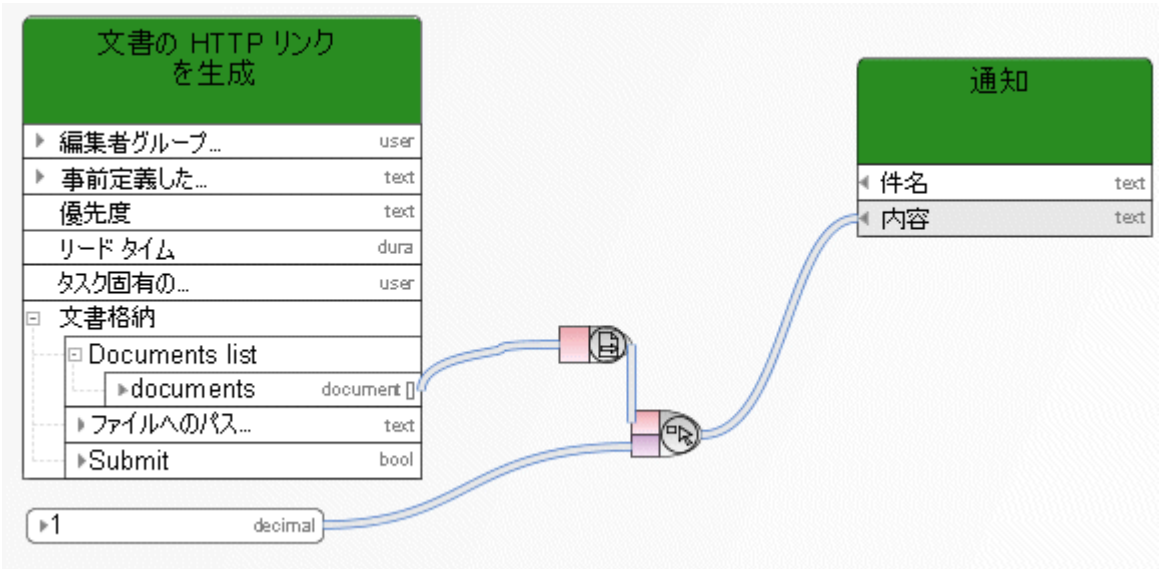


図 112: 文書に HTTP リンクを作成

3.10.6 データ要素

3.10.6.1 ARIS プロセス ボードへのパス

この演算子により、ARIS プロセス ボードへのパスが返されます。

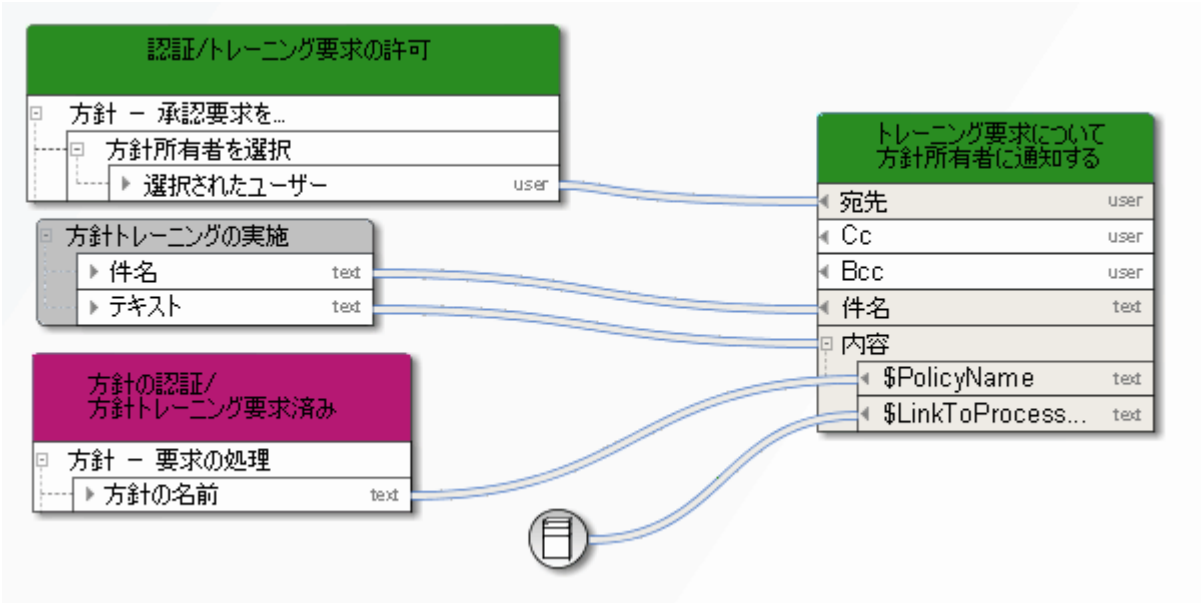


図 113: ARIS プロセス ボードへのパス

3.10.6.2 タイムスタンプの取得

この演算子により、サーバーの現在のタイムスタンプが UTC の時間として返されます（日付 - 時間）。

[タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換]『188ページ 』演算子は、UTC 時間をお使いのタイム ゾーンに対応する時間に変換します。

注意: サーバーのタイプスタンプはクライアントのタイムスタンプと異なる場合があります。

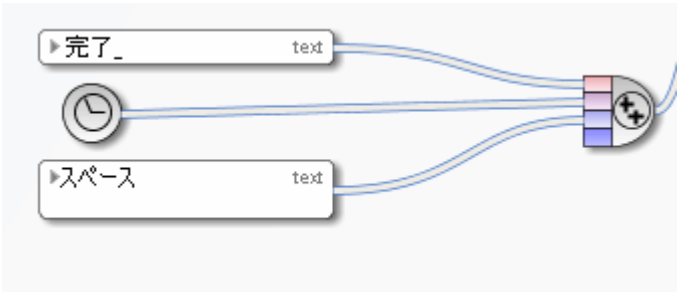


図 114: タイムスタンプの取得

3.10.7 その他の演算子

3.10.7.1 ユーザーの存在を確認

演算子は、ユーザーまたはグループが [ARIS 管理] に存在するかどうかを確認します。

入力データは、ユーザーまたはユーザー グループを表すスカラー値です。

ユーザーまたはユーザー グループが [ARIS 管理] に存在する場合、演算子は「TRUE」を返します。 その他の場合は、「FALSE」が返されます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

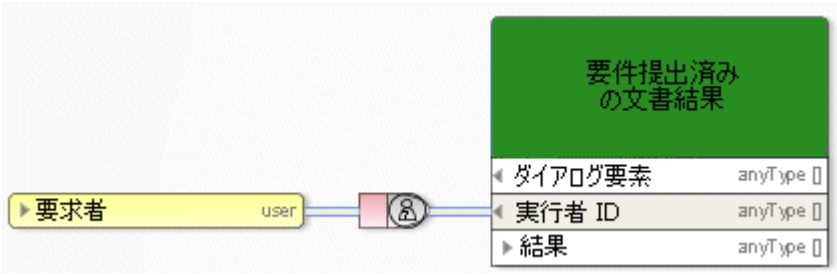


図 115: ARIS 管理に存在するか確認

3.10.7.2 電子メール/ログオン名でユーザーを検出

この演算子は特定の名前、ユーザー名、または電子メール アドレスを持つユーザーを識別します。電子メール: [テキスト] タイプの標準 SMTP 電子メール アドレス (例: peter.smith@company.com)。

データは、ユーザー名 (要員)、電子メール アドレス (要員)、名前 (ロール)、名前 (組織ユニット) の順に検索されます。

この入力データが不明な場合は、演算子によって新しいユーザーが作成されます。演算子の出力はこのユーザーのリファレンスであり、[通知] (宛先、Cc、Bcc) または [手動タスク] (実行者グループ) タイプのタスクの入力として使用できます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

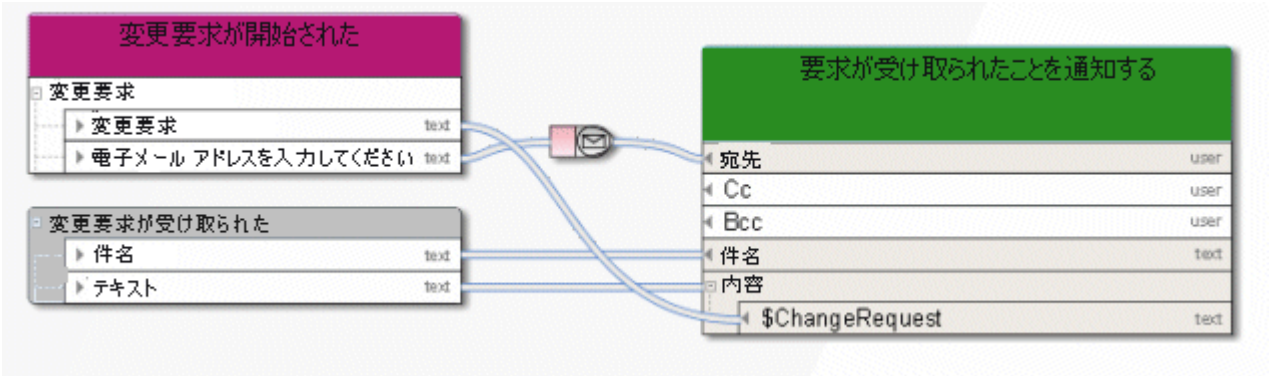


図 116: 電子メール/ログオン名でユーザーを検出

3.10.7.3 コミットされたリソースを取得

この演算子は、入力として自動化に関連する組織要素（ロールなど）を受け入れ、これらの組織要素に属しておりワークフローに参加したユーザーを返します。

例: [モデル作成者] ロールは 5 人のメンバーで構成されており、これらのメンバーのうち、このロールに割り当てられている [手動タスク] のすべてを処理したのが 1 人だけの場合などです。 このため、このユーザーは、演算子 [コミットされたリソースを取得] の唯一の出力になります。

この演算子は、通知ファンクションのデータ フローが作成され、接続された組織要素に [関係者のみに通知] 属性 (接続線タイプ [結果を通知される必要がある]) が設定されているときに、自動的に作成されます。

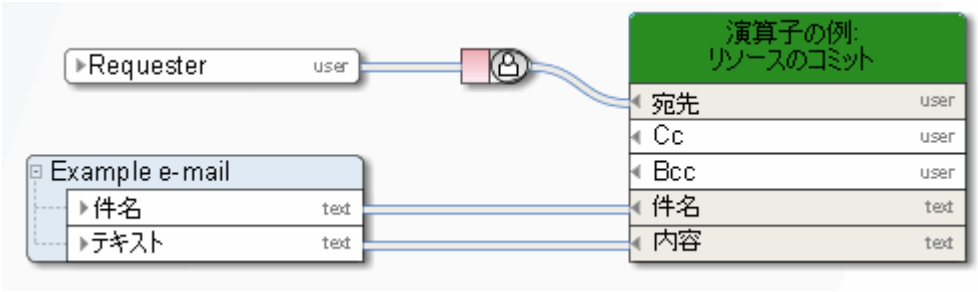


図 117: コミットされたリソースを取得

3.10.7.4 参加者名の取得

この演算子は、実行者の技術表現を名前に変換します。

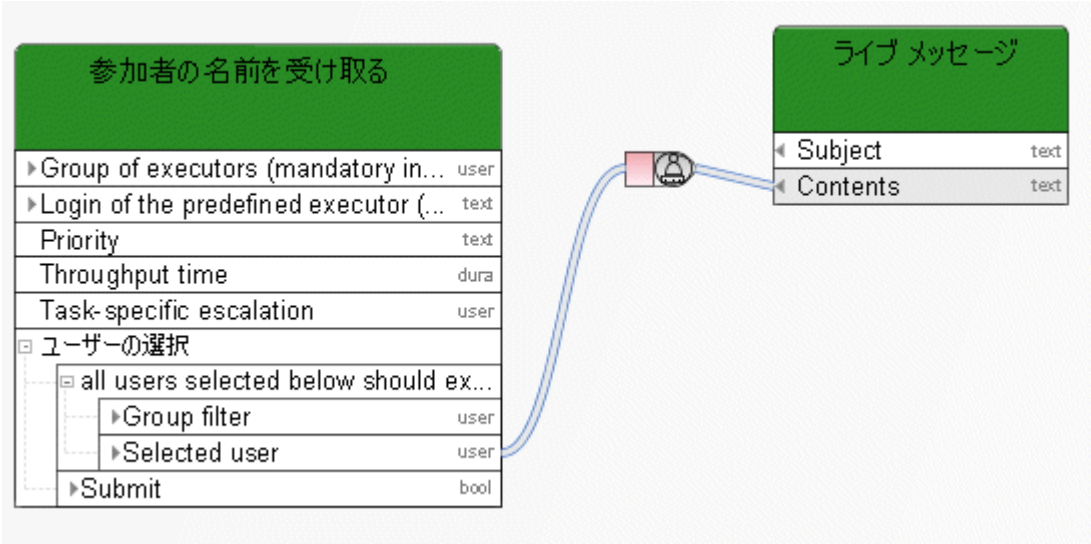


図 118: 参加者名の取得

3.10.7.5 連結

値のテキスト連結。ここでは、[自動タスク] タイプの結果と変数 [全履歴のログ] の値の連結です。

この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともに使用できます。 自動プロセスの実行時間中には、定数に含まれるテキストはユーザーの選択した言語で表示されます。

[ローカライズされた文字列] タイプの定数と [文字列] タイプの定数を結合すると、[連結] 演算子の結果は [ローカライズされた文字列] タイプの文字列を返します。結果には、[ローカライズされた文字列] タイプの定数のすべてのロケールが含まれます。

[ローカライズされた文字列] タイプの複数の定数を結合すると、結果は単一の文字列に含まれるすべてのロケールを含む [ローカライズされた文字列] タイプの文字列を返します。

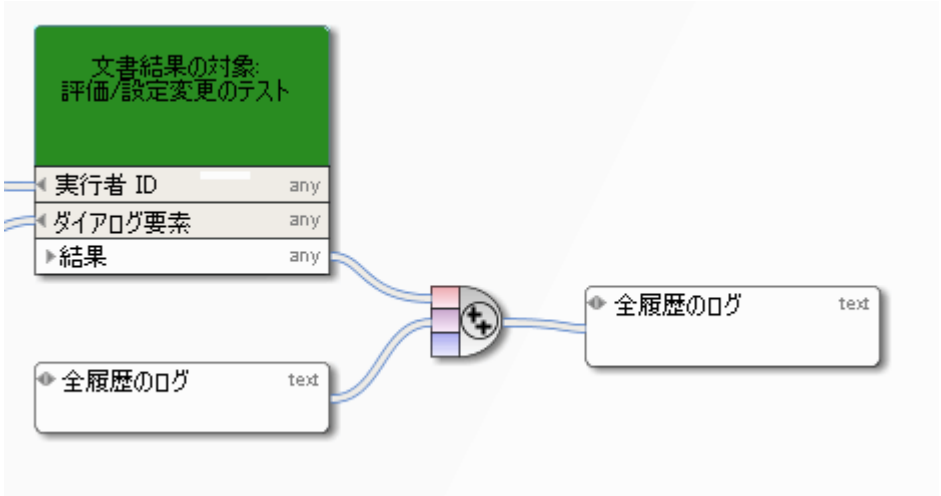


図 119: 連結

3.10.7.6 タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換

この演算子は、Base64 でエンコードされたタイムスタンプや日付を可読文字列に変換します。

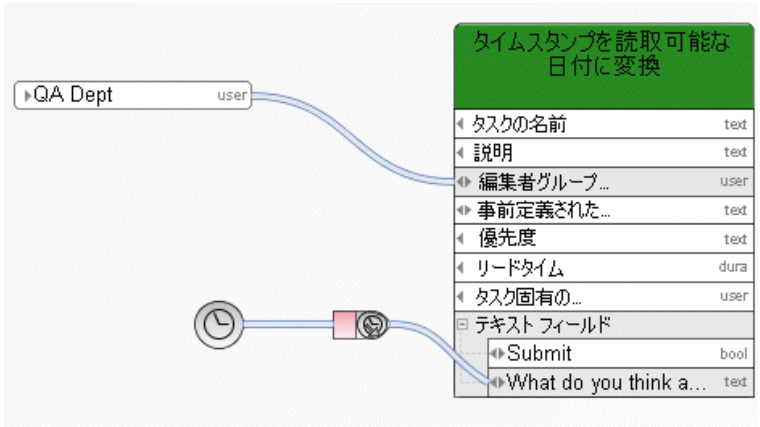


図 120: タイムスタンプまたは日付を可読テキストに変換

3.10.7.7 データ XOR 演算子

XOR	データ OR (XOR)最初に使用できる入力を使用します。 データベース名は、[手動タスク] (優先度 1) か、(これが返す値がない場合) [自動タスク] または [イベント (プロセス インスタンスが開始された)] によって決定されます。 この演算子は、[ローカライズされた文字列] タイプの定数とともには使用できません。 [ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。

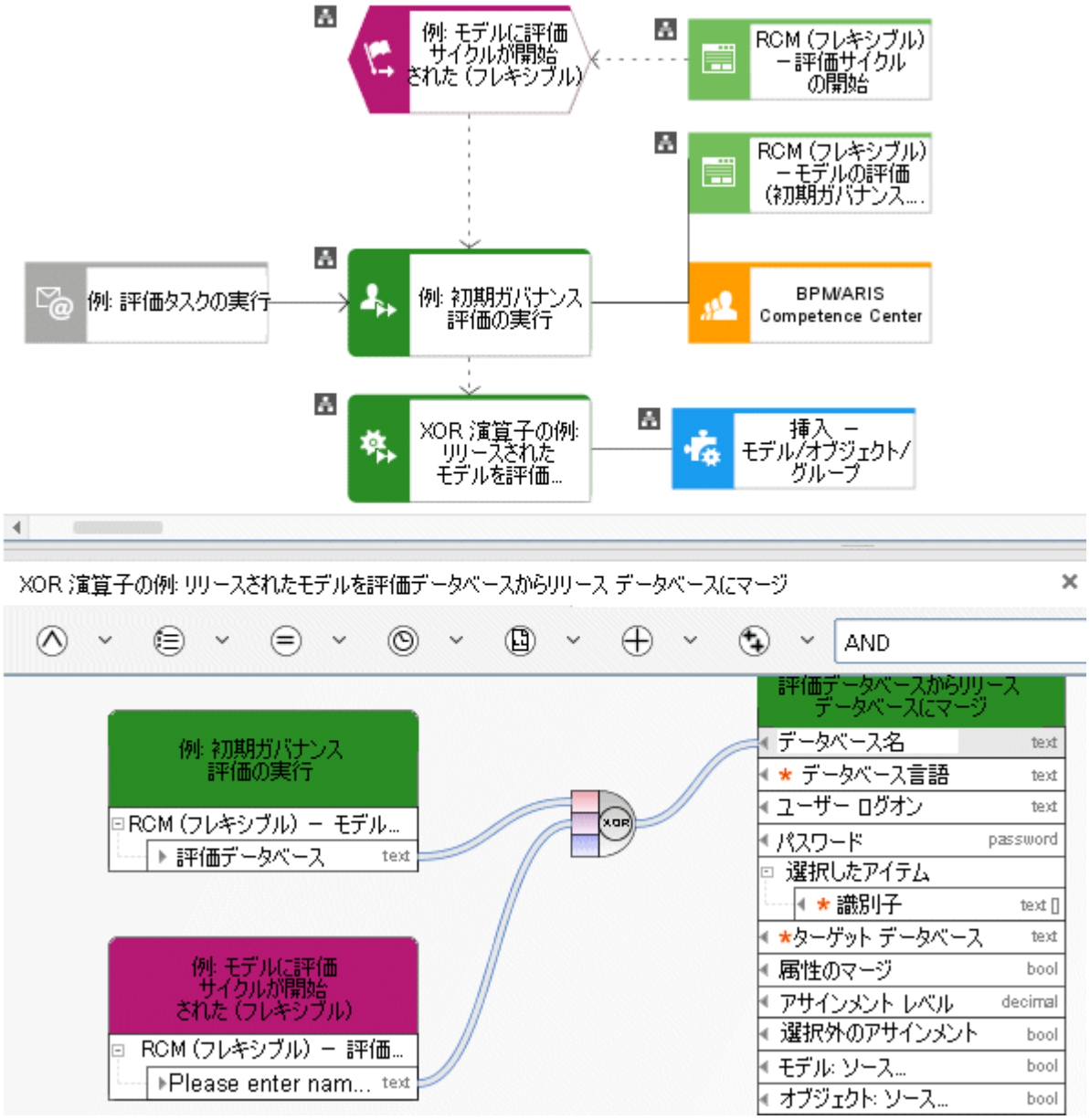


図 121: XOR

3.10.7.8 時間の計算

この演算子は、開始日と期間に基づいて終了日を計算します。

[タイマー イベント] は、プロセス インスタンスがこのイベントに到達した時点から 18 時間遅れます。

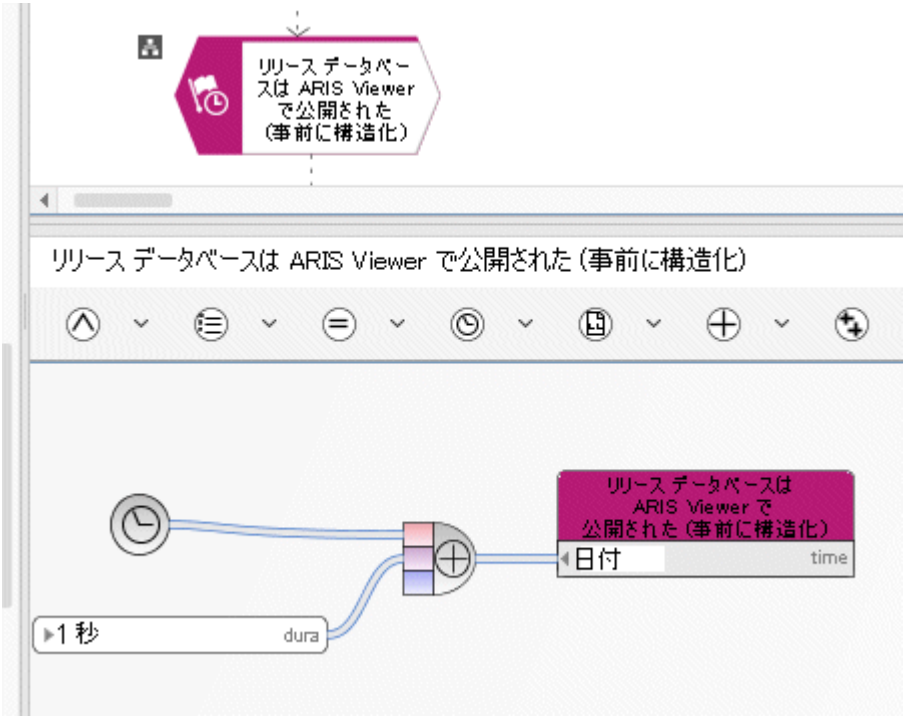


図 122: 時間の計算

3.11 定数

定数は、値が固定されたデータ ソースです。値は、実行時に計算されるのではなく、ユーザーがプロセスをモデリングする設計時に計算されます。定数は、実行可能プロセスの作成中に 1 回だけ評価されます。

[ローカライズされた文字列] タイプの定数は、複数言語で設定できます。 自動プロセスの実行時間中には、定数に含まれるテキストはユーザーの選択した言語で表示されます。 デフォルト言語を指定できます。 この言語は、言語が指定されなかった、または値がない場合などに使用されます。

ARIS Connect で [電子メールのロケール別グループ化] オプションを有効にする必要があります。ARIS Connect オンライン ヘルプで「インフラストラクチャのカスタマイズ」(ARIS Connect の管理]、[ARIS Connect の設定]、[Process Governance の設定]、[インフラストラクチャのカスタマイズ] の順に選択) および ARIS Connect オンライン ヘルプの「使用できるインフラストラクチャのプロパティ」([ARIS Connect の管理]、[ARIS Connect の設定]、[Process Governance の設定]、[重要情報]、[使用できるインフラストラクチャのプロパティ] の順に選択) を参照してください。

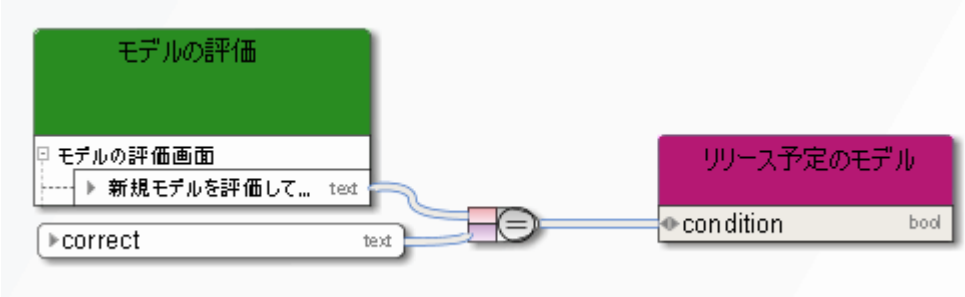


図 123: 定数

3.12 変数

変数は、タスクに依存しないデータのプレースホルダーです。ファンクションまたはイベントで値を変数に保存し、そのあとのプロセス ステップで、別のファンクションまたはイベントでこの値を抽出し、使用できます。変数は、絶対に必要な場合にのみ使用してください。

変数の過度の使用は、Process Governance のパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があります。

例:

プロセスが開始されると、実行ユーザーは開始ダイアログ ボックスに自分の電子メール アドレスを入力します。変数の電子メール テキスト フィールドの内容は、[イベント (プロセス インスタンスが開始された)] のアサインされたデータ フロー内で割り当てられます。実行ユーザーにプロセスのステータスについての情報を提供するために、変数に保存された電子メール アドレスは、以後の通知ファンクションの入力としてあとから使用されます。

3.12.1 インスタンス変数

これは、最も一般的な変数の用途です。 変数の内容 (値) は、現在アクティブなプロセス インスタンスのすべてのアクティビティで共有されます。 この変数は、実行中のプロセス インスタンスごとに値が異なります。

例:

[文字列] タイプの変数で、タスクの編集時にどのユーザーがどのようなコメントを入力したかに関する情報を常に更新します。

3.12.2 プロセス変数

現在アクティブな実行可能プロセスのすべてのインスタンス内のすべてのアクティビティが、プロセス変数の内容 (値) を共有します。

例:

プロセス インスタンスの開始時に 1 つ増え、プロセス インスタンスの終了時に 1 つ減るカウンター。 この変数は、現在アクティブなプロセス インスタンス数を示します。

3.12.3 システム変数

すべての実行可能プロセス内のすべてのファンクションと、そのすべての現在アクティブなインスタンスが、システム変数の内容 (値) を共有します。 すべてのアクティビティから、この値に直接アクセスできます。

例:

ホスト名または現在の時間。

3.12.4 例

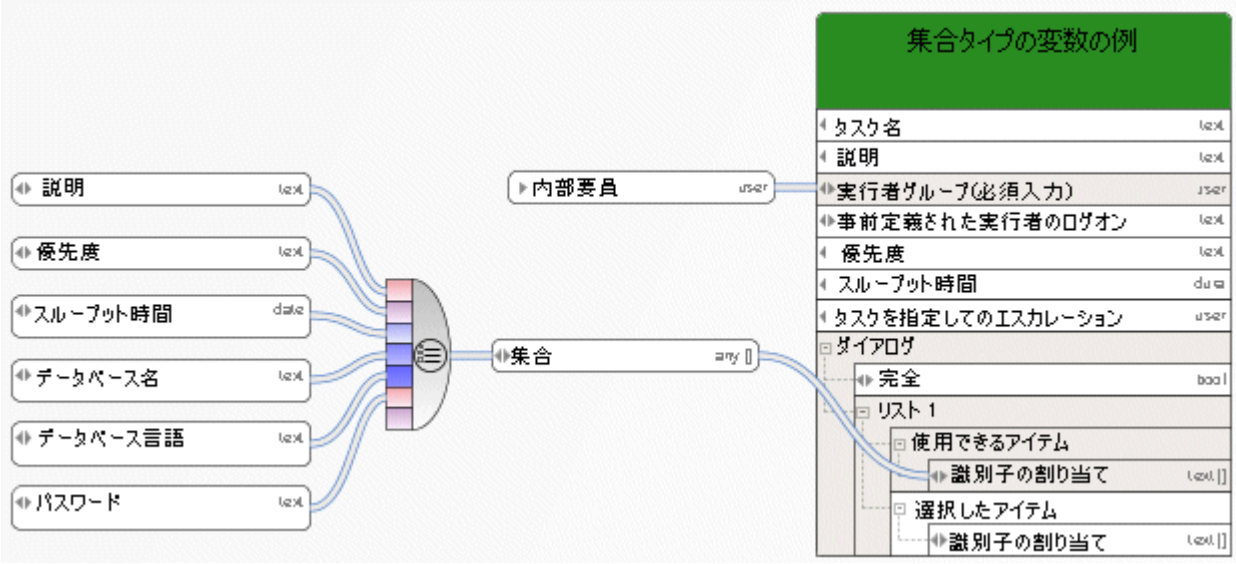


図 124: [集合] タイプの変数の例

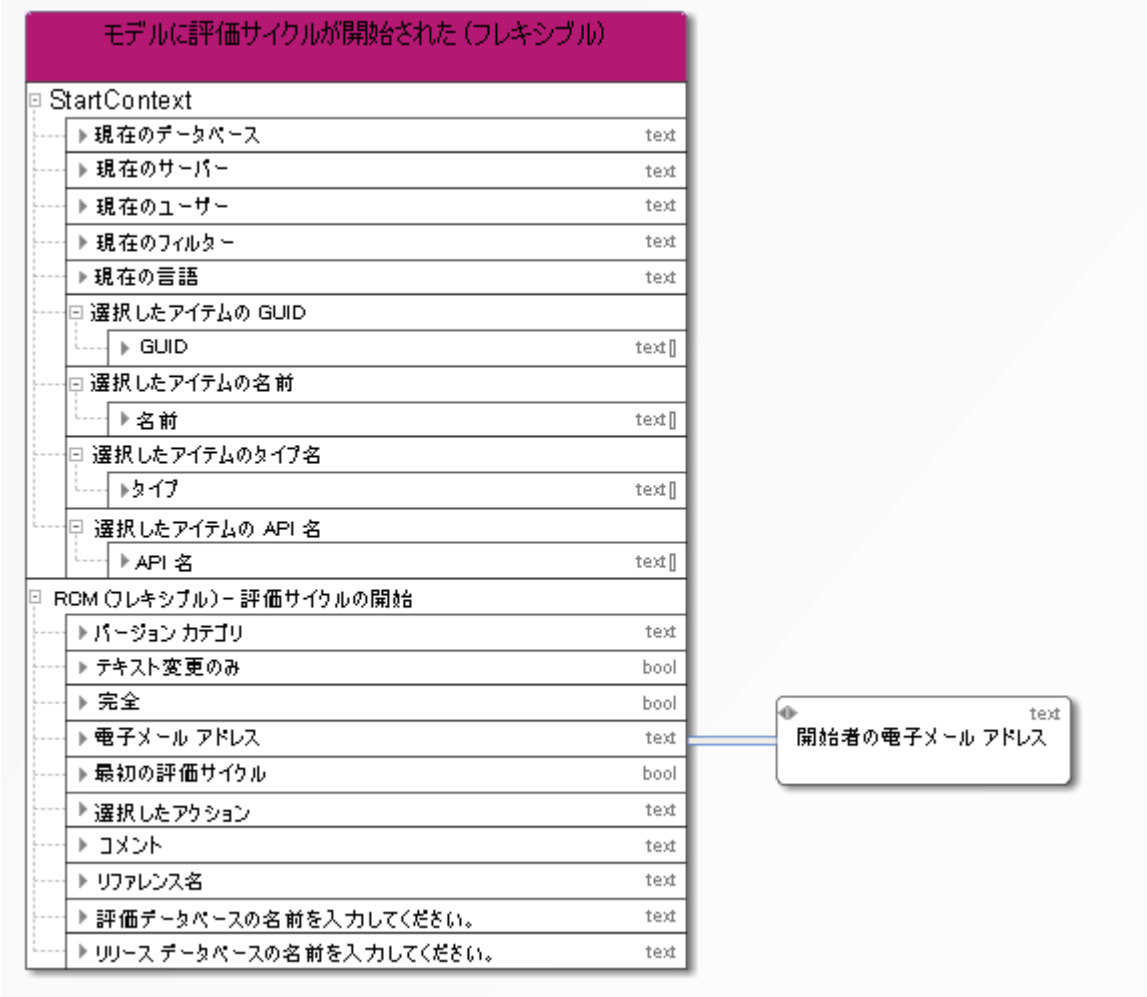


図 125: 例 1 - 出力としての電子メール

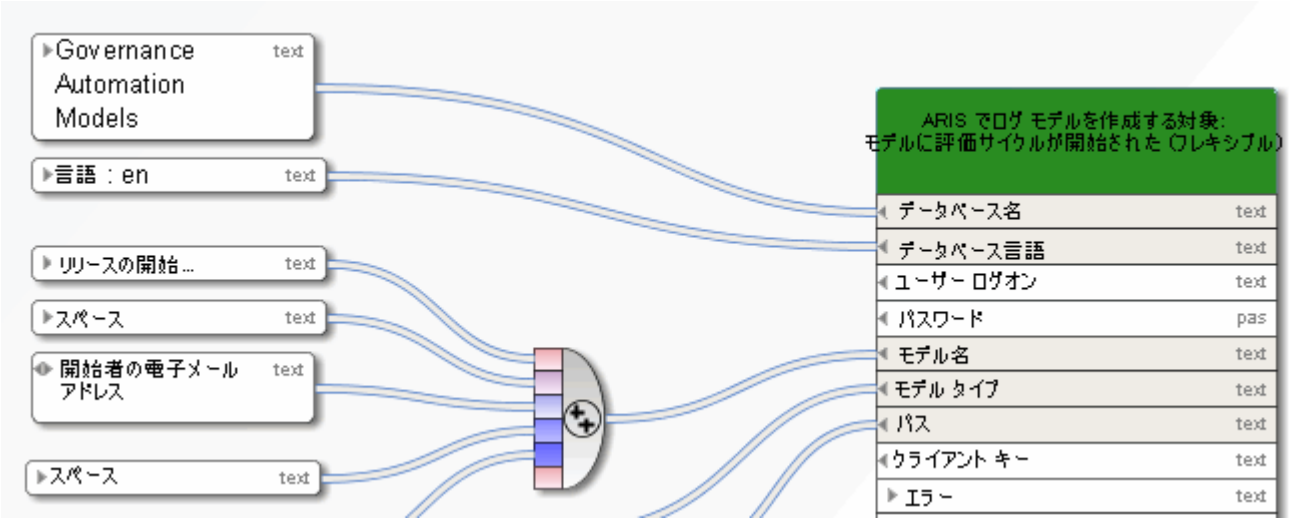


図 126: 例 1 - 入力としての電子メール

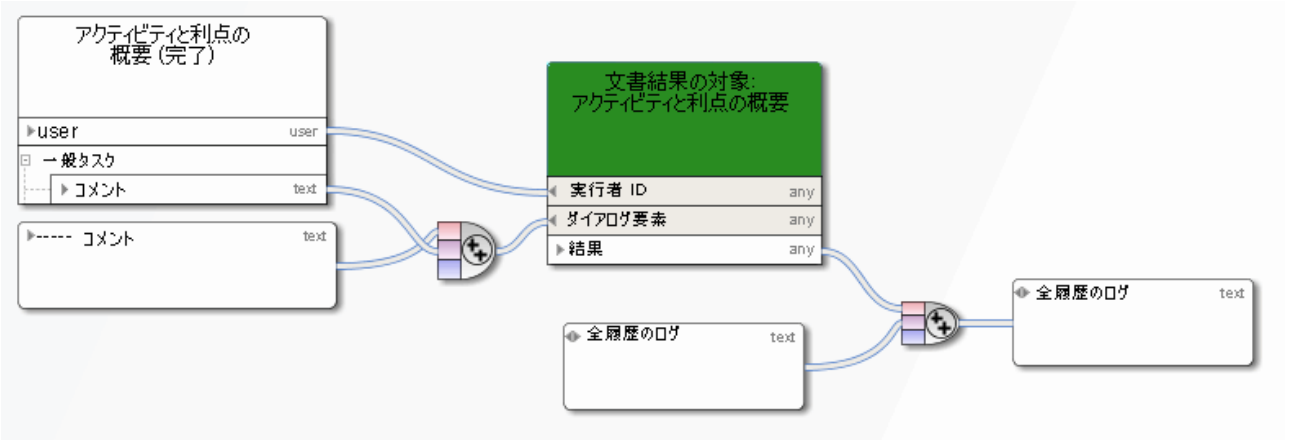


図 127: 例 2 - 手動タスクの結果の文書化

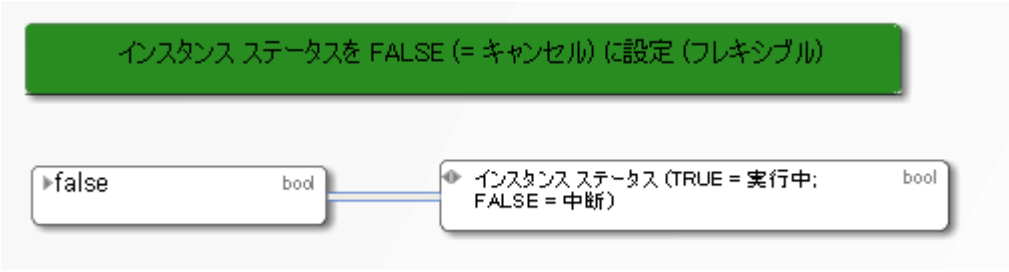


図 128: 例 3 - 変数の設定

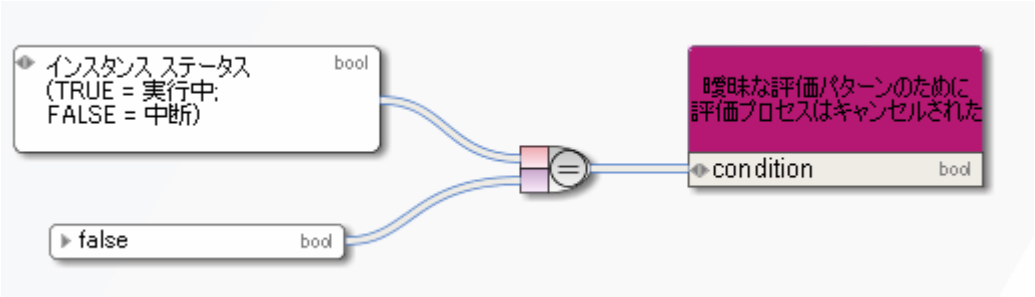


図 129: 例 3 - 変数の読み取り

4 法的情報

4.1 ドキュメンテーションのスコープ

提供されている情報では、印刷が行われた時点における設定および機能について説明しています。ドキュメンテーションとソフトウェアの生産サイクルが異なるため、設定や機能に関する説明が、実際の設定や機能と異なることがあります。相違に関する情報は製品に付属しているリリース ノートに記載されています。リリース ノートをお読みになり、記載されている情報を考慮して製品をインストール、設定、および使用してください。

Software AG によって提供されるコンサルティング サービスを利用せずにシステムの技術的機能と業務機能をインストールする場合は、インストールするシステム、その目的、対象システム、さまざまな依存性などに関して広範な知識が必要です。プラットフォームの数が多く、ハードウェアとソフトウェアの設定が相互に依存するので、特定のインストール シナリオしか説明できません。すべての設定と依存性を記述することはできません。

各種の技術を組み合わせる場合は、製造元の指示（特にインターネット ページに公開されたリリースに関するお知らせ）に従ってください。承認されているサードパーティ システムが正しく機能すること、および正しくインストールされることの保証はいたしかねます。また、サードパーティ システムはサポートしていません。必ず、該当の製造元のインストール マニュアルに記載されている手順に従ってください。問題がある場合は、製造元にお問い合わせください。

サードパーティ システムのインストールにサポートが必要な場合は、最寄りの Software AG の販売部門にお問い合わせください。このような製造元またはお客様固有の変更は、Software AG の標準ソフトウェア保守契約の対象ではありません。このような変更は、それを特別に要請し、同意した場合にのみ実行できます。

説明の中で特定の ARIS 製品を参照している場合、製品には名前が付けられています。それ以外の場合、ARIS 製品の名前は次のように使用されます。

名前	対象
ARIS 製品	Software AG 標準ソフトウェアの使用許諾契約が適用されるすべての製品を指します。
ARIS Client	ARIS Server を使用して共有データベースにアクセスするすべてのプログラムを指します。
ARIS ダウンロード クライアント	ブラウザーを使用してアクセスできる ARIS Client を指します。

4.2 データ保護

Software AG の製品は、個人データの処理に関して EU 一般データ保護規則（General Data Protection Regulation; GDPR）に準拠した機能を提供しています。

該当する場合は、対応する管理文書に適切な手順が記録されます。

4.3 制限

ARIS 製品は個人による使用を目的として開発されています。内容の生成や、インターフェイスを使用したオブジェクト/成果物のインポートなどの自動化プロセスによって、データ量が膨大になり、その実行が処理能力や物理的な限界を超える可能性があります。たとえば、モデルや図がモデリング領域のサイズを超えたり、極端に多数の操作処理が同時に開始されたりした場合には処理能力を超える可能性があります。使用可能なメモリが操作の実行やデータの格納に対して不十分な場合には、物理的な限界を超える可能性があります。

ARIS 製品を適切に操作するには、信頼性があり、高速なネットワーク接続を利用できることが必要です。応答時間が不十分なネットワークでは、システムのパフォーマンスが下がり、タイムアウトを引き起こす可能性があります。

製品に ARIS 文書格納が含まれる場合、次が適用されます:

ARIS 文書格納 は、40,000 の成果物を使用してテストが実施されました。これには、文書、文書バージョン、フォルダーが含まれます。保管される成果物の数と合計サイズを監視して、必要に応じて成果物の一部をアーカイブすることをお勧めします。

ARIS 製品が仮想環境で使用されている場合は、オーバーブッキングのリスクを回避するために十分なリソースが利用できることが必要になります。

システムは、10 万のグループ（フォルダー）、10 万人のユーザー、および 100 万のモデル作成の成果物を含むシナリオを使用してテストされました。システムは、25 平方メートルのモデル領域をサポートします。

プロジェクトまたはリポジトリが許容される最大サイズよりも大きい場合には、小さく分割して管理を容易にするための強力な機能が用意されています。

プロセス管理、ARIS 管理、ARIS 文書格納、ARIS プロセス ボード、実行可能プロセスの生成の使用に関しては、制限がある場合があります。Process Governance は、1000 の並列プロセス インスタンスに対してテストされ、認証されています。ただし、プロセスの複雑性（カスタム レポートが統合されているかなど）に従ってこの数は変化することがあります。

ARIS 文書格納 は、40,000 の成果物を使用してテストが実施されました。これには、文書、文書バージョン、フォルダーが含まれます。保管される成果物の数と合計サイズを監視して、必要に応じて成果物の一部をアーカイブすることをお勧めします。